

Ⅳ 特別支援学級における教育課程の編成

第1章 知的障害特別支援学級

第1節 教育課程の編成

1 知的障害教育の基本的事項

平成25年10月に出された文部科学省「教育支援資料」によれば、知的障害とは、一般的に、同年齢の子供と比べて、「認知や言語などに関わる知的機能」が著しく劣り、「他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であるので、特別な支援や配慮が必要な状態とされている。また、その状態は、環境的・社会的条件で変わりうる可能性があるといわれている。

また、平成25年10月4日付け25文科初第756号初等中等教育局長通知のとおり、特に知的障害特別支援学級に在籍している児童生徒の障害の程度は、「その年齢段階に標準的に要求される機能に比較して、他人との日常生活に使われる言葉を活用しての会話はほぼ可能であるが抽象的な概念を使った会話などになると、その理解が困難な程度のもの」とされている。

このような特性がある児童生徒に対する教育においては、より具体性を伴った内容や社会に出たときに必要となる知識・技能の習得が求められる。また、多くの成功体験を通して、もてる力を最大限に伸ばしていくことが必要となる。

2 知的障害のある児童生徒の特性と指導の基本

(1) 知的障害のある児童生徒の学習上の特性

- ① 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことがある。
- ② 成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことがある。
- ③ 実際的な生活経験が不足しがちであることから、実際的・具体的な内容の指導が必要であり、抽象的な内容の指導よりも効果的である。

(2) 教育的対応の基本

知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえ、以下の教育的対応が必要である。

- ① 児童生徒の実態等に即した指導内容を選択・組織する。
- ② 児童生徒が、自ら見通しをもって行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする。
- ③ 望ましい社会参加を目指し、日常生活や社会生活に必要な技能や習慣が身に付くよう指導する。
- ④ 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能及び態度が育つよう指導する。
- ⑤ 生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で指導する。
- ⑥ 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるよう指導する。
- ⑦ 児童生徒の興味・関心や得意な面を考慮し、教材・教具等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- ⑧ できる限り児童生徒の成功経験を豊富にするとともに、自発的・自主的な活動を大切にし、主体的活動を促すよう指導する。
- ⑨ 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できるよう指導する。
- ⑩ 児童生徒一人一人の発達の不均衡な面や情緒の不安定さなどの課題に応じて指導を徹底する。

また、知的障害教育において一人一人の実態に即した指導を実践する際は、個別の教育支援計画（以下、「教育支援プランA」）・個別の指導計画（以下、「教育支援プランB」）をもとに、その児童生徒の将来を保護者、本人と見据える視点が重要となる。将来の目標を定めたとき、現状としてどのような力を育てていくことが目標に近づく手だてとなるのか、精査する必要がある。

例えば、基本的な生活習慣の確立を基盤とした職場等への通勤、職場等における人との関わり、仕事への取り組み方、得た賃金の使い方、余暇の過ごし方等、自立した社会生活を想定した場合、その過程において様々な力が必要となる。学校において、今、学んでいることが将来のどのよう

な姿につながっていくのかを明確にしていくことが、よりよい未来を切り拓くことの礎となる。

3 教育課程編成の基本的な考え方

特別支援学級や通級による指導の教育課程の根本基準（法的根拠）については、学校教育法施行規則第138条「教育課程の特例」で記述されているとおり、「小学校、中学校もしくは義務教育学校又は中等教育学校の前期課程における特別支援学級に係る教育課程については…（中略）…特別の教育課程によることができる」となっている。

この特別の教育課程を作成するに当たっては、通常の学級と特別支援学校の教育課程を十分理解し、その連続性を確保しつつ、特別支援学級に在籍する児童生徒の障害の状態などを踏まえて教育課程を編成する必要がある。知的障害特別支援学級においては、各教科を知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校（以下、知的障害特別支援学校）の各教科に替えるなどして実情に合った教育課程を編成する。

特に、今回の特別支援学校学習指導要領は、各教科等についての観点が小・中学校学習指導要領と同様の表記になっていること（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」）等、学びの連続性を意識しているものとなっている。また、幼稚園・小学校・中学校・高等学校それぞれの学習指導要領等において、特別支援教育の視点が明記されている。

教育課程の編成に当たって留意すべき点として、「特別の教育課程」であること、特に知的障害特別支援学級においては、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズが異なることを理解して作成する必要がある。そのためには、まず、児童生徒の実態の把握（教育支援プランA・教育支援プランB）が重要となる。保護者・児童生徒の願いと教育的なニーズを的確に把握し、何を目標とするか、それぞれ設定していく必要がある。

教育課程を編成する中で、一人一人の児童生徒を視野に入れ、実際の指導の場面において、個の学習を進めることは重要であるが、同じ学習場面を設定し、集団での学び合いをすることがとても重要となる。そのため、少人数の学級の場合、どのように学び合いを成立させるかについても課題となる。これらの点は次節以降で詳述する。

4 教育課程編成に係る配慮事項

知的障害特別支援学級においては、児童生徒の実態を鑑み、小・中学校学習指導要領及び特別支援学校学習指導要領の内容を理解し、実践に生かしていくことが重要である。その根幹となるのが特別の教育課程であり、指導方法、指導内容、指導形態等を工夫していく必要がある。そのため、特別支援学級担任は、小・中学校、特別支援学校双方の学習指導要領を具体的に理解しておく必要がある。

Ⅲ 第2章 第2節「特別の教育課程編成の手順」で記述されている教育課程編成の流れの手順について、障害種を問わず念頭に置くべきことを（カッコ）内に記述する。

- ① 児童生徒の実態の把握（特性、得意・不得意の把握と伸ばすための手だて等）
- ② 学級目標の設定（担当する学級の一年後の姿）
- ③ 指導内容の選択（何を教えるか）
- ④ 指導形態の選択（どのような形で教えるか）
- ⑤ 日課表の作成（一日・一週間の見通しの示し方）
- ⑥ 交流及び共同学習の計画（児童生徒一人一人が交流学級で何を学ぶか・交流学級の児童生徒は何を学ぶか）
- ⑦ 年間指導計画の作成（全体と児童生徒一人一人が対応しているか）
- ⑧ 教育支援プランA・教育支援プランBの作成（一人一人の児童生徒の目標・課題・評価）

※ 次頁に、特別の教育課程の作成例を記述する。

小学校特別支援学級の例

特別支援学級の教育課程 学校名 ○○小学校 障害種別 知的障害特別支援学級 1 教育目標 (1)学校教育目標 略 (2)学級教育目標 略 2 教育課程の編成 (1)編成の基本方針 本学級の児童は生活経験に乏しい児童が多く、初めての活動に対して不安感を持ち、なかなか活動に向かうことができない。また、物事を理解する上で体験あるいは経験を通過して理解していく児童が多いため、具体的な活動を用いた学習を進めていくことが必要となる。このような実態を踏まえ、生活単元学習や教科別の指導において、活動を多く取り入れた学習を進め、児童の力を育てていく。また、それぞれの指導については個々の実態に応じ、その上で系統性、発展性を考慮していく。 (2)指導の重点 ・一人一人の課題・目標を明確にし、一時間の授業、単元を見通して活動を設定する。 ・頑張りについて称賛するなど認めることにより、達成感を味わわせ次のやる気を育てる。 ・基本的な生活習慣の確立を目指し、社会で自立していくための規則づくりを進める。 ・信頼できる他社から、コミュニケーションの輪を広げる。 ・交流学习の場面を通して、様々な人との関わりを知り、社会性を育てる。 ・保護者、関係機関との連携を密にし、共通理解のもと指導を行う。 3 学級編成 4 年間授業時数 5 日課表 6 年間指導計画 7 教育支援プランA・B
--

中学校特別支援学級の例

特別支援学級の教育課程 学校名 ○○中学校 学級種別 知的障害特別支援学級 1 教育目標 (1)学校教育目標 (2)学級目標 2 指導の重点 ・個々の実態に応じた指導・支援を行い、社会に参画できる力を伸ばす。 ・自分でできることは自分から確実に行い、できないときに助けを求める力を育てる。 ・社会参画する上で必要なあいさつ、返事、身だしなみ等できる力を付ける。 ・学習は進んでいき、集団としてまとまる力を付ける。 3 学級編成 4 年間授業日数 5 生徒の障害の状況 6 日課表 7 年間指導計画 8 教育支援プランA・B

No.	学年	氏名 (生年月日)	年齢	性別	障害の状況 1. 障害の種類 2. 障害の程度 3. 検査等の結果 4. その他	指導の重点	週授業時数		
							特支	通常	合計
1	1			男	1. 知的障害 2. 3. 4.	-	22	7	29

※ なお、本稿においては、小学校・中学校の実態を上記の例を元にして指導案を作成している。具体的な実態については、小学校は51ページ、中学校は56ページを参照すること。

5 各教科，特別の教科 道徳，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動及び自立活動の取扱い

小学校・中学校及び特別支援学校学習指導要領により、知的障害特別支援学級においても特に示す場合を除き、全ての児童生徒に履修させなければならないとされている。

しかし、教科を知的障害特別支援学校の教科に替えて教育課程を編成した場合には、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行うことができるとされている。

第2節 指導計画の作成

前節では、知的障害特別支援学級における教育課程の編成の方法、流れについて記述してきた。この第2節においては実態把握をはじめとする指導計画の作成手順を明示し、さらに各教科等における指導の形態の意義と基本的な考え方、小学校・中学校内に設置されている特別支援学級の意味を含め、指導計画作成上の留意点を記述する。

1 児童生徒の実態把握

指導計画を立て指導を行う上で、まず児童生徒一人一人の障害の状況や特性を把握し、実態を明確にし、指導を行う際に活用できるものとする必要がある。

実態把握のための資料としては、以下に示すものがある。

- ・発達診断及び諸検査等、医療関係等から得たもの
- ・行政における就学支援委員会等の記録
- ・就学前施設における資料等

(*上記3点については、個人情報の保護の観点から適切に保管される必要がある。)

また、外部関係機関との情報共有や日常観察、保護者との面談による細部にわたった児童生徒理解も必要である。

次に、実態を基にしてどのような指導内容・方法・形態が個人の伸長を図る上で必要か検討し、指導計画の作成に生かすことが大切である。その後は、指導を行いながら児童生徒の変化(成長)を客観的に把握する必要がある。その際特に重要なこととして「記憶」に頼らず「記録」に残す習慣をつけるとよい。日にちと課題や取り組み方がどのように変化したか(自分の力でどこまで取り組み、どこから他者の支援が必要となったか等)を明確にした記録をつけることにより、児童生徒の実態をより深く理解できる。これらのことを背景に、児童生徒の実態の変容に応じて指導計画の修正が必要となる。つまり児童生徒の実態把握は、常に継続的に行うことが重要である。

2 教育支援プランA及び教育支援プランBの作成

市町村ごとに異なった様式もあるが、埼玉県においては、教育支援プランA及び教育支援プラン

ンBがある。児童生徒の実態は、先述のとおり常に変容していくため、教育支援プランA及び教育支援プランBの各項目に必要な情報を追記していくことが求められる。

児童生徒にどのような特別な教育的ニーズがあるのか、保護者・本人の思いは何か等を正しく捉え、明確にすることが重要である。

3 指導目標の設定

指導目標は、教育活動の根幹にあたるものである。特に、児童生徒に「この単元・題材を通して身に付けさせたい力」を明確にする必要がある。また、Ⅲ 第1章 第1節において「学校の教育目標の設定」とも密接に結び付いていなければならない。学校は一つの組織体であり、特別支援学級もその一部である。特に、知的障害特別支援学級においては、児童生徒の実態を具体的に分かりやすく、一人一人の評価に結び付く目標を立てるとよい。教育支援プランB等においても「楽しむことができる」等の目標、授業の目標でも同様の記載がある場合がある。しかし、「楽しむ」ことができたかどうか、教師はどのような指標で測ることができるのか。常に分かりやすい表現で記述する習慣をつけるとよい。

4 指導内容の選択と設定、組織化

個に応じた指導を行うことは必要であるが、集団として学び合う環境をつくっていくことも重要である。今回の学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」は、知的障害特別支援学級の中でも求められている。「児童生徒に～の力を付けるため、～の授業を行う」という視点を持ち、指導に当たることが求められる。

5 指導の形態の決定（Ⅲ 第1章 第3節 参照）

指導の形態としては、教科別の指導、各教科等を合わせた指導がある。どのような指導の形態を選択することが望ましいかを基本に据えて教育課程の編成を検討する必要がある。各教科等を合わせた指導、自立活動については「Ⅲ 第4章 第1節、第2節、第3節」を参照すること。

<教科別の指導>

- ・ 知的系統的要素の教科として国語、算数（数学）、技術的要素の教科として音楽、図工（美術）、体育、保健体育、技術、生活的要素の教科として生活、理科、社会、家庭がある。
- ・ 教科別に各教科の基礎的・基本的な内容を系統的、継続的に指導する指導の形態である。

<特別の教科 道徳>

- ・ 特別の教科 道徳（以下、「道徳科」とする。）については、特別支援学校学習指導要領によれば、以下の通りとなる。

「小学部又は中学部の道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについては、それぞれ小学校学習指導要領第3章又は中学校学習指導要領第3章に示すものに準ずるほか、次に示すところによるものとする。

- ① 児童又は生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図る必要があること。
- ② 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動との関連を密にしながらか、経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、広い視野に立って道徳的判断や行動ができるように指導する必要があること。
- ③ 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと。と明記されている。

第1節の5にあるように、知的障害特別支援学級においても、児童生徒に道徳科を履修させる。その際、知的障害のある児童生徒の学びの特性から、道徳科の内容は各教科等を合わせた指導で取扱うことが効果的である。そのため、知的障害特別支援学級においては、道徳科の内容を日常生活の指導、生活単元学習、作業学習といった各教科等を合わせた指導の形態で具体的な指導内容を設定して指導することとなる。

<外国語科・外国語活動>

- ・ 知的障害特別支援学級の場合、児童の実態に応じることになるが、小学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領に示されている内容から判断して実施する。

- ・ 小学校学習指導要領に基づいて指導する場合は、3・4年生については外国語活動、5・6年生については、外国語科となる。
- ・ 特別支援学校学習指導要領に基づいて指導をする場合、知的障害のある児童に対する外国語活動では、育成を目指す三つの資質・能力を目標とすることは小学校の外国語活動と同様である。第3学年以上の児童を対象とし、特別支援学校学習指導要領に示す、国語科の3段階以上の目標及び内容を学習する児童が学ぶことができるように目標及び内容が設定されている。
- ・ 知的障害のある生徒に対する外国語科においても、育成を目指す三つの資質・能力で新たに目標が整理された。知的障害のある生徒の実態や学習の特性等を踏まえ、教育支援プランBに基づき、適切に目標を定め指導することが重要となる。

6 交流及び共同学習

知的障害特別支援学級に在籍する児童生徒の交流及び共同学習については、以下の点に配慮する必要がある。

- ・ 本人の障害の特性として、どの教科であれば交流をする意義（意味）があるか明確にする。
- ・ 場を共有するだけでなく、お互いに学び合える環境をつくる。
- ・ 特別支援学級の児童生徒は、通常の学級において、集団活動やコミュニケーション等の学習を深める。
- ・ 通常の学級の児童生徒は、特別支援学級の児童生徒が授業参加することによって、様々な人とともに助け合い支え合って生きていくことを学ぶ。

これらの配慮事項を基に交流及び共同学習を有意義なものにするために、交流学級の担任との連携を十分行い、より交流及び共同学習の効果が得られるようにする。なお、交流及び共同学習の具体例は、p.103を参照のこと。

7 学習形態の組織化

校内に複数の障害種の特別支援学級が設置されている場合、主たる学習の場は知的障害特別支援学級であるが、教科等の内容や特性により教育効果が期待される場合は、他の障害種の学級と合同で授業を行ったり、学習グループを編成して授業を行ったりすることもある。児童生徒の立場に立ち、何のために、どのような目的で、集団を変更する必要があるか等の根拠を明確にし、学習形態の組織化を行う必要がある。

8 授業時数と1単位時間の取扱い

(1) 授業時数

特別支援学級における授業時数は、小学校又は中学校の各学年における年間授業時数に準ずるものとする。（※学校教育法施行規則第51条（73条）第1を参照）

ただし、知的障害のある児童生徒及び知的障害を併せ有する児童生徒については、教科を知的障害特別支援学校学習指導要領の各教科に替えて教育課程を編成することができる。したがって、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の他、自立活動や各教科を合わせた指導の、目標及び内容を十分に考慮し、児童生徒の実態に即して、それぞれの年間の授業時数を適切に定めることができる。

しかし、このことは、地域や学校の実情、児童生徒の実態を配慮するという趣旨であり、ここでいう「小学校又は中学校の各学年における年間授業時数に準ずる」とは、原則として小学校又は中学校と「同一」という意味であることを考えれば、授業時数をむやみに多くしたり、少なくしたりすることは避けなくてはならない。

(2) 1単位時間

児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等、各教科や学習活動の特質を考慮して適切に定めることが可能である。しかし、授業の1単位時間においては、学校教育法施行規則第51条の別表第1（中学校においては、第73条別表第2）に示されている通り、小学校45分、中学校50分を標準とすることは従前どおりであり、1単位時間の運用に関しては、指導内容のまとまりや学習活動の内容を考慮して教育効果を高める観点に立つこと、学校の管理運営上支障をきたさないよう教育課程全体にわたり、十分な検討を行うことが必要である。

また、各教科の特性に応じ、10分から15分程度の短い時間を活用して指導を行う場合がある。その際は、①児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達等を踏まえた検討を十分に行うこと、②単元や題材といった内容のまとまりの中に適切に位置付けること、③授業のねらいを明確に

すること、④教科書やそれに関連付けた教材を開発したり、適切な教材を用いたりすることを、十分に検討することが必要である。

9 日課表の作成

(1) 日課表の役割

日課表は、教育課程を具体的に実施していく際の学校の一日の日程表であり、児童生徒が学校生活を行うための一日の生活スケジュールである。作成には、児童生徒の一日の生活のリズムをつくり、生活になじみやすくするような工夫が必要である。

(2) 日課表作成上の留意点

日課表の作成に当たっては、次の事項に十分配慮する。

ア 充実した学校生活のために

児童生徒が一日の学校生活の中で充実した学習ができることを考慮し、1単位時間の指導内容を決定し、給食、休憩、その他の諸活動等の調和のとれた日課表の作成に心掛けることが必要である。

イ 生活のリズム化を図るために

日課表は一週間を単位として、児童生徒の学校生活のリズム化を図りながらも、児童生徒の興味・関心を生かして作成されることが望ましい。また、見通しをもって取組ができるよう、第1時限は日常生活の指導や体育、第2時限は国語といった帯状の日課で作成できるとよい。

ウ 創意工夫を生かした日課表

各学校において、児童生徒数や教職員数等、また、地域の実態及び各教科等や学習活動の特質等に応じ、創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成することができる。日課表は年間を通して固定するのではなく、上記の実態等に応じ、弾力的に組み替えることに配慮できるようにする。教育課程全体のカリキュラム・マネジメントを行う際に、日課表の変更も視野に入れ検討できるとよい。

エ 学校全体での共通理解について

特別支援学級の学級経営には校内すべての教職員の理解と協力が必要である。交流及び共同学習（※Ⅲ 第4章 第6節及び本章 第3節の9を参照）においては、通常の学級にて学習活動に取り組む際、交流する通常の学級の日課表を確認する必要がある。ここまで述べてきた日課表の作成に関しても、特別支援学級の学級経営方針や児童生徒の実態等と合わせ、学校全体の教職員が共通理解を図ることが望ましい。

10 年間指導計画の作成

(1) 指導計画とは

教育課程は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動について、それらの目標やねらいを実現するように、教育の内容を学年段階に応じ授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であり、それを具体化した計画、つまり、授業につながる指導方法等（指導目標、指導内容、指導の順序、使用教材、指導の時間配当）も含め、具体的な指導により重点を置いて作成したものが指導計画である。

指導計画には、年間指導計画など長期を見通したものから、学期、月、週、単位時間ごと、あるいは、単元、題材、主題ごとの指導案に至るまで様々なものがある。また、学年別、学級別等、実態に応じた集団の指導計画や児童生徒一人一人の教育支援プランA・B等も含まれる。

(2) 指導計画作成の基本

指導計画の作成に当たっては、個々の教育的ニーズを踏まえるとともに、次の事項に十分配慮する。

ア 各教科等の各学年、各段階、各分野又は各言語の目標と指導内容の関連を十分検討し、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、まとめ方等を工夫したり、内容の重要度や児童生徒の学習の実態に応じてその取扱いに軽重を加えたりして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、資質・能力を育む効果的な指導を行うことができるよう配慮する。

イ 各教科等及び、各学年相互間の関連を図り、指導内容の重複を避けたり、重要な指導内容が欠落したりすることのないよう留意し、系統的、発展的な指導ができるようにする。

ウ 合科的・関連的な指導については、教科のねらいをより効果的に実現するための指導であ

ること等、その趣旨をよく踏まえ、児童が自然な形で意欲的に学習に取り組めるような学習課題を設定するとともに、課題選択の場を設けたり、教科書を工夫して使用したり、その指導に適した教材を作成したりして、指導の効果を高めるようにすることが必要である。なお、合科的な指導に要する授業時数は、原則として、それに関連する教科の授業時数から充当することになる。指導に要する授業時数をあらかじめ算定し、関連する教科を教科ごとに指導する場合の授業時数の合計と概ね一致するように計画する必要がある。

エ 各教科等の一部または全部を合わせて指導を行う際には、それぞれの目標及び内容を基にして、それらの目標の系統性や内容の関連性に十分配慮しながら、指導目標、指導内容、指導の順序、指導の時間配当等を十分に明らかにしたうえで、適切に年間指導計画等を作成する必要がある。

(3) 指導計画作成の一般的な手順

指導計画の作成に当たっての一般的な手順は次のとおりである。

- ① 児童生徒の実態把握を行う。(行動観察、保護者から聞き取り、引継ぎ、心理検査等)
- ② 学校教育目標の確認、学級教育目標の決定を行う。
- ③ 授業時数をもとに、指導内容を選択する。(各教科等においてどのような内容を取り扱うか。学習指導要領に示していない内容を加えるかどうか。)
- ④ 指導の形態を選択する。(合科的・関連的な指導を取り入れているか。)
- ⑤ 指導内容を配列する。
- ⑥ 日課表を作成する。(児童生徒全員の日課が示されているか。)
- ⑦ 交流及び共同学習を計画する。(保護者の理解が得られているか。)
- ⑧ 年間指導計画を作成する。
- ⑨ 教育支援プランA・Bを作成する。(保護者との合意形成がなされているか。合理的配慮の記載はあるか。)
- ⑩ 学期別、月別、週別の指導計画を作成する。
- ⑪ 指導計画に伴う諸記録を作成・整備する。
- ⑫ 指導計画の定期的な見直しを行う。

11 指導記録と学習評価

(1) 指導記録

児童生徒の記録に関する諸表簿として、指導要録、出席簿、健康診断票、教育支援プランA・B等がある。また、通知表、学級日誌、家庭との連絡帳、授業記録、チェックリスト等の様々な記録がある。これらの記録は、児童生徒の変容や成長、発達の経緯を明らかにするとともに、保護者や次の担当教師等に児童生徒の達成状況や教育的課題を伝える手だての一つとして、大切なものである。日々の教育実践の記録を継続することは重要なことであるが、記録のための記録にならないように、形式や記入方法については、適宜工夫しながら改善をしていくことが大切である。さらに、指導記録が教育実践の反省や評価の機会となり、次の指導の方針や内容等、児童生徒の課題を明らかにするような効果的な活用が望まれる。

(2) 評価

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。児童生徒のよい点や成長の度合い等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすることが大切である。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通す、また、児童生徒自身の振り返りを活用するなどしながら、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習の向上に生かすようにすることが重要である。

また、今回の改訂では、教育支援プランBに基づいて行われた学習状況や結果を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努め、より効果的な指導ができるようにすることと明記されている。このことは、学習状況等の評価の結果から、その課題の背景や要因を踏まえて、改善を図る必要があることを示唆している。改善の時期は、授業ごと、週、月、学期などの期間を設定して行うことが考えられるが、課題の軽重をとらえ、実施することが必要である。各授業、教育支援プランBにおいて、PDCAサイクルの中で蓄積される児童生徒一人一人の学習評価に基づき、教育課程の評価・改善に臨むカリキュラム・マネジメントを実現する視点が必要である。

12 教育課程編成に係る評価と改善

教育課程編成に係る評価及び改善については、教育活動の質の向上につなげていくために適宜、実施していかねばならない。先に述べたように、カリキュラム・マネジメントとは、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えて組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくものである。「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、児童生徒に資質・能力を育てていくためには、①「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力) ②「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と、教科間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成) ③「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実) ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」(子供の発達を踏まえた指導) ⑤「何が身に付いたか」(学習評価の充実) ⑥「実施するために何が必要か」(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策) を各学校が組み立て、家庭・地域と連携・協働しながら実施し、目の前の子供たちの姿を踏まえながら、適宜、見直しを図ることが求められる。こうしたカリキュラム・マネジメントは以下の三つの側面から捉えることができる。

- ① 各教科等の教育内容を単体ではなく、相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、児童生徒の姿や学校・地域の現状等に関する調査に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

第3節 教育課程編成及び指導計画作成のための資料

1 小学校における教育課程編成と全体計画例

以下には、小学校の知的障害特別支援学級で編成される教育課程の一例を提示する。書式や項目の詳細は、各市町村で様式が異なる場合がある。

〈学級及び児童の実態例〉

本学級は5名(男子4名、女子1名)の児童が在籍している。穏やかな児童が多く、高学年の児童が優しく下級生の児童を手助けすることができる。全体としては落ち着いた学習を行っている。

特徴として、生活経験が乏しい児童も在籍し、生活単元学習を中心に当該年齢において必要とされる力の育成を行っている。日常生活面においては、自立している者が多いが、衣服の着脱において身だしなみを整えることなどに課題が見られる。また、返事、話の聞き方を含めた学習規律の確立については、高学年の姿を手本にしている。人とのコミュニケーションに関しては、発語が喃語に近い児童やたどたどしさがある児童が3名在籍しているため、下学年の学習を行っている。現学年の内容を学ぶことができる場合は、その児童生徒に合った方法で取り組んでいる。

交流及び共同学習については、児童の実態に応じて参加する教科を決めて実施しているが、交流学級における対応も確立されているため、5名とも参加できている。

○ 小学校特別支援学級教育課程編成例

特別支援学級の教育課程

学校名 ○○市立○○小学校
障害種別 知的障害特別支援学級

1 教育目標

(1) 学校教育目標

- 主体的に学び、心豊かでともに高め合う児童の育成
 - ・ よく考え 進んで学ぶ子
 - ・ 心豊かで 思いやりのある子
 - ・ 明るく健康で たくましい子

(2) 学級教育目標

- ・ さいごまでやりぬく子
- ・ なかまとすすむ子
- ・ あかるくげんきな子

2 教育課程の編成

(1) 編成の基本方針

本学級の児童は、生活経験が乏しい児童が多く、初めての活動に対して不安感をもち、なかなか活動に向かうことができない。また、物事を理解する上で体験あるいは経験を通して理解していく児童が多

いため、具体的な活動を用いた学習を進めていくことが必要となる。このような実態を踏まえ、生活単元学習や教科別の指導において、活動を多く取り入れた学習を進め児童の力を育てていく。また、それぞれの指導については個々の実態に応じ、その上で系統性、発展性を考慮していく。

(2) 指導の重点

- ・ 一人一人の課題・目標を明確にし、一時間の授業、単元を見通して活動を設定する。
- ・ 頑張りについて、称賛するなど認めることにより達成感を味わわせ、次の活動につながる意欲を育てる。
- ・ 基本的な生活習慣の確立を目指し、社会で自立していくための基盤づくりを進める。
- ・ 信頼できる他者から、コミュニケーションの輪を広げる。
- ・ 交流学习の場面を通して、様々な人との関わりを知り、社会性を育てる。
- ・ 保護者、関係機関との連携を密にし、共通理解のもと指導を行う。

3 学級編制

学 級 名		児 童 生 徒 数								
〇〇学級		男	4 名		女	1 名		計	5 名	
			(名)			(名)			(名)	
担任者 氏 名	〇〇 〇〇	本・ 臨採 の別	本・臨		在職 年数	教職 (〇〇) 特支 (〇〇)				
			本・臨			教職 (〇〇) 特支 (〇〇)				

※児童生徒数欄の () は、通常の学級に在籍していながら、この学級でも指導を受ける児童生徒（通級による指導を受けている）がいる場合に、その数を記入する。

[備考] 編制上の配慮事項等

4 年間授業日数・時数

(1) 年間授業日数

- ① 特別支援学級の授業日数 〇日
- ② 学校全体の授業日数との比較 同上
(特別支援学級の授業日数が、学校全体の授業日数と異なる場合は、その理由)

(2) 年間授業時数 (6年生の例)

指導の形態		時数
各教科等を 合わせた指導	日常生活の指導	175
	生活単元学習	140
教科別の指導	国語	140
	算数	140
	音楽	35
	図工	70
	体育	140
外国語活動		35
自立活動		105
合計		1015

※「道徳科」の内容は、「各教科等を合わせた指導」で取扱う。

5 児童生徒の障害の状況等 (在籍する児童生徒)

(ただし1単位時間は45分)

No.	学 年	氏 名 (生年月日)	年 齢	性 別	障害の状況 1. 障害の種類 2. 障害の程度 3. 検査等の結果 4. 手帳の有無等 5. 診断名	指導の重点	週授業時数		
							特別 支援 学級	通常 の学 級	合 計
1	1	〇〇 〇〇 ()	7	男	1. 知的障害 2. 活動開始までに時間を要することが多い。平仮名を拾い読みすることができる。 3. 個別の知能検査(数値等) (平成〇年〇月〇日実施) 4. 療育手帳〇 5. 自閉症スペクトラム (〇〇医院)	・自分でできたという体験を積み重ね、自信を付ける。 ・基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・体力を付け、運動への苦手意識を払拭する。 ・ソーシャルスキルトレーニングに取り組む。	19	6	25

略

6 日課表

〈日課表の枠組みについて〉

・ 時間割の弾力的な編成が認められているため、学校ごとに日課表が異なる。各学校の日課表に合わせて特別支援学級の日課表も編成する。

→ 「埼玉県小学校教育課程編成要領 第二部」 p.23 ～参照

〈日課表作成の基本方針〉

・ 一日の活動に見通しがもてるよう、できるだけ帯状に近い形で組む。

・ 日課表の一部を自閉症・情緒障害特別支援学級と同様とし、必要に応じて合同や児童の実態に合ったグループ学習を行うことができるようにする。

・ 交流学級の授業に参加している児童については、交流学級担任と打合せを行い、本学級の教科の時間に偏りがないように配慮する。また児童の実態や教科の活動内容に応じ、単元ごとに参加・不参加を検討する場合もある。

・ 各教科の指導、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動においては、児童生徒の実態に応じて、「各教科等を合わせた指導」の中で行うこともできる。

モジュール学習があり、また、交流学級との関係を重視したパターン

例1 『教科別の指導を中心』

日課		曜日	月	火	水	木	金
A日課	B日課		A日課	B日課	B日課	A日課	B日課
8:35	8:20	1校時	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
9:20	9:05						
9:30	9:15	2校時	体育 ★交流	国語	国語	音楽 ★交流	体育
10:15	10:00						
10:35	10:20	3校時	算数	音楽 ★交流	算数	国語	国語
11:20	11:05						
11:30	11:15	4校時	自立活動	算数	体育 ★交流	生活単元学習	算数
12:15	12:00						
13:50	13:35	5校時	生活単元学習	※自立活動 (15分間)	※自立活動 (15分間)	体育 ★交流	※自立活動 (15分間)
14:35	13:50			図工	生活単元学習		図工
14:45	14:45						
15:30	15:30	6校時		生活単元学習	委員会/ クラブ	自立活動	外国語活動

※ B日課の自立活動は、15分×3回=45分で1時間分とする。

モジュール学習がなく、また帯状の日程を重視したパターン

例2 『各教科等を合わせた指導を中心』

日課	曜日	月	火	水	木	金
8:35	1校時	日常生活の指導（朝の会）				
9:20						
9:30	2校時	「体育」	「体育」	「体育」	生活単元学習	「体育」
10:15						
10:35	3校時	「国語」	「国語」	「国語」	「音楽」	「国語」
11:20						
11:30	4校時	自立活動	「算数」	「算数」	「算数」	「算数」
12:15						
13:50	5校時	「音楽」	「図工」	生活単元学習	「図工」	外国語活動
14:35						
14:45	6校時	生活単元学習	自立活動	委員会/ クラブ	自立活動	生活単元学習
15:30						

※例1, 2ともに、「道徳科」の内容は「各教科等を合わせた指導」の中で取扱う。

7 年間指導計画

例1 『教科別の指導を中心に』（平成〇〇年度 知的障害特別支援学級 年間指導計画 ※1学期）

項目/月	4月	5月	6月	7月
学級行事 学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 入学式、始業式 1年生を迎える会 離任式・定期健康診断 授業参観・懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問 交通安全教室 避難訓練 運動会 	<ul style="list-style-type: none"> プール開き 体力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 校内硬筆展 個人面談 授業参観・懇談 終業式
日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の内容 集団生活をjする上で必要な内容 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣（身だしなみ、清潔、排泄、食事、掃除、整理整頓、健康） 安全（登校、下校） 役割・仕事（朝の支度、朝の活動（朝の会）、帰りの支度、帰りの活動（帰りの会）、係りの仕事） 集団生活でのマナー（あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、きまり） 		
各教科等を 合わせた指導	<ul style="list-style-type: none"> (通年)・天気や季節の生き物等に関して学ぶ【理科（身の回りの生物 季節と生物 天気の様子 天気の変化）】 ・野菜を育てよう【道徳(生命の尊さ・自然愛護)・理科・生活】 ●さつまいもの苗植え【道徳(生命の尊さ・自然愛護)・理科(植物の発芽・成長・結実)・生活】 ◆じゃがいもの収穫【道徳(生命の尊さ・自然愛護)・理科(同上)・生活】 			
国語	<ul style="list-style-type: none"> (通年)・読み聞かせ ・音読 ・自己紹介をしよう【生単・図工】 ・昨年お世話になった先生に お手紙を書こう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな、カタカナ、漢字の学習 ・「っ」のつく言葉をつつけよう ・運動会のめあて ・硬筆展の練習をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・「や」「ゆ」「よ」のつく言葉を みつけよう ・運動会の思い出を書こう 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の漢字のまとめ
算数	<ul style="list-style-type: none"> (通年)・数唱 ・四則計算 ・文章問題を解こう 「ぜんぶでいくつ」「あわせていくつ」 			
図工	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなものの絵【国語・生単】 ・こいのぼり【道徳(伝統と文化の尊重)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族へのプレゼント ・運動会の応援グッズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の絵 	<ul style="list-style-type: none"> ・じゃがいも掘りの絵【生単】 ・七夕飾り【道徳(伝統と文化の尊重)】
体育	<ul style="list-style-type: none"> (通年)・5分間走 ・準備運動 ・ラジオ体操 ・体づくり運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳
自立活動	(通年) 教育支援プランBによる学習内容			
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを考えよう 個性の伸長【生単・国語・図工】 	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもを植えよう 生命の尊さ・自然愛護【生単】 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く遊ぼう 友情・信頼【生単】 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕について 伝統と文化の尊重【図工】
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、学級生活への適応、基本的生活習慣の育成、係活動、保健・安全指導、学校図書館に関する指導を行う。 ・全校児童集会（縦割り班活動）、児童会の行事に参加する。 ・儀式をはじめ、学芸的、健康安全・体育的、勤労生産・奉仕的な行事及び遠足に参加する。 ・学年の校外学習等に合わせながら、補充の学習を行う。【国語・図工】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼく・わたしができるリサイクル ・カレージョップ開店【算数・図工】 		
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・Hello. 世界の「こんにちは」を知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・I'm happy. ごきげんいかが 	<ul style="list-style-type: none"> ・How many? 数えて遊ぼう 	<ul style="list-style-type: none"> ・I like... 好きなものをつたえよう

【 】には、他教科等との
関連を示した。

※「特別の教科 道徳」の内容は、主に生活単元学習で扱う。 ※交流及び共同学習の年間指導計画は、交流学級の年間指導計画に準ずる。
※生活単元学習については、例示した題材の他に、児童の実態を踏まえ創意工夫して設定する。

例2 『各教科等を合わせた指導を中心』（平成〇〇年度 知的障害特別支援学級 年間指導計画 ※1学期）

項目/月	4月	5月	6月	7月
学級行事 学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 入学式、始業式 1年生を迎える会 離任式 授業参観・懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問 交通安全教室 避難訓練 運動会 	<ul style="list-style-type: none"> プール開き 体力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 校内硬筆展 授業参観・懇談 個人面談 終業式
日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の内容 集団生活をすることで必要な内容 	<p>基本的な生活習慣（身だしなみ、清潔、排泄、食事、掃除、整理整頓、健康） 安全（登校、下校） 役割・仕事（朝の支度、朝の活動（朝の会）、帰りの支度、帰りの活動（帰りの会）、係りの仕事） 集団生活でのマナー（あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、きまり）</p>		
各教科等を合わせた指導	<p>(通年)・天気や季節の生き物等に関して学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達となかよくなろう 【国語・図工・道徳(友情・信頼)】 感謝の気持ちを伝えよう【国語】 野菜を育てよう【道徳(生命の尊さ・自然愛護)】 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の校外学習等に合わせながら、補充の学習を行う 力いっぱい運動会【国語・体育・図工】 	<ul style="list-style-type: none"> 室内での遊び方を考えよう【道徳(規則の尊重)】 ぼく・わたしができたりサイクル 	<ul style="list-style-type: none"> カレッシュョップ開店【算数・図工】 夏を楽しむ【図工・道徳(節度、節制)】
教科別の指導	<p>(通年)・数唱</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章問題を解こう 「ぜんぶでいくつ」「あわせていくつ」 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな、カタカナ、漢字の学習 「つ」のつく言葉のみつけよう 運動会のめあて【生単】 硬筆展の練習をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 「や」「ゆ」「よ」のつく言葉のみつけよう 運動会の思い出を書こう【生単】 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を解こう 「ぜんぶでいくつ」「あわせていくつ」 			
図工	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなものの絵【国語・生単】 こいのぼり【道徳(伝統と文化の尊重)】 	<ul style="list-style-type: none"> 家族へのプレゼント 運動会の応援グッズ【生単】 	<ul style="list-style-type: none"> 重さをはかる【生単】 文章問題を解こう 「のこりはいくつ」「多い・少ない」「たすのかな、ひくのかな」 運動会の絵【生単】 七夕飾り【生単・道徳(伝統と文化の尊重)】 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 5分間走 準備運動 ラジオ体操 体づくり運動 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会練習 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テスト 	
自立活動	<p>(通年)・教育支援プランBによる学習内容</p>	<p>(通年)・自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。</p>		
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校、学級生活への適応、基本的な生活習慣の育成、係活動、保健・安全指導、学校図書館に関する指導を行う。 全校児童集会（縦割り班活動）、児童会の行事に参加する。 儀式をはじめ、学芸的、健康安全・体育的、勤労生産・奉仕的な行事及び遠足に参加する。 			
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> Hello. 世界の「こんにちは」を知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> I'm happy. ごきげんいかかが 	<ul style="list-style-type: none"> How many? 数えて遊ぼう 	<ul style="list-style-type: none"> I like... 好きなものをつたえよう

※ 交流及び共同学習の年間指導計画は、交流学級の年間指導計画に準ずる。

※ 生活単元学習については、例示した題材の他に、児童の実態を踏まえ創意工夫して設定する。

2 中学校における教育課程編成と全体計画例

以下には、中学校の知的障害特別支援学級で編成される教育課程の一例を提示する。書式や項目の詳細は、各市町村で様式が異なる場合がある。

〈学級及び生徒の実態例〉

本学級の生徒は6名（一年男子3名、2年女子1名、3年男子1名、3年女子1名）で構成されている。主障害は知的障害であり、てんかん発作がある生徒や脳性麻痺による下肢の体幹機能障害を伴った生徒もいる。在籍している生徒のうち3名（一年男子2名、3年女子1名）は、中学校から教育形態の変更により本学級に入学してきた。特に今年度入学してきた2名については、通常の学級で自己肯定感を十分に育むことができなかったことから、学習場面において「分からないこと」や「できないこと」に対する恐怖感が強く、混乱する。

学習面は、国語、数学、外国語については当該学年の理解が難しいため、下学年の内容を中心にこなしている。しかし、数学については四則計算が十分に定着していない生徒もいるため、各教科の指導だけでなく、生活単元学習など実体験に基づいた指導を行なっていく必要がある。

一方、学校全体の雰囲気は比較的落ち着いており、特別支援学級の生徒は比較的穏やかであるため、交流学級での学習も可能な限り行なっている状況である。

○ 中学校特別支援学級教育課程編成例

特別支援学級の教育課程

学校名 ○○市立○○中学校
障害種別 知的障害特別支援学級

1 教育目標

(1) 学校教育目標

- 心身ともに健康で、自ら進んで行動する生徒の育成
 - ・ 夢をもち、自ら積極的に学ぶ生徒
 - ・ 心豊かで思いやりのある生徒
 - ・ 心身ともに健康でたくましい生徒

(2) 学級教育目標

- ・ 自分のことは自分でできる生徒
- ・ 仲良く協力できる生徒
- ・ 目標をもって努力できる生徒

2 教育課程の編成

(1) 編成の基本方針

本学級は日常生活で概ね自立している生徒が多いが、学習面や細かな作業、動作の習得と積み上げがゆっくりであること、また初めての活動や学習に自信がなく、不安感をもっていることが共通する特徴として挙げられる。そこで自立活動を設定し、個別やグループで生活や学習上の困難を軽減する課題に取り組み、一方で得意なことやできることを伸ばして自信を育てていく。また体験や活動を通して理解へと結び付く実態であることから、生活単元学習や作業学習といった教科等を合わせた指導を設定する。指導内容に関しては同じ単元に取り組みながらも、個々の実態に応じて目標やねらいを設定していく。

また保護者からは将来を見据えた進路指導、受検（受験）指導への期待や要望が強いこと、本人が自分自身で適正な進路選択を行うことも考慮し、自己理解を深め、社会参加と自立した生活に結び付く能力・意欲・自信を育てていくことが重要である。

(2) 指導の重点

- ア 「教育支援プランBを生かす」…個別の課題や目標を明確にし、指導・支援・評価を行う。
- イ 「集団の中で自ら学び、考え、判断する力を身に付ける」…教師から教えられるだけではなく、自分だったらどうするか、どう考えるかの視点を生徒がもち、発信できる指導内容と手だてを設定する。
- ウ 「できる状況づくり」…成就感や達成感を味わい、自信や意欲を育成する。できることを重ね続けていくことで、「確かな力」を身に付ける。
- エ 「共通理解と情報共有」…特別支援学級担当教師だけでなく、通常の学級において各教科を担当する教師、部活動顧問、保護者、関係機関との連携を密に行う。
- オ 「社会参加と自立を見据えて」…中学校卒業後、またはその後の進路選択や道筋を学ぶ。自分は何がしたいか、できるかを考えて進路選択を行う力を身に付ける。

3 学級編制 ※ 前項の「小学校における教育課程編成と全体計画例」を参照。

4 年間授業日数・時数

(1) 年間授業日数

- ① 特別支援学級の授業日数 ○日
- ② 学校全体の授業日数との比較 同上
(※特別支援学級の授業日数が、学校全体の授業日数と異なる場合は、その理由)

(2) 年間授業時数と留意点

右の表では、「各教科等を合わせた指導」が中心になる授業時数の例を提示した。この例では中学校教育課程をベースにしつつ、生徒の実態に合わせて特別支援学校中学部の教育課程を取り入れている。

「理科」「社会」は「各教科等を合わせた指導」の中で行うよう設定している。なお、道徳科は教育活動全体で行うよう位置付けている。

「教科別の指導」を行う場合は、生徒一人一人の興味や関心、生活年齢、学習状況や経験等を十分に考慮して時数や内容を設定することが大切である。

また生徒の個人差が大きい場合もあるので、各教科の特質や指導内容に応じて更に小集団を編成し、個に応じた指導を徹底する必要がある。

指導の形態		時数
各教科等を合わせた指導	生活単元学習	140
	作業学習	140
教科別の指導	国語	105
	数学	105
	音楽	35
	美術	70
	保健体育	175
	職業・家庭	70
外国語		35
総合的な学習の時間		70
自立活動		70
合計		1015

5 生徒の障害の状況等（在籍する生徒）

- ※ 1単位時間は50分
- ※ 週授業時数は合計29時間
- ※ 前項の「小学校における教育課程編成と全体計画例」を参照

6 日課表

日課		月	火	水	木	金
8:45 9:35	1校時	保健体育				
9:45 10:35	2校時	国語	作業学習	国語	作業学習	国語
10:45 11:35	3校時	数学		数学		数学
11:45 12:35	4校時	自立活動	生活単元学習			
13:35 14:25	5校時	音楽	総合的な学習の時間	美術	外国語	職業・家庭
14:35 15:25	6校時				自立活動	

※作成上の基本方針は小学校と同様であるが、通常の学級において各教科を担当する教師が特別支援学級の授業を担当する場合があることを考慮し、時間割を作成する。

項目/月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学級行事 学校行事	新人大会, 合唱祭	バザー, 小中交流授業, 校内ロードレース大会, 期末テスト	市内合同作品展, 終業式, 3年 出願開始	始業式, 高等部入学選考①	東京班別学習, 市内合同学 習発表会, 期末テスト, 高等部入学選考②	お別れ遠足, 卒業式, 修了式
国語	語彙②(熟語・故事成語) 古典「竹取物語」 「いろは歌」	(通年) 漢字検定〇級～〇級・読み取り(物語文・説明文)【道徳】 受検問題に挑戦しよう ローマ文字 四字熟語	受検問題に挑戦しよう 毛筆	受検問題に挑戦しよう 毛筆	作文	一年間のまとめ ※個別に課題の単元に取り 組む。
数学	図形と面積 ※コンパス 立方体と体積 分度器使用 展開図【作業学習】	(通年) マス計算(十～十) 概数と四捨五入 偶数と奇数 平均		受検問題に挑戦しよう	小数・分数② 【生活単元】 正負の数	一年間の復習 ※個別に課題の単元に取り 組む。
外国 語	A.L.Tと会話をしよう Be 動詞や一般動詞の肯定文・疑問文・否定文			先生や友達と会話をしよう What Where When Who How を使っての疑問文, Can		
音楽	合唱曲・トーンチャイム演奏・合同学習発表会に向けて歌唱・器楽			卒業式と入学式に向けて合唱		
保健 体育	長距離走 バレエまたはバスケ					
美術 職 業・家 庭	立体作品(紙粘土, 廃材を使って)	ダンス 野球(キャッチボール, バッティング)				テニスまたは バドミントン
家庭	家庭(バッグ, 巾着袋の製作)(調理)スイートポテト	技術(パソコン)【外国語】		技術(自転車の安全)	家庭(栄養と食文化・衣類の洗濯と手入れ)	
作業 学習	紙すき【美術】さつまいもの 収穫【道徳(生命の尊さ・自然 愛護)】【家庭】 バザー販売品の製作	バザーの準備 販売活動	プロッコリーの収穫【道徳(生命の尊さ・自然愛護)】 【家庭】 畑の整備		じゃがいもの種植え スキルスクリーン	スキルスクリーン
生活 単元 学習	合唱祭に参加しよう【音楽】 ・練習計画, 練習場所, 目標, 日程, プログラム	バザーを成功させよう 【家庭】【数学】 ・販売の仕方, レジの計算, 売り上げ計算 小中交流授業を成功させよう ・調理計画, 活動班, 片付け, 調理室の使い方	冬休みの生活【道徳(節度, 節制)】 ・クリスマス, お正月, 冬休みの過ごし方, しおり	学習発表会を【音楽】 成功させよう【保体】 ・日程, 練習計画, 発表内 容の練習, 役割分担, 態度, マナー	お別れ遠足を 成功させよう ・日程, 訪問場所, 公共交 通機関, 公共施設, 食事のマナー, お小遣いの使い方	一年間のまとめをしよう ・行事のまとめ, 振り返り用紙, 来年度の抱負
総合的な 学習の時間	進路学習(1・2年)「受験(受検)の内容を調べよう」「高校調べ」 (3年)「面接マナーについて」「出願, 入学選考について」			平和学習「戦争について」(沖縄・広島と長崎・東京)	進路学習 「5年後の生活」【家庭】	
自立 活動	(通年)「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」 ア: 様々な用具を使用しながら, 手指を上手に使う練習をする。 イ: 得意であることを積み重ねながら苦手を克服することにもチャレンジし, 自分の良さに気付けるようにする。 ウ: 混乱する前にその状況を教師に伝えたり, 気持ちの持ち方を学んだりできるようにする。					
特別の教科 道徳	※作業学習, 生活単元学習で取扱う(通年)・自分自身に関する事, 他の人との関わりに関する事, 自然や崇高なものとの関わりに関する事, 集団や社会とのかかわりに関することについて, 思いやりの心や判断力を養い, よりよく生きようとする意欲や態度, 基盤となる道徳性を養う。年間を通して, 教育活動全体で取り組む。					

3 日常生活の指導の指導計画

(1) 指導の意義と基本的な考え方

日常生活の指導のねらいは、児童の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものである。児童が日常生活をより自立的・発展的に取り組めるように教育的に生活態度や生活意欲を育てることである。

(2) 指導の機会

日常生活の指導は、学校生活の流れに沿った実際的な場面で日常生活の諸活動である基本的生活習慣の内容（衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など）や日常生活や社会生活において必要で基本的な内容（あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、きまりを守ることなど）に重点がおかれている。

実際の指導では、指導内容の焦点化を図り、実態に応じて、児童の気付きや対話を大切にしながら、どのようにするのがよい行動なのかを教え、日常の生活の中で般化できるよう繰り返し指導していくことが望ましい。また、個の実態に応じて段階的・発展的な手だてを立てることも必要である。

(3) 他の指導形態との関連

日常生活の指導は、各教科・道徳科・外国語活動・特別活動・総合的な学習の時間を合わせた指導の中でも最も基礎的な内容を取り扱うものである。よって、日常生活の指導における児童の活動は、特別支援学校の生活科の内容だけでなく、道徳などの内容を総合的に含んでいる。

指導計画を作成するに当たっては、他の指導の形態と有効な関連付けが図られるように十分な配慮をすることが大切である。

(4) 指導計画作成の手順と留意事項

ア 指導計画作成の手順

- (ア) 一人一人の児童の日常生活に関する実態把握
 - (イ) 個別の課題設定
 - (ウ) 指導方針の明確化
 - (エ) 指導場面の選定及び指導内容・ねらいの設定
 - (オ) 指導計画の作成
 - (カ) 指導計画実施に伴う諸記録の作成
 - (キ) 評価及び指導計画の改善
- ※(ア)・(イ)・(カ)・(キ)に関しては、教育支援プランBによる。

イ 指導計画作成の留意事項

- (ア) 生活の流れに沿って、実際的な状況下で指導が行われるように計画する。
- (イ) 一定の指導の繰り返しを大切にしながらも固定的な繰り返しにより児童の学習意欲を減退させないように工夫する。
- (ウ) 指導の段階を明確にし、性急に進めることのないよう、個々の児童に合わせた段階的・継続的な指導ができるように計画する。
- (エ) 家庭と学校とが児童の実態や指導の目標、指導方法についての共通理解の上に立って、連携を図る。
- (オ) 技能の向上だけに着目せず、個性の伸長を大切にしながら主体的な生活態度の育成を計画する。

(5) 指導方針例

- ア 低学年：基本的生活習慣や集団生活をする上で必要な力の育成を図り、自主的に行動する態度を養う。
- イ 中学年：基本的生活習慣や集団生活をする上で必要な力の向上を図り、自立的に行動する態度を養う。
- ウ 高学年：基本的生活習慣や集団生活をする上で必要な力の定着を図り、より自立的に行動する態度を養う。

(6) 指導項目及びねらい、具体的指導内容と主な指導場面例

※指導内容は、児童の実態に合わせて、段階的な支援をもとに計画していく。

内容	関連	項目	ねらい	具体的指導内容	主な指導場面
基本的 生活習慣 の内容	基本的 生活習慣	身だしなみ	・手際よく、衣類や靴の着脱ができる力を身に付ける。 ・寒暖に応じた衣服の調整ができる力を身に付ける。	○ 衣服や靴の着脱 前後や表裏、そで・えりなどに気を付けた衣服の着脱、靴の着脱、左右の理解。 ○ 衣服の調整 寒暖に合わせた衣服の選択と着脱。	〈朝の会前〉 〈休み時間〉 〈帰りの会前〉
		清潔	・健康を保つ上での衛生面に気を付け、清潔を保つ習慣を身に付ける。	○ 歯磨き・洗面 ていねいな歯磨きの仕方や洗面の仕方 (例) ① 模型を使ってのブラシの当て方の指導 ② タイムタイマー等の活用(3分間磨こう) ○ 手洗い 石鹸の使い方 細部の清潔(手のひら、指、爪、手首) ○ 清潔(ハンカチ・ちり紙) ハンカチ・ちり紙の携帯・適切な使用 ○ 清潔(頭髮) 髪の毛の洗髪、整え方 ○ 靴・上履き洗い、ハンカチ・Tシャツ等の洗濯 洗剤の使い方、ブラシの使い方など	〈朝の会前〉 〈休み時間〉 〈給食の時間〉
		排泄	・トイレの正しい使用方法や利用時のマナーを身に付ける。	○ トイレの使用 便意の伝え方、トイレの使用・排泄後の処理の仕方など ○ トイレでのマナー 周囲を汚さない便器の使用、ノックの仕方、鍵の使用、排便後の服装チェック、使用後の水の流し方など	〈朝の会前〉 〈休み時間〉
		食事	・食事の準備・片付けの仕方、食事の作法や健康を意識した食事の仕方を身に付ける。	○ 準備・片付け 配膳の仕方、給食の受け取り方、片付け方など ○ 食べ方 姿勢(肘、足の位置)、食器の使い方、食べ方(口を閉じてよく噛む、着席して食べる、みんなが気持ちの良い食べ方)、会話の仕方など ○ 食育 栄養指導、偏りのない食事など	〈給食の時間〉
		掃除	・掃除の手順や道具の使い方などを理解する。 ・分担場所の掃除をする力を身に付ける。	○ 手順・用具の使い方 準備の仕方、清掃用具の使い方(雑巾の使い方、水の汲み方等)、手順の理解、場に合った掃除の仕方など	〈掃除の時間〉
		整理整頓	・身の回りの物の整理整頓の仕方を身に付ける。	○ 身の回りの整理 所定場所(場の構造化を図っておく)への持ち物の片付け・整頓 ○ 衣服の整頓 裏返しにならない脱ぎ方、表への直し方、衣類の種類に応じたたたみ方、ハンガーの使い方など	〈朝の会前〉 〈帰りの会前〉

基本的な生活習慣の内容	基本的な生活習慣	健康	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体調などを意識し、健康に過ごすための基本的な技能、体調が悪いときやケガをしたときの対処方法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体調 体調の伝え方（言葉で伝える、動作で伝える、絵カード等で伝える）など ○ 予防 風邪の予防（うがい、手洗い、マスクの使用等）、季節に応じた生活の仕方、（歯の健康、病気に負けない身体づくりのための）バランスよい食生活など 	〈朝の会〉 〈休み時間〉
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 性に関する指導 （高学年女子は）場に配慮した着替えの仕方、身体部位の名称、身体の清潔、男女の身体づくりの違い、男女の身体の仕組み、射精や生理の手当の仕方、命の誕生など（教科別の指導「体育」との連携） 		
日常生活や社会生活において必要な基本的な内容	安全	登校	<ul style="list-style-type: none"> 登校班の仲間と仲良く、安全に登校できる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全な登校 前の人との距離の取り方、雨の日の傘の使い方、信号の見方、道路の渡り方など 	〈登下校〉
		下校	<ul style="list-style-type: none"> 安全に下校できる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全な下校 非常時の対処の仕方、信号の見方、道路の渡り方など 	
	役割・仕事	朝の支度	<ul style="list-style-type: none"> 学習用具を整理する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 整理・提出 学習用具の整理の仕方、連絡帳の提出の仕方など 	〈朝の会前〉
		朝の活動（朝の会）	<ul style="list-style-type: none"> 一日の日課に見通しをもつとともに、自分の役割を果たし、クラスの一員としての意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会への参加 朝の会（朝の歌、カレンダー学習、健康観察、今日の予定等）への参加の仕方など ○ 会での役割 朝の会の司会の仕方、健康観察時の呼名の仕方、持ち物確認（ハンカチ、ちり紙等）の仕方など 	〈朝の会〉

体の清潔についての指導例



体の部分の名前を教える。汚れやすいところはどこかを話し合わせる。宿泊学習の事前学習・「お風呂の指導」などに取り入れると効果的である。家庭との連携も大切にしたい。

日常生活や社会生活において必要な基本的内容	役割・仕事	帰りの支度	・使用した物を整理し、持ち帰る準備をする力を身に付ける。	○ 整理 連絡帳の書き方、学習用具や配布物のまとめ方、机の中の整理の仕方など	〈帰りの会前〉
		帰りの活動(帰りの会)	・一日を振り返り、翌日の日課に見通しをもつとともに、自分の役割を果たし、クラスの一員としての意識を高める。	○ 会への参加 (振り返りカード等を使った) 児童相互評価の仕方など ○ 会での役割 帰りの会の司会の仕方、一日の振り返り方(写真、カード等を使って)、持ち帰り忘れ等の最終確認の仕方など	〈帰りの会〉
		係の仕事	・自分の仕事に主体的に関わることができる。	○ 責任など 係の仕事(健康観察簿を持ってくる、生き物の世話をする、配布物を配る、黒板を消す等)の進め方など	〈朝の会前〉 〈休み時間〉
	集団生活でのマナー	あいさつ	・互いに気持ちのよいあいさつができる。	○ 日常のあいさつ 時に応じた(朝・日中・夕刻から)あいさつの仕方、その他の場に応じたあいさつの仕方など	〈学校生活全体を通して〉
		言葉遣い	・互いに気持ちのよい言葉遣いができる。	○ 相手や場に応じた言葉遣い 言葉の種類(あたたかい言葉、つめたい言葉、乱暴な言葉、言ってはいけない言葉等)の理解 ていねいな言葉や優しい言葉の理解と使用	
		礼儀作法	・周囲を不快にさせない行動の仕方を身に付ける。	○ マナー 援助の求め方、入室・退室の仕方、感謝の気持ちの伝え方、物事の断り方など	
		きまり	・学校生活や社会生活におけるきまりを守って行動できる力を身に付ける。	○ 学級や学校のきまりなど 学校生活におけるきまりに関する正しい理解 具体的な行動のとり方の理解 ○ 社会生活におけるきまり 社会生活におけるきまりに関する正しい理解 具体的な行動のとり方の理解	
					<p>その日の良いところを、友達からカードでプレゼントしてもらおう。内容を色別のカードにすることで、言葉や文字を補うことができる。</p> <p>あいさつの場面や、上手な言い方、気持ちの良い言い方を具体的に指導する。ロールプレイングでやってみて、実際場面でも指導する。</p>
			<p>帰りの会の振り返り指導例</p> <p>気持ちのよい返事・上手なあいさつ・「ありがとう」の言葉の指導例</p>		

(7) 年間指導計画例

※ 項目によっては、学校生活目標や保健目標などと関連させながら重点的に指導することで、交流学級での指導にも対応することができる。

学期	月	学校生活目標	関連項目	主な指導場面			
				A	B	C	D
				登下校、朝・帰りの会 朝・帰りの会前	休み時間	給食	掃除
1 学期	4月	あいさつを 元気よくしよう	A 2 ア	1 基本的な生活習慣 の内容 ア 身だしなみ イ 洗面・清潔 ウ 排泄	1 基本的な生活習慣 の内容 ア 身だしなみ イ 排泄 ウ 洗面・清潔 エ 健康	1 基本的な生活習慣 の内容 ア 洗顔・清潔 イ 食事	1 基本的な生活習慣 の内容 ア 洗顔・清潔 イ 掃除
	5月	時刻を守ろう	A 2 エ	2 集団生活をする 上で必要な内容 ア あいさつ イ 言葉遣い ウ 礼儀作法 エ きまり ・・・	2 集団生活をする 上で必要な内容 ○係の仕事 ア あいさつ イ 言葉遣い ウ 礼儀作法 エ きまり ・・・	2 集団生活をする 上で必要な内容 ア あいさつ イ 言葉遣い ウ 礼儀作法 エ きまり ・・・	2 集団生活をする 上で必要な内容 ア あいさつ イ 言葉遣い ウ 礼儀作法 エ きまり ・・・
	6月	歯みがきを しっかりしよう	C 1 イ				
	7月	一学期のまとめを しよう そうじを丁寧に しよう	D 1 イ				

4 生活単元学習の指導計画

(1) 指導の意義と基本的な考え

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習する指導の形態である。

生活単元の学習の指導では、児童生徒の学習活動は生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切である。実際の指導では、様々な領域や教科に関わる広範囲の内容が扱われるが、生活単元学習における児童生徒の活動はそれらの内容を習得するための手段ではなく、生活に基づいた目標や課題、あるいはテーマを達成するための諸活動を通して結果的に領域や教科の内容を習得できるようにするものである。

生活単元学習は、本物の活動を繰り返し行い、考える力や意欲を伴う主体的に行動する力を高め、成功体験を積み重ねていくことにより、生きる力を育てていくものであるといえる。在籍する児童生徒全員が生活単元学習の学習活動に参加できるように、日課表の作成に配慮する。

(2) 生活単元学習の望ましい条件

生活単元学習の主な特徴を踏まえ、より望ましい生活単元学習を計画・実施するには、配慮すべきいくつかの条件がある。

- ① 主体的な学習：興味・関心に基づく。めあてや見通しがもてる。
- ② 総合的な学習：必要な知識・技能が習得できる。多種多様な経験ができる。
- ③ 実際的な学習：実際の生活から発展する、望ましい習慣・態度が身に付く。
- ④ 活動的な学習：具体的な活動がある。活動は自然な生活のまとまりである。
- ⑤ 共同的な学習：共通の課題意識がもてる。人とかかわりをもって活動できる。
- ⑥ 個別的な学習：個々の発達水準に合う活動である。個々の力が発揮できる。

児童生徒が自分のもてる力を精一杯発揮して単元活動に取り組むことで、達成感や満足感を味わい、新たな活動に挑戦する意欲や学習したことを家庭・地域に生かそうとする般化の力を高めることができる。

(3) 指導計画の作成

ア 指導計画作成の手順

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| (ア) 児童生徒の実態を把握する。 | (イ) 教育目標を具体化する。 |
| (ウ) 望ましい生活経験を精選する。 | (エ) 児童生徒の生活上の課題を明らかにする。 |
| (オ) 一年間の学校行事・学級行事や地域生活の実状を把握する。 | |
| (カ) 指導内容を系列化する。 | (キ) 年間指導計画を作成する。 |
| (ク) 単元ごとに指導計画を作成する。 | (ケ) 指導計画作成に伴う諸記録を作成・整備する。 |
| (コ) 評価し、指導計画の改善をする。 | |

イ 年間指導計画立案のポイント

- (ア) 単元のバランス
- ・ 指導内容が偏らないよう、年間を通して多種多様な経験ができるようにする。
 - ・ 指導内容の習得ができるように、単元間の活動内容に関連をもたせ継続的に取り組ん

だり、ある時期に一定の活動内容を集中的に取り組んだりする。

(イ) 新規性のある活動

- ・ 行事単元だけでなく、トピック的な単元や魅力ある単元の開発に努める。
- ・ 毎年繰り返す行事単元の活動内容の工夫や目標の高次化を図る。

(ウ) 学級経営との関連

- ・ 個々の発達段階、生活年齢や学級の特徴を考慮する。
- ・ 人とのかかわりや社会的ルールなどの集団性の向上に留意する。

ウ 単元計画立案のポイント

(ア) 教育支援プランBとの関連

- ・ 児童生徒の思いや願いの実現を図る中で重点目標の達成に向かうよう活動内容を設定する。

(イ) 実態把握

- ・ 単元活動における興味・関心、目的意識、知識・技能、人との関わり等について個々の実態を把握する。

(ウ) 目標設定

- ・ 全体目標を受け、個々に主体性、集団性、知識・技能面等から、具体的な姿を捉えて設定する。

(エ) 活動内容の選択

- ・ 興味・関心がもてるもの
- ・ 発段階階にあっているもの
- ・ 力を最大限に発揮できるもの
- ・ 満足感、成就感が味わえるもの
- ・ 目的が明確であるもの
- ・ 人との関わりを伴うもの
- ・ 適切な問題解決場面を伴うもの

(オ) 支援の方法

- ・ 単元展開の工夫
- ・ 学習集団編成の工夫
- ・ 教材、教具の工夫
- ・ 教師の関わり方の工夫
- ・ ティームティーチングの工夫
- ・ 個への配慮

(カ) 評価の方法

- ・ 目標は達成できたか
- ・ どの支援が有効だったか
- ・ 改善点は何か

(4) 指導計画の作成にあたって考慮すべき点

ア 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。

イ 単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。

ウ 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動を含んだものであること。

エ 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること。

オ 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の達成に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。

カ 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるように計画されていること。

(5) 生活単元学習の単元例の四つのタイプ

テーマに関連をもたせて内容を構成することが大切である。

ア 季節単元：指導の契機となるような季節を生かした内容を中心として単元を構成するもの。

イ 行事単元：学校の行事によりよい適応をさせていくことを中心として単元を構成するもの。

ウ 生活課題単元：興味、問題意識、緊張の発掘とそれらのよりよい解消をねらって、タイムリーにしかも興味と能力に合ったものから教育的価値や効果の高いものを取り上げて単元を構成するもの。

エ トピック単元：生活上の偶発的な事柄をもとにして、興味と能力に合ったものから教育的価値や効果の高いものを取り上げて単元を構成するもの。

(6) 他の指導形態との関連

教科別の指導や自立活動等との関連を明確化することによって、一層効果的な展開ができるように計画を立てる。

また、3年生以上の学年には総合的な学習の時間を設定するため、生活単元学習と総合的な学習の時間の意義や基本的な考え方を考慮し、内容の精選を図る必要がある。

(7) 生活単元学習の年間指導計画例 (小学校)

月	単元名	時数	学習のねらい	具体的な指導内容	支援の手だて
4	○新しい学年・学級・友達・先生	5	・入学や進級の喜びを学級の友達と味わうとともに、新しい学校生活への見通しをもつ。 ・新しい交流学級、先生、友達を知る。 ・係活動を通して、学級の一員としての自覚を高める。	・自己紹介カードを作成させ、自己紹介をさせる。 ・自分のめあてを決めさせカードに書かせる。 ・係りの仕事を考えさせ、自分のやりたい係りや当番を決めさせる。 ・新入生歓迎会を計画させ、行わせる。	・学級組織や日課表が理解しやすいように掲示物等を工夫する。 ・具体的な言葉でめあてが書けるように選択肢をいくつか用意しておく。 ・新入生と上級生とのふれあいを大切にしたい活動計画する。
5	○先生ありがとう	11	・離任した先生にお世話になった感謝の気持ちを伝える	・離任された先生を知り、お礼の手紙を書かせる。 ・それぞれの先生に向けたプレゼントを作らせる。 ・お別れ会を計画させ、行わせる。 ・こどもの日にまつわる話を聞かせる。 ・こいのぼりを提示し、個々の実態に応じ作らせる。 ・春の植物を観察させる。 ・見本を提示し、春の掲示物を作らせる。	・個に応じた手紙の用紙を用意する。 ・どんな会にしたいかイメージをもてるように、昨年度の写真を参考にさせる。 ・写真や具体物を使って、こいのぼりや掲示物の作り方を提示する。 ・掲示物のイメージがもてるように、完成した見本を提示する。 ・畑づくりの完成がイメージできるように、写真や絵を用意する。 ・種や苗を植える間隔が分かるように、長さを測った紐を用意する。
5	○春を感じて	5	・春の風物、生活等を知る。 ・学校の周りを探索し、春の自然を観察する。	・春に植える野菜の種類を伝え、どんな野菜を育てたいか話し合わせ決めさせる。 ・写真を提示し、畑のイメージをもたせるとともに道具の使い方を確認させ、畑づくりを行わせる。 ・紐の目印に沿って野菜の種や苗を植えさせる。	・畑づくりの完成がイメージできるように、写真や絵を用意する。 ・種や苗を植える間隔が分かるように、長さを測った紐を用意する。
5	○野菜を作ろう①	5	・野菜の栽培を通して植物に親しみをもち、大切に育てる。	・春に植える野菜の種類を伝え、どんな野菜を育てたいか話し合わせ決めさせる。 ・写真を提示し、畑のイメージをもたせるとともに道具の使い方を確認させ、畑づくりを行わせる。 ・紐の目印に沿って野菜の種や苗を植えさせる。	・畑づくりの完成がイメージできるように、写真や絵を用意する。 ・種や苗を植える間隔が分かるように、長さを測った紐を用意する。
6	○力いっぱい運動会	6	・運動会への意欲を高める。 ・めあてをもち、最後までやり抜く気持ちと態度を養う。 ・集団行動を身に付けることができる。	・各学年のピデオオ等を見せ、運動会を振り返らせる。 ・各学年の今年の種目を伝え、参加の仕方について確認させる。 ・実態に応じた種目の練習に参加させる。 ・服装や用具の準備、後片付けをさせる。 ・実施後に運動会の振り返りを行い、絵や作文にまとめさせる。	・視覚的に振り返りができるように写真やビデオを用いる。 ・個々の目標や実態に応じた参加ができるように支援する。 ・交流学級の児童・担任に支援の仕方について伝える。
7	○ぼく・わたしができるリサイクル	7	・4Rについて知る。 ・ゴミの分別方法を知り、実践することができると話し合うことができる。 ・再生紙について知る。 ・自分たちが取り組めそうなことについて友達と話し合うことができる。	・4R運動について調べさせ、環境への取組について理解させる。 ・ゴミを減らす取組を考えさせる。 ・リサイクルの一環として、牛乳パックから紙を作らせ、その紙を使って、カードやおしおきを作らせる。 ・調べたことや実践したことなどを新聞にまとめさせる。	・家庭と連携し、ゴミの出し方について調べる。 ・視覚的に捉えられるよう紙漉の手順は写真と文章とで提示する。 ・個々の実態に応じて新聞の用紙を工夫する。 ・自分が考えた実践に継続して取り組めるよう、カードを活用する。
7	○カレシヨップ開店	8	・自分たちで育てた野菜を取獲することの喜びや調理することの楽しさを味わう。 ・カレシヨップに来る教師と交流を図る。	・畑で育てた野菜を取獲させ、手順に沿って分別させる。 ・収穫した野菜を使った料理、菓子の作り方を調べさせ、実際に調理を行わせる。 ・カレシヨップの計画を立てさせ、準備をさせる。 ・店内装飾、チラシ・チケッ制作、接客練習等)を実施し、事後に絵や作文でまとめさせる。	・収穫した野菜の大きさを大・中・小に分けられるように計測の目安となる絵カードを提示する。 ・作り方を理解させるために、写真と文章とを用いてカレシヨップの手順を提示する。 ・自信をもって接客できるように、挨拶の仕方のマニュアルを作成する。
7	○夏を楽しもう	5	・夏の自然や食べ物、風物、生活等を知る。 ・夏休みの過ごし方や楽しみ方を考える。	・七夕について話を聞き、短冊等、七夕飾りを作らせる。 ・夏の植物を観察させる。 ・夏休みの生活について、宿題やお手伝い等の目標や計画を立てさせる。	・折り紙の折り方を理解できるように、折り紙で実際に工程を提示する。 ・個々の実態に合った生活やお手伝いの目標、計画を立てられるように、家庭と連携しながら支援する。
9	○夏休みの思い出	5	・夏休みの思い出を発表し合う。	・夏休みの出来事から選ばせ、思い出を発表させる。 ・友達と発表で、詳しく知りたいこと等を質問させる。 ・違いを比較できるように春、夏の様子を提示し、秋の草花を観察させる。 ・くぬぎやしいの実、まつぼっくり・落ち葉等を集めさせ、見本に沿って秋の掲示物制作させる。 ・2年生の児童におもちゃの作り方を教えたり一緒に遊んだりさせる。	・夏休みの振り返りが支援できるように、事前に家庭からの情報を待っておく。 ・春や夏と変わっているところを意識させるために、観察のポイントを提示する。 ・係分担当等の話し合いの場を設定する。 ・自信をもって取り組めるように、説明の仕方を練習しておく。
10	○秋と遊ぼう (2年生との交流活動)	10	・学校の周りを探索し、自然の変化に関心をもつ。		

11	○野菜をつくろう②	5	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培を通して植物に親しみをもち、大切に育てる。 さつまいもの収穫を喜ぶとともに、さつまいもの調理を行い秋の味覚を味わう。 市内で行われる合同学習発表会への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋に種まきや苗植えをする野菜について理解させる。 例示に沿って畑作りをさせ、種や苗を植えさせる。 当番表を意識させ、水やり、草取り、草取りをさせる。 さつまいもの収穫を行わせる。 さつまいもを使ったお菓子について調べさせ、作り方の手順を理解させる。 パーティーの計画立案、準備をさせ、先生方を招待して、パーティーをさせる。 どのような内容を発表したいか考えさせ、話し合いを通して決定させる。 役割分担し、発表に必要な道具を作らせたり、練習を行わせたりし、準備を進める。 担当の月を決め、手順に沿って日付や曜日を書かせ、月に合った挿絵を考えて描かせ、それを紙版画や木版画にし印刷させ、順番に綴じ込ませる。 カレンダーをプレゼントする時に渡す手紙を書かせる。 交流学級や職員室の先生方、隣接する中学校や公民館等に出向き、渡しに行く機会を設定する。 冬休みの出来事から選んで思い出を発表させる。 新年の抱負を考え、記述させ、発表させる。 お正月の伝統的な遊び（たこあげ、こま回し、双六、福笑い、羽つき等）を体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 草取りは一人一人の活動範囲を明確にする。 児童と肥料の量を計測し、量の概念を養う。 水やりの当番表を提示し、責任をもって取り組めるようにする。 本やインターネットを使って調べる手順を視覚的に提示する。 作りたての菓子を決定する際には、児童同士の話し合いの場を設定する。 見通しをもって活動できるように、発表会までのタイムスケジュールを提示する。 校内発表を設定し、本番に備えて気持ちの準備ができるように支援する。 自分の誕生日を意識させ、意欲をもたせる。 彫刻刀の安全な使い方を教師が見本でやってみせる。 カレンダーを綴じる前に必ず順番の確認をすること徹底させる。 プレゼントすることを意識してラッピングを丁寧に行う。 個々の実態に合った生活やお手伝いの目標、計画が立てられるように、家庭と連携しながら支援する。 冬休みの振り返りが支援できるよう、事前に家庭からの情報を得ておく。 体力づくり等について自分の生活を振り返ることができるよう、カードを作成して記入させる。 写真を用いて券売機の使い方を確認する。 クイズ形式でマナーについて考えさせ、児童の意識を高める。 個々の実態に応じて記事の分担をし、協力し合って壁新聞にまとめられるようにする。 興味・関心をもてるように絵本の読み聞かせを行う。 本物の豆を使ったり、新聞紙を丸めて豆を作ったり、児童の実態に応じて工夫する。 ジャガイモの芽が出てくる箇所について実物を用いて具体的に示す。 種芋の切り方を視覚的に提示する。 植える間隔が分かるように、長さを測った紐を用意する。 6年生と在校生が互いに楽しめる内容を意識してやりたりたことを考えさせる。 相手が喜んでくれるような仕上がりを意識して丁寧に作業を進められるよう言葉かけをする。 リハールを行い、自信と責任をもって活動できるようにする。 写真を日付順に並べられるように、行事カレンダーを提示していつ行われたことか確認する。 お互いのできるようになったことを認め合えるよう、教師が称賛の言葉かけをする。
12	○力を合わせて合同発表会	12	<ul style="list-style-type: none"> 冬の日付、曜日等について理解を深める。 友達と役割を分担して、一つのカレンダーを作り上げる喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> しおりに必要な情報（日にち、場所、持ち物、約束など）を確認し、作成させる。 移動手段を確認し、切符の買い方や電車の乗り方を学ばせる。 事前に買い物学習を行い、おやつを購入させる。 振り返りを行い、思い出を壁新聞にまとめさせる。 節分の行事について知り、自分の心の中の鬼を考えさせ、豆まきを通して打ち勝つ気持ち育てる。 豆まきの準備をし、実施させる。 種芋について学び、切るなどの準備を行わせる。 例に沿って畑作りをさせ、紐の目印に沿ってジャガイモの苗を植えさせる。 	
1	○冬の寒さに負けないぞ	5	<ul style="list-style-type: none"> 冬の行事、生活等について知る。 日本の伝統的な遊びについて知り、友達と仲良く遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> お別れ遠足の計画を立て、公共の交通機関を使って校外へ出かける。 	
2	○お別れ遠足に行こう	8	<ul style="list-style-type: none"> お別れ遠足を通して、社会のしきりに関心をもち、大切に育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 節分の行事を通して、社会のしきりに関心をもち、大切に育てる。 野菜の栽培を通して植物に親しみをもち、大切に育てる。 	
3	○心の鬼を追い出そう	5	<ul style="list-style-type: none"> お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝える。 一緒に過ごしてきた在校生に感謝の気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> お別れ遠足の計画を立て、公共の交通機関を使って校外へ出かける。 	
	○野菜を作ろう③	5	<ul style="list-style-type: none"> お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝える。 一緒に過ごしてきた在校生に感謝の気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> お別れ遠足の計画を立て、公共の交通機関を使って校外へ出かける。 	
	○ありがと6年生	7	<ul style="list-style-type: none"> お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝える。 一緒に過ごしてきた在校生に感謝の気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> お別れ遠足の計画を立て、公共の交通機関を使って校外へ出かける。 	
	○大きくなったぼく・わたし	7	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の思い出や得意ようになったことを発表し合い、自分の成長や友達との成長、努力することの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の思い出や得意ようになったことを振り返らせ、記録してきた写真を整理し、アルバムにまとめさせる。 得意ようになったことについて、発表会を行い、この一年間の成長を実感させる。 	

(8) 指導案例 (小学校)

〇〇〇学級 生活単元学習 学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)
第〇校時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
場 所 〇〇〇〇
指 導 者 教諭 〇〇 〇〇 (T1)
教諭 〇〇 〇〇 (T2)
教諭 〇〇 〇〇 (T3)

1 単元名 「先生ありがとう」

2 単元について

(1) 学級及び児童の実態

本学級は、5名(男子4名、女子1名)の児童が在籍している知的障害特別支援学級である。穏やかな児童が多く、上級生が優しく下級生の児童を手助けすることができる。全体としては落ち着いた学習を行っている。

児童は比較的活発であり、休み時間には外へ出て、虫取りや石集め、花摘みなど自然とふれあうことが多い。日常生活面においては、自立している児童が多いが、身辺処理の身だしなみを整えることに課題が見られる。生活経験の乏しい児童があり、生活単元学習を中心に当該学年において必要とされる力の育成を行っている。学習規律の確立については、下級生が上級生の姿を手本としている。コミュニケーションに関しては、発語が喃語に近い児童やたどたどしさのある児童が在籍しており、言葉でのやりとりが苦手意識をもっている。しかし、友達や教師との関わり合いは楽しんで行っている姿が見られる。学習に関しては、当該学年の内容を学習することが難しい児童3名は、下学年の学習内容に取り組んでいる。当該学年の内容を学ぶことができる2名の児童は、それぞれに合った方法で当該学年の学習に取り組んでいる。交流及び共同学習については、児童の実態に応じて参加する教科を決めて実施しており、交流学級における支援方法も確立されているため、5名とも参加している。

(2) 単元について

本単元のタイプは、お世話になった教頭先生を離任式後に学級へ招待してお別れ会を行うという、学校行事との関連を図ったものである。教頭先生との思い出を振り返り、教頭先生に感謝の気持ちを伝えるお別れ会を計画し、実施する単元である。自分がお世話になったことに対して感謝の気持ちを持ち、それを相手に伝えることは、社会生活を送る上で決して忘れてはならない大切なことである。また、相手を意識して相手のためにできることを考えて活動することは、今後の社会生活で必要である。自分の行ったことで相手が喜んでくれたり自分を認めてくれたりすることで、人との関わりやすさや楽しさを味わい、よりよい人間関係を築いていけるものとする。これらのことを学び、身に付け、実践していける力をもった児童を育てていきたいと思い、本単元を設定した。

(3) 指導・支援について

指導に当たっては、離任式までの見通しをもたせ、教頭先生のためにできることを児童と共に考えながら学習を進めていく。感謝の気持ちを伝える方法にはいろいろなやり方があることを学び、自分たちにできることを選んで実践する力を身に付けてほしいと考える。本単元では、歌のプレゼントとして「笑顔 ありがとう」という曲を用いて、替え歌を考えて歌う。会食のお菓子は、材料が多すぎず、調達しやすいものであること、作り方が明確であること、安全に作れることをふまえ、「いちごムース」を作る。教室の飾り作りでは、それぞれの児童が得意な絵や折り紙などを生かして製作活動ができるように支援していく。児童が学習しやすいように自作のワークシートや写真カードを用いて学習を行い、学習への意欲をさらに高めていきたい。また、学習規律に留意しながら児童同士の関わり合いを生かして活動させたいと考える。児童のよさをとらえ、認めて褒めて励まし、児童が意欲的に学習できるように心掛けたい。この単元で達成感や成就感を味わわせ、今後の学習や生活での自信につなげていけたらと思う。

3 単元の目標

- 教頭先生との思い出を自分の言葉で伝えたり、文章で書いたりすることができる。
- お別れ会に向けて、友達と協力し合って準備をすることができる。
- お別れ会での自分の役割を理解して活動することができる。

4 指導計画

教科別の指導「国語」詩について学習

過 程	学 習 内 容	ね ら い	時 間
I	思い出を発表しよう。	・教頭先生との思い出を振り返り、自分の言葉で発表することができる。	1
II	手紙を書こう。	・思い出を文章にすることができる。 ・相手を意識して、丁寧な言葉遣いで手紙を書くことができる。	1
III	お別れ会の準備をしよう。	・教室の飾り付けを考え、友達と協力し合って製作することができる。 ・お別れ会の分担を決めて、運営の練習をすることができる。 ・自分たちの思い出で歌詞をつくり、歌を歌うことができる。 ・会食のお菓子の作り方を理解することができる。 ・会食の準備をすることができる。	4 / 6 本時
IV	お別れ会をしよう。	・自分の役割を理解して活動することができる。	2
V	お別れ会の感想文を書こう。	・お別れ会を振り返って、経験したことやその時の気持ちを絵日記にまとめることができる。	1

生活単元学習「野菜を育てよう」
で野菜を使って調理実習

教科別の指導「国語」で手紙の書
き方や敬語の使い方について学習

教科別の指導「算数」で四則計算
について学習

5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 自分たちで考えた歌詞を覚え、歌を歌うことができる。
- ② お菓子の作り方を理解することができる。

(2) 児童の実態

No.	学年	名前	本単元に関する実態
1		A	文字を指でなぞりながら読むことで正しく読むことができる。言葉がはっきりしないこともあるが、歌うことは好きで元気よく歌う。調理活動が好きで、意欲的に取り組むことができる。
2		B	声は小さいが、文章を正しく読むことができる。歌うことに自信がもてず、口を大きく開けて歌うことは難しい。調理活動への意欲が高く、作業手順の理解も早い。
5		E	声の大きさを意識して文章を正しく読むことができる。歌い方を考えながら、正しいリズムとメロディーで歌うことができる。調理活動が好きで、手順を確認しながら手順通りに作業を進めることができる。

(3) 個別の指導内容及び目標

No.	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1		A	発音しにくい言葉の練習を繰り返し行う。	・歌詞を覚え、正しい発音を意識して歌うことができる。 ・お菓子の作り方を理解して、支援を受けながらワークシートに記入することができる。
2		B	声の大きさを意識させ、発表したり、歌を歌ったりさせる。	・歌詞を覚え、声の大きさを意識しながら歌うことができる。 ・お菓子の作り方を理解して、自分の力でワークシートに記入することができる。
5		E	手順をワークシートに記入させる。	・歌詞を覚え、気持ちを込めながら歌うことができる。 ・お菓子の作り方を理解して、自分の力でワークシートに記入することができる。

(4) 展開

時間	学習内容	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示、発問等 ※指導の手だて *評価の観点	資料等						
3分	1 はじめのあいさつをする。	○日直のあいさつで授業を始める。 ※踵と手の位置を意識するように言葉かけをする。							
	2 今日の学習内容を知る。	□1時間の流れを説明します。 ※学習の流れを提示し、見通しをもたせる。							
5分	3 歌の歌詞を確認する。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">A</td> <td style="width: 33%;">B</td> <td style="width: 33%;">E</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> プレゼントする歌の歌詞を読みましよう。 <input type="checkbox"/> 全員で声を合わせて読む。 </td> </tr> </table>	A	B	E	<input type="checkbox"/> プレゼントする歌の歌詞を読みましよう。 <input type="checkbox"/> 全員で声を合わせて読む。			<ul style="list-style-type: none"> ・掲示用歌詞カード ・個人用歌詞カード ・声のものさし
		A	B	E					
<input type="checkbox"/> プレゼントする歌の歌詞を読みましよう。 <input type="checkbox"/> 全員で声を合わせて読む。									
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">◎目で文字を追うことが難しい。 ※補助員と一緒に文字を指でなぞる。</td> <td style="width: 33%;">◎小さい声で読む。 ※声のものさしを提示し、声の大きさを意識させる。</td> <td style="width: 33%;">◎自分のペースで読む。 ※友達の声聞きながら読むように言葉かけをする。</td> </tr> </table>	◎目で文字を追うことが難しい。 ※補助員と一緒に文字を指でなぞる。	◎小さい声で読む。 ※声のものさしを提示し、声の大きさを意識させる。	◎自分のペースで読む。 ※友達の声聞きながら読むように言葉かけをする。						
◎目で文字を追うことが難しい。 ※補助員と一緒に文字を指でなぞる。	◎小さい声で読む。 ※声のものさしを提示し、声の大きさを意識させる。	◎自分のペースで読む。 ※友達の声聞きながら読むように言葉かけをする。							
15分	4 歌の練習をする。	<input type="checkbox"/> 歌の練習をしましよう。 <input type="checkbox"/> 歌詞カードを見ながら歌の練習をする。 <input type="checkbox"/> 友達と歌を聴き合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・声のものさし 						
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">◎言葉ははっきりしないが口を大きく開けて歌う。 ※補助員が歌詞カードを指して言葉を確認させる。 ※発音しにくい言葉を取り出して練習させる。 ※よくできているところを称賛し、意欲をもたせる。 *歌詞を覚えて正しい発音で歌うことができたか。</td> <td style="width: 33%;">◎小さい声で歌う。 ※声は小さくても正しく歌えていることを褒め、意欲をもたせる。 ※声のものさしを提示し相手に聞こえる声の大きさを意識させる。 *歌詞を覚えて声の大きさを意識して歌うことができたか。</td> <td style="width: 33%;">◎恥ずかしそうにしながらも口を大きく開けて歌う。 ※よくできているところをみんなのお手本にし、意欲をもたせる。 ※リズムのとりにくいところを取り出して練習させる。 *歌詞を覚えて気持ちを込めながら歌うことができたか。</td> </tr> </table>		◎言葉ははっきりしないが口を大きく開けて歌う。 ※補助員が歌詞カードを指して言葉を確認させる。 ※発音しにくい言葉を取り出して練習させる。 ※よくできているところを称賛し、意欲をもたせる。 *歌詞を覚えて正しい発音で歌うことができたか。	◎小さい声で歌う。 ※声は小さくても正しく歌えていることを褒め、意欲をもたせる。 ※声のものさしを提示し相手に聞こえる声の大きさを意識させる。 *歌詞を覚えて声の大きさを意識して歌うことができたか。	◎恥ずかしそうにしながらも口を大きく開けて歌う。 ※よくできているところをみんなのお手本にし、意欲をもたせる。 ※リズムのとりにくいところを取り出して練習させる。 *歌詞を覚えて気持ちを込めながら歌うことができたか。			
◎言葉ははっきりしないが口を大きく開けて歌う。 ※補助員が歌詞カードを指して言葉を確認させる。 ※発音しにくい言葉を取り出して練習させる。 ※よくできているところを称賛し、意欲をもたせる。 *歌詞を覚えて正しい発音で歌うことができたか。	◎小さい声で歌う。 ※声は小さくても正しく歌えていることを褒め、意欲をもたせる。 ※声のものさしを提示し相手に聞こえる声の大きさを意識させる。 *歌詞を覚えて声の大きさを意識して歌うことができたか。	◎恥ずかしそうにしながらも口を大きく開けて歌う。 ※よくできているところをみんなのお手本にし、意欲をもたせる。 ※リズムのとりにくいところを取り出して練習させる。 *歌詞を覚えて気持ちを込めながら歌うことができたか。							

17分	5 お菓子作りの材料の分量と手順を確認する。	<input type="checkbox"/> お別れ会で会食するお菓子の作り方を確認しましょう。 <input type="checkbox"/> ワークシートに作り方の手順を記入する。 <input type="checkbox"/> 材料の必要な分量を求める。	・掲示用 手順シ ート ・作り方 のワー クシー ト
		<p>◎友達の発表を聞いて、まねをする。 ※補助員が順番を表す言葉に線を引き、手順を意識させる。 ※作業をしているところの写真を見せ、手順をイメージさせる。 ※友達が発表した材料の分量を聞き取って書くように言葉かけする。 ◎正しく書けない分量がある。 ※カードを見せて視覚的に捉えさせる。 *作り方の手順について補助員の支援を受けながらワークシートに記入することができたか。</p> <p>◎穴埋め式の文章を読み作り方を推測する。 ◎順番を表す言葉を確認しながら手順を考える。 ※自分の力で記入できているところを褒め、意欲をもたせる。 ◎元の分量を何倍すればよいか分かり、自分の力で必要な分量を求める。 ※できているところを認め、自力解決させる。 *作り方を理解し、自分の力でワークシートに記入することができたか。</p> <p>◎穴埋め式の文章を読み作り方を推測する。 ◎今までの経験を思い出しながら手順を考える。 ※順番を表す言葉に注目させて手順の意識を高める。 ◎元の分量を何倍すればよいか分からない。 ※人数が何倍になっているかを考えさせる。 *作り方を理解し、自分の力でワークシートに記入することができたか。</p>	
5'分	6 学習のまとめをし、次時の学習を確認する。	<input type="checkbox"/> 今日の感想を伝える。 <input type="checkbox"/> 学習の感想を発表する。 ※一人一人児童のよくできていたところを称賛（評価）する。	
	7 おわりのあいさつをする。	<input type="checkbox"/> 日直のあいさつで終わりにする。 ※姿勢を意識して立つように言葉かけをする。	

6 評価

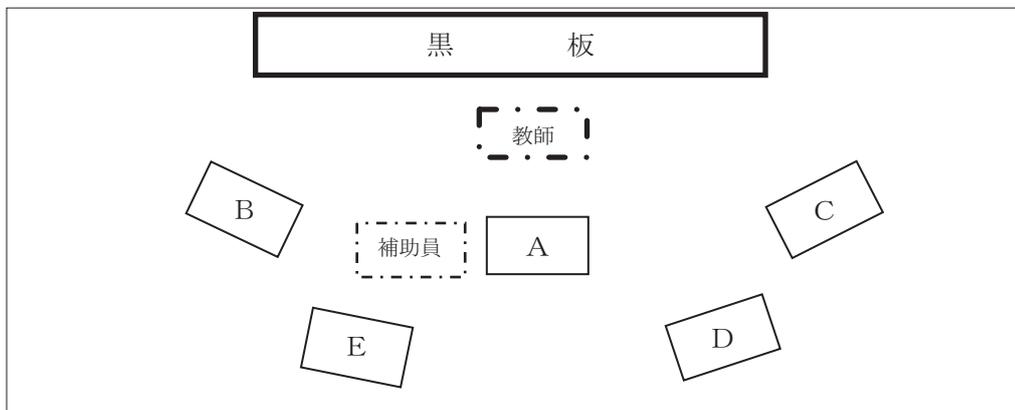
(1) 共通目標に係る評価

- ① 歌詞を覚えて歌を歌うことができたか。
- ② お菓子の作り方を理解することができたか。

(2) 個人目標に係る評価

No.	学年	名前	評 価
1		A	・歌詞を覚えて、正しい発音を意識して歌うことができたか。 ・お菓子の作り方を理解して、支援を受けながらワークシートに記入することができたか。
2		B	・歌詞を覚えて、声の大きさを意識して歌うことができたか。 ・お菓子の作り方を理解して、自分の力でワークシートに記入することができたか。
5		E	・歌詞を覚えて、気持ちを込めながら歌うことができたか。 ・お菓子の作り方を理解して、自分の力でワークシートに記入することができたか。

7 教室環境図



(9) 生活単元学習の年間指導計画例 (中学校)

※各教科等の内容を合わせた指導により、指導内容によっては技術・家庭や作業学習などで学習活動を行うこともある。

月	単元名	時数	指導のねらい	具体的な指導内容	支援の手だて
4	新しい学校生活	10	<ul style="list-style-type: none"> 入学を喜ぶとともに、中学生としての自覚をもち、学校や学級での活動に見通しをもつ。 自分の役割や所属を理解したり、自分のPRをしたりすることにより意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介カードを作成させ、自己紹介をさせる。 自分のめあてを決めさせカードに書く。 係りの仕事を考えさせ、自分のやりた関係りや当番を決めさせる。 新入生歓迎会を計画させ、行わせる。 各学年の今年の種目を伝え、参加の仕方について確認させる。 種目の練習に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生、在校生の役割を明確にし、お互いを思いやって活動できるようにする。 掲示物等を工夫して、複雑な学級組織や日課などが理解しやすいように提示する。
5	体育祭に参加しよう * 交流学級への参加	3	<ul style="list-style-type: none"> 日程や出場種目などについて理解し、積極的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の今年度の日程・目的・活動内容を認させる。 当日の持ち物、きまわり等をしおりで確認させ、自分で活動できるようにさせる。 事後の振り返りを通して感想発表表を行わせ、絵や作文でまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の目標や実態に応じた参加ができるように支援する。 交流学級の生徒や担任と連携し参加しやすい環境をつくる。
6	遠足に参加しよう	8	<ul style="list-style-type: none"> 遠足の目的地や活動内容に期待と興味もち、日程等を理解し、友達や教師と楽しむ。 印象に残ったことを発表したり、絵や作文で表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の日程・目的・活動内容を認させる。 当日の持ち物、きまわり等をしおりで確認させ、自分で活動できるようにさせる。 事後の振り返りを通して感想発表表を行わせ、絵や作文でまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流学級の生徒や担任に対して、生徒の特性や支援の仕方などを事前に打ち合わせを行う。 しおりの難しい漢字にふりがなをふるなど、自分で活動できるように支援を行う。
7	合同宿泊学習を成功させよう①	12	<ul style="list-style-type: none"> 他校の生徒との出会いの場を設け、友達と一緒に活動する喜びを味わう。 自分の係や仕事内容を理解する。 ピデオなどで活動の様子を知り、期待と興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> しおりに必要な情報(日にち、場所、持ち物、約束など)を確認し、作成させる。 移動手段を確認し、切符の買い方や電車の乗り方を学ばせる。 振り返りを行い、思い出を壁新聞にまとめさせる。 ティッシュケースの作り方の手順を確認させる。 作業の日数から、日程を策定させる。 個々の役割を明確にし、作業を進めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年のピデオなどを見せることにより、活動の様子を理解させ、不安感を取り除く。 他校教師と生徒の特性や支援の仕方などを事前に打ち合わせを行う。
	バザーを成功させよう①	10	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容を知り、自分の役割分担に丁寧に取り組みめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ティッシュケースの作り方の手順を確認させる。 作業の日数から、日程を策定させる。 個々の役割を明確にし、作業を進めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって取り組めるようにする。 針を使う際には管理に十分気を付けさせる。
	夏休みの生活	2	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの計画表を作成し、有意義に過ごそうとする態度を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題、お手伝い、体力作りについて目標を立てさせ、夏休みのしお리를作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携し、家庭や生徒の実態に応じた計画を立てるように支援する。
9	夏休みの反省と2学期の生活	2	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みを振り返り、印象に残ったことを発表することができる。 2学期の行事を知ることによって、学校生活に意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みのしおりを確認し、できた程度を自己評価させる。 2学期の行事を確認し、自分のめあてを作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携し、前もって夏休みの様子を聞いておくなど、適切な自己評価ができるように支援する。 2学期の行事などについて視覚的な資料を用意し、活動を理解させる。
	合同宿泊学習を成功させよう②	20	<ul style="list-style-type: none"> 他校の生徒との交流を深め、友達と一緒に生活する喜びを味わう。 自発的にしおりを活用し、自主的に活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> キャンプブライヤー、飯盒炊さん、テントの組み方等具体的なやり方を学ばせる。 持ち物を確認し、管理できるように工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康面や持ち物、服薬の方法など、家庭との連携を図り、効果的に進める。 しおりの難しい漢字にはふりがなをふる、自分で確認できるようにする。

月	単元名	時数	指導のねらい	具体的な指導内容	支援の手だて
10	合唱祭に参加しよう *交流学級への参加	2	・練習日程を確認し、積極的に練習に取り組むことができる。 ・交流学級の友達と協同して取り組むことができる。	・各学級の今年の曲を伝え、個人の目標を立てさせる。 ・各学級の練習に参加させる。	・意欲的に活動に参加できるようにするために、個々の目標を現実に合わせて提示する。 ・効果的な練習ができるように、交流学級の生徒や担任に生徒の特性や支援の仕方を伝える。
11	バザーを成功させよう②	20	・活動内容を確認し、自分の役割分担に丁寧に取り組める。 ・学校内の生徒・教師だけでなく、保護者や地域の方と積極的に関わりをもちたいことができる。	・ティッシュケースの制作を進めさせる。 ・販売方法やレジの計算について学ばせ、バザーを実施させる。 ・終了後、売り上げ計算をさせ、どれだけ売り上げがあったか確認させる。	・安全にティッシュケースを製作できるように、周囲の環境を整える。 ・販売方法など不安なことに関しては、事前にやり方を繰り返し伝え練習できるように支援していく。
12	小中交流授業を成功させよう	10	・小学生との適切な関わり方を学ぶ。 ・自分達で育てたさつままいもを使って調理することで、収穫に対する喜びを味わう。	・パーティの計画立案、準備をさせ、先生方を招待して、パーティをさせる。 ・調理室・調理器具の使い方を確認し、安全に実施できるように指導する。	・効果的な交流が行えるように、小学校の担当者とそれぞれの児童生徒の特性や支援の仕方を打ち合わせる。 ・調理器具を安全に取り扱えるよう、目配り、気配りを怠らない。
	冬休みの生活	2	・年末年始の季節行事に親しむ。 ・冬休みの計画を作成し、有意義に過ごそうとする態度を身に付ける。	・宿題、お手伝い、体力作りについて目標を立てさせ、冬休みのしおりを作成させる。	・家庭と連携し、年末年始らしいお手伝いや活動を提案してもらい、実際の計画を作成する。
1	学習発表会を成功させよう	20	・一年間の学習内容を総括したものを発表内容として、練習と見直しを繰り返し、多くの人々の前で堂々と発表することができる。	・どのような内容を発表したいか考えさせ、話し合いを通して決定させる。 ・役割分担し、発表に必要な道具を作らせたり、練習を行わせたりし、準備を進める。	・役割分担は学年に応じた内容になるよう支援する。 ・練習では、失敗しても一生懸命やることが大切なのだ伝え、自信を付けられるよう言葉かけをする。
2	お別れ遠足を成功させよう	15	・3年生が主体となつて計画することで、卒業が間近であるということへの自覚と責任感をもつことができる。 ・公共施設や交通機関の利用の際に、ルールやマナーを守って活動できる。	・しおりに必要な情報(日にち、場所、持ち物、約束など)を確認し、作成させる。 ・移動手段を確認し、切符の買い方や電車の乗り方を学ばせる。 ・振り返りを行い、思い出を壁新聞にまとめさせる。	・家庭と連携を図り、校外活動に関して留意するべきことの確認をする。 ・公共の場で活動する際のマナーなどについて、丁寧に教え実践できるように支援する。
3	一年間のまとめをしよう	5	・一年間を振り返り、思い出を語り合うことによつて、頑張ったことなど友達同士で認め合う態度を身に付ける。 ・進級への期待と意欲をもつ。	・一年間の思い出や得意になったこと、発案したことを振り返らせ、次年度への抱負を考えさせる。 ・得意になったことについて、発表させる。この一年間の成長を実感させる。	・時系列を追って、一年間の出来事を整理する。 ・上級生としてリーダー性が大切であると気付かせるよう支援をする。

(10) 指導案例 (中学校)

〇〇学級「生活単元学習」学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)
 第〇校時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指 導 者 教諭 〇〇 〇〇 (T1)
 教諭 〇〇 〇〇 (T2)
 教諭 〇〇 〇〇 (T3)

1 単元名 「バザーを成功させよう」

2 単元設定の理由

(1) 学級及び生徒の実態

本学級の生徒は6名(1年男子3名, 2年女子1名, 3年男子1名, 3年女子1名)で構成されている。主障害は知的障害であり, てんかん発作がある生徒や脳性麻痺による下肢の体幹機能障害を伴った生徒もいる。在籍している生徒のうち3名(1年男子2名, 3年女子1名)は, 中学校から教育形態の変更により本学級に入学してきた。特に今年度入学してきた2名については, 通常の学級で自己肯定感を十分に育むことができなかったことから, 学習場面において「分からないこと」や「できないこと」に対する恐怖感が強く, 混乱する。

学習面は, 国語, 数学, 外国語については当該学年の理解が難しいため, 下学年の内容を中心に行なっている。しかし, 数学については四則計算が十分に定着していない生徒もいるため, 各教科の指導だけでなく, 生活単元学習など実体験に基づいた指導を行なっていく必要がある。

一方, 学校全体の雰囲気は比較的落ち着いており, 特別支援学級の生徒は比較的穏やかであるため, 交流学級での学習も可能な限り行なっている状況である。

(2) 単元について

本校では毎年2学期にバザーが開催され, 本学級でも販売活動を通してバザーに参加している。今年度は家庭科の授業で作り方を学習した, ティッシュケースを製作して販売することとなった。針を使った製作には得意・不得意があるが, それを補い合って作り上げることができるよう工夫して指導していく。さらに, バザーでは本校の生徒ばかりでなく, 地域の方や保護者と接するよい機会である。生徒たちのコミュニケーション能力を高めるための準備もしっかりしていきたいと考えている。

(3) 指導・支援について

針を使った作業を伴うため, 安全に留意しながら指導する。販売するためにはできあがりの良さが大切である。そのことをよく理解させた上で, 縫い目がばらついてしまう生徒には内側になる部分を, 縫い目がそろってきれいにできる生徒には表に出るステッチの部分を担当させることとする。また, 販売の際には二人組をつくって, お互いに相談したり協力し合ったりしながら, 上手に接客できるようにしたい。そして, それらが自己肯定感につながるようにしていきたいと思っている。

3 単元の目標

- (1) 販売するという目的を理解して, ティッシュケースの製作に丁寧に取り組むことができる。
- (2) お互いのよさを認め合い, 協力してバザーに参加することができる。
- (3) バザーへの参加を通して, 人とのかかわりの中で伝え合う力を高めることができる。

4 指導計画

過程	学習内容	ねらい	時間
I	バザーの取組について知ろう。	・バザーまでの日程や活動内容を知り, 見通しをもって取り組むことができるようにする。	1
II	ティッシュケースを丁寧に作ろう。	・販売するものであるということを理解して, できあがりを意識しながら丁寧に製作することができる。	14
III	宣伝用のポスターを作ろう。	・人に知らせるために必要なことや絵・文字の大きさを考えて, ポスターを作成することができる。	3
IV	販売練習をしよう。 ・店員(レジも含む)として必要な言葉遣いや態度を考え, 実践する。 ・販売に必要な用具を考え, 準備する。 ・役割分担をする。	・バザーに向けて見通しをもち, やる気を高める。 ・店員としてふさわしい言葉遣いや態度を知り, 実際に行動に移すことができる。 ・役割分担により, それぞれの担当にふさわしい言葉や態度で, 実際に即した練習をすることができる。	2/4 本時
V	前日の準備をしよう。	・協力して必要な用具や製品の準備ができる。	2
VI	バザーに参加しよう。	・身支度を整え, 仕事分担により協力して活動することができる。 ・店員として, ふさわしい言葉遣いや態度で接客することができる。	4
VII	振り返りをしよう。 ・活動して感じたことなどを振り返り表にまとめる。 ・売上計算をする。	・自分の言葉で活動を振り返ることができる。 ・電卓を使って, 売り上げの計算をすることができる。	2

教科別の指導「国語」で, 敬語の使い方や正しい言葉遣いについての学習。

教科別の指導「美術」で, ポスターを作る際のレイアウトや彩色の仕方の学習。

教科別の指導「数学」で, 四則計算や電卓の使い方の学習。

5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① モデルとなる姿を見て、店員としてふさわしいのはどちらか理解することができる。
- ② 店員としてふさわしい言葉遣いや態度を知り、実際に演じることができる。

(2) 生徒の実態

NO	学年	名前	本単元に関する実態
1	1年男	A	何に対しても一生懸命取り組むことができる。恥ずかしがり屋で、失敗すると気持ちが落ち込みやすく活動が滞ってしまう。間違いは誰にでもあると声をかけると少しの時間で再開できる。
2	2年女	B	進んで活動に取り組むことができる。何でも自分でやりたいという思いが強いので、特に後輩と活動する時には少し待つことも大事だと伝えることで、納得して取り組むことができる。

～以下略～

(3) 個別の指導内容及び目標

NO	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1	1年男	A	恥ずかしがらずに販売練習に取り組めるよう、グループでの練習を繰り返し行う。	店員としてふさわしい言葉遣いや態度を知り、繰り返し練習できる。
2	2年女	B	進んでできることを称賛しながら、二人で練習することの意義を伝えていく。	後輩をうまくリードしながら、みんなの前でよい店員の姿を実践できる。

～以下略～

(4) 展開

時間	学習内容	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発問等 ※指導の手だて *評価の観点	資料等				
3分	1 はじめのあいさつをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□前回は店員さんとして、どんな言葉遣いや態度がよいかみんなでも考えました。今日は実際に練習をしてみましよう。</div> <p>*教師の方に顔を向けて話を聞いているか。</p>					
42分	2 モデルとなる教師を見て、どちらが店員としてふさわしいか考える。 ・言葉遣い ・声の大きさ ・笑顔の有無	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">A</td> <td style="width: 33%;">B</td> <td style="width: 33%;">他</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□最初に○○先生に店員さん役をやってもらいます。二つのパターンがあります。どちらの方が店員さんとしてよいと思いますか。後で質問します。よく見てください。 ※生徒が理解しやすいように、よい例とよくない例をややオーバー気味に演じる。 ◎教師を見ながら口々に発言したがる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□それでは聞きます。1回目と2回目のどちらの店員さんから買いたいと思いましたか。(手を挙げさせる)それはなぜですか。理由を教えてください。</div>	A	B	他	カード	
	A	B	他				
	3 店員としてふさわしい言葉遣いや態度を全員で確認する。	<p>○指名されてから、教師の質問に答える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">○Aの発表を聞く。拍手する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□Aさん、ありがとうございました。その通りです。では、みんなを確認しましょう。まず、お店に人が来た時に最初に言う言葉は何ですか? ○「いらっしゃいませ。」です。 ※その後、言葉遣い、声の大きさ、笑顔の有無について確認していく。</div>					
	4 二人組を作って実際に練習する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□二人組で練習します。AさんとBさん(他省略)でグループをつくります。まず、グループごとに黒板に貼ってある紙を見て練習してください。 ※二人で活動できるよう分かれて支援に入る。</div> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">○Bと一緒に練習する。 *恥ずかしがらずにできているか。</td> <td style="width: 33%;">◎Aに声を掛けて練習を始める。 *適切な声の大きさを理解できているか。</td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□グループごとにやってもらいましょう。AさんとBさん、前に出てください。</div>	○Bと一緒に練習する。 *恥ずかしがらずにできているか。	◎Aに声を掛けて練習を始める。 *適切な声の大きさを理解できているか。			セリフを書いた紙
	○Bと一緒に練習する。 *恥ずかしがらずにできているか。	◎Aに声を掛けて練習を始める。 *適切な声の大きさを理解できているか。					
5 前に出て実演する。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">◎戸惑いながら前に出てくる。</td> <td style="width: 33%;">◎Aに声を掛けて前に出てくる。</td> <td style="width: 33%;">◎二人組になって練習を始める。</td> </tr> </table>	◎戸惑いながら前に出てくる。	◎Aに声を掛けて前に出てくる。	◎二人組になって練習を始める。			
◎戸惑いながら前に出てくる。	◎Aに声を掛けて前に出てくる。	◎二人組になって練習を始める。					

		○Bが店員，Aがお客さんになって演じる。 交替して演じる。 ※二人の演技を評価する。よくできたことは具体的に称賛する。他のグループも同様に行う。	◎二人の演技に対して拍手する。 ○全グループが行う。
5分	6 今日の学習の振り返りをする。	□今日は，店員さんとしてお客さんと接する練習をしました。大切なことはどんなことでしたか。○○さん，発表してください。 ◎友達の発表を聞く。 ◎自分が発言するのではなく，友達の発表を聞く。	○教師の質問に答える。

6 本時の評価

(1) 共通目標に係る評価

- ① モデルとなる姿を見て，店員としてふさわしいのはどちらか理解することができたか。
- ② 店員としてふさわしい言葉遣いや態度を知り，実際に演じることができたか。

(2) 個人目標に係る評価

NO	学年	名前	評価
1	1年男	A	店員としてふさわしい言葉遣いや態度を知り，繰り返し練習できたか。
2	2年女	B	後輩をうまくリードしながら，みんなの前でよい店員の姿を実践できたか。

～以下略～

7 教室環境図 略

5 自立活動の指導計画

(1) 指導の意義と基本的な考え

自立活動の目標は「個々の児童又は生徒が自立を目指し，障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識，技能，態度及び習慣を養い，もって心身の調和的発達を基盤を培う。」ことである。

障害のある児童生徒は，その障害によって，日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じやすい。そのため，個々の実態把握によって導かれる「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」及び「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」，いわゆる心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものが自立活動であり，自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っている。

(2) 指導計画（流れ図）作成の手順

- ア 個々の児童生徒の障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，生活や学習環境などの実態を，できることにも着目しながら的確に把握する。（実態把握① 情報収集）
- イ 実態把握に基づいて得られた課題を自立活動の区分に即して整理する。教育支援プラン A・Bのように保護者と合意形成を図るものではなく，課題を整理するものである。（実態把握②-1 情報の整理）
- ウ 児童生徒の学習上又は生活上の課題を，既にできていること，支援があればできることも含めて整理する。（実態把握②-2）
- エ 現在の実態から卒業までの年数を視野に入れ，卒業までにどのような力を育むか整理する。（実態把握②-3 児童生徒の○年後の将来像）
- オ イ，ウ，エで整理した情報の中から，指導開始時点で課題となることを抽出する。（指導すべき課題の整理③ 課題の抽出）
- カ オで抽出した課題同士の関連，指導の優先，指導の重点の置き方等について整理し，中心的な課題を導き出す。（指導すべき課題の整理④ 中心的な課題）
- キ カの中心的な課題に基づき，長期的な指導目標（ねらい）と短期的な指導目標（ねらい）を設定する。（指導目標の設定⑤）
- ク 自立活動の内容6区分27項目の中から，指導目標を達成するために必要な項目を選定する。（項目の選定）
- ケ 選定した項目同士を相互に関連付けて具体的な指導内容と指導場面を設定する。（指導内容の設定）
- コ 課題同士の関連や整理を振り返りながらポイントを整理する。（項目と項目を関連付ける際のポイント）

(3) 指導上の留意事項

ア 自立活動の指導は学校の教育活動全体を通じて行う指導と自立活動の時間における指導により、適切に行うこと。

イ 教育支援プランBに基づく自立活動の指導は、個別指導の形態で行うことが基本だが、指導目標（ねらい）を達成する上で効果的である場合には、小集団を構成して指導することも考えられる。しかし、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意すること。

ウ 知的障害のある児童生徒は、知的な遅れに随伴して、言語、運動、動作、情緒、行動等の分野で発達の遅れが見られる場合がある。そのため、何事にも自信がもてず、新しいことに対して不安を示したり、参加できなかつたりすること等が考えられる。

- 例えば、
- ① 言語面では発音が明瞭でない。
 - ② 言葉と言葉を組み立てて話すことが難しい。
 - ③ 運動や動作面では、走り方がぎこちない。
 - ④ ボタンを掛け合わせたりすることが思うようにできない。

このような課題の原因や課題が相互に関連し合っている点、発達や指導の順序を考えながら自立活動の指導をすることが望ましい。

(4) 自立活動の授業づくり（流れ図 作成例）

児童名	学年・組	作成者
○○○○○	第○学年・△△学級○組	○○○○○

計画（PLAN）

実態把握① 情報収集	実態把握②-1 情報の整理
1 健康の保持 （日常生活面，健康面など） （追加）	生活のリズムはほぼ確立している。首に負担のかかる運動は禁止されている。
2 心理的な安定 （情緒面，状況の理解など） （追加）	初めての活動には不安が強いが，教師と一緒に活動を繰り返して慣れてくると参加できる。
3 人間関係の形成 （人とのかかわり，集団への参加など） （追加）	特定の教師や友達との関わりが中心である。自分のペースで活動したが，集団で一緒に活動することが難しい。
4 環境の把握 （感覚の活用，認知面，学習面など） （追加）	大きな音が苦手でマイクを通した声や，ピアノの音がすると耳をふさぐ。
5 身体の動き （運動・動作，作業面など） （追加）	動作模倣ができる。手の細かな動きが苦手で，ハサミや箸を上手く扱うことができない。
6 コミュニケーション （意思の伝達，言語の形成など） （追加）	音声言語が不明瞭で意思が伝わりにくい。音声言語による指示はほぼ理解することができる。
7 その他 （性格，行動特徴，興味・関心など） （追加）	休み時間に一人で歌ったり踊ったりすることが好きである。

実態把握②-2 児童生徒の学習上又は生活上の課題や，これまでの学習状況の把握
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の教師や友達への依存が強く，集団で活動することが難しい。 ・大きな音や大勢の人などの周りの環境に影響されて，活動に参加できないことがある。 ・発声言語が不明瞭で意思が伝わりにくい。

実態把握②-3 児童生徒の3年後の将来像
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の人への依存を軽減し，多くの人と関わりをもてるようになってほしい。（心・人・コ） ・その場の環境を把握し，活動に参加できるようになってほしい。（人・環） ・語彙を増やし，言葉によるコミュニケーションが成立するようになってほしい。（人・コ）

指導すべき課題の整理③ 課題の抽出
・自分にとって苦手な環境では活動に参加することが難しい。(心, 人, 環) ・発声言語が不明瞭で語彙が少ない。(人, コ)

指導すべき課題の整理④ 中心的な課題	
中心的な課題	背景
① 自分にとって苦手な環境では, 教師への依存が強くなる。	大きな音や, マイクを通した声などに自分で対応することができない。
② 特定の人とのコミュニケーションが多い。	人とかかわりたいという気持ちはあるが, 発声が不明瞭で意思が伝わりにくい。

指導目標の設定⑤
① 友達と一緒に集団活動へ参加することができる。 ② 語彙を増やし, 発声言語を明瞭にする。

項目の選定・指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	情緒の安定に関する事。	他者とのかかわりの基礎に関する事。	保有する感覚の活用に関する事。	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事。	状況の理解と変化への対応に関する事。	他者の意図や感情の理解に関する事。	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	言語の受容と表出に関する事。
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事。	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	自己の理解と行動の調整に関する事。	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	日常生活に必要な基本動作に関する事。	言語の形成と活用に関する事。
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。		集団への参加の基礎に関する事。	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	身体の移動能力に関する事。	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5)	健康状態の維持・改善に関する事。			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	状況に応じたコミュニケーションに関する事。
Key words		不安, 成功体験	他者への依存, かかわる喜び	環境把握		意思の表出

指導内容	見通しをもち, 一人で集団活動に参加できるようにする。	苦手な環境に対応する方法を身に付けることができるようにする。	しりとりなどの活動で友達と関わりながら言葉でのやりとりを促す。
指導場面	・朝の会 ・自立活動 ・体育	・朝会 ・集会 ・音楽 ・体育 ・自立活動	・教科別の指導「国語」 ・自立活動 ・朝の会

項目と項目を関連付ける際のポイント

① 苦手な環境の中での活動に見通しをもって取り組むことを, 集団参加と関連させる。
② 発声言語を明瞭にすることを, 人とかかわることと関連させる。

(5) 自立活動のねらいと指導内容(例)

区分	項目	ねらい	指導内容 * 配慮事項	(関連区分) 関連教科
1 健康の保持	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	・生活リズムを確立する。 ・身の回りのことが自分でできるようにする。	・早寝早起き朝ごはんの習慣 ・食事の自立 ・排泄の自立 ・衣服の選択(季節や場に応じて)と着脱 ・清潔な生活習慣(うがい, 手洗い, 歯磨き等)	(環) 日常生活の指導 家庭科
	(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事。	・自分の病気を理解し, 予防や服についての知識を得る。	・医師や養護教諭からの指導	(環)(身) 保健
	(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事。	・自分の身体各部の名を理解する。	・身体各部の名前 ・医師や養護教諭からの指導	(環)(身)
	(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。	・身体的な側面を中心とした苦手なことを知り, 支援を求めることができるようにする。	・苦手なこと探し ・できること探し ・移動や生活環境を変えるとき支援の求め方	(心)(環)(コ)
	(5)健康状態の維持・改善に関する事。	・体調の把握や健康管理ができるようにする。 ・自分から進んで体を動かせるようにする。	・健康観察の仕方 ・体温の測り方 ・体調が悪いときの支援の求め方 ・外遊び	(人) 日常生活の指導 体育
2 心理的な安定	(1)情緒の安定に関する事。	・自分の気持ちが不安定になる原因を理解する。 ・自分に合った方法で気持ちを安定させることができるようにする。	・いろいろな気持ち(感情を表す言葉を増やし認知する) ・苦手な活動探し ・好きな活動探し ・落ち着くためにできること(好きな活動をする, 場所を変える等)	(人)(環)(コ) 国語 道徳科
	(2)状況の理解と変化への対応に関する事。	・場所や場面の変化を理解する。 ・苦手な場所や場面に対応できるようにする。	・カレンダー ・予定の確認 ・学校行事の事前学習 ・苦手なことに対する行動の仕方 *「見学から参加へ」のように段階的に取り組む。	(人)(環)(コ) 生活単元学習 算数 特別活動
	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	・「自分にはできない」とあきらめずに前向きに取り組む気持ちを高める。	・今日のめあて ・○学期のめあて ・できるようになったこと, できるようになりたいこと ・将来の夢	(健)(人) 日常生活の指導 生活単元学習 キャリア教育
3 人間関係の形成	(1)他者とのかかわりの基礎に関する事。	・相手からの働き掛けを受け止め, それに応じることができるようにする。	・目を合わせる ・体の向き ・場や相手に応じたあいさつ ・場や相手に応じた言葉遣い	(心)(コ) 日常生活の指導
	(2)他者の意図や感情の理解に関する事。	・相手の思いや感情を受け止め, それに応じて行動できるようにする。	・どんな気持ちかな(感情を表す言葉, 表情, 身振り) ・感謝の伝え方 ・謝り方	(心)(コ) 日常生活の指導 国語
	(3)自己の理解と行動の調整に関する事。	・自分の行動の特徴を理解し, 集団の中で行動できるようにする。	・友達と同じところ ・友達と違うところ ・自分の長所と短所 ・間違えても大丈夫	(環)(心) 道徳科 特別活動
	(4)集団への参加の基礎に関する事。	・集団の雰囲気に合わせて参加するための手順やきまりを理解する。 ・集団の遊びや活動に参加する。	・みんなで楽しむための約束 ・遊びや活動のルール ・一緒に遊びたい時の言い方 ・困ったときの言い方 ・時間を守る *具体的な集団活動を通して取り組む。	(心)(コ) 生活単元学習 特別活動 体育

4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚，聴覚，触覚，嗅覚，味覚などを活用する。 ・力の加減をする。 ・姿勢をコントロールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚遊び ・ビジョントレーニング ・バランス遊び ＊課題に応じた活動に取り組む。	(健)(身)(コ) 体育
	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚の特性（感覚の過敏さ，鈍さ，認知の偏り）を理解する。 ・自分にできる対応方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なものはある？（光・音・手触り・匂い・味など） ・どうしたらできる？（環境の改善を考える） 	(身)(心)(人)
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・補助機器を活用する。 ・他の感覚や機器で代行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助機器の使い方（拡大読書器・タブレット型端末・イヤーマフ等） 	(健)(身)
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚の特性に合わせて行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の感覚を活用した遊びや運動（目と手を協応させた活動，模倣，リトミック，なわとび等） 	(身)(人)(コ) 音楽 体育
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの機能や属性，形，色，音を理解する。 ・空間や時間の概念を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色や形の弁別 ・ものの仲間分け ・上下，前後，左右，遠近等の概念 ・時計 ・順序，時間，手順 ・手順通りの作業 	(身)(コ) 算数 国語 図工 作業学習
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大運動(姿勢の保持，歩く，走る，ジャンプする，とびおる) ・医師や養護教諭からの指導 	(健)(コ) 体育
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢保持や運動・動作が困難な場合に補助的用具や補助的手段を使えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助用具の使い方（座位安定のためのいす，各種装具，持ちやすくした鉛筆や箸など） 	(健)(環)
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事，排泄，衣服の着脱，洗面，入浴などの身辺処理及び書字，描画等の学習のための基本動作を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本動作の習得(座って手を伸ばす，指を握ったり開いたりする，身体のほとんどの部位へ指先が届く，手の動きを目で追う) ・やってみよう ＊課題に応じて使いやすい道具から一般的な道具へ，やさしい課題から難しい課題へ	(心)(環) 日常生活の指導 図工 家庭科 作業学習
	(4) 身体の移動能力に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で歩いたり，移動したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地までの移動 ・移動が困難な時の支援の求め方 	(健)(環)(コ) 生活単元学習 体育
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を使った活動に必要な基本動作を身に付ける。 ・巧緻性や持続性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協調運動(手と目，手と足など身体の複数の個所を同時に動かす)や微細運動(ものをつまんだり引っ張ったりする)を使った作業 ・ビーズ通し ・ひも結び ・はさみやカッター 	(心)(環) 体育 図工 作業学習
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・表情や身振りなどを使って意思のやりとりができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード ・身振り，指差し ・ジェスチャー ・自発的な意思表示 	(人)(環) 日常生活の指導
	(2) 言語の受容と表出に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉や文字・記号を使って相手とやりとりができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を使った遊び ・音声言語以外の手段を使ったやりとり 	(心)(環)(コ) 国語
	(3) 言語の形成と活用に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを通して，言葉の概念を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を使った遊び ・スピーチ 	(心)(人)(環) 国語
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合ったコミュニケーションの手段を使うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード ・身振り，指差し ・ジェスチャー ・音声言語 	(心)(人)(環)
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・場や相手，お互いの気持ちに応じてやりとりができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイング ＊様々な状況を設定して	(心)(人)(環)

(6) アセスメントシート

児童生徒の課題を把握するために、下記のようなアセスメントシートを活用することが有効である。これをもとに指導計画を作成したり授業内容の設定をしたりすることができる。

自立活動アセスメントシート（例） 年 組 氏名（ ）

区分	項目	記入日 /	記入日 /	記入日 /
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。			
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。			
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。			
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。			
	(5) 健康状態の維持・改善に関する事。			
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定に関する事。			
	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事。			
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。			
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。			
	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事。			
	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。			
	(4) 集団への参加の基礎に関する事。			
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事。			
	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。			
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。			
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。			
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。			
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。			
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。			
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。			
	(4) 身体の移動能力に関する事。			
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。			
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。			
	(2) 言語の受容と表出に関する事。			
	(3) 言語の形成と活用に関する事。			
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。			
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。			

◎特に支援が必要 ○支援が必要

(7) 小学校指導案

〇〇学級〇組 自立活動 学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇曜日)
第〇時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
場 所 〇〇〇〇
指導者 〇〇 〇〇

1 主題名 「なにかな なにかな」

2 主題設定の理由

(1) 児童の実態 (障害特性, 課題等)

本学級は5名(男子4名, 女子1名)の児童が在籍している。穏やかな児童が多く, 高学年の児童が優しく下級生の児童の手助けをすることができる。日常生活面においては, 自立している児童が多いが, 衣服の着脱において身だしなみを整えることなどに課題が見られる。また, 人とのコミュニケーションに関しては, 発語が喃語に近い児童やたどたどしさがある児童も在籍していることから, 言葉でのやりとりを苦手になっている児童もいる。しかし, 人とのかかわり合いはお互いに楽しんで行っている様子が見られる。

(2) 主題観

人とコミュニケーションを取りながら, 集団活動に参加するためには, やりとりの楽しさを知り, 適切なコミュニケーションの手段を身に付けること, 手順やきまりを理解し見通しをもって活動に参加できるようにする力が必要である。発声に課題のある児童は, 自分の気持ちが言葉では相手に伝わりにくく, コミュニケーションが成立しなかったり, 人とのやり取りを苦手と感じたりする。そこで, 児童が活動を楽しみながら自然に語彙を増やし, 正しい発声を促すことができるように本主題を設定した。

(3) 指導観

指導に当たっては, 学習の流れを毎回固定し, 児童が見通しをもって活動することができるようにする。身近な動物の名前や鳴き声を言ったり, しりとりをしたり, 集団での活動に取り組みながら個別の課題に応じて学習を進めていく。発声に課題のある児童に対しては, 教師の口形を見せ, 繰り返し発音させながら明瞭な発音につなげていきたい。

3 児童の実態

	本時に関わる実態
A	3文字以上の言葉になると, 発音するときの中音が抜けてしまう。
B	教師の発音を模倣しようとするが, 発音が不明瞭である。
	以下 略

4 目標

- (1) 言葉を使った活動に楽しく取り組むことができる。
- (2) しりとりをすることができる。

5 本時の構成

(1) 本時の目標

① 共通目標

- ・ 言葉を使った学習に楽しく取り組むことができる。

② 個人目標

- A 3文字以上の言葉を1文字ずつ区切って発音することができる。
- B 教師の発音を模倣しながら, 正しく発音しようとするすることができる。

以下略

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点 (※指導の手だて *評価の観点)	備考			
5分	1 はじめのあいさつをする。 2 本時の活動を知る。 おはなし なんのおと? なにかな?	※実態に合わせた支援を行う。 ※活動の順番と内容を知らせ、見通しをもたせる。	活動カード			
7分	3 絵本の読み聞かせを聞く。	※繰り返しのある部分を一緒に読ませ、活動に対する意欲を高める。	絵本			
12分	4 動物の名前や鳴き声を言う。	※日直から順番に、動物の絵カードを見せて、名前や鳴き声を言わせる。	動物の絵カード			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>略</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※動物の名前が分からない場合は、鳴き声を言ったり教師と一緒に名前を言ったりさせる。 *動物の名前や鳴き声を言うことができたか。</td> <td>※動物の名前が分からない場合は、鳴き声を言わせる。 ・犬→ワンワン ・猫→ニャオー など *動物の鳴き声を言うことができたか。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		A	B	略
A	B	略				
※動物の名前が分からない場合は、鳴き声を言ったり教師と一緒に名前を言ったりさせる。 *動物の名前や鳴き声を言うことができたか。	※動物の名前が分からない場合は、鳴き声を言わせる。 ・犬→ワンワン ・猫→ニャオー など *動物の鳴き声を言うことができたか。					
16分	5 しりとりをする。	※日直から順番に、しりとりをさせる。 ※言葉の最後に○を付け、次の言葉の最初の文字が分かるようにする。 ※自分で次の言葉が思い付かない場合は、教師がジェスチャーをしてヒントを出したり、教師と一緒に言わせたりする。 ※最後に出てきた言葉を全員で読む。				
		<table border="1"> <tbody> <tr> <td>※単語の中の音が抜けてしまう場合は、教師の手拍子に合わせて1文字ずつ発音させる。 *3文字以上の言葉を1文字ずつ区切って発音することができたか。</td> <td>※発音が不明瞭なときは、教師の口形を見せながら模倣させる。 *教師の発音を模倣しながら、正しく発音しようとすることができたか。</td> </tr> </tbody> </table>		※単語の中の音が抜けてしまう場合は、教師の手拍子に合わせて1文字ずつ発音させる。 *3文字以上の言葉を1文字ずつ区切って発音することができたか。	※発音が不明瞭なときは、教師の口形を見せながら模倣させる。 *教師の発音を模倣しながら、正しく発音しようとすることができたか。	
※単語の中の音が抜けてしまう場合は、教師の手拍子に合わせて1文字ずつ発音させる。 *3文字以上の言葉を1文字ずつ区切って発音することができたか。	※発音が不明瞭なときは、教師の口形を見せながら模倣させる。 *教師の発音を模倣しながら、正しく発音しようとすることができたか。					
5分	6 活動を振り返り次時の活動を知る。 7 おわりのあいさつをする。	※一人一人よくできていたことを評価し、次時への意欲を高める。 *言葉を使った学習に楽しく取り組むことができたか。 ※号令がかかったら5秒で立つように言葉をかける。				

6 本時の評価

① 共通目標

- ・言葉を使った学習に楽しく取り組むことができたか。

② 個人目標

- A 3文字以上の言葉を1文字ずつ区切って発音することができたか。
- B 教師の発音を模倣しながら、正しく発音しようとすることができたか。

7 備考

- ・ 教室内配置図 座席配置図 教材・教具配置図等
- ・ 参考資料

(8) 中学校指導案

【指導案の作成について】 アセスメントシートを活用して実態を把握し、流れ図を簡略化したものを作成して指導案につなげた。下記の「具体的な指導内容ア」に関する指導案である。

【流れ図：簡略化したもの】

生徒：中学校1年

障害名等：知的障害

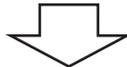
<p><学習面></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲はあるが、分からないことに直面すると不安な感情により混乱することがある。 数学に関しては、四則計算が十分に定着していない。 <p><行動面></p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的に穏やかで、周囲と協力して活動することができる。 できないことがあると動作が止まってしまうことがある。 ボタンをかけたたり靴ひもを結んだりといった手指を使った動作がうまくできないことがある。 <p><身体面></p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし。
--

教育支援プランAから引用



指導目標	
<長期目標>	分からないことやできないことに直面しても混乱せず、落ち着いて課題に取り組むことができる。
<短期目標>	日常生活で困らないよう、手指の巧緻性を高める。

教育支援プランBから引用



	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定項目	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	(1) 情緒の安定に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	

具体的な指導内容	ア 様々な用具を使用しながら、手指を上手に使う練習をする。	イ 得意なことを積み重ねながら、苦手なことにもチャレンジし、自分の良さに気付けるようにする。	ウ 混乱をきたす前にその状況を教師に伝えたり、気持ちの持ち方を学んだりできるようにする。
----------	----------------------------------	---	---

〇〇学級 自立活動 学習指導案

日 時 平成〇年〇月〇日〇曜日
 第〇時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指 導 者 〇〇 〇〇 (T1) 〇〇 〇〇 (T2)
 〇〇 〇〇 (T3)

1 主題名 「苦手克服を目指す」

2 主題設定の理由

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は6名（1年男子3名，2年女子1名，3年2名：男子1名，女子1名）で構成されている。主障害は知的障害であり，てんかん発作がある生徒や脳性麻痺による下肢の体幹機能障害を伴った生徒もいる。在籍している生徒のうち3名（1年男子2名，3年女子1名）は，中学校から教育形態の変更により本学級に入学してきた。特に今年度入学してきた2名については，通常の学級で自己肯定感を十分に育むことができなかったことから，学習場面において「分からないこと」や「できないこと」に対する不安感が強くパニックになることがある。

学習面は，国語，数学，外国語については，現学年の理解が難しいため，下学年の内容を中心に行っている。また，数学については四則計算が十分に定着していない生徒もいるため，机上の学習だけではなく，生活単元学習など実体験に基づいた指導を行っていく必要がある。そこで，学習ではそれぞれ個々に応じた学習を行っていくが，必要に応じて各教科等の指導を行っていく。

一方，学校全体の雰囲気は比較的落ち着いており，多くの特別支援学級の生徒は比較的穏やかであるため，交流学級での学習も可能な限り行っている状況である。

(2) 主題について

個別に抱える困難さや課題を軽減し解決するために，多角的な実態把握をし，個に応じた解決法と指導計画を設定した上で，丁寧に粘り強く指導にあたる必要がある。そこで，自立活動において困難さや課題が類似している生徒同士で二人組をつくり指導することにした。個に応じた指導・支援により，その困難さ等を少しでも軽減し各自の能力を最大限に発揮させ，将来的には，社会に効果的に参加することができる生徒になってほしいとの思いにより，本主題を設定した。

(3) 指導・支援について

在籍する生徒は6名であるため，二人組を3グループつくることにした。指導する教師は3名のため，それぞれの課題に教師1名と生徒2名の形態で取り組んでいる。個別に抱える困難さや課題は同グループにおいて様々な違いがあるため，配慮と創意工夫を要する。また，進度や達成度に応じて，臨機応変な対応も心掛けていく。

3 生徒の実態

氏名	本時に関わる実態
A	日常生活での基本的な手指を使った動作ができないことが多い。また，できないとイライラしたり混乱をきたしたりする。
B	下肢の体幹機能障害を伴っているため，手先の細かな作業に困難さを示すことがある。長く作業することは苦手な疲れやすい。

～以下略～

4 目標

- 自分の苦手を知り，粘り強く課題に取り組むことができる。

5 指導計画 ～他グループ略～

	授業目標	授業時数
1	様々な用具で手指を上手に使う練習をすることができる。	5
2	様々な用具を使って，指示や条件を理解して作業することができる。	本時 2 / 5
3	りぼん結びの仕方を学んで，挑戦することができる。	5

6 本時の構成

(1) 本時の目標

氏名	目 標
A	<ul style="list-style-type: none"> 用具の使い方を理解して使うことができる。 苦手なことでも落ち着いて課題に取り組むことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> 用具を工夫して使うことができる。 両手を上手に使うことで課題に取り組むことができる。

(2) 展開 ～他グループ略～

配時	学習活動	指導上の留意点 (※指導の手だて *評価の観点)			備考
導入 3分	1 はじめのあいさつをする。	グループごとにあいさつをして、活動を開始する。			
	2 今日の活動内容を知る。	※ひもと竹ひごの違いを意識させ、どうすればうまく通せるか考えさせる。			
展開 40分	3 竹ひごにビーズを通す。	全体	A	B	・竹ひご ・ビーズ
	4 箸で豆をつまむ。	・自分で用具の準備をする。	*イライラすることなく取り組めているか。	*利き手でない方の手を上手に使っているか。	・おもちゃの豆 ・箸
	5 ひもにアルファベットを通す。	・二人で相談して使う豆の色を決める。 ・豆をつまむ順番を決める。	・各自で豆をつまむ練習をする。 ・練習後、ゲーム感覚で順番に豆をつまんで一つの皿にできるだけ多く積み上げる。 ※学び合いの一環として、上手に積み上げられるよう協力して行う。		・アルファベットの文字 ・ひも
まとめ 7分	6 本時のまとめをする。	・最初に二人でアルファベット順に言ってみる。	※文字の向きに注意させる。 ※アルファベットの順番が分からなくなったら支援する。		
			*アルファベットの向きがきちんとできているか。 *順番が分からなくなった時に冷静に聞くことができるか。	*アルファベット順に上手に通せているか。 ※早く終わったら別課題を出す。	
		・アルファベットが落ちないように、ひもで結ぶ。 ・今日の取組についてコメントする。	※どんな結び方でもよいこととする。 結び方は今後の課題につなげる。 ※はずれないように結ぶことができるか。		

7 本時の評価

氏名	評 価
A	・ 用具の使い方を理解して使うことができたか。 ・ 苦手なことでも落ち着いて課題に取り組むことができたか。
B	・ 用具を工夫して使うことができたか。 ・ 両手を上手に使って課題に取り組むことができたか。

～以下略～

8 備考 ・教室内配置図 座席配置図 教材・教具配置図等 ・参考資料

6 教科の指導計画

小学校・中学校の教育課程では、小・中学校学習指導要領第1章第4の2の(1)のイにおいて、「2特別な配慮を必要とする児童(生徒)への指導『(イ)児童(生徒)の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標に替えたり各教科を知的障害者である児童(生徒)に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。』」と示されている。知的障害のある児童生徒の学習では、小・中学校の各教科の目標や内容を踏まえて指導するが、当該学年の目標の内容が適切でない場合は下学年の目標、内容を参考にする。下学年の学習内容を取り扱う場合、学年ごとの単元を全て行うのではなく、児童生徒の将来像を描いた上でどんな力が必要なのかを明確にして単元の精選を行う必要がある。また、記憶することに課題がある児童生徒には、同一単元を集中して行うことや、既習事項の復習や毎時間必ず行うルーティーン学習を取り入れることが効果的である。

各教科の目標や内容を下学年の目標や内容に替えることが難しい場合には、特別支援学校学習指導要領に示されている段階別に応じた各教科の目標及び内容に替えるのが望ましい。知的障害特別支援学校の場合、同一学年であっても個人差が大きく学力や学習状況も異なるため、段階を設けて示すことにより、個々の児童生徒の実態等に即して各教科の内容を精選し、効果的な指導ができるようにしている。(※詳細は、特別支援学校学習指導要領解説 各教科編 参照)

(1) 各段階の構成(特別支援学校学習指導要領解説 各教科編)

小学部 1段階	主として知的障害の程度は、比較的強く、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのにほぼ常時援助が必要である者を対象とした内容を示している。
小学部 2段階	知的障害の程度は、1段階ほどではないが、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする者を対象とした内容を示している。
小学部 3段階	知的障害の程度は、他人との意思の疎通や日常生活を営む際に困難さが見られる。適宜援助を必要とする者を対象とした内容を示している。
中学部 1段階	小学部3段階を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として経験の積み重ねを重視するとともに他人との意思の疎通や日常生活への適応に困難が大きい生徒にも配慮した内容になっている。
中学部 2段階	中学部1段階を踏まえ、生徒の日常生活や社会生活及び将来の職業生活の基礎を育てることをねらいとする内容を示している。

(2) 国語・算数における各段階の内容一部抜粋(特別支援学校学習指導要領解説 各教科編)

教科内容	国語 聞くこと・話すこと(一部抜粋)	算数 数と計算(一部抜粋)
小学部 1段階	ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	ア 数を数えることの基礎に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ⑦ ものの有無に気付くこと。 ④ 目の前のものを、1個、2個、たくさんで表すこと。
小学部 2段階	ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。 イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。	ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ ものともを対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。 ④ ものの集まりと対応して、数詞が分かること。
小学部 3段階	ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。 イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。	ア 100までの整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ⑦ 20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。 ④ 100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。
中学部 1段階	ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。 イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。	ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 1000までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。 ④ 3位数の表し方について理解すること。
中学部 2段階	ア 身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないことは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。 イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。	ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 4位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。 ④ 10倍、100倍、10分の1の大きさの数及びその表し方について知ること。

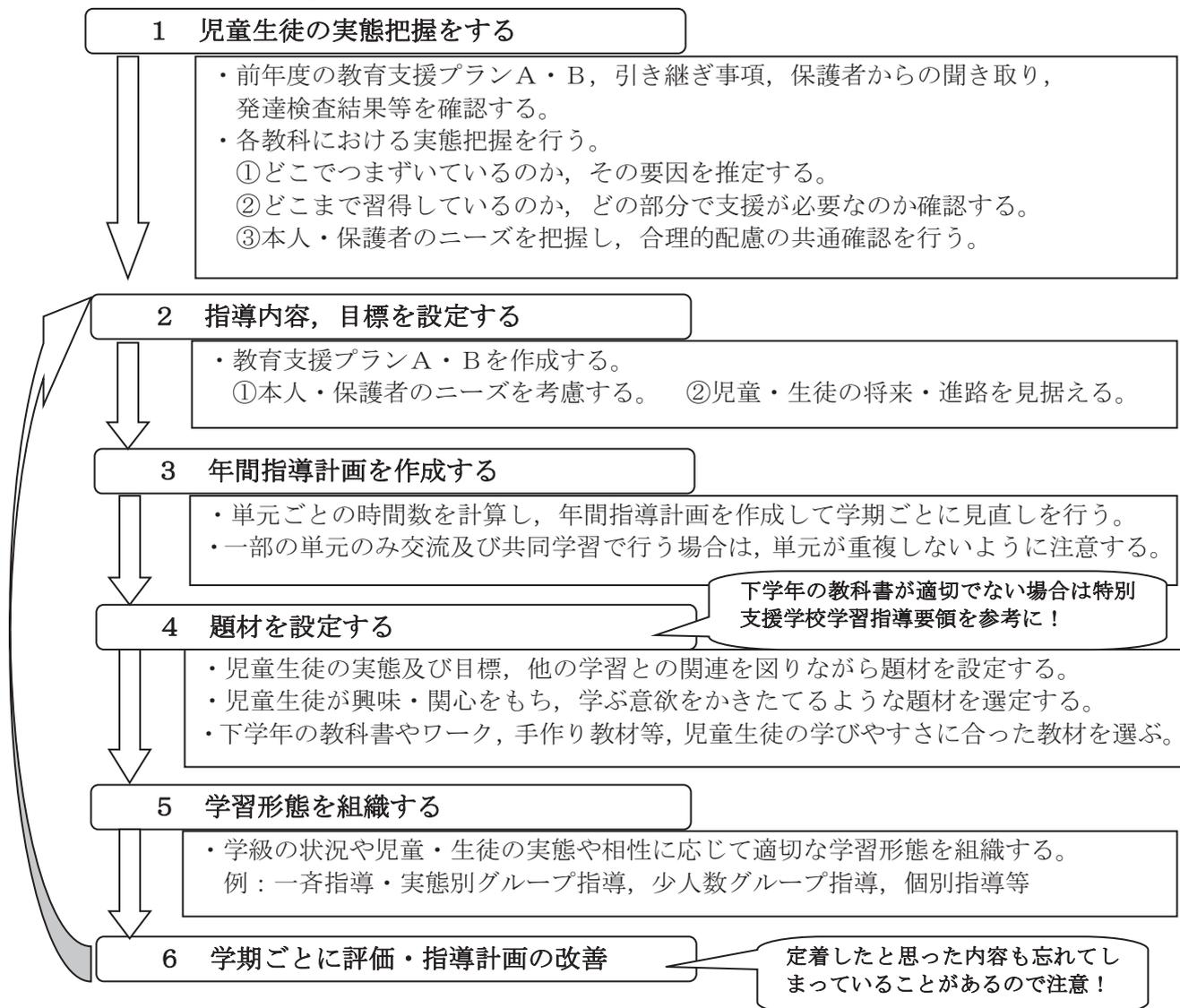
(3) 小・中学校の各教科と知的障害特別支援学校の各教科

小学校	国語, 社会 (3～6年), 算数, 理科 (3～6年), 生活 (1・2学年), 音楽, 図画工作, 家庭 (5・6年), 体育, 外国語 (5・6年)
知的障害特別支援学校 小学部	国語, 算数, 生活, 音楽, 図画工作, 体育
中学校	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術・家庭, 外国語
知的障害特別支援学校 中学部	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 職業・家庭, 外国語 (必要に応じて設けることができる。)

(4) 特別支援学校の「生活」と小学校の「生活」との違い

特別支援学校（知的障害）小学部の各教科「生活」と小学校1・2年生の各教科「生活」には大きな違いがある。特別支援学校（知的障害）小学部の「生活」は1～6年を通して履修する。12の観点から構成されており、特別支援学校指導要領解説には「日々の日課の流れに沿って行われることが大切である。」と記述されているように、基本的には時間割の中で単独に位置付くというよりも、「日常生活の指導」「生活単元学習」等の「各教科等を合わせた指導」の中心的な教科として位置付くことになる。

(5) 指導計画の作成の手順と留意事項



(6) 年間指導計画例

【国語】

月	学習内容 (一斉)	学習内容 (個別の課題)				
		A	B	C	D	E
4	自己紹介	自分の名前を書く	自己紹介カードを書く	自己紹介カードを書く	自己紹介カードを詳しく書く	自己紹介カードを詳しく書く
	離任式に向け、お世話になった先生へのお手紙	ひらがなで手紙を書く	ひらがなとカタカナで手紙を書く	漢字を使って手紙を書く	助詞を正しく使って手紙を書く	話の順序に気をつけて手紙を書く
5	特殊音節「っ」(促音)	「っ」のつく言葉さがし	「っ」のつく言葉さがし	「っ」のつく言葉を書く	「っ」に気をつけて文章を書く	「っ」に気をつけて文章を書く
6	特殊音節「や」「ゆ」「よ」(拗音)	「や」「ゆ」「よ」のつく言葉さがし	「や」「ゆ」「よ」のつく言葉さがし	「や」「ゆ」「よ」のつく言葉を書く	「や」「ゆ」「よ」に気をつけて文章を書く	「や」「ゆ」「よ」に気をつけて文章を書く
7	1学期の漢字のまとめ	1年生の漢字	1年生の漢字の復習 2年生の漢字	2年生の漢字	3年生の漢字	4年生の漢字
9	お話を読もう～げきにして発表しよう～ 題材名「ゴリラのパンやさん」 ※個々の課題に応じた配役や台詞を割り当てる					
10		カタカナ練習	ようすをあらわす言葉	「どこ」「だれ」「なに」を読み取ろう	説明文を読んでもみよう 題材名「カラスの鳴き声」	説明文を読んでもみよう 題材名「カラスの鳴き声」

【算数】

月	学習内容 (一斉)	学習内容 (個別の課題)				
		A	B	C	D	E
4	文章問題 「ぜんぶでいくつ」 「あわせていくつ」 「のこりはいくつ」 「多い」「少ない」	あわせていくつ ふえるといくつ (1年上)復習 1位数の加法	ひきざん (1年下) 簡単な場合の2 位数の減法	分かりやすくあらわそう (2年上)	時ごとと時間のもとめ方を考えよう (3年上) 時間の単位	大きい数の計算を考えよう (3年上) 3けたのたし算 3けたのひき算 復習
5		のこりはいくつ ちがいはいくつ (1年上) 1位数の減法	なんじなんふん (1年下) 時刻の読み方	たし算のしかたを考えよう (2年上) くりあがりのあるたし算 筆算で計算 1桁+1桁 2桁+1桁 2桁+2桁	大きい数の計算をしよう (3年上) 3桁-3桁 4桁-4桁	
6	文章問題 「ふえる」「へる」 「ちがいはいくつ」 「たすのかな ひくのかな」	10よりおおきいかず (1年上)	たしざん (1年下) くりあがりのあるたし算 1桁+1桁 2桁+1桁 2桁+2桁			はしたの数 (3年下) 小数しくみ 小数の計算 小数の見方
7		なんじ なんじはん (1年上) 時刻の読み方			かけ算九九 (2年下) 復習	
9	お金の学習 買い物学習	お金の種類 硬貨	お金の種類 硬貨と札	おつりを計算しよう	買い物計画	買い物計画
10		大きい数 (100まで)	大きい数 (1000まで)	大きい数 (1000まで)	電卓の使い方	電卓の使い方

(7) 指導事例【国語】

〇〇学級 教科別の指導「国語」学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)

第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

場 所 〇〇〇〇

指導者 教諭 〇〇 〇〇 (T1)

1 題材名 「っ」のつくことばを書いてみよう

2 題材設定の理由

(1) 学級及び児童の実態

本校には、男子4名、女子1名による知的障害特別支援学級が設置されている。本学級の児童はどの児童も活発で、自分から教師や友達に話しかけることができている。また、会話でのやりとりは一方的な面が多いが、質問には答えることができている。「伝えたい」という気持ちが強く、たくさん話すことはできる。しかし、「文章を読むこと」、「書くこと」につまずいている児童が多い。特に特殊音節の部分でのつまずきが顕著であり、特殊音節を含んだ文を読めない児童や、読めるが書けない児童、話せるが文にして書くことができない児童がいる。また、特殊音節の中でも、促音、長音、拗音、拗長音、カタカナのどの音節につまずいているかは個人差が大きく、題材のアセスメントの結果が示す通りである。

(2) 題材について

小学校学習指導要領では、第1学年及び第2学年の話し言葉と書き言葉の目標に「長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ『』を理解して文や文章の中で使うこと。」とある。本題材では、特殊音節に対してのアプローチ教材として、国立特別支援教育総合研究所が開発した「多層指導モデルMIM」教材を活用している。この「多層指導モデルMIM」は通常の学級におけるLD等を含む特異な学習困難を示す児童への指導体系化として開発されたものであるが、本学級においても、LDという診断はないが同じようなつまずきを示す児童がおり、児童の実態把握と特別支援学級での授業に合わせて活用している。

「読みの流暢性」に課題を示す原因として三つの要素があるという研究結果を示している。

- ①「特殊音節のルール理解」…日本語の仮名文字は基本的に一文字一音節で対応する中、そのルールが適応されないのが特殊音節（「きっぷ」の小さい「っ」は実際に発音しない）であり、音と文字との対応が難しい児童にとってこうしたルールの違いは困難を示しやすくなる。
- ②「視覚性語彙」…読むことが苦手な児童は、文章を見てパッと語をかたまりとして捉える力が低く、一字一字読む逐次読みをする傾向がある。これにより、時間とエネルギーを要し読むことに疲労感を相当に感じやすい。
- ③「語彙力」…日常的に用いる語彙の拡大と使用を促すことで、語彙を増やし操る力を高める。そのことが「視覚性語彙」を助け、語彙の認識力と理解力を高める。「読みの流暢性」には以上の三つの要素が影響していると示されている。

本題材では、この三つの要素に関わる活動を通して、「読みの流暢性を高める」とともに、「聞く」、「書く」、「読む」、「話す」、動作化で「表現」したり、自分で確認できる「判断」したりする活動を通して言語感覚を育むことをねらいとしている。

(3) 指導・支援について

本題材においては、苦手意識のある読むこと、書くことが「できる!」「分かる!」という体験を通して「もっと読みたい!」「もっと書きたい!」という自信と意欲をもってほしいと考える。そのために児童の実態把握、発達検査、行動観察から児童一人一人のつまずきと認知特性の実態把握を行い、それに合った支援の手だてを行うことで児童が成功体験を積み重ねられるよう配慮していく。

挨拶は、休み時間から授業への気持ちの切り替えができるよう、全員が落ち着いて教師に注目してから行う。授業のはじめに授業全体の見通しをもたせ、一人一人の頑張りたい活動を決め焦点化する。ことば遊びでは、発表した言葉を黒板に書いて次の文字が分かるよう視覚化し、言った言葉が合っているか全員で確認して共有化する。「っ」のルール確認では、視覚化と動作化して見えない音を顕著化、体感させる。プリント学習では、児童の実態に合わせてヒントとなる挿絵をつけたり、文字をつけたり、分量を変えたりして参加の促進を促す。早く終わった児童には、早口ことばの練習課題を与え、時間を有効に活用し、授業への集中を促す。振り返りでは、一人一人が決めた頑張る活動が頑張れたかどうかを評価し、次時への意欲を高める。また児童の特性に合わせ、各活動において配慮する点を展開において記述する。これらの支援・配慮を通して本題材での「できる!」「分かる!」という体験から次の題材への意欲を高める。

3 題材の目標 省略

4 指導計画 省略

5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 教師の話や友達の発表を聞くことができる。
- ② ことばあそびで発表することができる。

(2) 児童の実態及び具体的な指導内容、個人目標

学年	名前	本題材に関する実態	具体的な指導内容	個人目標
2年	A	表記のルールは全体に比べ促音が突出して低く、生活の中で自然に身につくことが困難である。授業の中で動作化することで理解できる。ことばをまとまりとして捉える力は全体的に低く、文章の理解に課題がある。	○動作化を一緒に行う際には、本人のペースに合わせてゆっくり行うことのできる。 ○文字の横に黒丸●を付け、「っ」を書く部分だけ抜き出した支援ありのプリントを活用することで正答することができる。	○むしういことば「っ」で教師と一緒に動作化することができる。 ○支援ありのプリント学習で「っ」のつく言葉を書くことができる。
4年	C	表記のルールは他の特殊音節に比べて本題材である促音の得点が低く、苦手さを抱えている。ゆっくり動作化させることで理解することができる。ことばのまとまりを認識する力は全体的に低い。課題の量を少なくし、教師が読み上げる支援をすることで分かる。	○静かな環境を整え、本人のタイミングを待つことで動作化を行うことができる。 ○プリント学習で間違えている時には、教師が目の前で動作化して見せると正答することができる。	○むしういことば「っ」で、一人で動作化することができる。 ○支援なしのプリント学習で「っ」のつく言葉を書くことができる。
5年	E	表記のルールは全体的に高いが、書字になると間違えることが多い。自分で動作化して確認することで間違いに気付くことができる。ことばをまとまりとして捉える力は全体的に低い。声に出して見直しをすることで間違いに気付くことができる。	○むしういことば「っ」及びプリント学習で、間違いがないか自分で動作化して確認させることで正答することができる。	○むしういことば「っ」で動作化し、「っ」の入る場所が分かる。 ○支援なしのプリント学習で「っ」のつく言葉を多く書くことができる。
他2名 (B, D) 省略				

題材のアセスメント

5点満点	① 絵に合うことばさがし 主に文字と音節との対応、特殊音節を含んだ表記のルールの習得							② 三つのことばさがし 視覚的にことばのまとまりを素早く認識する力と語彙力						
	清音	濁音・半濁音	長音	促音(本時)	拗音	拗長音	カタカナ	清音	濁音・半濁音	長音	促音(本時)	拗音	拗長音	カタカナ
A	2	3	2	0	3	2	5	1	1	1	1	1	0	2
C	3	3	2	1	2	0	2	1	0	0	1	0	1	0
E	5	5	5	4	4	3	5	3	2	2	2	3	2	3
他2名 (B, D) 省略														

(3) 本時の展開

時間	学習内容 「読みの流暢性」 三要素に関わる活動	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示、発問 ※指導の手だて *評価の観点				備考
		A	C	E	B,D省略	
5分	1 はじめのあいさつをする。	<input type="checkbox"/> 声を合わせてあいさつをしましょう。 <input type="checkbox"/> 日直Aのあいさつで授業を始める。				
	2 授業の流れを見て、本時の学習内容を確認する。特に頑張る活動を決め、名前カードを貼りに行く。	<input type="checkbox"/> 今日の流れを説明します。 <input type="checkbox"/> 特にどの活動を頑張るか決めて活動の横に名前カードを貼りましょう。 ○授業の流れの掲示に注目し、授業の見通しをもつ。 ○授業の流れの活動の中で、どの活動を頑張るかを選ぶ。選べた児童から自分の名前カードを選んだ活動の隣に貼る。				
		※踵を付けるように注意を促す。 ※全児童が姿勢を正し、落ち着いて教師に視線を合わせてから挨拶を始めるようにする。 ※授業内容が分からない児童に対しては、具体物を使って説明する。 ※特に頑張る活動を選べない児童には、その児童の得意な活動を伝え、選択を促す。				

10分	<p>3 ことばあそび ・しりとり ・「 」のつくことばあつめ</p> <p>③語彙力</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/>みんなで協力してことばあそびをしましょう。記録更新を目指そう！ <input type="radio"/>順番を決め、しりとりあそびを行う。 <input type="radio"/>「 」に入る言葉を決め、「 」のつくことばあそびを行う。 </div> <p>◎緊張したり、思い付かなかったりして黙ってしまう。 ※前時の記録を想起させ、意欲を高める。 ※発表した言葉をホワイトボードに書き、次の言葉の始まりが視覚的に分かるよう配慮する。 ※発表した言葉をホワイトボードに書き、思い付かない児童は同じ言葉でも良いことにする。 ○友達の発表が合っているかをみんなで確認する。 ※教師は随時間違いを発表し、正解を見抜くことを忘れないよう配慮する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ※苦手なことに対する拒否感が強いので、成功できるよう事前に「 」に入る文字を教える。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ◎緊張感が強く発表できない。 ※教師に個別で伝え、代わりに教師が発表する。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ◎思い付いたことをすぐに言葉にしてしまう ※自分の順番以外は静かに聞くよう、事前に話しておく。 </td> </tr> </table>	※苦手なことに対する拒否感が強いので、成功できるよう事前に「 」に入る文字を教える。	◎緊張感が強く発表できない。 ※教師に個別で伝え、代わりに教師が発表する。	◎思い付いたことをすぐに言葉にしてしまう ※自分の順番以外は静かに聞くよう、事前に話しておく。	ホワイトボード
※苦手なことに対する拒否感が強いので、成功できるよう事前に「 」に入る文字を教える。	◎緊張感が強く発表できない。 ※教師に個別で伝え、代わりに教師が発表する。	◎思い付いたことをすぐに言葉にしてしまう ※自分の順番以外は静かに聞くよう、事前に話しておく。				
10分	<p>4 「っ」のルール確認</p> <p>①特殊音節「っ」のルール理解</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/>「っ」のルールを確認しよう。 <input type="radio"/>「ねこ」と「ねっこ」の絵カードから音に注目し、「っ」のつく言葉の動作化を確認する。 </div> <p>※毎時間行っているルーティーン活動で児童の集中がそれやすいため、間違いを提示したりして注意喚起する。 ※文字の横に●マグネットを置いて、読まない「っ」を視覚化し、動作化させることで見えない音を顕著化、体感させる。 ○縦書きのマス目のどこに「っ」が入るかを確認する。 ※掲示用のマス目に四つ番号を振り、どのマス目に入るとするかを分かりやすく考えさせる。</p>	●絵カード ●マグネット			
10分	<p>5 むしにくいことば「っ」</p> <p>①特殊音節「っ」のルール理解</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/>「っ」を入れて違う言葉にしよう。 <input type="radio"/>板書の文字を見てどこに小さい「っ」が入るかを考える。 <input type="radio"/>教師が文字の上、下から「っ」の●マグネットを動かすのを見て、「っ」が入るところで「ストップ！」と言う。 <input type="radio"/>正解したらみんなで動作化して確認する。 </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ◎言葉を発しながら動作をする事が難しい。 ※難しい場合には、動作のみで行わせる。 ※促音のルールを覚え、教師と一緒に動作化することができたか。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ◎緊張感を強く感じて黙ってしまう。 ※無理に行うように言葉かけしない。 ※促音のルールを覚え、一人で動作化して確認することができたか。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ※できていたら一人で発表させ、難易度を上げる。 ※一人で動作化し、間違えずに「っ」を入れることができたか。 </td> </tr> </table>	◎言葉を発しながら動作をする事が難しい。 ※難しい場合には、動作のみで行わせる。 ※促音のルールを覚え、教師と一緒に動作化することができたか。	◎緊張感を強く感じて黙ってしまう。 ※無理に行うように言葉かけしない。 ※促音のルールを覚え、一人で動作化して確認することができたか。	※できていたら一人で発表させ、難易度を上げる。 ※一人で動作化し、間違えずに「っ」を入れることができたか。	●絵カード ●マグネット
◎言葉を発しながら動作をする事が難しい。 ※難しい場合には、動作のみで行わせる。 ※促音のルールを覚え、教師と一緒に動作化することができたか。	◎緊張感を強く感じて黙ってしまう。 ※無理に行うように言葉かけしない。 ※促音のルールを覚え、一人で動作化して確認することができたか。	※できていたら一人で発表させ、難易度を上げる。 ※一人で動作化し、間違えずに「っ」を入れることができたか。				
10分	<p>6 プリント学習 ・ちょっとかわったかきとりしゅう ・三つのことばさがし</p> <p>①特殊音節「っ」のルール理解</p> <p>②視覚性語彙</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/>「っ」のつく言葉を書いてみよう・見分けよう <input type="radio"/>個別のプリント学習を行う。 </div> <p>※個の実態に応じてプリントの難易度や量を変える。 ※終わった後の課題を与え、待ち時間をなくす。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ※文字枠の横に音の記号を付けて間違えないよう支援する。 *プリント学習で「っ」のつく言葉を書くことができたか。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ※支援無しプリントを配布し、難しいようなら文字枠の横に音の記号ありのプリントを配布し、難易度の調整を行う。 *プリント学習で「っ」のつく言葉を支援なしで書くことができたか。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ※支援無しプリントを配布し、難しい様子であれば、自分で動作化して確認するよう言葉かけする。 *プリント学習「っ」のつく言葉をたくさん書くことができたか。 </td> </tr> </table>	※文字枠の横に音の記号を付けて間違えないよう支援する。 *プリント学習で「っ」のつく言葉を書くことができたか。	※支援無しプリントを配布し、難しいようなら文字枠の横に音の記号ありのプリントを配布し、難易度の調整を行う。 *プリント学習で「っ」のつく言葉を支援なしで書くことができたか。	※支援無しプリントを配布し、難しい様子であれば、自分で動作化して確認するよう言葉かけする。 *プリント学習「っ」のつく言葉をたくさん書くことができたか。	個別のプリント
※文字枠の横に音の記号を付けて間違えないよう支援する。 *プリント学習で「っ」のつく言葉を書くことができたか。	※支援無しプリントを配布し、難しいようなら文字枠の横に音の記号ありのプリントを配布し、難易度の調整を行う。 *プリント学習で「っ」のつく言葉を支援なしで書くことができたか。	※支援無しプリントを配布し、難しい様子であれば、自分で動作化して確認するよう言葉かけする。 *プリント学習「っ」のつく言葉をたくさん書くことができたか。				
5分	<p>7 早口ことばをする。 「せっけんであらってまっしろかっぱくん」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/>早口ことばを言ってみよう。 <input type="radio"/>二つの早口ことば絵カードから自分のやりたい方を選び練習する。 <input type="radio"/>一人一人練習した早口ことばを発表する。 <input type="radio"/>友達の発表を聞き、称賛する。 </div> <p>※難しいと感じている児童にはゆっくり丁寧に言えるよう言葉かけする。 ※児童の実態に応じて、順番等を考慮する。</p>	はやくちことば カード			

	①特殊音節「っ」のルール理解	※早口ことばは苦手なので、ゆっくり丁寧に言うように言葉かけする。 ※順番を始めの方にして言いやすいよう配慮する。	※難しいようであれば、ゆっくり丁寧に言うように言葉かけする。 ※順番を始めの方にして言いやすいよう配慮する。	※早口ことばは得意なので、順番を最後の方にする。 ※簡単にできていたら、動作化しながら行わせ、難易度を上げる。	
5分	8 振り返りをする。	<input type="checkbox"/> 振り返りをしましょう。 <input type="radio"/> 授業のはじめに自分の頑張りたいことができたかを振り返る。 <input type="radio"/> 友達の振り返りを静かに聞き、称賛する。			ミニホワイトボード
	9 おわりのあいさつをする。	<input type="checkbox"/> 声を合わせてあいさつをしましょう。 <input type="radio"/> 日直Aのあいさつで授業を終わる。			
		※振り返りが難しい児童には、黒板の板書を見せながら学習過程を伝える。 ※一人一人を評価し、認め、次時の学習への意欲付けを行う。			
		※全児童が姿勢を正し、落ち着いて教師に視線を合わせてから挨拶を始めるようにする。 ※集中が切れ始めている児童にも、あいさつは正しく行うよう切り替えを徹底する。			

6 評価

(1) 共通目標に係る評価

- ① 授業全体で教師の話や友達の発表を静かに聞くことができたか。
- ② ことばあそびで発表することができたか。

自己評価	授業のはじめに決めた「特に頑張る活動」について授業の終わりに発表させ、自己評価させていく。
A	<input type="radio"/> むしにくいことば「っ」の場面で教師と一緒に動作化することができたか。 <input type="radio"/> プリント学習の場面で支援ありのプリントで「っ」のつく言葉を書くことができたか。
C	<input type="radio"/> むしにくいことば「っ」の場面で一人で動作化することができたか。 <input type="radio"/> プリント学習の場面で支援なしのプリントで「っ」のつく言葉を書くことができたか。
E	<input type="radio"/> むしにくいことば「っ」の場面で間違えずに動作化し、「っ」の入る場所がわかったか。 <input type="radio"/> プリント学習の場面で支援なしのプリントで「っ」のつく言葉を多く書くことができたか。
他2名 (B, D) 省略	

7 教室内配置図 省略

(8) 指導事例【算数】

〇〇学級 教科別の指導「算数」学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)

第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

場 所 〇〇〇〇

指導者 教諭 〇〇 〇〇 (T1)

1 題材名 「たすのかな ひくのかな」 「個別の課題学習」

2 題材設定の理由

(1) 学級及び児童の実態

本校の特別支援学級は、男子4名、女子1名による知的障害特別支援学級が設置されている。本学級の児童はどの児童も活発で素直であるが、話し言葉の獲得が課題の児童や日常生活の簡単な会話の成立する児童までおり、学年や障害の状況が様々で、個人差が大きい学級である。数に関する実態をみると、単純な条件による弁別と集合づくりは全員できている。時計の読みに課題がある児童、量の概念に課題がある児童、くり上がりのたし算で課題のある児童、かけ算九九を忘れてしまう児童、小数の学習を進めている児童達である。全員に共通した課題は文章問題である。計算式から計算することはできるが、文章を読んでイメージすることに困難さがある児童、立式で間違えてしまう児童がいる。

(2) 題材について

小学校学習指導要領では、1学年の内容に「加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。」とある。本題材は共通課題である文章問題を授業の前半に一斉指導で行い、後半に個別の課題を設定して学習するものである。文章問題の内容は簡単な加法・減法の計算であるが、文章を読み解くことに課題があるため、題材のはじめはイメージ図をつけた教材を活用している。定着が進むにつれ自分でイメージ図を描いたり、具体物を操作したり、体を使って表現し合ったりすることで、より児童の主体的な思考や表現が活発になるものと考えられる。また、算数で学習したことを日常生活に活かせるよう、問題文の内容は児童が生活する上で起きそうな身近な出来事を題材にした。

個別の課題では個々の実態差が大きいため、それぞれ異なった学習内容と課題を設定している。ICT機器や手作りプリント、具体物等、一人一人の学びやすさに合った教材を選定することでより高い学習効果が生まれると考える。

(3) 指導・支援について

指導に当たっては、本題材を通して数量や計算の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、学んだことを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、表現力を育むとともに、算数で学んだことを他の学習や生活に活用できる力を育みたい。そのために、児童が「分かる」、「できる」と自信をもって取り組めるよう個々の実態に応じた支援を行う。文章読解では、分かっていることに青線、聞かれていることには赤線のラインを引く指導を行うことで、立式への支援とする。また、問題文を拡大印刷して黒板に貼り、児童が黒板を見ることで常に確認しながら進めることができる支援を行う。個別の課題では、具体物、好きなキャラクターを使った教材、課題の量の調整等、個々の実態に応じた支援教材や、落ち着かない児童にはパーテーションを使う等の環境設定を行うことで、児童が主体的に学ぶことができる支援を行う。

3 題材の目標 省略

4 指導計画 省略

5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 文章の内容を理解しようと思えることができる。
- ② 個々に設定された時間の中で集中して学習に向かうことができる。

(2) 児童の実態

学年	名前	本題材に関する実態	個人目標	支援の手だて
2年	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を読むことはできるが、内容を理解することに困難さを示している。 ・時計の短針は読めるが長針を読むことに課題があり、分表示を時計の枠に貼ることで読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ図を手掛かりにして、文章の内容を理解することができる。 ・分表示を時計の枠に記載した時計プリントで、時計を読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章読解では、手順表とイメージ図を用いることで文章の内容を理解することができる。 ・個別の課題では、分表示を時計の枠に貼った時計教材を使うことで時計を読むことができる。特に短針が次の時間に近づく～時50分あたりが間違えやすいので、長針を0分に戻して確認して指導を行う。

4年	C	<ul style="list-style-type: none"> 文章読解は読むことができ、内容も理解している。しかし、短期記憶に課題があるため立式する時に「たす数とたされる数」、「ひく数とひかれる数」を前後逆にしまったり、数字を間違えたりすることがある。 個別の課題はくり上がりのあるたし算の筆算を学習している。くり上がった数字をどこのマスにメモすればよいか分からなくなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題の内容を理解し、正しく立式することができる。 くり上がりのあるたし算の筆算をマス目支援ありのプリントで行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章読解は分かっていること、聞かれていることにアンダーラインを引くことで正しく立式することができる。 個別の課題はくり上がる数をメモするマスを書いておくことで間違えずに行うことができる。
5年	D	<ul style="list-style-type: none"> 文章読解は読むことはできるが、多動傾向があるため読み飛ばしや読み直し確認ができない。そのため、正しく内容を理解することが難しい。 個別の課題はかけ算九九の暗唱を学習している。一度覚えても時間が経つと忘れてしまうため、繰り返し学習する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を丁寧に読んで内容を理解し、正しく立式することができる。 8の段を覚えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題は落ち着いて読むこと、読み直し確認をさせることで聞かれている内容を理解することができる。 個別の課題はかけ算九九の暗記に飽きてしまう。タブレット端末のかけ算アプリを活用することで集中して取り組むことができる。
他2名 (B, E) 省略				

(3) 展開

時間	学習内容	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示・発問等 ※指導の手だて *評価の観点				備考
		A	C	D	B,E省略	
5分	1 あいさつ	<input type="checkbox"/> みなさん、先生に注目して指先を伸ばしましょう。 <input type="checkbox"/> 日直Aのあいさつで授業を始める。				
	2 今日の活動内容を知る	<input type="checkbox"/> 今日の数算の流れを説明します。 <input type="checkbox"/> 授業の流れの掲示に注目し、授業の見通しをもつ。				
10分	3 前時の振り返りを行う	<input type="checkbox"/> 前の時間の学習を思い出してみよう。 <input type="checkbox"/> 前回の文章問題の拡大掲示を見て、学習を振り返る。				拡大掲示 手順表
		<input type="checkbox"/> 覚えていないため、教師の質問に答えられない。 ※手順表を指さしてヒントを与える。	<input type="checkbox"/> 分かっているが、手を挙げられない。 ※個別に教師へ伝え、教師が代わりに発表する。	<input type="checkbox"/> 待つことができずに発言してしまう。 ※事前に手を挙げてから発表することを約束しておく。		
10分	4 文章読解を行う	<input type="checkbox"/> 問題を読んでみましょう。 <input type="checkbox"/> 日常生活の中で似たような場面を思い出す。				手順表 プリント 拡大掲示
	<input type="checkbox"/> 発音がはっきりしない。 ※本人の自尊心を傷つけないよう配慮しながら、口を大きく開けるよう言葉かけする。	<input type="checkbox"/> 緊張して声を出すことができない。 ※無理に読ませるのではなく、口の形だけでも動かせたら評価する。	<input type="checkbox"/> 声を合わせずに呼んでしまう。 ※読む箇所を教師が指し示す。			
		<input type="checkbox"/> 手順1から順番に行ってみよう。 <input type="checkbox"/> 手順表を見ながら作業を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 分かっていることに青でアンダーラインをひく。 聞かれていることに赤でアンダーラインをひく。 たすのか、ひくのかを考える。 式を書く。 計算して答えを書く。 				

7 作業学習の指導計画

(1) 意義

作業学習は、「作業活動を学習活動の中心にしながら、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するもの」である。

作業学習の指導は、小学校段階においても心掛けることが必要である。さらに、中学校では、進路指導と関連付けて取り組むことが大切である。職業・家庭科の内容だけではなく、各教科の広範囲の内容が扱われる。将来の職業生活や社会自立につながるものとして、非常に重要な学習である。例えば、技術・家庭科や美術科などの内容を取り入れながら、園芸栽培や紙工芸、木工芸といった作業活動を、生徒の実態に応じて展開することが考えられる。

(2) 主な作業種と指導上の留意点

ア 主な作業種

- ◇ 農耕 野菜作り、穀物作り、キノコ作り
- ◇ 園芸 花の栽培、植木作り、観葉植物、たい肥作り、ドライフラワーなど
- ◇ 木工 本立て、鉢カバー、花台、玩具、ガーデニングフェンスなど
- ◇ 窯業 花瓶、皿、箸置き、コーヒーカップなど
- ◇ 紙工 和紙作り、はがき、便せん作り、しおりなど
- ◇ 縫製 袋物、エプロン、テーブルクロス、雑巾など
- ◇ 手芸 刺しゅう、刺し子、編み物など
- ◇ 印刷 カレンダー、はがき、名刺等の印刷
- ◇ 染色 草木染め、藍染め、絞り染めの技法による
- ◇ 調理 製菓作り、日常食作り
- ◇ リサイクル 空き缶、空き瓶、ペットボトル
- ◇ 外注作業 手作業、組み立て作業

イ 作業種選定の留意点

- ・ 作業学習を実施するための施設、設備、予算等については学校内の共通理解を図ること。
- ・ 年間を通じて継続的に行う作業と季節に応じて行う作業を組み合わせるなどの工夫をすること。
- ・ 作業種を複数設定した場合、学習内容が細切れになりやすいことも考えられるので留意すること。
- ・ 指導者の人数と作業種および作業種数との関係等を配慮すること。
- ・ 作業種を決定するには作業で扱う素材も考慮すること。

ウ 指導上の留意点

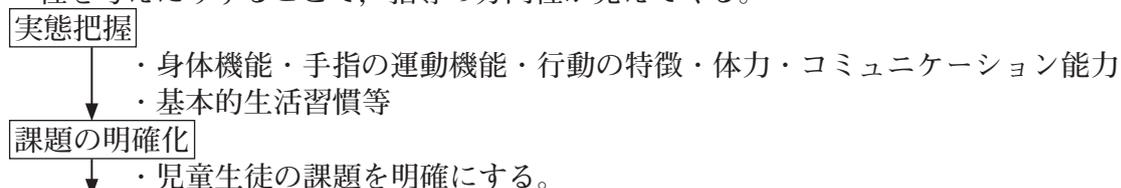
- ・ 生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の達成感が味わえること。
- ・ 地域性に立脚した特色をもつとともに、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定すること。
- ・ 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- ・ 知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること。
- ・ 作業内容や作業場所が安全で、衛生的、健康的であり、作業種や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること。
- ・ 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすいものであること。

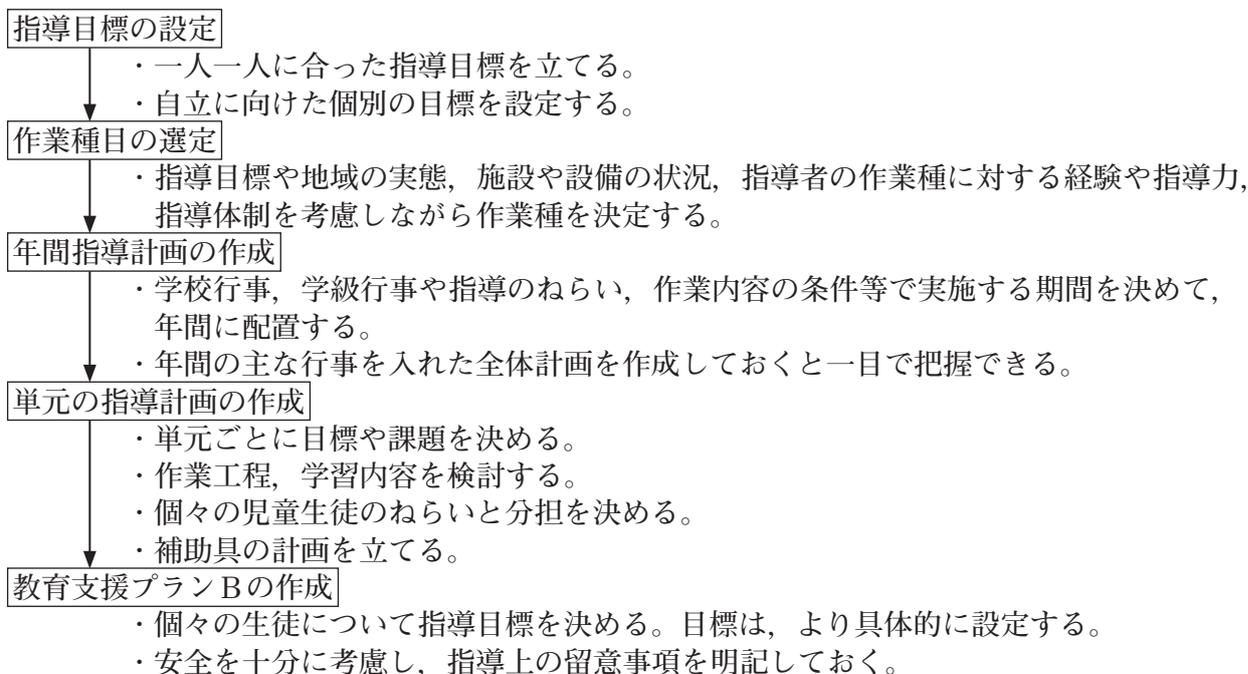
(3) 指導計画の作成

ア 指導計画作成の手順

作業種を選定したら、指導計画を作成する。

学習環境を整えたり、「工夫すればこのようなことができるのではないか」といった可能性を考えたりすることで、指導の方向性が見えてくる。





イ 指導計画作成の留意事項

以下の点について考慮して，指導目標の達成を図ることが大切である。

(ア) 留意事項

- ・ 学校行事との関連を図る
作業学習の製品をバザー等で販売するなど学校行事との関連を大切にする。自ら製作した品を販売することは，児童生徒の学習の動機付けに大変有効であるとともに次の学習への意欲につなげることができる。
児童生徒の興味・関心の高い学校行事と組み合わせると集中力を付ける点からも有効である。反面，一つの作業に取り組む期間が短くなり効果が薄れることもある。学校行事によって作業学習にメリハリをつけるようにするとよい。
- ・ 各教科等との関連を図る
作業学習の指導は，単に職業・家庭科の内容だけでなく，各教科等の広範囲の内容が扱われる。関連する国語，数学，日常生活の指導等，必要なものを選択して関連付ける。
- ・ 指導計画の改善
指導計画は，計画・実践・評価・改善を繰り返すことでよりよいものになっていく。適宜，評価・改善を行い，より効果的な指導を行う。

(イ) 授業時数

作業学習の年間授業数は各学校が児童生徒の実態に合わせて適切に定める。中学校の知的障害特別支援学級においては，生徒の実態によって多少の違いは見られるが，週当たり4単位時間前後を設定していることが多い。
年間の配分を見ると，作業種目の特性・地域の状況，学校・学級の行事等により，時期によって異なることもある。例えば印刷作業のように年末・年度末には需要が多く，作業時間も多く必要とする作業種もある。しかし，他の教科等の時数と調整し，年間を通じて実施することが大切である。

作業学習は，2単位時間以上連続して設定することが多い。これは，準備や後片付けも含め，長時間継続して作業を経験することをねらいとするためである。休憩時間も作業の内容等に応じて取る工夫が必要である。

(ウ) 作業学習における集団編成

作業学習の集団編成は，児童生徒の実態，作業種，指導に当たる教師の人数等により異なる。集団編成に当たっては，作業種ごとに作業の工程分析を行うなどして，児童生徒の興味・関心を考慮しながら児童生徒の実態や適性に合うように編成する。

近隣の学校と合同で作業学習を実施する場合もある。その効果としては，少人数の学級では経験できない作業が可能になったり，適切な集団編成ができたりするなどがある。ただし，実施に当たっては，移動等を含め，安全に十分な配慮をするとともに，綿密な計画の下に教育課程に位置付けて実施する。

(エ) 学習意欲を高める工夫

作業学習では、児童生徒が主体的に取り組むことが重要である。そのためには、目的意識や課題意識をもたせることが大切である。そのために以下の工夫をする。

- ・ 生徒から作業の全工程が見渡せるように場を設定することで、自分の役割についての理解がしやすくなる。
- ・ 補助具等を活用することによって確実に作業が遂行できるように支援する。
- ・ 生徒が成就感を得られるように、実態に応じた作業活動を用意する。
- ・ 一日の作業量を明確にすることも作業意欲を高めることにつながる。(出来高表の利用など)

(オ) 作業学習を通して地域との交流を図る

P T Aバザーや校内販売によって、作業学習で作り上げられた製品が保護者や地域の方々に利用される。委託作業の場合は、工場などで使用されることになる。そのため、可能な限り品質の高い製品を作らなければならない。

地域の人々は、バザーや販売会を楽しみにしていることが多い。このような交流が特別支援教育や障害のある生徒に対する理解を深めることに役立っている。また、生徒自身が商品としての製品を作ることの難しさを知ったり、対人関係について学んだりすることにもつながっている。

(4) 年間指導計画の例 ※裁縫・調理や木工は、技術・家庭の授業の中で実施している場合の例

月	年間行事計画	作業学習の年間指導計画	指導のねらい
4	入学式 始業式 新入生歓迎会	スキルスクリーン 畑の整備	・ 新入生を迎えて新しい生活が始まり、協力して一つの作品を作ることで連帯感を高める。数を数える、丁寧な作業をする、報告する、などの作業工程がきちんと行えるか確認する。
5	体力テスト 体育祭・校外学習	さつまいもの植え じゃがいもの収穫	・ 作物を育て、収穫して食する喜びを味わう。
6	期末テスト	はちまきのアイロンがけ バザー販売品の製作	・ 体育祭で使用したはちまきのアイロンがけをすることで、奉仕的精神を養う。 ・ バザー販売の品物を協力して製作する。
7	学総大会 終業式	はちまきのアイロンがけ 10万羽の鶴のひも通し バザー販売品の製作	・ 「人権を考えるつどい」で製作している10万羽の鶴のひも通しを通じて、人権を考える機会をもつとともに、指先の巧緻性を高める。
8	クリーン作戦	クリーン作戦参加	・ 地域社会の人々とともにボランティア活動を行う。
9	始業式 社会体験活動 修学旅行 合同宿泊学習	畑の整備 紙すき ブロッコリー植え バザー販売品の製作	・ 紙すきによる様々な工程を通して、どの道具をどのように使うか、配合する水の量はどれくらいか、など思考と実践を繰り返していく。 ・ バザー販売の品物を協力して製作する。
10	新人大会 合唱祭	紙すき さつまいもの収穫 バザー販売品の製作	・ さつまいもの収穫をして、小学生との交流授業への意欲を高める。 ・ バザー販売の品物を協力して製作する。
11	バザー 小中交流授業 期末テスト	バザーの準備 販売活動	・ バザーでの販売活動を通して、校内・地域の人々と積極的に関わろうとする。また、自分達で製作したものを買ってもらったり、使ってもらったりすることから喜びを味わう。
12	作品展 終業式	ブロッコリーの収穫 畑の整備	・ 作物を育て、収穫して食する喜びを味わう。
1	始業式	畑の整備	・ 土を入れ替えたりよく耕したりすることで、よりよく作物が育つことを知る。
2	東京班別学習 学習発表会 お別れ遠足	じゃがいもの植え スキルスクリーン	・ 卒業を控えた3年生とともに一つの作品を仕上げ、卒業を祝う。
3	期末テスト 卒業式・修了式	スキルスクリーン	・ 1学期に行った時よりもよりスムーズにできたことを知り、各自の成長を感じる。

※ 「スキルスクリーン」については指導案を参照。

(5) 指導事例

〇〇学級「作業学習」学習指導案 (略案)

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)
 第〇校時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指 導 者 教諭 〇〇 〇〇 (T1)
 教諭 〇〇 〇〇 (T2)
 教諭 〇〇 〇〇 (T3)

- 1 単元名 「スキルスクリーンに挑戦しよう」
 2 単元設定の理由

(1) 学級及び生徒の実態

本学級の生徒は6名(1年男子3名, 2年女子1名, 3年2名:男子1名, 女子1名)で構成されている。主障害は知的障害であり, てんかん発作がある生徒や脳性麻痺による下肢の体幹機能障害を伴った生徒もいる。在籍している生徒のうち3名(1年男子2名, 3年女子1名)は, 中学校から教育形態の変更により本学級に入学してきた。特に今年度入学してきた2名については, 通常の学級で自己肯定感を十分に育むことができなかったことから, 学習場面において「分からないこと」や「できないこと」に対する不安感が強くパニックになることがある。

学習面は, 国語, 数学, 外国語については, 現学年の理解が難しいため, 下学年の内容を中心に行っている。また, 数学については四則計算が十分に定着していない生徒もいるため, 机上の学習だけではなく, 生活単元学習など実体験に基づいた指導を行っていく必要がある。そこで, 学習ではそれぞれ個々に応じた学習を行っていくが, 必要に応じて各教科等の指導を行っていく。

一方, 学校全体の雰囲気は比較的落ち着いており, 多くの特別支援学級の生徒は比較的穏やかであるため, 交流学級での学習も可能な限り行っている状況である。

(2) 単元について

本校では, 年度の始めには生徒の実態把握のために, そして年度の終わりには一年間共に過ごした仲間と一つの作品を作り上げる喜びを味わうために, 年に2回, スキルスクリーンを実施している。スキルスクリーンは様々な作業工程があり, 数唱や手指の巧緻性, さらに教師への報告状況などの確認をしたり, 色覚に困難さがないか発見の糸口を見付けたりするのに効果的である。日常的に作業が雑になってしまう生徒も, 「みんなで一つのものを作り上げる」ということを意識し, 丁寧に取り組もうとする姿勢が見られることが多い。ふだんは集中力に欠ける生徒が, 失敗して何度もやり直しながら1本やりきった時に達成感を感じられる単元となっている。

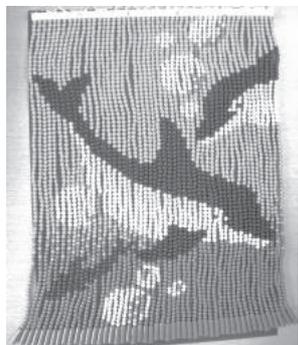
(3) 指導・支援について

全員が確実に完成させるべき割当本数を決め, それ以外のものは生徒の実態に応じて取り組むようにさせる。作品としてきれいに仕上がらなければならないので, 集中して間違えずに行う必要がある。集中力に欠けてしまう生徒には, 気持ちを切らさず取り組めるように, ひもを通す個数や一定の時間などの範囲を決めることで, できたら称賛するようにする。1本できたら生徒と教師が色や数を一緒に確認することで, 学級全体で作り上げる実感を味わわせたいと思っている。

3 単元の目標 略

4 指導計画 略

『スキルスクリーン』
 50列の糸にそれぞれ79個のビーズを通し, 一つの作品を作ります。
 色の弁別, 数唱, 確認・報告など, 様々な作業工程や学習内容があります。



5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 集中して作業に取り組むことができる。
 ② 1列完成したら, 教師に報告して一緒に確認することができる。

(2) 生徒の実態 ~A・Bの他は省略~

NO	学年	名前	本単元に関する実態
1	1年男	A	・細かい作業をすることが好きだが, 長く集中するのは苦手で時間を区切れれば取り組もうと努力することができる。 ・数を数えながらの作業には困難さがあるが, 紙にチェックをしながらであればできる。
2	1年男	B	・きれいなものを作ることが好きである。上手くできないと情緒が不安定になりがちだが, 作業を細かく区切りながら取り組むことで対応できる。

(3) 個別の指導内容及び目標 ~A・Bの他は省略~

NO	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1	1年男	A	・10分間は集中できるよう, タイムタイマーを渡して作業を行う。 ・作成方法の用紙を拡大して, できたところをチェックしながら進める。	・10分間集中して作業することができる。 ・できるところまで正確にチェックすることができる。
2	1年男	B	・作成方法の用紙を拡大して10段ずつ印をつけて区切り, 10段終えるごとに教師と一緒に確認する。	・10段ずつ印を付けることができる。 ・10段終えるごとに教師に報告して確認することができる。

(4) 展開

時間	学習内容	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発問等 ※指導の手だて *評価の観点	資料等																		
5分	1 はじめのあいさつをする。	□スキルスクリーンに挑戦します。前回までの続きをします。それぞれで使うものを準備してください。																			
40分	2 手順の確認をする。 ①ビーズの数を数えて持ってくる。 ②作業工程のプリントを見てビーズを通す。 ③できたら教師に報告して一緒に確かめる。 ④○→番号を確認して棒にとじる。 ×→もう一度やり直す。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">□準備はできましたか。手順の確認をします。一緒に思い出して言ってください。(①～④まで) ※生徒に確認しながら板書する。見て分かるようにしておく。 *作業工程を覚えていたか。</td> </tr> <tr> <td>◎自分で覚えていることを言おうとする。</td> <td>*自分から言おうとしているか。</td> <td>◎ロ々に発表する。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">□それでは作業を始めましょう。</td> </tr> <tr> <td>※タイムタイマーを渡してセットする。(10分間) ◎作業を始める。 *10分間集中して作業することができる。 *できたところまで正確にチェックすることができる。 ◎できたところまで紙にチェックする。</td> <td>◎自分で10段ずつ印を付け始める。 *10段ずつ印を付けることができる。 *10段終えるごとに教師に報告して確認することができる。 ◎10段終えるごとに教師に報告して確認する。</td> <td>◎各自作業を始める。 ※作業中は、個々の状況に応じて支援する。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">□①～④の作業を行う。 ※③までできた生徒と一緒に確認作業をする。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	他	□準備はできましたか。手順の確認をします。一緒に思い出して言ってください。(①～④まで) ※生徒に確認しながら板書する。見て分かるようにしておく。 *作業工程を覚えていたか。			◎自分で覚えていることを言おうとする。	*自分から言おうとしているか。	◎ロ々に発表する。	□それでは作業を始めましょう。			※タイムタイマーを渡してセットする。(10分間) ◎作業を始める。 *10分間集中して作業することができる。 *できたところまで正確にチェックすることができる。 ◎できたところまで紙にチェックする。	◎自分で10段ずつ印を付け始める。 *10段ずつ印を付けることができる。 *10段終えるごとに教師に報告して確認することができる。 ◎10段終えるごとに教師に報告して確認する。	◎各自作業を始める。 ※作業中は、個々の状況に応じて支援する。	□①～④の作業を行う。 ※③までできた生徒と一緒に確認作業をする。			ビーズの入れ物 ひも 作成方法の用紙 タイムタイマー
	A	B	他																		
□準備はできましたか。手順の確認をします。一緒に思い出して言ってください。(①～④まで) ※生徒に確認しながら板書する。見て分かるようにしておく。 *作業工程を覚えていたか。																					
◎自分で覚えていることを言おうとする。	*自分から言おうとしているか。	◎ロ々に発表する。																			
□それでは作業を始めましょう。																					
※タイムタイマーを渡してセットする。(10分間) ◎作業を始める。 *10分間集中して作業することができる。 *できたところまで正確にチェックすることができる。 ◎できたところまで紙にチェックする。	◎自分で10段ずつ印を付け始める。 *10段ずつ印を付けることができる。 *10段終えるごとに教師に報告して確認することができる。 ◎10段終えるごとに教師に報告して確認する。	◎各自作業を始める。 ※作業中は、個々の状況に応じて支援する。																			
□①～④の作業を行う。 ※③までできた生徒と一緒に確認作業をする。																					
5分	4 今日の学習の振り返りをする。 5 片付けをする。	ワークシートに、自己評価をしましょう。 ※自己評価の難しい生徒には、本時の学習過程を振り返らせる。																			

6 本時の評価

(1) 共通目標に係る評価

- ① 集中して作業に取り組むことができたか。
- ② 1列完成したら、教師に報告して一緒に確認することができたか。

(2) 個人目標に係る評価 ～A・Bの他は省略～

NO	学年	名前	評価
1	1年男	A	・10分間集中して作業することができたか。 ・できたところまで正確にチェックすることができたか。
2	1年男	B	・10段ずつ印を付けることができたか。 ・10段終えるごとに教師に報告して確認することができたか。

7 教室環境図 省略

8 産業現場等における実習

特別支援学校中学部学習指導要領の職業・家庭科に示す「産業現場等における実習」を他の教科と合わせて実施する場合は、作業学習として位置付けられる。例えば、園芸栽培や紙工芸、木工芸に取り組む「産業現場等における実習」の場合、技術・家庭科や美術科、理科などの内容を取り入れて実施する。作業学習は前項でも示した通り、単に職業・家庭科の内容だけではなく、各教科等の広範囲の内容が扱われる。生徒の実態や学校と地域の現状、また、社会の動向などを踏まえた上で検討、設定し、「産業現場等における実習」へと展開していくことが望ましい。(「産業現場等における実習」は一般に「現場実習」や「職場実習」とも呼ばれている。)

また通常の学級の学年の仲間とともに、総合的な学習の時間と関連をもたせながら、社会体験事業の中で実施する例も見られる。その場合は、「産業現場等における実習」をどこに位置付けるかは、生徒の実態や本人、保護者の願いを考慮しつつ、ねらいを達成できるのはどの形態かを検討することが大切である。

実施の際には、現実的な条件下で生徒の職業適性等を明らかにし、職業生活または社会生活への適応性を養うことを意図するとともに、各教科等の広範な内容が包含されるよう留意する必要がある。また、生徒自身が働くことに関心をもち、働くことのよさに気付くなど、将来の職業生

活を見据えて、基盤となる力を伸長できるように実施していくことに留意したい。

事後に事業所や作業所、本人へ評価やアンケートを実施して、本人の自己理解、保護者の理解を深めることも有効である。中学校特別支援学級を卒業後、特別支援学校高等部に進学する生徒は多いが、生徒自身が上記の点を学び習得していくことは、学年や年齢を重ねるたび、より重要になっていく。

生徒の実態に応じ、実習期間を2～3日間とする学校もあれば、一週間前後かそれ以上の日数をかけて設定する学校もあり、それぞれで異なる。実施に当たっては、保護者・事業所・関係機関等と連携を図り、実習期間中の巡回指導を行うなど、安全についての十分な配慮のもとに計画を立てて打ち合わせし、評価・改善することが大切である。

(1) 産業現場等における実習の指導計画

ア ねらい

職場での仕事や生活を通して、職業生活の実際を経験し、働くことの大切さを感じたり、職場のきまり等を知ったりするなど、実際に通用する働く力を身に付けることによって、将来の進路選択に役立つ。

イ 産業現場等における実習の流れ (例)

- (ア) 教育課程への位置付け
- (イ) 実施時期や期間等を決定
- (ウ) 本人・保護者との同意・連携
- (エ) 実習先の選定と連携
- (オ) 関係機関との連携
- (カ) 事前指導 事前訪問・挨拶・面接
- (キ) 実習中の指導 (巡回指導)
- (ク) 事後指導
- (ケ) 学校の指導体制
- (コ) 書類等の手続きについて・実習参加願い (家庭→学校)



- ・実習依頼書 (学校→事業所)
- ・実習承諾書 (事業所→学校)
- ・実習承認願い・校外行事届け (学校→市町村教育委員会)
- ・欠食届け (学校→給食センター)

ウ 参考資料

げんぱじっしゅう 現場実習ノート	
じっしゅうきかん 実習先	じっしゅうきかん 事業所名 じゅうしょ 住所 だんわばんごう 電話番号
じっしゅうきかん 実習期間	月 日 () ~ 月 日 ()
じっしゅうじかん 実習時間	(:) ~ (:)
がっこうなまえ 学校名・ がくねん 学年	年
じっしゅうせい 実習生	せいめい 氏名 じゅうしょ 住所 せいのけんごう 緊急連絡先
〇〇市立〇〇中学校 TEL: 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	

1 じっしゅうのめく 実習の目標 ◎全体目標 ① _____ ② _____ ③ _____ ◎自分の目標 ① _____ ② _____ ③ _____
2 じっしゅうのりよう 作業内容 _____ _____
3 じゅうぶ 服装 ・〇〇で出勤する。 ・作業中は〇〇〇を着る。

9 交流及び共同学習

(1) 交流及び共同学習のねらいと意義

特別支援学校や特別支援学級の児童生徒と、通常の学級の児童生徒や地域社会の人々が、学校教育の一環として活動を共にすることを交流及び共同学習と呼んでいる。

交流及び共同学習は、障害のある児童生徒の経験を広げ、社会性を養い、好ましい人間関係を育てる上で重要な役割を担っている。一方、障害のない児童生徒や地域の人々にとっても意義深いものである。例えば、障害のある児童生徒に対する違和感や偏見がなくなったり、思いやりの心が育ったりと、人間の多面的な価値に気付く機会となる。

交流及び共同学習の推進は、障害のある児童生徒の自立と社会参加を促進するとともに、社会を構成する様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会となり、ひいては共生社会の形成に役立つと言える。

我が国は、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指しており、小・中学校等や特別支援学校の学習指導要領等においては、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が活動を共にする機会を積極的に設けるよう示されている。特別支援学級が設置されている小・中学校においては、通常の学級の児童生徒との交流をもちやすい環境にあるため、その特性を生かし、積極的に交流を深めていくことが望ましい。

(2) 指導計画作成上の留意点

ア 学校教育の全体計画に位置付けた年間指導計画を作成し、計画的・継続的に推進する。

通常の学級の児童生徒と特別支援学級の児童生徒が互いを理解し合って人間関係を育てていくためには、時間がかかるものであり、日常的、継続的に交流の機会を設定する必要がある。学校行事だけの一時的な参加にとどまらず、日常的に交流の機会を設定することが必要である。相互の児童生徒の理解が進む中で、より発展的な交流の機会が生まれることもある。さらに、児童生徒の直接的な関わりだけでなく、学校の実態や、学年に応じて障害理解教育における授業等を年間指導計画の中に位置付けるなど、交流及び共同学習がより効果的に行われるよう工夫が求められる。

イ 児童生徒の実態や教育目標を踏まえ、両者にどのような教育効果があるのかを明らかにしておく。

交流及び共同学習は、通常の学級における指導目標を達成するものではなく、対象となる児童の個人目標を達成することが前提である。参加に当たっては、安易に活動内容だけで判断するのではなく、児童生徒の実態と目標に沿って決定すること。また、児童生徒の過度な負担とならないように配慮すること。

ウ 互いの学級の教育の実際、障害のある児童生徒への接し方等について共通理解を図っておく。

特別支援学級の児童生徒への一層の「理解を促すために、保護者の理解のもと、特別支援学級に在籍する児童生徒の実態、教育課程の違いや児童生徒の実態などについて、交流学級の担任との打合せをはじめ、学級通信や職員会議などで説明する機会を設け、全教職員の共通理解を図っていくことが必要である。

また、特別支援学級と通常の学級の児童生徒のよりよい関係性の構築のためには、まず教職員間の情報共有が大前提となる。

エ 交流や共同学習の形態や内容、回数、時間、場所、役割分担等について十分検討する。

交流及び共同学習の形態や内容、回数、時間、場所、役割分担等については、児童生徒の実態と指導目標に沿って事前に十分検討を行うこと。また、計画の段階で、交流学習における児童生徒の様子を想定することが難しい場合や、児童生徒自身の不安が強い場合には、徐々に回数を増やしていくなど柔軟に対応する。また、実際に交流学習に参加した結果、活動内容が児童生徒の実態にそぐわないと判断した場合も柔軟に対応する。

オ 体験的な活動を取り入れるなど児童生徒が参加しやすいように工夫する。

児童生徒の指導目標と実態に応じて交流及び共同学習の内容の決定を行う際には、体験的な活動や興味・関心の高い活動を取り入れる等、交流及び共同学習へ積極的に参加できるように工夫すること。また、交流及び共同学習の例については図1を参照のこと。

カ 保護者の協力が不可欠であり計画について理解を求めておく。

交流及び共同学習については、「どのような児童生徒に育ててほしいのか」という共通理解のもと、保護者と十分に話し合うことで、学習の効果も得られやすくなる。

キ 交流及び共同学習の事前・事後学習を行う。

事前学習を通し、しっかりとした見通しをもたせて活動に参加させる。学習後においては、振り返りを通して、次回はさらに意欲的に取り組むことができるよう工夫すること。

【交流及び共同学習の例】（小学校の例）

（図1）

学校行事	日常生活	特別支援学級の教育活動への交流	教科学習	その他 (地域との交流)
全ての学校行事 ・入学式 ・離任式 ・縦割り活動 ・始業式、終業式、 修了式 ・卒業式 ・運動会 ・バザー ・遠足 ・社会科見学 ・スポーツ大会 ・音楽会 ・林間学校 ・修学旅行	・登校・下校 ・休み時間 ・給食 ・清掃	特別支援学級の教育活動に、 通常の学級の児童生徒が参加 する。 ＊ペープサート発表 ＊合奏の発表 ＊トランプ、風船バレーなど のゲーム	・各教科 (図工、音楽、体育、 特別活動等の体験的 な活動及び各教科) ※児童の実態に合わ せて実施する	・市内特別支援学級 合同遠足 ・市内特別支援学級 学習発表会 ・地域のひととの 制作活動 ・お話ボランティア さんによるお話会 ・特別支援学級社会 科見学 ・支援籍学習

【交流計画】（小学校の例）

時期	内容
4月	○保護者・本人へ交流希望調査の実施 ○校内教職員との話し合い ○保護者、本人の希望、校内教職員による話し合い及び児童の実態を把握、交流計画の立案 ・交流における目標 ・交流内容 ・交流開始時期 ・実施回数・時間 ・場所 ○保護者との話し合い ・交流計画をもとに保護者との話し合いを行い、共通理解を図る。 ○交流学級担任との話し合い ・交流計画をもとに保護者との話し合いを行い、共通理解を図る。(資料1) ○交流開始
5月	○交流開始後の児童の様子における経過観察及び見直し ・活動内容が児童に合っているか。過度な負担になっていないか。 ・参加頻度、時間、場所が適切であるか。
6月 ↓ 2月	○学期ごとの交流及び共同学習の振り返り ・活動内容が児童に合っているか。過度な負担になっていないか。 ・参加頻度、時間、場所が適切であるか。 ・次学期以降の活動について
3月 (年度末)	○一年間の振り返り、交流及び共同学習における成果と課題のまとめ ・目標を達成できたか。 ・どのような成果があったか。 ・次年度への課題の引継ぎ

4月当初に特別支援学級在籍児童の実態や、前年度までの交流の様子を学校職員に伝えて、新年度の交流及び共同学習について共通理解を図る場を設ける。その際、資料を用いることで、スムーズな交流及び共同学習が実施できる。(資料1)

また、保護者の理解を得た上ではあるが、交流学級児童に対しても、特別支援学級に在籍する児童の実態等、年齢に適した言葉で話す機会を設け、お互いにとって、共に学ぶ意義を感じられるような取り組みとしていきたい。

交流及び共同学習についてのお願い

平成〇〇年4月〇日

1 交流の目的

通常の学級の児童と特別支援学級の児童が、生活や学習を共有することにより、互いに生活経験を広め、社会性を高めるとともに、心豊かで思いやりのある児童を育てる。

2 交流の場

(1) 交流授業、学校行事、学年行事、運動タイム、給食等、本人の実態を考慮しながら進めていきたいと思えます。進めていく中で相談していくことがたくさんあるかと思えますが、よろしくお願ひいたします。

(2) 交流授業

児童氏名(交流学級)	交流教科(予定)
〇〇〇〇(2年1組)	体育
〇〇〇〇(3年1組)	音楽・体育・図工
〇〇〇〇(4年1組)	音楽・体育
〇〇〇〇(5年1組)	音楽
〇〇〇〇(6年1組)	体育・音楽

3 本学級からのお願ひ

- ・児童配布用の時間割表を、児童分+1部(教室掲示用、できれば小さいもの)お願ひします。
- ・学年だよりは、児童分+2部(教室掲示分+担任分)お願ひします。
- ・交流学級に関わらず、各教室に本学級だよりの掲示をお願ひします。
- ・健康観察簿の最後に、本学級児童名を入れていただきました。運動タイムや朝の会参加の際に、健康観察をお願ひします。
- ・授業や活動に必要な教材・教具等の購入の際は、お声がけください。必要に応じて個別に集金し、購入します。
- ・校外学習や社会科見学、運動会等の学年で実施する行事は、交流学年に参加させてください。事前学習や練習への参加もお願ひします。
- ・給食は、本学級より持参します。片付けは、交流教室でさせていただきます。

また、より良い交流及び共同学習を継続するため、定期的に見直し・改善を行う必要がある。そのために、全体教育計画(次ページ・資料2)を作成し、学期ごとに評価を行うことが有効である。特別支援学級の担任と交流学級の担任のみならず全職員で評価を行い、効果的で継続的な交流及び共同学習が途切れなく実施されるよう、努めることが望まれる。

(資料2) 【小学校の例】

交流及び共同学習全体教育計画

学校教育目標 心豊かな〇〇の子の育成 〇 あかるい子 〇 かしこい子 〇 まじめな子 〇 つよい子
--

目指す学校像 自己の成長を実感し、地域と共に子供を育てる学校
--

県の指導の重点 一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進 全体計画に位置付けた交流及び共同学習の継続的な推進 学校の実態に合った交流及び共同学習の推進

本校の努力点 学校教育活動において、地域、学校の実態に応じ、内容を精選する
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域、学校、児童の実態を的確に把握する ・ 互いに接し合うことを通して、互いを理解し共に支え合う「心のバリアフリー」を広める ・ 障害のある児童、障害のない児童双方の児童にとって互いに効果が期待できる見通しをもって実施する

学年目標

低 学 年	中 学 年	高 学 年
障害のある児童とない児童が自然にふれあい「仲間」として感じ合うことができる。	障害のある児童とない児童が互いに協力し、共に活動することができる。	障害のある児童もない児童も「同じ仲間」と感じ、共に活動したり助け合ったりすることができる。

各教科・総合的な時間	道 徳	特 別 活 動	家 庭 ・ 地 域 社 会 等
一人一人のよさを生かし、それを伸ばせるようにする。 学習活動を進める過程において、児童の相互理解を深めるとともに、助け合いの心を育成する。	思いやり、友情、助け合い、親切に関わる指導内容を中心に、心情に深く迫る授業の充実を実現する。 一人一人の道徳的判断力を高めると共に、主体的な道徳実践力の育成を図る。	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 自他の人格の尊重と、お互いに協力することにより、思いやりの心と自主的実践的な態度を育てる。	家庭との連絡を密にして、常に児童の実態を明らかにすると共に、家庭の協力を要請していく。 同一地域社会で、共に生きるための意欲を育てる。

	月 日		1 学 期	月 日		2 学 期	月 日		3 学 期
	対外合同学習	5	12	球技大会	11		秋の学校公開	2	14
	5	14	花のフェスティバル	11	17	修学旅行			
	6	4	運動会	12	2	なかよし発表会			
	7	15	なかよし交歓会	※各学年の生活科・社会科見学も含む。					
	7	10	合同体験学習						
	7	23	林間学校						

目標	年間を通して、学年目標、各教科等の目標が達成できるよう指導する。									
評価(達成)										
	1 学期評価	A B C	2 学期評価	A B C	3 学期評価	A B C				

※中学校においては、評価の中に定期テスト、技能テストの達成状況も含める。

(2) 指導案(略案)例
① 小学校2学年児童

体育科 学習指導案

【単元名】 器械・器具を使った運動遊び(跳び箱を使った運動遊び)

【学習目標】 自分に合っためあてをもち、いろいろな運動の仕方を見付ける。

【児童の実態】

- ・慣れない活動や周囲の人に不安を感じ、活動に向かうことに時間がかかる。
- ・外遊びや体を動かすことを好み、運動のルールを守って活動することができる。
- ・全体での指示ではなかなか理解できず、個別の言葉かけが必要である。

【交流及び共同学習における目標】

- ・友達と一緒に跳び箱を使った運動遊びを楽しむ。
- ・交流学級担任の話をよく聞き、ルールを守って安全に活動することができる。

【合理的配慮】

- ・児童にとって安心できる友達とグループを組ませ、落ち着いて活動に参加できるようにする。
- ・学習内容を提示したり、場面の設定を図や絵で表したりして、活動の見通しがもてるようにする。

【交流内容】 *全て一人で参加

【教科】 算数, 体育, 生活科

【学校行事】 (全て)

【給食】 (一部)

【展開】

時間	学習内容	○児童の活動(学習形態) ★本人への支援 ☆全体及び本人への支援	資料等
10分	1 集合・整列・準備運動 2 挨拶・健康観察	○係の号令で集合・整列し、準備運動をする。(一斉) ○日直の号令で始まりの挨拶をし、健康観察をする。(一斉) ○本時の活動に必要な補助運動を行う。(一斉) ☆手足の動かし方や姿勢等、具体的に指示する。	
5分	3 慣れの運動 ・かえる倒立 ・手押し車 ・両足ジャンプ 等 4 本時の活動を知る。	★友達と向かい合わせになり、手本を見ながら運動できるようにする。 ○前時までを振り返り、本時の活動について知る。(一斉)	
	いろいろな跳び方で跳び箱に乗ったり、飛び越えたりしよう。		移動黒板
15分	5 練習をする。 ・横跳び ・踏み越し跳び ・跳び乗り、下り ・開脚跳び	○グループで練習をする。(グループ) ☆基本的な進め方を示すとともに、場面を図で表して見通しをもたせる。 ☆技術的に困難な児童や、安全に留意する必要がある箇所では、個別支援を行う。 ★安心して活動できる友達とグループを組ませ、言葉をかけてもらったり、声をかけさせたりして、主体的に活動できるようにする。 ☆もう少しでできそうなことを明確にし、めあてにさせる。 ☆不安がある児童には、低い跳び箱を使わせたり、エバーマットを置いて練習させたりする。 ☆活動の終了が分かるよう、BGM等を活用する。	跳び箱 マット 踏み切り板 場面図 エバー マット BGM用 CD
5分	6 本時のまとめ	★跳び方を1, 2種類に絞り、安全に活動できるようにする。 ○学習カードの記入をする。(一斉) ○互いのよさや頑張りを発表する。(一斉) ★マーク(○)を付ける形の学習カードを用意する。 ★工夫できた点を友達に発表させ、次時の活動への意欲付けをする。	学習 カード
5分	7 後片付け	○全員で後片付けを行う。(一斉) ☆一人一役を割り当て、責任をもって後片付けさせる。	ワーク シート
5分	8 整理運動 9 次時の予告 10 挨拶	○必要な整理運動をする。(一斉) ☆次時の活動を予告し、意欲をもたせる。	

② 小学校3学年児童

図画工作科 学習指導案

【教材名】 でこぼこもようのなかまたち

【学習目標】 想像したイメージを基に、写すことを繰り返しながら、材料の形や色の組み合わせ、写し方を工夫させる。

【児童の実態】

- ・慣れない活動や周囲の人に不安を感じ、活動に向かうことに時間がかかる。
- ・絵を描くことやものをつくることを好み、集中して取り組むことができる。
- ・全体での指示ではなかなか理解できず、個別の言葉かけが必要。

【交流及び共同学習における目標】

- ・友達と一緒に版を刷る活動を楽しむ。
- ・交流学級担任の話をよく聞き、版を刷ることができる。

【合理的配慮】

- ・在籍学級において事前に版を刷る練習をし、安心して学習に参加できるようにする。
- ・学習内容を提示したり、場面の設定を図や絵で表したりして、活動の見通しがつくようにする。

【交流内容】 *全て一人で参加

【教科】 算数, 体育, 生活科

【学校行事】 (全て)

【給食】 (一部)

【展開】

時間	学習内容	○児童の活動 (学習形態) ★本人への支援 ☆全体及び本人への支援	資料等
10分	1 挨拶 2 ミニ鑑賞会	○前時の活動を振り返り、友達の作品を鑑賞する。 (一斉) ☆友達の作品から、よいと感じたところを自分の作品へ取り入れてもよいことを伝える。 ★本時の活動内容やタイムスケジュールを掲示し、見通しをもって活動できるようにする。	ホワイトボード
5分	3 本時の活動を知る。 形や色, 向きや位置を工夫して, 版を刷ろう。	○本時の活動とめあてを確認する。(一斉)	
20分	4 版を刷る。	○イメージを膨らませながら、版を置く向きや位置などを工夫して、版に写す。(一斉) ☆刷り方に戸惑っている場合には、実演して見せたり、別の用紙に試し刷りさせたりする。 ★インク等の配置が分かるよう、場面の設定を表したカードを持たせ、活動させる。 ☆版を重ねたり、後で描き加えたりすることもできることを伝え、失敗を恐れず活動するよう言葉かけをする。 ★うまく色が出ない時はバレンを無理に使わず、手の平や指先で感触を確かめながら刷らせる。 ★活動の終了時間が分かるよう、タイムタイマーを使って可視化する。	版画用紙 版画インク 新聞紙 バレン ローラー 場面カード
5分	5 学習の振り返りをする。 ・うまくできたところ ・難しかったところ, うまくいかなかったところ ・友達の作品に対する感想	○本時の活動を振り返り、自他の作品を味わう。(一斉) ★工夫できた点を友達に発表させ、次時の活動への意欲付けをする。 ☆次時の活動を予告し、意欲をもたせる。	タイムタイマー
5分	6 全員で片付けをする。 7 挨拶	★役割をもたせて認め、一緒に活動できた自信をもたせる。	学習カード

③ 小学校5学年児童

音楽科 学習指導案

【教材名】 リボンのおどり

【学習目標】 いろいろな楽器が重なり合うひびきを感じながら演奏する。

【児童の実態】

- ・初めての活動や集団に対して強い不安をもちやすい。
- ・音符を読むことが難しい。
- ・リコーダーの指使いが定着していない。
- ・集中が途切れやすく指示を聞き逃してしまうことがある。
- ・歌を歌うことや楽器で演奏することが好きである。

【交流及び共同学習における目標】

- ・友達と歌ったり演奏したりする学習に意欲的に取り組もうとしている。
- ・集団の中にいることに慣れる。
- ・林間学校に向けて交友関係を広げる。

【合理的配慮】

- ・児童にとって安心できる友達とグループを組ませ、落ち着いて活動に参加できるようにする。
- ・演奏する部分を限定し、演奏部分を見分けやすいようにマーカーで色分けする。
- ・楽譜に階名を書いたり、運指表を提示したりする。

【交流内容】 *全て一人で参加

【教科】 音楽, 図工, 体育, 外国語活動, 総合的な学習 (体験的な学習のみ), 特別活動 (学級レクリエーション), 家庭科 (調理実習のみ)

【学校行事】 (全て)

【給食】 (一部)

【展開】

時間	学習内容	○児童の活動 (学習形態) ★本人への支援 ☆全体及び本人への支援	資料等
10分	1 はじめのあいさつをする。	○今月の歌を楽しく歌う (一斉) ○リズム遊びを行う (一斉) ☆明るい雰囲気をつくり、意欲的に取り組めるようにする。 ★傍にモデルとなる児童を配置し、学習の理解を助ける。	歌詞カード
5分	2 前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。	○前時までを振り返る。(一斉) ☆前時の復習を行うことで、自信をもって、これから行う活動に取り組めるようにする。 ○本時のめあてを確認する。(一斉) ☆めあてを確認することで本時の学習活動の見通しをもてるようにする。	
	グループごとに考えた楽器の組み合わせや強弱を工夫しながら演奏しよう。		楽譜
5分	3 グループ学習	○グループ練習をする。(グループ) ★安心して活動に取り組めるように、グループの構成メンバーの配慮を行う。 ☆自信をもって発表できるように、グループでのめあてやパート、演奏部分の確認及び練習の時間を設ける。 ☆意欲的に合奏に取り組めるように使用する楽器は、本人に選ばせる。 ☆自分の演奏する部分に色を付け、見やすくする。 ★担当楽器は事前に練習し、自信をもって発表できるようにする。	
20分	4 発表	○グループごとに発表する。(一斉) ☆自信をもって演奏できるよう楽譜を見ながら演奏する。 ★安心して演奏できる場所を本人に決めさせる。	
5分	5 感想発表	☆他のグループの演奏に対して目的をもって聞けるよう、ワークシートに他のグループの演奏で気付いたことを記入する。 また、感想発表で自信をもって発表することができるようにする。	ワークシート
	6 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を伝える。	☆次時の学習内容を伝えることで見通しをもち、次時の学習に期待がもてるようにする。	

10 保護者との連携

(1) 小学校

学校と家庭が密接に連携することは、障害のある児童の支援を行う上で不可欠である。特に、保護者の障害理解や心理的安定を図るため、保護者の気持ちに寄り添った支援を行うことが重要である。児童の指導を進めるに当たり、学校での指導に対する保護者の理解と協力は何よりも大切であり、担任と保護者が児童の状態について共通理解をもち、学校や家庭での様子をお互いに情報交換しながら一貫性のある指導を進めることは、児童の混乱を軽減し、指導の定着を図る意味で効果的であるといえる。

「教育支援プランA」及び「教育支援プランB」の作成では、児童の可能性を最大限伸ばさせるために教育的対応の在り方や家庭での支援について、地域や学校における基礎的環境整備の状況や提供可能な合理的配慮の内容を踏まえ、保護者とともに合意形成を図っていくことが求められる。また、本人・保護者の願いを十分把握した上で指導目標や内容を設定し、児童の学習過程について、相互に共有するとともに、児童が学習の成果を現在や将来の生活に生かすことができるように配慮することが重要である。

また、連絡帳等を活用し、日頃の児童の様子や変容について情報交換しておくことも大切である。

【保護者との主な連携～一年間の活動を通して～（例）】

時 期		内 容
入学前		・就学前の関係機関等の連携（支援の聞き取り，サポート手帳等）
<1学期>	入学式	○新入生が入級する場合は，入学式の参加の仕方等について確認する。 ・当日の流れ ・会場の下見 ・下駄箱やロッカーの名札や位置の確認 ・入学式での座席 ・交流学級での座席 ・教室やトイレ，階段，通学路等の安全面の確認 等 ○学校や学級の経営方針等について伝える。 ○交流学級での学級懇談会と調整をする。 ○保護者同士の情報交換の場となるよう，和やかな雰囲気をつくる。
	授業参観 学級懇談会	○「教育支援プランA」「教育支援プランB」を基に，共通理解を図る。 ・保護者が望まない情報に関しては，記入しない。 ・作成後，写しを保護者に提示する。
	家庭訪問	○「教育支援プランB」の1学期の評価を記入し，見直しを行う。
	学期末	○保護者との話し合いを行う上で，相談の基礎的態度として「傾聴」「共感」「受容」の三つの態度が大切である。 ・「傾聴」：保護者の話を“じっくりと聴く態度” ・「共感」：保護者が感じているように“共に感じる”態度 ・「受容」：これまでの頑張りを“肯定的に認める”態度
	個別面談 教育相談	○生活や学習，進路等について，保護者の困っていることや願いを確認する。 ○保護者が児童生徒の学校での状況を捉えることができるようにする。
<2学期>	学期初め	○2学期の「教育支援プランB」を作成し，保護者に提示する。
	学校行事	○運動会，宿泊を伴う林間学校や修学旅行については，参加の仕方を確認する。
	個別面談 教育相談	○この時期の相談では，特に6年生については，中学校に向けての話し合いを行う。
	学期末	○「教育支援プランB」の2学期の評価を記入し，見直しを行う。
<3学期>	学期初め	○3学期の「教育支援プランB」を作成し，保護者に提示する。
	卒業式 学期末	○卒業生がいる場合には，卒業式の参加の仕方について確認する。 ○「教育支援プランB」の3学期の評価を記入する。
	個人面談 教育相談	○「教育支援プランB」の評価を保護者に提示すると共に，次年度に向けての話し合いを行う。 ○次年度のスタートがスムーズに行えるように，交流学級での授業等についても決定しておく。

【連絡ノート（例）】

連絡ノート

()月()日()曜日 天気()

No.	勉強したこと	◎・○・△
1		
2		
3		
4		
5		
6		

【たのしかったこと・よかったこと】 【おしらせ】

--	--

【先生より】

【保護者より】

連絡ノート

日付 ()月()日 ()曜日

てんき ()

べんきょう したこと ◎・○・△

1		
2		
3		
4		
5		
6		

きょう、たのしかったこと、よかったこと

--	--

【先生より】

【保護者より】

(2) 中学校

ア 中学校入学・特別支援学級入級に向けて

小学校高学年になると、卒業後の進路について考えていくことになる。進路選択は、その後の生き方を大きく左右するものであり、慎重に準備を進めていきたい。

小学校卒業後、進学先として考えられるのは、①中学校通常の学級、②中学校特別支援学級、③県公立特別支援学校中学部、④私立中学校である。

小学校と連携し、本人や保護者に中学校の情報を提供しておく必要がある。学校見学や学校公開、学校説明会や体験入学等の機会を設定することも有効である。また、高等学校への進路についての情報提供は、長期的な展望のもと行う。中学校の教師が小学校の保護者会に出向き、直接保護者の意向を聞いたり、中学校卒業後の進路について情報を提供したりしておくことも大切である。中学校進学が決まり次第、入学前に保護者面談を設定し、保護者と話しやすい関係を築くことが大切である。

また、通常の学級から特別支援学級へ、または特別支援学級から通常の学級へといった教育形態の変更や特別支援学校中学部への転学の場合、市町村就学支援委員会による総合的な判断が必要となる。いつまでに保護者と話し合い、本人や保護者の意向を確認すればよいか、また、校内委員会での話し合いを行えばよいかを、特別支援教育コーディネーターや管理職とともに確認しておくことが必要である。

イ 中学校在学中における主な連携 ～三年間の活動を通して～（例）

時 期	内 容
入学前	個別面談
【1・2年】	
1学期	授業参観 学級懇談会 家庭訪問
1学期末	個別面談 授業参観
2学期	学級懇談会 個別面談
3学期	個別面談

○保護者との意思疎通が十分できるような関係づくりをする。
 ・特別支援学級の教育課程についての説明
 ・保護者の願いや困っていることについての確認 ・入学式当日の確認

○学級の経営方針、中学校での生活の仕方等を伝える。
 ○学校行事（校外学習、修学旅行等）の参加について確認する。
 ○「教育支援プランA・B」を保護者と共通理解のもと、作成する。
 写しを保護者に提示する。
 ○卒業後の進路選択について、保護者の意向を確認しておく。
 進路について情報提供を行う。

○「教育支援プランB」の見直しや評価をし、2学期に備える。

○「教育支援プランB」の見直しや評価をし、3学期に備える。
 ○次年度の保護者の意向を確認する。（特別支援学級入級について）
 ○2年生時には、卒業後の進路選択について、具体的に進められるようにする。面談を複数回設定することも考えておく。

○「教育支援プランB」の評価を提示し、次年度に向けての準備を進める。

【3年】 1学期	授業参観 学級懇談会 家庭訪問	○学級の経営方針，中学校での生活の仕方等を伝える。 ○学校行事（校外学習，修学旅行等）の参加について確認する。 ○「教育支援プランA・B」を保護者と共通理解のもと，作成する。写しを保護者に提供する。 ○卒業後の進路選択について，保護者・本人の意向を確認しておく。進路についての情報を提供する。
夏季休業中 2学期 2学期末	高校説明会 体験入学 進路説明会 個別面談	○高等学校についても，説明会等で情報を収集しておくよう伝える。 ○夏休みに，高等学校や特別支援学校等の体験入学が多く実施されるので，必ず参加するように伝える。 ○複数回面談を行い，保護者・本人と納得のいくまで話し合い，進路希望を確定する。 ○県立高等特別支援学校及び市立特別支援学校等は，入学者選抜や試験が1月に実施されるので，早めの準備が必要であることを伝える。 ・試験日と発表日の日程，服装，持ち物 ・試験会場までの行き方 ・進路決定から卒業までの過ごし方
卒業前	個別面談	○進学先への入学準備，通学手段等の確認をアドバイスする。

(3) 中学校卒業後

中学校特別支援学級においては，一人一人の特性を把握した上で，進路の自己決定に向けて支援・指導を組織的・継続的にしていく必要がある。そのためには，中学校卒業後にどんな進路選択があるか具体的に把握しておくこと，地域の担当者同士のネットワークを通じて常に情報を得ておくことが求められる。

中学校卒業後の進学先として考えられるのは，①国・県・市立特別支援学校高等部，県立高等特別支援学校（普通科），②県立特別支援学校高等部職業学科，県立特別支援学校高等部分校，③私立特別支援学校，④国公立・私立高等学校（全日制高等学校，定時制高等学校，通信制高等学校，単位制高等学校），⑤サポート校が挙げられる。

企業就労を選択する場合，①一般企業，②特例子会社が挙げられる。施設への通所を選択する場合，①就労移行支援（作業所），②就労継続支援A型事業所（作業所），就労継続支援B型事業所（作業所），③生活介護，④自立訓練（作業所）が挙げられる。

(4) 進学先について

ア 特別支援学校高等部（普通科）は，通学区域が指定されており，障害種別の条件もある。

イ 県立特別支援学校高等部職業学科，県立特別支援学校高等部分校は，知的障害の程度が比較的軽い者で，自力通学が可能な者が対象である。

※アとイは，入学選考があり，障害種別の条件もある。イについては，療育手帳の写し（または知的障害である旨の医師の診断書）が提出書類に含まれる。また，ア，イのいずれも志願する特別支援学校での事前相談が必須となるので，受検資格・条件を確認する必要がある。学校公開も毎年行われているので，生徒が1・2年生の頃から計画的に見学を促し，進路先について自己決定できるように進路指導していくことが望まれる。

ウ 県内・近県に私立の特別支援学校もある。各学校とも特色があるので，情報収集することが必要である。

エ 全日制高等学校（国公私立），定時制高等学校（県立），単位制高等学校（国公私立），通信制高等学校（県私立）がある。

オ サポート校の場合，高等学校卒業の資格を得るためには，併せて通信制高等学校で単位を取得する必要がある。また，サポート校と通信制高等学校とを併設するところもある。

(5) 進学先についての留意点

高等学校でも継続して適切な支援ができるように，今までどんな支援を受けてきたのか，早い段階で情報をつなぐことが重要である。教育支援プランAや教育支援プランBが保護者を通じて引き継がれることが望まれる。

進路先については，本人・保護者のニーズを踏まえ，管理職を通じて進路希望先の学校・教育委員会へ相談をすることが大切である。また，進路希望先の学校への入学後や卒業後のことも視野に入れ，障害の程度や特性を考慮し，進めていく必要がある。

第2章 自閉症・情緒障害特別支援学級

第1節 教育課程の編成

1 自閉症・情緒障害教育の基本的事項

自閉症・情緒障害特別支援学級は、学校教育法第81条第2項に基づき、該当する障害の児童生徒が示されているうち、その第6号の「その他障害のある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当な者」を対象として設置している。

また、平成25年10月4日付け25文科初第756号初等中等教育局長通知によると、対象は以下のように示されている。

自閉症・情緒障害者

- 一 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のも
- 二 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のも

自閉症・情緒障害のある児童生徒においては、教師との個別の指導や集団による指導等、障害特性等を踏まえた個に応じた適切な環境設定、指導・支援を行うことで児童生徒のもてる力を十分に発揮することができる。そのためには、行動の背景にある状況を理解し、必要な指導・支援を行うよう配慮することが重要である。小・中学校においては、児童生徒一人一人の自立と社会参加の姿を見据え、成長の段階に合わせた最も適切な教育を提供するため、自閉症・情緒障害特別支援学級を設置している。

自閉症・情緒障害のある児童生徒の障害の状況は多様であるが、過去の成功体験を基にして行動しようとしたり、物事の直接体験を通して身に付けたりする傾向が見られる。そこで、指導に当たっては、簡単な言葉で具体的に指示を伝えたり、視覚的な情報を示したりするなどの見通しをもたせる支援が重要となる。その上で、望ましい行動に対して、その場ですぐに評価するなど、多くの成功体験を積み重ねることで、行動の方法や選択肢を増やすことが重要である。また、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識及び技能を身に付けることを目指す「自立活動」の指導がある。

2 自閉症・情緒障害のある児童生徒の特性と指導の基本

(1) 自閉症・情緒障害のある児童生徒の特性

ア 自閉症の基本的な障害（文部科学省）

自閉症には、主に三つの基本的な障害特性がある。

① 他人との社会的関係の形成の困難さ

相手の気持ちや状況に配慮せず、自分の視点を中心に行動しているような誤解を受けることがある。

② 言葉の発達の遅れ

他者の言葉を模倣して言うこと（エコラリア）がある一方で、流暢ではあるが、独特の言い方や自分の好きなことを一方的に質問し続けたりすることもある。

③ 興味や関心が狭く特定のものへのこだわり

個人的な視点で気になっていることや自分の基準で決められた過程を維持し、完結することに執着するようなことがある。

これらの三つの基本的な障害特性に加えて、感覚知覚の過敏性や鈍感性、刺激の過剰選択性が見られることがある。

※DSM-5（米国精神医学会）では、自閉症の名称が「自閉スペクトラム症（障害）」に変更された。その定義は、「①様々な文脈における対人コミュニケーションと対人相互作用の持続的障害、②行動、関心、活動の限局的、反復的な様式」という二つとなっている。

イ 情緒障害とは

情緒障害とは、状況に合わない感情や気分が持続し、不適切な行動が引き起こされ、それらを自分の意思ではコントロールできないことが継続し、学校生活や社会生活に適応できなくなる状態をいう。また、情緒障害の現れ方としては、自分でも何が原因か、何に自分がこだわっているのかにも気付かず、外出しない状態が長期化することで、閉じこもるような傾向が強くなったり、適切な対人関係が形成できなかつたりする一方で、他人を攻撃したり、破壊的であったりするような行動も見られる。さらに、多動、常同行動、チックなどとして現れる場合もある。

(2) 自閉症・情緒障害のある児童生徒の指導の基本

自閉症・情緒障害特別支援学級では、発達障害である自閉症などと心因性の選択制かん黙などのある児童生徒が在籍するため、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導が重要である。人とかかわりを円滑にし、言語の理解と使用、場に応じた適切な行動を身に付けること、心理的安定を図り、集団参加を円滑にし、生活する力を育てることを目標に指導を進めることが必要である。自閉症・情緒障害特別支援学級においては、以下に示す整備や連携等の支援体制が大変重要であり、欠かすことができない。

- ア 個別の指導（自立活動など）
- イ 校内体制の整備（保護者との連携など）
- ウ 外部機関等との連携（医療機関等との連携など）
- エ 校内委員会との連携（交流及び共同学習など）

選択制かん黙や常同行動等のある場合は、その状態の的確な把握や原因の究明等が非常に困難な場合があるので、慎重に対応することが必要である。

3 教育課程編成の基本的な考え方

自閉症・情緒障害特別支援学級では、学校教育法施行令規則第138条の規定に基づき特別の教育課程の編成を行うことができる。そこで、編成に当たっては、学級の実態や児童生徒の障害の状態、教育的ニーズを考慮の上、特別支援学校小学部、中学部学習指導要領を参考にすると、実態に合った教育課程を編成する必要がある。

知的障害を併せ有する児童生徒が在籍する学級において、各教科を知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校（以下、知的障害特別支援学校）の各教科に替えて編成する場合は、「第1章 知的障害特別支援学級」も参考にすると。

4 教育課程編成に係る配慮事項

(1) 指導計画

教育課程は、埼玉県特別支援教育教育課程編成要領を参考に、児童生徒の障害の状態や発達段階、特性及び地域社会や学校の実態等を考慮し、各学校が編成する。さらに、より具体的な内容は個別の指導計画（以下、教育支援プランB）を作成することになる。

指導計画の作成に当たっては、まず学級の教育目標を達成するのに最も有効で適切な指導の形態（教科別の指導、各教科等を合わせた指導等）を定めることになる。次に、指導の形態ごとに指導内容を明らかにし、学習形態や教材・教具、授業時数等を定め、より具体化していく。年間指導計画は、年間を見通して指導の大綱を定めるものであり、この計画に基づいて、学期、月、週、日、1単位時間の計画や、指導の形態別の指導計画が作成される。個々の児童生徒に応じた指導を行うため、教育支援プランBは指導の形態ごとに、学習課題、目標、指導内容、方法、手だてを具体的に設定する。

また、指導計画作成に当たっては、児童生徒一人一人の実態把握のみならず、学校、地域社会の実態把握を欠かすことができない。通常の学級との交流及び共同学習、地域社会や学校相互の連携や交流を計画的、組織的に実施できるようにすることが大切である。

(2) 学習形態

指導計画に基づいて授業を展開していく場合、課題や活動の内容によって、一斉指導、小集団指導及び個別指導を適切に組み合わせ、個に応じた指導の充実を図ることが大切である。

自閉症・情緒障害特別支援学級の対象児童生徒の障害の状態に応じて多様な学習形態を設定する必要がある。

通常の学級や知的障害特別支援学級はもとより、他校の自閉症・情緒障害特別支援学級等との合同での学習は、児童生徒の社会性を育む指導を行う上で集団編成の工夫により、高い学習効果が期待できる。その際には、実態を的確に把握し、指導計画に基づき、意図的・計画的に実施することが大切である。

(3) 授業時数

各教科、道徳科、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間及び特別活動の指導の総授業時数は、小学校又は中学校の各学年における総授業時数に準ずる。この場合、各教科等の目標及び内容を考慮し、それぞれの年間の授業時数を適切に定める自立活動においては、授業時数の標準として示さないため自立活動の時間を確保しなくてよいというのではなく、個々の児童生徒の実態に応じて、適切な授業時数を確保する必要がある。

(4) 進路指導

心身両面にわたる発達が著しく、自己の生き方について関心が高まる中学校段階においては、自らの意思と責任で自己の生き方や進路が選択できるよう、入学時から計画的に指導を行う必要がある。進路指導は、特別活動を中核とし、勤労生産的・奉仕的の行事への体験活動や個別進路指導相談を通じて系統的、発展的、組織的に行うことが重要である。そのためには、校内体制の整備が必要である。

進路指導には保護者の理解と協力が不可欠である。目指す将来の姿や学校・職場等に関する様々な情報提供を行いつつ、地域社会や労働、福祉等の関係機関と連携し、共に進路指導を進めていくことが必要である。

(5) 交流及び共同学習

自閉症・情緒障害のある児童生徒は、対人関係や社会生活などで困難を示すことが多い。社会生活を養い、好ましい人間関係を育むために、多様な集団を経験できる環境を設定する必要がある。将来の自立と社会参加に必要な資質を養う上で、交流及び共同学習のもつ意義は大きい。通常の学級との交流及び共同学習や、近隣の学校の特別支援学級との合同活動、高齢者の授業招待等、地域の様々な人々との交流を積極的に計画し、集団活動の場を計画的・組織的・継続的に設定することが重要である。

(6) 校内委員会との連携

自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程においては、校内の教職員の共通理解が大切である。児童生徒一人一人の障害の特性や状態に応じた教育的ニーズを全職員で把握するとともに、特別支援教育コーディネーターを中心に配慮すべきことやその関わり方を確認する必要がある。自閉症及びそれに類する症状のある児童生徒の日常行動にみられる特徴（感覚刺激への特異の反応、食生活の偏り、自傷・パニック、多動等）については、全職員が児童生徒の困難さに配慮する観点をもち、児童生徒が安心して生活できるよう適切な対応について組織する必要がある。

(7) 保護者、関係機関との連携

保護者の理解や協力はもとより、医療機関や児童相談所、福祉施設、職業センター等、医療、福祉等との連携を深め、学級のみならず学校組織として、より一層の指導・支援の効果を高める必要がある。また、地域に学校公開する機会を積極的に設け、児童生徒が地域で自信をもって安心して過ごせるよう学習環境を配慮する。

5 各教科、道徳科、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間及び特別活動の指導及び自立活動の取扱い

各教科、道徳科、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間及び特別活動の指導及び自立活動の内容に関する事項は、特に示す内容を除き、取り扱わなければならない。

しかし、自閉症・情緒障害特別支援学級においては、各教科を並列的に指導するよりも、各教科に含まれる内容を一定の中心的な題材等に有機的に統合して指導を進める方がより効果的である場合が多い。学校教育法施行規則第53条には、「小学校においては必要がある場合には一部の各教科について、これらを合わせて授業を行うことができる」とあり、さらに同第130条においては、特別支援学校小学部・中学部・高等部までこの規定を広げ「一部または全部」としている。このことにより、各教科の目標・内容を踏まえながらも合科的な授業を行う等の工夫が可能となっている。加えて知的障害特別支援学校等においては、特別の教科 道徳、特別活動及び自立活動を合わせて行うことのできる特例も規定（同第130条の2）されている。このような各教科等を合わせた指導の形態に、「遊びの指導」「日常生活の指導」「生活単元学習」「作業学習」がある。自閉症・情緒障害特別支援学級においては、個々の児童生徒の実態に応じて、各教科等を合わせた指導や教科別の指導を生活との結び付きを大切にしながら行っていく必要がある。

自立活動の内容は、人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素がある。自立活動の内容は、実際の指導を行う際の「指導内容のまとめり」を意味しているわけではない。自立活動の内容の中から個々の児童生徒に必要な項目を選定し、それらを相互に関連付け、具体的な指導内容を設定することが大切である。自立活動の指導には、時間における指導の他、学校全体の教育活動全般を通じて適切に行うものである。教育支援プランBを立てることになる。時間における指導については、教育支援プランBに基づき、個別や小集団グループによる指導など状態に合わせて適切に設定し、さらに各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の

指導と密接な関連性をもたせることが大切である。児童生徒の障害の状態によっては、専門的な知識、技能を必要とするので、より一層専門性を高めたり、医師や専門機関と連携をとることができる体制を整えたりすることも必要である。地域や学校の実態、児童生徒の障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などを考慮し、創意工夫を生かした教育活動を行うものとされている。

第2節 指導計画の作成

1 児童生徒の実態把握

(1) 実態把握

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒は、自閉症や情緒障害の特性を有するものの、実態は一人一人異なる。そのため、個々の教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、持てる力を最大限発揮しながら社会参加や自立する児童生徒を育てるためには、一人一人の客観的、科学的、多面的な実態把握が大切である。

実態把握を行う際は、以下に留意する。

ア 自閉症や情緒障害の特性について十分な知識をもつ

自閉症や情緒障害の特性を知ること、児童生徒の状況について理解できることは多い。教師が十分な研修を積むことが必要である。

イ 先入観にとらわれない

「○○だから」、「申し送りにあったので」等、既成情報にとらわれず、参考にしながらも改めて情報を収集する。

ウ できること、できつつあること、得意なこと、興味・関心のあること等、肯定的な面の情報も収集する。

肯定的な面の情報収集は、身に付けたいことや改善したい部分の指導を行う際に有効であるため、特に気を付けたい。

(2) 実態把握の方法

実態把握の方法は大きく分けて、

ア 本人・保護者、関係者・機関等からの聴き取り

イ 生活や行動等からの収集

ウ 検査等の実施 がある。

アについては、家族構成や家庭環境、生育歴や教育歴、相談歴、基本的な生活習慣、地域生活を含む生活実態、興味・関心、学習状況、対人関係、コミュニケーション、診断名や服薬等の医学情報、悩みや学校に期待すること、願いや夢、希望などを聴き取る。その際、個人情報やプライバシーに配慮すること、また、傾聴、受容、共感の態度で聴き取ることは最も重要である。アンケート式の紙面方式は、情報収集しやすい反面、当事者の記入により客観性に欠ける場合もあることに留意する。

関係者・機関等からの聴き取りを行う際は、本人・保護者の承諾を得ることが望ましい。

イについては、児童生徒の生活の様子や行動を直接観察する。その際、観察の視点を明確にしておくことや、周囲との対人関係や環境との関わりを観察すること、例えば、「この活動の時は離席が多くなる」等を観察しておくこと、指導法の検討や実際の指導場面で役立つ。観察する際は、記録が観察者の主観的な視点で記述された内容になりやすいため、注意が必要である。また、観察する項目を設定しておくこと、具体的事実を記録しやすくなる。

ウについては、本人・保護者の同意のもと、標準化された検査を通してデータを収集し、客観的、科学的に発達特性や発達段階を明らかにする。実施の際は、収集したい情報や目的に合わせた検査を行う。よって、目的以外の情報を得ることはできないので、一部の検査結果を本人の全体像として捉えてはいけない。

検査結果は必ず、本人・保護者へのフィードバックを行う。

(3) 実態把握の留意点

実態把握は、個別の教育支援計画（以下、教育支援プランA）及び教育支援プランBの作成、実際の指導場面に生かすために行う。そのためには、収集する目的、視点、整理、実践、評価、本人の成長を念頭に置いて実態把握を行うことが大切である。

以下にポイントをまとめる。

ア 指導場面に活用する実態把握

イ 肯定的な面の情報を収集する

- ウ 客観的，科学的，多面的，複数で観る
- エ 現象面にとらわれず，行動の背景を観る
- オ 部分的な実態把握から，児童生徒の全体像を観る
- カ 常に新しい情報を得る

2 個別の教育支援計画（教育支援プランA）及び個別の指導計画（教育支援プランB）の作成

個別の教育支援計画とは，本人・保護者の希望や願いを踏まえ，特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な支援を行うために，長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫し，教育・福祉・医療・労働等の関係機関が連携して支援するための計画である。また，個別の指導計画とは，特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の一人一人の教育的ニーズを具体的な指導・支援に反映させるための計画である。本県では，平成17年度に「教育支援プランA・B」として県下で統一した書式を示している。

(1) 作成について

P D C A サイクルに基づく。（※次頁参照）

(2) 活用について

教育支援プランA・教育支援プランBの作成後，児童生徒に関わる指導者等の間で以下のように活用することが望ましい。

- ア 情報の共有化
- イ 共通理解や支援体制の整備
- ウ 支援内容や方法，指導形態等の明確化
- エ 定期的な評価と指導改善
- オ 引き継ぎと一貫した支援

(3) 引き継ぎについて

保護者の願いや期待に応えるため，関係諸機関との連携の継続や維持のため確実な引継ぎがなされること，引継ぎ後，すぐに個に応じた指導がなされること，効果のあった指導による成長が記録されること，現在進行している指導・支援が記載されていることが必要である。

十分な記載や引継ぎがなされることは，本人・保護者の安心に繋がる。関係諸機関間の引継ぎにおいては，引継ぎ方法や内容等，保護者の了承のもとに行うことが重要である。

また，進路選択において，高校，大学受験の際に個別の配慮を希望する場合，教育支援プランA・Bに基づいた定期テストの実施等における配慮が，以降の試験等の合理的配慮となるので，学習内容面に関する引継ぎも十分に行う。

3 指導目標の設定

学校全体の教育計画，特別の教育課程や年間指導計画と，児童生徒の実態や本人・保護者の教育ニーズとの関連を図りながら，一人一人の指導目標を設定する。

指導目標は，年間や学期といった長期的な目標から，単元や授業における短期的な目標がある。

長期の指導目標であれば，一年間で達成可能な目標を設定する。短期の指導目標であれば，年間の目標から，月，週，毎時の授業における目標を設定する。

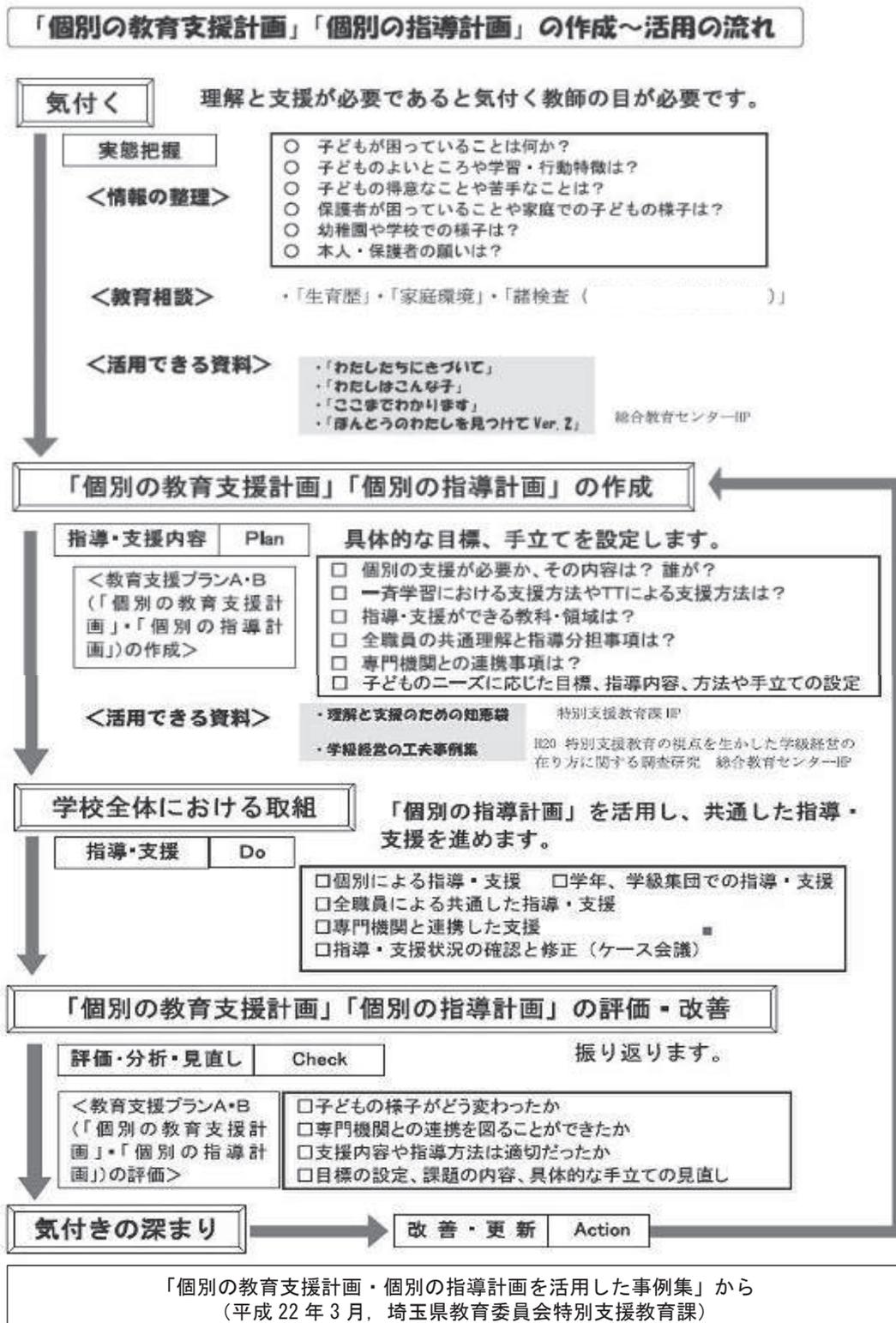
長期目標と短期目標の関連として，系統的，継続的，連続的，そして発展的に設定する。また，複数の目標がある場合は，緊急性のある課題や効果や確実な成長が見込まれる課題を設定するなど優先順位を定めることも大切である。必要かつ早期で成果が期待できる課題への目標設定は，本人の意欲の向上や満足感が得られやすく，他の目標達成によい影響を与える場合が多い。

短期目標の設定では，具体的でスモールステップ，肯定的な表現，評価しやすいもの（行動や基準値の設定）が有効になる。

以下に，目標設定のポイントを示す。

- (1) 学校教育目標や学校，地域の実態に即している。
- (2) キャリア教育，発達の視点を踏まえる。
- (3) 実態把握に基づき設定する。
- (4) 達成可能な目標を設定する。
- (5) 観察や客観的に評価できる具体的な目標や表現を用いる。
- (6) 評価基準を明確にする。
- (7) P D C A サイクルを踏まえる。
- (8) 各法令を踏まえる。

【「個別の教育支援計画（教育支援プランA）」「個別の指導計画（教育支援プランB）」の作成～活用の流れ】



4 指導内容の選択と設定、組織化

自閉症・情緒障害特別支援学級在籍の児童生徒は、主となる障害と併せ、学習の遅れや偏りについても一人一人が異なる。指導内容の選択は、まず、通常教育課程に準ずることができるかを検討する。当該学年での学習が難しい場合は、各教科の目標を下学年の教科の目標に替える、各教科を知的障害特別支援学校の各教科に替えるなど指導内容の変更を検討する。各教科等の授業時数は弾力的に取り扱えるが、年間総授業時数は通常学級と同じである。また、各教科を知的障害特別支援学校の各教科に替え教育課程を編成した場合は、各教科等を合わせて指導することも可能である。

指導内容の選定と組織化のポイントとしては、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、以下の点を考慮する。

- (1) 一人一人の教育目標の達成を念頭に置く。
- (2) 学年相当の学習が可能等、学習状況を把握する。
- (3) 下学年や知的障害特別支援学校学習指導要領の適応を検討する。
- (4) 日常生活や身辺処理の実態を考慮する。
- (5) 各教科間の指導内容の関連を図る。
- (6) 発展的、系統的、継続的、生活的な指導内容を配列する。
- (7) 各教科等を合わせた指導を検討する。
- (8) 学級在籍の人数や年齢を考慮する。
- (9) 各教科等の授業時数を検討する。
- (10) 必要に応じて一人一人に異なる日課表の作成を検討する。

5 指導の形態等の決定

指導の形態としては、特別支援学校学習指導要領に基づき、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて、各教科等をそれぞれの時間を設けて指導を行う場合と、各教科、道徳、特別活動及び自立活動を合わせて指導を行う場合がある。

教科別の指導を行う際は、以下の点に留意する。

- (1) 児童生徒の実態に即した指導内容を選択・組織する。
- (2) 児童生徒の実生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、生活に即した内容や活動を十分に取り入れ段階的に指導する。
- (3) 習得した学習内容を実際の生活で発揮することを視野に入れ指導する。
- (4) 「できた」、「分かった」が実感でき、豊富な成功体験から主体的な活動を促す。
- (5) 他の各教科や領域との関連を図りながら指導する。

児童生徒は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、身に付けた学習内容を実際の生活場面で発揮しにくいことから、成功体験が少なく、主体的に学習に取り組む意欲が低下しやすい。そのため实际的・具体的・体験的な学習場面が必要となり、各教科等を合わせた指導が有効である。

各教科等を合わせた指導を行う場合は、以下の点に留意する。

- (1) 興味・関心に応じて実際の生活から発展し、個人差の大きい集団でも授業展開できるもの。
- (2) 生活上望ましい習慣や態度、意欲の形成を図り、身に付けた内容が実生活で生かせるものであり、併せて知識や技能の習得を図ることができるもの。
- (3) 児童生徒自ら目標や意欲をもって学習活動を行うことができるもの。
- (4) 児童生徒一人一人が力を発揮しつつ、集団の活動に協働しながら取り組めるもの。
- (5) 児童生徒の望ましい変容を図るために、必要かつ十分な活動で組織され、その一連の活動はまとまりや合理性があること。
- (6) 多岐にわたる内容を含む活動で組織され、その活動を通して多種多様な経験ができること。

また、各教科等を合わせた指導は、各教科別の指導でも取り扱うなど、教育活動全体で取り組むことが大切である。

自立活動の指導においては、自閉症・情緒障害特別支援学級では、時間を設定して指導する。時間における指導では、個別指導の形態で行うことが多いが、指導目標（ねらい）達成する上で効果的である場合には、幼児児童生徒の集団を構成して指導することも考えられる。指導内容を明確にすることが必要である。

6 交流及び共同学習

誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合う共生社会の実現には、障害のある児童生徒が地域社会の中で積極的に活動し、障害のない児童生徒との交流及び共同学習を通して相互理解を図ることが極めて重要である。

また、交流及び共同学習は、障害のある児童生徒にとって有意義であるばかりではなく、小・中学校等の児童生徒たちや地域の人たちが、障害のある児童生徒とその教育に対する正しい理解と認識を深めるための絶好の機会でもある。

実施に当たっては、効果的に進めるために、双方の教育目標を明確にしお互いの目標のすり合わせが重要なこと、児童生徒の望ましい変容を促すための教育効果を明確にしておくこと、年間

計画を作成し、計画的に実施すること、必ず評価を行うことが必要である。

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒の交流及び共同学習の実施については、特性から以下の点に留意する必要がある。

- (1) 見通しがもてるように、活動内容を簡潔な言葉や映像資料、写真等の視覚情報を用いて事前に知らせる。急な日程変更が苦手な場合があるので、その場合は、分かり次第、視覚教材等を使って知らせること。
- (2) 相手の感情や考えを推測することが苦手の場合も多いことから、活動等において誤解が生じないように配慮すること。
- (3) 意思の疎通が苦手な児童生徒などは、本人の関わろうとする意志が伝わりにくいことが多い。表情や動作などからも意思を汲み取れることに十分に配慮すること。
- (4) 感覚過敏の特性を踏まえて、場合によっては小集団からの参加や児童生徒同士の相性等を考慮しながら活動への参加を促すこと。
- (5) 感覚過敏や運動が苦手等の特性を踏まえて、事前に活動内容（音、光、感触、接触等）を調整しておくこと。

7 学習形態の組織化

自閉症・情緒障害特別支援学級在籍の児童生徒は、主となる障害と併せ、一人一人異なる学習の遅れや偏りに合わせて柔軟に学習形態を組織し、学習効果が望まれる学習形態を選択する必要がある。学習形態を検討するとき、教育支援プランB等に基づく教育目標や身に付けたい力を達成するために、最も適した形態を編成することが大切である。

学習形態には、障害種毎に基礎集団としての学級集団がある。複数の障害種の特別支援学級が設置されている学校では、より大きな集団での教育効果が期待される場合、設置されている学級を合わせて行うこともある。その場合は、児童生徒の実態や目標に応じて、小集団化や個別化等、学習形態の再編成が重要となる。

留意点として、以下の点が挙げられる。

- (1) 児童生徒一人一人の教育支援プランA・Bや引き継ぎ資料等を活用すること。
- (2) ねらいや目的を明確にし、学習形態を組織すること。
- (3) 児童生徒個々の能力を生かし、集団化した組織の中で、相互補完的に作用し合い、指導の効果を生み出すこと。
- (4) 他者との関係性を考慮し、児童生徒が安心して授業に参加できること。

一人一人の障害の状態等に応じた指導の充実に向けて、必要に応じて、近隣の特別支援学級との合同授業等、より学習効果が望まれる学習形態の検討が重要である。

8 授業時数と1単位時間の取り扱い

- (1) 年間の授業時数、(2) 1単位時間 ※「Ⅱ 第3章 特別の教育課程編成の基本」を参照

9 日課表の作成

日課表には、各教科等を合わせた指導、教科等別の指導が適切に設定されている必要がある。さらに、自閉症・情緒障害特別支援学級に多く在籍する変化に対応しにくい児童生徒にとって、以下の点に配慮し作成することが大切である。

- (1) 一日、一週間の学校生活にリズムがあり、带状の日課等、安定して生活できるような工夫がされていること。
- (2) 一日、一週間の見通しがもちやすいこと。
- (3) 日課表に示される教科等の名称が、児童生徒及び保護者に分かりやすいこと。
- (4) 情緒の安定に配慮して作成されていること。
- (5) 一斉指導、小集団指導、個別指導が効果的に配置されていること。
- (6) 教科等での交流及び共同学習を実施する場合には、一人一人における学習効果を十分に考慮し、適切に位置付けられていること。
- (7) 校庭、体育館、特別教室、教室内の個別指導のスペースなど指導場面の変化が意図的に設定されていること。
- (8) 知的障害特別支援学級など他の障害種の特別支援学級との合同の学習が効果的と思われる場合、その指導が適切に位置付けられていること。
- (9) ティームティーチングが有効に機能するように配慮されていること。

- (10) 日課表は、年間を通して固定することが基本であるが、児童生徒・学校や地域の実態、各教科等や学習活動の特質に応じ、弾力的に組み替えることもできる。

10 年間指導計画の作成

学級における年間指導計画とは、その年度の各教科等における学習活動の見通しをもつために、一年間の流れに沿って単元等を配列し、学習活動の概要を示したものである。各指導の形態ごとに、一年間を通して指導目標、指導内容、指導の順序、指導方法、使用教材、指導の時間配当等を定めたより具体的な計画である。この年間指導計画に基づいて、学期ごと、月ごと、週ごと、一日ごと、単位時間ごと、あるいは、単元、題材、主題ごとの指導案に至るまでの各種の指導計画が作成される。

(1) 年間指導計画作成の手順（概略）

- ア 教育支援プランAにより、児童生徒の教育的ニーズを把握する
 - ・障害の状態と特性
 - ・発達の状態（諸検査の結果、学習の状況）
 - ・医療等の状況
- イ 保護者、本人の願いを把握する
 - ・伸ばしたい面、改善したい面（学習や日常生活及び集団との関わり方）
 - ・将来像
- ウ 学校や地域及び学級の実態を把握する
 - ・地域の状況・特徴
 - ・学校の状況・特徴、学級の状況
- エ 教育目標を設定する
 - ・個別の指導目標、学級としての指導目標
 - ・教科等の目標
- オ 学習形態、指導担当者を決める
 - ・個別指導
 - ・小集団指導
 - ・一斉指導
 - ・他障害種の学級との合同の学習
- カ 指導内容を決める
 - ・各教科等の取り扱う指導内容を選択する
 - ・自立活動の指導内容を選択する
- キ 指導の形態の決定
- ク 指導時間を配当する
 - ・指導の形態別
 - ・学習形態別
- ケ 年間指導計画表を作成する
 - ・各教科別、教科等を合わせた指導
 - ・学校、学年、学級の行事等との関連
- コ 短期の指導計画を作成する
 - ・学期ごと、月ごと、週ごと
 - ・単元ごと、題材ごと、主題ごと

11 学習指導案の形式と記入上の留意事項

(1) 学習指導案の形式

個々の児童生徒の障害の状態や特性から、集団における個に応じた指導や個別指導が必要になる。そのため、学習指導案を立てる際には、教育支援プランBを基に、生徒の実態に沿った目標を立てる。さらに、本時の展開等の中で、学習活動や指導内容、支援等について、個々の児童生徒に対して作成することが大切である。

(2) 記入上の留意事項

児童生徒の活動が具体的で分かりやすく、個々の児童生徒の予想される様々な行動や反応に対して適切な教師の支援が随所に記入されていることが大切である。個別に対応する必要のある児童生徒については、担当する教師を明確に記入し、具体的な支援の方法も併せて記入しておく必要がある。

- ア 児童生徒の実態を把握して、授業の目標、内容等を具体化し計画を立てる。
- イ 単元全体の中で本時を位置付ける。他の単元や教科等との関連についても記述する。
- ウ 本時における児童生徒の学習活動を予想し、実態に応じた手立てを明確にする。
- エ 授業の中に評価を明確に位置付ける。

12 指導記録と評価

(1) 指導記録の方法

ア 行動観察記録

日々の生活の中で特徴的な行動や特記事項について、用紙等に記述式で記録する。また、一日の様々な学習活動の中で、重点目標として取り組んでいる指導内容について記録する。

イ 学習活動別の記録用紙での記録

自立活動等で行う指導について、学習課題に則した記録用紙を作成して、児童生徒の反応、特記事項等を記録する。

ウ ノート、プリントの活用

国語、算数などの学習では、ノート、プリント等が児童生徒の学習の記録となるが、補助簿等を活用し、授業時間の活動状況や反応等について記録しておく。

エ ビデオカメラ、デジタルカメラの活用

音楽、体育等において記述式では記録しにくい場合は、映像で記録する。

(2) 評価

指導の評価は、指導開始時に設定した指導目標についてどの程度まで達成できたかを見極める。指導内容がスモールステップで具体的であれば正確に評価でき、児童生徒の意欲にもつなげることができる。また、指導者は指導開始時に設定した指導目標や指導方針の妥当性について評価を行うことが大切である。その結果をもとに、指導目標や指導内容、指導方法や使用する教材教具について改善したり、新たに設定したりすることが大切である。

また、指導目標の達成状況や個々の課題等について、校内委員会を中心に教師間で共通理解を図ることも大切である。

第3節 教育課程編成及び指導計画作成のための資料

1 小学校における教育課程編成と全体計画例

(1) 児童の実態の把握

ア 児童数

学年	1	2	3	4	5	6	合計
男子	1	0	2	1	0	1	5
女子	0	0	1	0	0	0	1
合計	1	0	3	1	0	1	6

イ 児童の実態

- ・ 本学級は、6名の児童が在籍する。
- ・ 好き嫌いやマナーなど食事面での課題がある児童もいるが、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。
- ・ 言葉の理解及びコミュニケーションにおいて困難な児童が多く、そのために行動が止まってしまうたり友達とトラブルになったりし、問題行動を起こしてしまうことがある。
- ・ 興味の幅が狭いが、好きな遊び、得意な活動や学習には、集中して取り組むことができる。
- ・ 体を動かすことが好きで、休み時間は校庭で遊ぶ児童が多い。
- ・ 通常の学級において、1名の児童が、週8時間の交流学习を行っている。

以上の実態を踏まえて、以下のような教育課程の編成を行う。

(2) 学級目標の設定

ア 学校教育目標 (例)

- ・ 心豊かでやさしい子
- ・ 進んで学ぶ子
- ・ 健康でたくましい子

イ 学級の教育目標 (例)

- ・ 友達となかよくしよう
- ・ 最後まで話をきこう
- ・ 外で元気に遊ぼう

特別支援学級の目標は、学校教育目標に基づき、児童の実態及び発達の段階や特性を十分に考慮し、各学校の教育課題に応じた内容を設定する。

(3) 指導の重点

学校教育目標及び学級の教育目標を踏まえて指導の重点を設定する。

- ・ 児童の障害の状態及び特性等に応じた具体的な指導目標を設定し、指導の工夫を図る。
- ・ 一日の学習や活動の流れを提示することで見通しをもたせて情緒の安定を図り、落ち着いた一日を過ごせるようにする。
- ・ 基礎学力の向上に努め、それを日常生活に生かす能力を養う。
- ・ 児童の将来の自立に向け、基本的な生活習慣を養う。
- ・ 交流及び共同学習での体験を積み重ねることで対人関係を豊かにし、社会性を養う。

(4) 年間授業時数

ア 1年生の例

国語	136時間
算数	136時間
音楽	68時間
図工	68時間
体育	102時間
生活	102時間
自立活動	170時間
道徳科	34時間
特別活動	34時間
総授業時数	850時間

各教科等の時数は、教育支援プランBに基づき、児童の実態に応じて適切に設定する。

ただし、総授業時数は、小学校の各学年における総授業時数に準ずる。

イ 6年生の例

国語	140時間
算数	175時間
理科	35時間
社会	35時間
音楽	35時間
図工	50時間
家庭科	35時間
体育	90時間
総合的な学習の時間	70時間
外国語	70時間
自立活動	175時間
道徳科	35時間
特別活動	35時間
総授業時数	1015時間

(5) 日課表の作成

ア 1年生の例

時	月	火	水	木	金
朝	読書	学習	朝会☆	読書	学習
1	特別活動	音楽	生活	体育	体育
2	国語	体育*	算数	道徳	音楽*
3	国語	国語	図工	国語	生活
4	算数	算数	図工	算数	生活
昼	給食☆・清掃・昼休み				
5	自立活動				

イ 6年生の例（週8時間の交流学習を行っている）

時	月	火	水	木	金
朝	読書☆	学習☆	朝会☆	読書☆	学習☆
1	体育☆	理科	体育	算数	算数
2	国語	体育*	総合☆	道徳☆	音楽*
3	国語	国語	図工	国語	総合
4	算数	算数	図工	算数	社会
昼	給食☆・清掃☆・昼休み				
5	自立活動				
6	外国語☆	外国語☆	クラブ☆ 委員会☆	総合☆	家庭科☆

☆通常の学級での
交流及び共同学習

*知的障害特別支援学級と
合同

原則は、小学校学指導要領によるものであるが、学級や児童の実態を考慮し必要な場合は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動を合わせて行うことができる。また、児童の実態や教育的ニーズにより、交流及び共同学習を実施する。

ウ 本事例の教育課程編成上のポイント

- ・ 日課表の作成に当たっては、①見通しがもてるようにできるだけ带状にする、②生活のリズムをつくるため体育を早い時間に取り入れる、などの工夫をした。
- ・ 自閉症・情緒障害特別支援学級であるため、「自立活動」は必ず位置付けることとした。個別の目標を明確にして個別や集団で指導を行う。
- ・ 体育、音楽等は知的障害特別支援学級と合同の学習形態とする。
- ・ 児童の実態に応じて、交流学級の担任と連携し、交流及び共同学習を行う。そのため、個別の日課表を作成する。

(6) **交流及び共同学習の計画**

交流及び共同学習の計画においては、教育課程上の位置付けや評価計画、交流及び共同学習の形態、内容、回数、時間、場所、役割分担、協力体制等について十分に検討することが大切である。また、児童が、無理なく継続的に参加できる計画を立てる必要がある。

(7) **指導計画の作成**

ア 年間指導計画の作成

年間指導計画の作成においては、教育目標や教科等の目標との関連を図りながら、児童や学校、地域の実態を考慮して作成する必要がある。また、学校行事等を考慮し、各教科、単元の時期や指導期間などを設定していく必要がある。さらに、指導の形態ごとに指導計画を作成し、指導目標や指導内容、時間配当を設定する必要がある。

年間指導計画は、児童の変容に合わせて随時、加筆・修正を行う。また、各学校の実状を踏まえた上で、常に児童生徒の成長や本人・保護者のニーズに合わせて作成する必要がある。

イ 教育支援プランA・教育支援プランBの作成

教育支援プランA・教育支援プランBについては、「Ⅱ 第2章 第2節」及び巻末資料を参照のこと。

自閉症・情緒障害特別支援学級 年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	始業式 入学式 1年生を迎える会 離任式	健康診断 なかよし遠足 (1・6年) 新体力テスト	プール開き 学校公開 音楽鑑賞教室 硬筆展	終業式	始業式 引き渡し訓練 発育測定 秋季大運動会	修学旅行(6年) 社会科見学 (3・4年) 音楽発表会	校内持久走大会 生活科校外学習 (1・2年)	合同作品展 終業式	始業式 校内書初め展 避難訓練 学校公開	なかよし遊び	6年生を送る会 卒業証書授与式 修了式
生活	1学期のめあてを考えよう	こいのぼりを作ろう	梅雨を楽しもう	七夕飾りを作ろう	2学期のめあてを考えよう	お月見会をしよう	音楽会ががんばろう	クリスマス会をしよう	3学期のめあてを考えよう	豆まきをしよう	おひな様を作ろう
生活	お誕生会をしよう 花や野菜をそだてよう										
国語	鉛筆の持ち方、運筆、視写、読み聞かせ、物語を楽しもう 平仮名を書こう 漢字をおぼえよう 硬筆(ていねいに書こう) 学習した漢字を使い日記を書こう 平仮名、拗音、促音、長音、口頭作文を書こう 日記・作文を書こう 漢字のなり立ちや部首を知ろう 出来事の順を追って作文を書こう 毛筆の使い方 一年をふりかえろう										
算数	数の基礎概念 5までの数(合成・分解) 10までの数(合成・分解) くり上がりのない加法 くり上がりのない減法 くり上がりのある加法 くり下がりのある減法 文章問題 3, 4, 5位数 筆算 かけ算九九 わり算 かけ算・わり算の文章題 長さ 重さ 面積 体積 小数 分数 等号・不等号 三角形 四角形 多角形 円 球										
社会	わたしたちの市の様子 わたしたちのくらしと仕事 くらしのうつつりかわり 安全なくらし 住みよいくらし わたしたちの埼玉県 わたしたちの日本 日本の歴史 いろいろな国を調べよう										
理科	自然の観察をしよう 植物を育てよう 昆虫を育てよう 季節と生き物(春夏秋冬) 生命のつながり 天気と気温 天気の変化 星や月 地球と太陽 プラネタリウム見学 ものの溶け方 磁石の不思議 豆電球に明かりをつけよう 体のつくり										
図工	自分の顔 離任式プレゼント作り										
音楽	校歌 市民歌 今月の歌										
体育	鍵盤ハーモニカ リズム 音あて 合奏 ハンドベル										
家庭科	調理器具の使い方、ゆで卵作り 針と糸にチャレンジ										
総合的な学習の時間	ひまわり畑で野菜をつくらう(土作り、種まき、苗植え、植物の世話、収穫、調理) なんでもチャレンジ(竹の子掘り、グリーンピースのさやむき、トウモロコシの皮むき)、英語に親しもう、パソコンに親しもう										
外国語活動	歌、ゲームなどを通して、異文化に触れ、様々な表現方法を行う アルファベット ローマ字 あいさつ すきなもの 果物・野菜・動物・色・数字など										
道徳科	善悪の判断、正直・誠実、節度・節制、個性の伸長、希望と勇氣、真理の探究、親切・思いやり、感謝、礼儀、友情・信頼、相互理解・寛容、規則の尊重、公正・公平・社会正義、勤労・公共の精神、家族愛、よりよい学校生活、伝統と文化の尊重、国際理解、生命の尊さ、自然愛護、感動・長敬の念、よりよくいきる喜び										
自立活動	生活リズムや生活習慣の形成 情緒の安定 対人関係の基礎 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 姿勢と運動・動作の基本的技能 作業の円滑な遂行 コミュニケーションの基礎的能力 言語の受容と表出 言語の形成と活用 状況に応じたコミュニケーション										
特別活動	話し合い活動(生活目標・行事・学級のきまり) たてわり班活動 クラブ・委員会 学級活動(学級や学校での生活の仕方、基本的な生活習慣の形成、よりよい人間関係の形成、心身ともに健康で安全な生活態度の形成、食育や食生活の形成、キャリア形成)										

各教科

2 中学校における教育課程編成と全体計画例

(1) 生徒の実態の把握

ア 生徒数（名）

学年	1	2	3	合計
男子	1	2	1	4
女子	1	1	0	2
合計	2	3	1	6

イ 生徒の実態

- ・ 本学級は、6名の生徒が在籍する。
- ・ 明るく前向きに行動できる生徒が多い。
- ・ 基本的な生活習慣の定着に課題がある生徒もいる。
- ・ 休み時間等に、友達と適切にコミュニケーションがとることが難しい。

以上の実態を踏まえて、以下のような教育課程の編成を行う。

(2) 学級目標の設定

ア 学校教育目標（例）

- ・ 自立：自ら考え判断し行動できる生徒
- ・ 協働：仲間と協力できる生徒
- ・ 貢献：他の喜びを自分の喜びとできる生徒

イ 学級の教育目標

- ・ 自分で考えて主体的に行動できる生徒
- ・ 仲間と力を合わせて活動できる生徒
- ・ 周りの人のために行動できる生徒

特別支援学級の目標は、学校教育目標に基づき、生徒の実態及び発達の段階や特性を十分に考慮し、各学校の教育課題に応じた内容を設定する。

(3) 指導の重点

- ・ 自立活動は6区分27項目について、個々の障害の実態に応じて内容を設定する。（全てを扱うものではない）
- ・ 各教科等を合わせた指導（生活単元学習や作業学習）を行うことにより、体験的な活動や将来の職業生活や社会生活に必要な事柄を総合的に学習する。
- ・ 生徒個々の能力に応じて各教科の基礎的・基本的な内容を身に付けさせ、授業においては、取り組みやすいように授業の流れを提示するなど、分かりやすく設定する。

(4) 年間授業時数（1年生 特別支援学級の例）

国語	140時間
数学	140時間
社会	35時間
理科	35時間
技術・家庭	105時間
外国語	70時間
美術	70時間
音楽	35時間
保健体育	105時間
自立活動	175時間
総合的な学習の時間	70時間
道徳	35時間
総授業時数	1015時間

各教科の時数は、各教科の内容を考慮し、適切に設定する。ただし、総授業時数は、中学校の各学年における総授業時数に準ずる。

(5) 日課表の作成

ア 本事例の教育課程編成上のポイント

- ・ 生徒の実態や将来を見据えた学習上の観点から、技術・家庭を標準時数より多く設定した。

イ 日課表作成上の留意点

- ・ 一日及び一週間の活動に見通しがもてるよう、日課表をできるだけ带状に近い形で組む。
- ・ 交流学級の授業に参加している生徒については、交流学級担任や教科担当と打ち合わせを行い、交流及び共同学習が良好に行えるように連携をする。また、個別の日課表を作成した。

ウ-1 特別支援学級を基本としている時間割 ウ-2 教科の交流授業に出ている1年生生徒の例
 生徒の実態や希望に合わせて交流を組み込む

☆は交流授業

※は他の学級（知的障害特別支援学級）と合同

時	月	火	水	木	金
朝	読書				
1	自立活動				
2	技・家	技・家	※総合	外国語	美術
3	国語	技・家	※総合	数学	美術
4	国語	数学	国語	数学	国語
昼	給食・清掃・昼休み				
5	※保体	理科	※保体	社会	※保体
6		外国語	数学	道徳	音楽
放	部活動・委員会活動				

時	月	火	水	木	金
朝	読書				
1	自立活動			理科☆	外国語☆
2	外国語☆	技・家	総合	技・家	美術
3	作業	外国語☆	総合	技・家	美術
4	国語	数学	理科☆	数学	国語
昼	給食・清掃・昼休み				
5	理科☆	社会☆	保体	社会☆	保体
6		外国語	外国語	音楽	道徳☆
放	部活動・委員会活動				

(6) 交流及び共同学習の計画

交流及び共同学習の実施においては、全体計画、年間指導計画、活動ごとの指導計画を作成する必要がある。その際、教育課程上の位置付け、評価計画、交流及び共同学習の形態や内容回数、時間、場所、両者の役割分担、協力体制等について事前に十分検討することが大切である。

(7) 指導計画の作成

ア 年間指導計画の作成

指導計画は、個々の生徒の障害の状態や経験等を考慮しながら、実際に指導する内容を選定し、配列して、具体的に指導内容を設定する。指導内容は、個々の生徒の実態に応じて、生活や進路に結び付いた効果的な指導を行うとともに、生徒が見通しをもって意欲的に学習活動に取り組めるように配慮する。すべての指導において、生徒の障害の実態を的確に把握し、具体的な指導目標及び指導内容・方法・手立てを明確にして、教育支援プランBを作成する必要がある。

イ 教育支援プランA・教育支援プランBの作成

※「Ⅱ 第2章 第2節」及び巻末資料を参照

自閉症・情緒障害特別支援学級 年間指導計画

指導の形態	前期					後期						
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
各教科	行事	・始業式 ・入学式 ・対面式 ・離任式	・春季ふれあいピック ・体育祭	・修学旅行(3年) ・小・中合同交流会	・大滝林間学校(2年) ・キャリア教育(1年)	・秋季ふれあいピック ・校外体験学習	・終業式 ・始業式 ・校内音楽会	・市内中学校交流会	・社会体験(1年)	・高等学園入学選考 ・企業見学 ・駅伝大会	・特別支援学校入学選考 ・アート展 ・見学	・三送会 ・卒業式 ・修了式 ・マツソ大会
	国語	自己紹介 ・新入生歓迎会 学校探検 ・学級の係りと 学級目標、 個人目標 ・GWの過ごし方	硬筆練習 ・修学旅行を 成功させよう ・全力で体育祭 に参加しよう ・母の日に向けて	川柳作り 友達 増やそう 交流会	暑中見舞い 夏休みの 生活 キャリア 体験学習へ GO(1年生)	思い出作文 夏休みを 振り返って 秋ふれあい ピックに 向けて	恩師への手紙 前期を 振り返って 成功させよう 音楽会	年賀状作り 学級の係と 個人目標 力を合わせ て勝利へGo	書き初め練習 目標達成 校内販売会 テーブル マナー	思い出作文 今年の目標 豚汁作り	丁寧な言葉遣い 市役所・百貨店 販売学習	文集作り テーブルマナー 3年生を 送る会 一年間を 振り返って
	数学	四則計算	時刻と時間 計算文章題	公共機関の 利用	金銭実務 小遣い帳	レストランの 利用	前期のまとめ 確認テスト	公共機関の 利用	金銭実務 小遣い帳	公共機関の 利用	公共機関の利用 時刻表の見方	レストランの 利用
	理科	春の観察 (植物、動物)	動植物の 変化	化学変化 実験	自然の観察 実験	自然の観察 実験	人体の仕組みと働き	生命の誕生	生命の誕生	気象と 天気図	物質の 変化実験	太陽熱の 利用
	音楽	校歌・ハンドベル	校歌・ハンドベル	季節の歌	リトミック	音楽会に向けて	音楽会に向けて	季節の歌	リトミック	季節の歌	三送会に向けて	卒業式の歌
	美術	クラス旗作り	虫歯予防ポスター	アプロビス	小物入れ作り	小物入れ作り	音楽会ポスター	絵手紙	クリスマス	壁掛け	ちざり絵	一年のまとめ
	保健体育	集団行動 スポーテスト	体育祭に 向けて	交流会に 向けて	水泳・ 器械運動	ソフトボール	卓球	卓球	バドミントン	卓球	持久走・サッカー	
	技術・家庭	紙漉き用牛乳パック回収・切り			折り紙切り 付箋教え		製品作り					
	外国語	自己紹介 英語の歌	身近な英語 「天気」	身近な英語 「スポーツ」	身近な英語 「食べもの」	身近な英語 「職業」	身近な英語 「道具」	身近な英語 「果物」	クリスマスカードを 作ろう	身近な英語 「果物」	ジェスチャー ゲーム	作業用具の メンテナンス 一年のまとめ
	道徳科	※学校生活全般においても、指導の充実を図る 思いやり・規則の尊重・人権尊重・役割と責任・生命尊重・健康と安全・助け合い										
	特別活動	行事	入学式 始業式	修学旅行	夏休みの きまり	校外体験学習	校内音楽会	中学校 交流会	社会体験学習	進路 選択・決定	アート展 見学	卒業式
		学活	学級目標 係の仕事	家での手伝い	食事と健康	運動と健康	運動と健康 家での手伝い	後期の目標 係の仕事	風邪の予防	余暇活動	危機管理	上級生 としての行動
自立活動	生活リズムや生活習慣の形成 情緒の安定 対人関係の基礎 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 姿勢と運動・動作の基本的技能 作業の円滑な遂行 コミュニケーションの基礎的能力 言語の受容と表出 言語の形成と活用 状況に応じたコミュニケーション											
総合的な 学習の時間	テーマ「かけがえのない自分 かけがえのない健康」 ・心の健康 ・喫煙、飲酒と健康 ・健康と食事、調理実習 ・絵手紙の作成 ・郷土埼玉を知る「新さいたま郷土カルタ」 薬物乱用防止 テーマ「かけがえのない自分 かけがえのない健康」 ・不適切な誘いの断り方 ・健康的な食事、調理実習 ・感染症について ・絵手紙の作成 ・広く郷土を知る「埼玉県とのかかわり」 ・健康カレンダーの作成 ・卒業お祝い製作 先輩への感謝の気持ちを伝えよう											

3 実態把握の実際

(1) 実態把握の内容

本章第2節1にもあるように、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒の状態や行動特性は様々である。また、環境要因や内面的な変化（緊張や不安等）によっても行動は大きく変化する。そのため、自閉症・情緒障害特別支援学級の児童生徒の実態把握は、状態像のみにとらわれずに、本人を取り巻く生活環境や行動特性を把握し、それに基づいて「なぜその行動をとるのか」「いつその行動が出るのか」など、望ましい行動ができた時や行動を起こす背景を探りつつ観察を行う必要がある。その実態把握を基に課題分析をし、行動変容に結び付くように教育支援プランAや教育支援プランBを立てることが重要である。

ア 実態把握の項目【表1】【表2】【表3】

児童生徒のこれまで及び現在の生活環境に関する情報収集をする。

- ・家庭環境（構成，年齢）
- ・生育歴（出生時，新生児・乳児期，幼児期）
- ・相談歴（教育相談，発達相談，幼稚園及び保育園への巡回相談，諸検査結果）
- ・療育歴（療育機関名，諸検査結果）
- ・医療歴（医療機関名，診断名，諸検査結果，服薬の有無と薬品名）
- ・教育歴（幼稚園，保育所，小学校，中学校，就学猶予の有無）
- ・福祉歴（福祉機関名，家庭児童相談員，学童保育，放課後等デイサービス）
- ・保健所や児童相談所への相談歴
- ・療育手帳，身体障害者手帳，精神障害保健福祉手帳の有無と，その等級
- ・基本的な生活習慣（排泄，食事やアレルギー，着脱衣，その他の癖や生理や体調など）
- ・行動面（こだわり，常同行動，自傷行為，多動，感覚過敏，情緒の安定など）
- ・認知状況（学力，知的発達，心理的発達，感覚機能の状態など）
- ・運動状況（粗大運動，微細運動，協応性，巧緻性，心肺機能など）
- ・社会性，コミュニケーション能力
- ・興味・関心（好きなキャラクター，好きな教科など）
- ・余暇時間の過ごし方
- ・保護者の願い，合理的配慮 など

イ 実態把握のための関係諸機関との連携

実態把握をする場合は保護者のみならず，関係諸機関との連携も重要である。

〈小学校〉

- ・就学前の情報については教育委員会や教育相談室などからの資料及び保護者からの聴取とともに，幼稚園，保育所，相談機関，療育機関，医療機関，福祉機関，保健所，児童相談所などとともに連携を図り，正確な資料となるようにする。
- ・転入の場合は前在籍校の担任と連携し，それまでの学校生活の状況や家庭環境などを把握する。

〈中学校〉

- ・教育委員会や教育相談室からの資料及び保護者からの聴取とともに，小学校担任，特別支援教育コーディネーター，相談機関，療育機関，医療機関，福祉機関，保健所，児童相談所などとともに連携を図り，正確な資料となるようにする。
- ・転入の場合は前在籍校の担任，各教科担任，特別支援教育コーディネーター及び関係諸機関と連携し，それまでの学校生活の状況や家庭環境などを把握する。

ウ 諸検査

年齢，障害の状態に応じた諸検査を実施することは，発達の偏りや遅れを把握するための手立てとして有効である。ただし，検査の実施や結果の分析は経験と知識のある専門性の高い者が行うべき点に留意したい。また，IQ（知能指数）などの数値だけにとられることなく，検査中の様子なども含めて，総合的に判断する必要がある。

(2) その他の実態把握

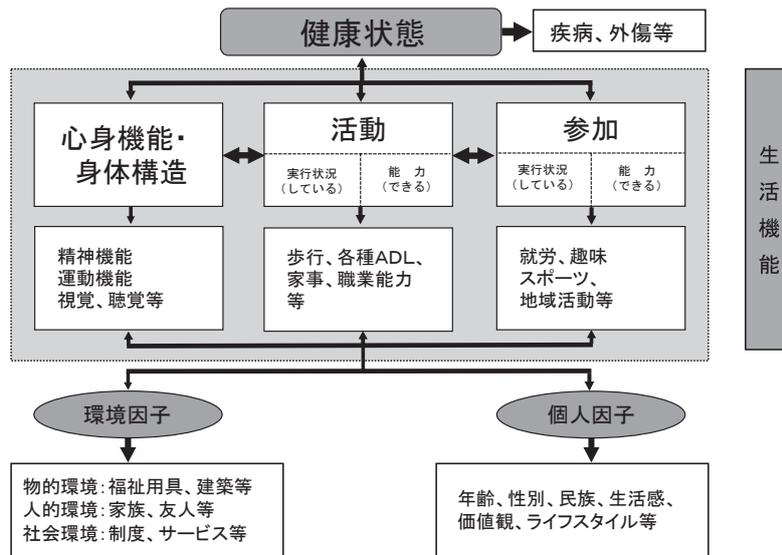
ア 「ほんとうのわたしを見つけて Ver.2（認知・行動評価法）」

埼玉県立総合教育センターから出されているアセスメントの一つである。LD（学習障害）の他，ADHD（注意欠陥多動性障害），高機能自閉症が疑われる児童生徒の実態把握にも使えること，担任がすぐ使えること，必要な配慮や支援，指導の立案を短時間でできる

ことなどを目指したものである。該当の項目にチェックを入れるだけで認知・行動の特性がグラフとして表示されるため、簡潔な作業で結果を得ることができる点が最大の利点である。ただし、正確な実態把握のためには専門機関で他の諸検査を実施し、多方面からの情報収集をすることが望ましい。

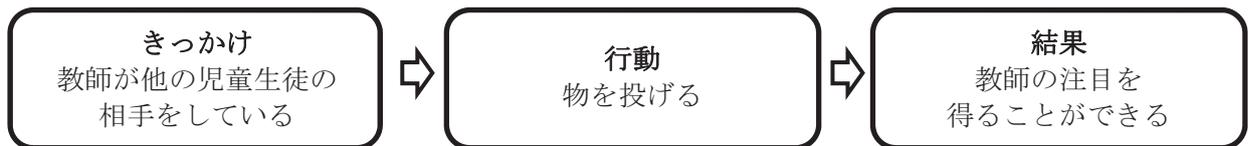
イ ICF

国際生活機能分類（ICF）は、2001年に世界保健機関（WHO）によって採択された、人間の生活機能と障害について分類して示したものである。概念図では健康状態、心身機能、身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子がそれぞれ相互関係をもちながら構成される。児童生徒や取り巻く環境を概念図に当てはめて考えることで、関係諸機関と共通理解や連携を図りながら活動、参加のための実態把握や支援方法の検討ができる点が特徴である。



ウ 応用行動分析

人の行動を環境との相互作用によって生じると考え、行動の理由や意味を環境との関係の中で分析していく考え方である。課題となる行動の前後の出来事に着目し、きっかけ、行動、結果に分けて分析することで、不適切な行動をなくし適切な行動に導くことをねらいとしている。行動の意味や理由を探ることで、より本質的な実態把握につながる。



(3) 情報の集約と活用

前述の(1)、(2)によって得られた情報をもとに、教育支援プランA・教育支援プランB（※巻末資料参照）へとまとめる。そこから児童生徒の特性や主訴など個別の課題を見出し、目標を明確にして学校生活等での実際の指導、支援に活用する。しかしながら、児童生徒の実態は日々刻々と変化していくため、定期的の実態把握と個別の課題設定と検証をPDCAサイクルで繰り返し見直す必要がある。また、校内や関係諸機関と情報共有し、共通理解のもとで進めていく必要がある。

【表1】実態把握項目一覧表

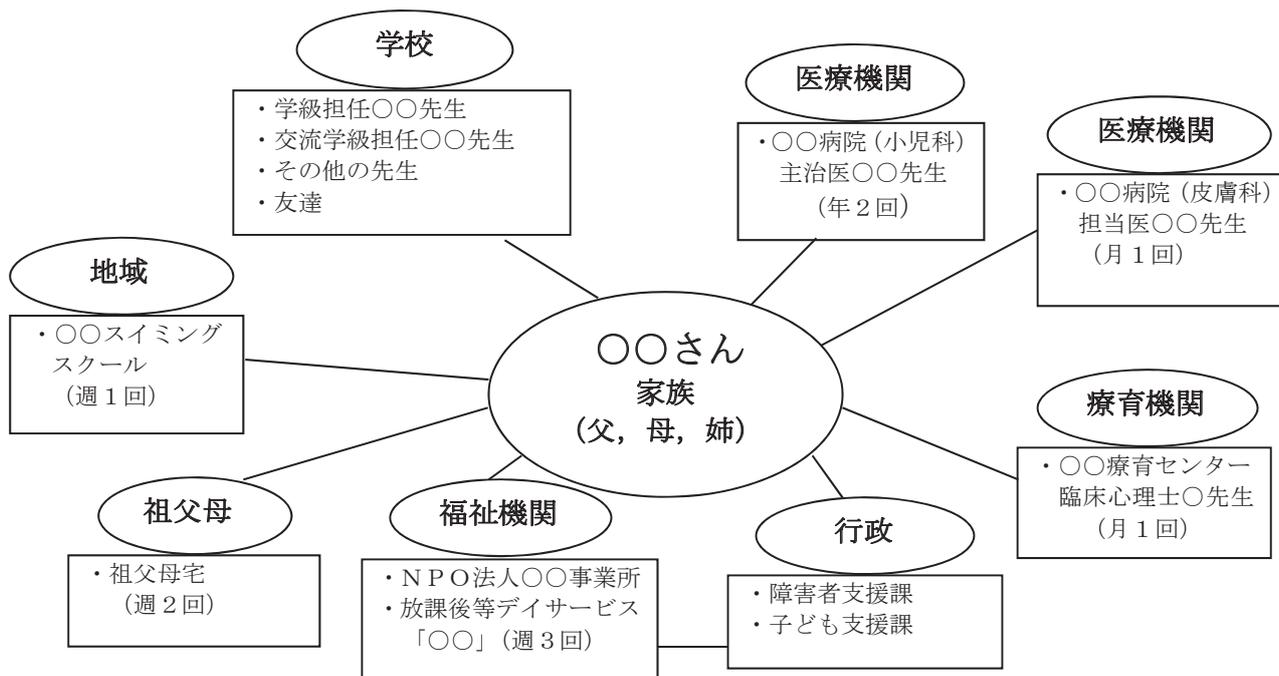
項目	内容	実態把握のポイント	実態把握の方法(例)
家庭環境	・家族構成, 年齢, 住所, 連絡先	・生活環境にも留意する	・学校配布の調査票 ・教育委員会の資料
障害の状況	・医学的診断名 ・主訴, 課題の概要 ・現在の状態	・基礎疾患, 合併症, 発作の有無 ・服薬の状況(薬品名) ・心身の状態	・保護者面談 ・教育委員会の資料 ・医療機関との連携
障害者手帳	・取得している障害者手帳	・療育手帳, 身体障害者手帳, 精神障害保健福祉手帳の有無と, その等級	・保護者面談 ・学校配布の調査票 ・福祉機関との連携
諸検査	・心理, 発達, 知能検査結果	・知的, 心理的, 発達の状態等の客観的把握	・保護者面談 ・関係諸機関との連携
生育歴	・生育歴	・乳幼児期～現在まで(始歩, 始語)	・保護者面談 ・学校配布の調査票 ・幼保, 小, 中の連携 ・教育委員会の資料 ・医療機関との連携 ・療育機関との連携 ・保健機関との連携 ・福祉機関との連携 ・保健所との連携 ・児童相談所との連携
	・定期検診	・乳幼児検診 ・就学時健康診断	
	・相談歴	・公的機関, 民間機関における相談歴	
	・療育歴	・療育機関における支援内容	
	・医療歴	・医療的支援内容(病院名, 診断名, 服薬)	
	・教育歴	・就学前～現在までの教育的支援内容(幼保, 小, 中学校) ・就学猶予の有無	
福祉歴	・福祉歴	・福祉機関名, 家庭児童相談, 学童保育, 放課後等デイサービス	
基本的な生活習慣	・日常生活動作	・食事(偏食, アレルギー)・排泄・衣服の着脱・衛生(入浴, 手洗い, 衣服等)・整理整頓	・保護者面談 ・学校配布の調査票 ・学校生活での観察
身体運動機能	・粗大運動・微細運動 ・協応性・巧緻性 ・心肺機能	・歩行, 走り方, 体操・つまむ, 貼る, 箸やハサミの扱い ・ボール運動, 水泳・持久走等	・授業や活動を通しての観察 ・新体力テスト
認知能力	・学力 ・知的, 心理的発達 ・感覚機能の状態	・学習状況・指示理解・言語理解・表出言語・描画・ボディイメージ・視覚, 聴覚認識	・幼保, 小, 中の担任等との連携 ・授業中の観察
行動特性	・こだわり ・常同行動 ・パニック(自傷行為等) ・多動 ・感覚過敏, 情緒の安定	・原因と結果の関係の把握 ・行動パターンの確認	・保護者面談 ・学校配布の調査票 ・学校生活での観察
社会性, コミュニケーション	・対人意識 ・集団参加 ・コミュニケーションスキル ・意思伝達の行動特性	・他者への意識 ・遊び, 学習等集団における行動 ・緘黙の状態や意思表示の段階の把握	・保護者面談 ・学校配布の調査票 ・学校生活での観察
合理的配慮	・保護者の願い	・家庭と学校とで合意形成を図る	・保護者面談
本人情報	・興味・関心 ・余暇時間の過ごし方	・好きな食べ物や教科等 ・習い事等	

【表2】児童生徒の実態把握のための調査用紙（保護者記入用）例

年 月 日 記入

(ふりがな) 名前		生年月日	西暦	年	月	日生
本人について						
生育歴 ※特記事項があれば ご記入ください。	出生時 新生児期					
	3~4か 月健診					
	1歳6か 月健診					
	3歳児 健診					
	4歳～ 入学前					
受診歴・療育歴		例「3歳児健診後、〇〇病院の発達外来を受診する」 「〇年〇月より〇〇療育センターにて、月に2回のOTを受けている」等				
主治医・担当医		例「〇〇病院 児童精神科〇〇先生」「〇〇療育センター 作業療法士〇〇先生」等				
諸検査		※個別式知能検査等の名称や具体的数値、受検年月を分かる範囲でご記入ください。				
診断名						
障害者手帳 ※「無」「有」いずれかを○で囲んでください。また、「有」の場合、手帳の種類、等級等を○で囲み、取得年月日を記入してください。		無 有 (・療育手帳 ①, A, B C 取得年月日 年 月 日) (・精神障害者手帳 1級 2級 3級 取得年月日 年 月 日) (・身体障害者手帳 () 取得年月日 年 月 日)				
服薬 ※「無」「有」いずれかを○で囲んでください。また、「有」の場合、薬品名等を記入してください。		無 有 薬品名 () 服用は (朝 ・ 昼 ・ 夜 ・ 就寝前 その他 ())				
行政・福祉		例「〇〇市相談支援事業所△△…障害児支援利用計画案の立案」 「放課後等デイサービス〇〇…月、水の週2回利用、学校へのお迎えあり」等				
習い事 余暇の過ごし方						
好きなこと 集中できること						
苦手なこと						
こだわり 気になること						
保護者の願い						
今年度 生活面で できるように なってほしいこと		※食事・着替え・トイレ・遊び・コミュニケーション 等				
今年度 学習面・運動面で できるように なってほしいこと		※読む・書く・聞く・話す・計算する・数・運動 等				
卒業までに できるように なってほしいこと						
ご家庭で 気を付けていること						
その他知らせて おきたいこと						

【表3】児童生徒を取り巻く環境の図式化（例）



特性・実態	児童生徒への指導例	自立活動の視点 (例)					
		健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
集団行動	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の雰囲気の経験の積み重ねをする。 ・集団参加の手順やきまりの理解をする。 			○			○
友達とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニングを行う。 ・友達との関係性の中でトラブルがあった際に自分で気持ちを安定しようとする学習をする。 		○	○			○
状況に応じた行動	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に予測できる内容について話をする。 ・自分で気持ちを落ち着かせる方法や援助を求める方法を学習する。 		○		○		
意思表示	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の気持ちをくみ取り、言語化をしていく。 ・気持ちを選択できるようなカードを活用する。 		○	○			○
細かい手指の作業	<ul style="list-style-type: none"> ・工程作業についてスモールステップで取り組む。 				○	○	
活動の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの時間を明確にする。 ・休息する時間と取り組む時間を明確にし、自ら課題へ取り組めるよう配慮する。 		○		○		
こだわり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこだわりを理解し、どのように向き合っていくかについて指導する。 		○				
感覚過敏または、鈍麻	<ul style="list-style-type: none"> ・過敏または鈍麻であることを自覚している場合は、事前に援助方法を自ら申し出るように伝える。 	○	○		○		
集団での学習	<ul style="list-style-type: none"> ・座席の配慮をする。 ・視覚教材を用いるなど、注意が向くような工夫をする。 ・説明や指示を聞く準備を整えてから指示を出す。 ・指示を出した後に理解できたかを確認する。 				○		
選択性のかん黙	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを支援具などで伝える方法の学習をする。 ・リラックスしてよい表情が出せる環境を用意する。 		○	○			○
活動に消極的	<ul style="list-style-type: none"> ・成功体験や称賛体験から取り組もうとする姿勢を育む。 ・主体的な活動を促す環境や成功体験が積めるような活動の設定をする。その中で励ましや称賛を即時に行う。 		○				

(4) 特性と支援

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒の中には、知的障害のある児童生徒から知的障害のない児童生徒まで在籍することがある。自閉症や情緒面での障害を伴うこともあり、個々に応じて実態差が大きく違う。様々な特性や実態の児童生徒に対して自立活動の視点を活用し、指導・支援を考え、教育支援プランA・教育支援プランBに反映できるようにする。

- ※ 自立活動の視点は主たる観点で記載している。
- ※ 個々の実態に応じて自立活動の視点は異なる。

4 自立活動の指導計画

本章第1節の5にもあるように、自立活動は自閉症・情緒障害特別支援学級において必ず取り組むものである。ここでは、自立活動の指導計画作成の手順等を紹介する。

- ① 課題の整理と中心的課題の設定
- ② 教育支援プランBの作成へ
- ③ 学習形態の工夫と指導場面の構造化
- ④ 教材・教具（例）
- ⑤ 指導の例示

(1) 課題の整理と中心的課題の設定

自立活動の指導目標・指導計画立案の手順

ア 児童生徒の実態把握①（例）

- 自閉症・情緒障害特別支援学級 小学4年生（軽度の知的障害，ADHD傾向がある）
 - ・ 多動多弁で視覚聴覚どちらの刺激にも反応しやすい。すぐに行動してしまう。
 - ・ 集中の持続が短い。離席，時に教室からの飛び出しもある。授業中のあくびが多い。
 - ・ 相手と折り合いを付けることが苦手で，泣いたり，手が出たりする。自分の気持ちを立て直すのに時間が掛かる。
 - ・ 算数の理解に比べて，文字（ひらがな・カタカナ）の習得は困難さがある。覚えたことが定着しにくい。
 - ・ 姿勢が崩れやすい。物にぶつかりやすい。運動は全般的に苦手である。
 - ・ 手先は器用で，発想が豊かで工作などを好んで取り組む。ストーリーを作りながら，想像力を膨らませて物作りなどをする。
 - ・ 人と関わるのが好きだが，自分の思いを伝えることが苦手だと感じている。

イ 指導形態の選択

児童生徒の実態（本節の3 実態把握 参照）から，本章第1節の3に示されている自立活動の内容6区分に照らし合わせ，実態を整理する。

(ア) どの学習場面で自立活動の指導を行うかを検討する。

(イ) 自立活動は，「時間における指導」を基本とするが，教育活動全般において行われるものである。様々な場面の中で，まず取り組むべき課題を実態の中で整理しておくこと児童生徒の取り組むべき課題がはっきりする。

(ウ) 中心的課題は，教育支援プランB，自立活動「時間における指導」の目標とする。

「時間における指導」は児童生徒の実態や教育的ニーズに応じて適切な時間数を設定し，日課表の中に位置付ける。

ウ 情報の整理（例）

自立活動の内容6区分

（※本章3「実態把握の実際」参照）

実態把握②-1 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する					
1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
・睡眠時間が安定しない。食事や排泄の時間帯が一定ではない。	・初めて行う体験には不安が生じる。 ・意思の疎通がうまくいかない ・泣いたり，怒ったりする。 ・自分の不得意な所を自覚し始めており，劣等感を抱いている。	・特定の教師とのかかわりが中心。 ・相手の心情は気持ちが安定していれば分かることが多い。 ・人と関わりたいと思っている。	・周囲に気が散りやすい。 ・ひらがな，カタカナを覚えることが難しい。	・転びやすい。 ・姿勢が崩れやすい。 ・人や物にぶつかることが多い。	・自分の思いや感情を言葉にして話すことが苦手で相手に意思が伝わりにくい。イライラしやすい。 ・困った時に他者に援助要請しない。

エ 課題の選定・項目の関連付け・指導内容の設定

自立活動「時間における指導」での指導内容を設定するために、本児が今取り組むべき中心的な課題を選定し、具体的な指導内容が設定できるように、次のような手順を進める。

<p>実態把握②－２ 児童生徒の学習上または生活上の困難や、これまでの学習状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者に関心があり、伝えたいことがあるにも関わらず、相手に意思が的確に伝わらない。 ・困った時に援助要請できず、困った状況を解決する方法などが分からないでいる。また分からないと言えずにいる。伝わらない状況が続くと、気持ちが高ぶり、他者に対して苛立ったり、荒々しい行動を取ったりする。 ・相手や自分の言い分に対して、なかなか折り合いが付けられない。行動の切り替えがしにくい。 ・思うような学習の成果が感じられず、「ぼくはすぐに覚えられない」と今後の自分の困難さに気付きつつある。本児は自信を失い、今後、自己肯定感の低下が心配される。
--

<p>②－３ 児童生徒の３年後の姿 (例：ここでは３年後とする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の話を理解することや、状況に応じたコミュニケーションの取り方を段階的に身に付ける。 ・困ったことに直面した時に、自分で気持ちを落ち着かせて、他者に援助を求めたり、自分なりの考えを怒らずに言えたりする方法を段階的に身に付ける。 ・本児が自分の得意な所を理解し、活用できるようにしながら、自分をコントロールする方法を段階的に身に付ける。

指導目標及び指導内容の設定

<p>指導目標</p>	<p>一方的に思いや自分の解釈で話をするを段階的に調整しながら、伝え方を習得したり、相手の思いを受け入れたりしながら、落ち着いて話すことができる。</p>
<p>指導目標を設定した理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが落ち着かなくなった時、その状況を自分で収める方法を身に付けていない。(心)(身) ・他者と話をするときの基本的な話し方が身に付いていない。(人)(身) ・困ったことに直面したときに、他者への援助の求め方が身に付いていない。(コ) ・伝えたいことを整理して、話することが難しい。(コ) ・視覚的情報、日常的に繰り返し経験等が捉えやすく、学習に活用できる。(環) ・称賛されたり、評価されたりすると素直に前向きな態度をとることができる。(人)

指導目標及び指導内容を設定するための6区分27項目からの選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1)情緒の安定に関すること	(2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること	(2)感覚や認知の特性の理解と対応に関すること	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

具体的な指導内容の設定

<p>ア 小集団におけるゲーム等の活動を通してルールを守ることや負けた時の対応方法などを身に付ける。簡単なルールのあるゲームなどに取り組む。</p>	<p>イ 絵カードやロールプレイなどを活用し場面や状況に応じたコミュニケーションの仕方を経験できるように取り組む。自分を振り返りながら適切な行動を理解していく。</p>	<p>ウ 気持ちを安定させるために、クールダウンの方法を知る。また、不安なときは回避する方法や援助要請の方法を経験していく。</p>
--	--	--

(※参考：特別支援学校学習指導要領解説 <自立活動編>)

(2) 教育支援プランBの作成へ

指導に結びつく実態：記入例

6 区分毎に項目 (3)～(5)がある	指導に結びつく実態 * 課題
1 健康の保持	・睡眠時間が不十分であくびが頻繁に出る。起床時刻が遅く朝食を抜くことがある。 *生活リズムを改善する。
2 心理的な安定	・初めての体験には不安が生じる。物事に折り合いを付けることが苦手である。 ・成功経験が少ない。 *安定した気持ちでの取組 *自分のよさや得意なことへの気付き
3 人間関係の形成	・主張が受け入れられないと思って泣いたり相手に手が出てしまったりする。 *自己理解を促し、他者とのかわり方の経験
4 環境の把握	・周囲の刺激に敏感に反応する。音にすぐ反応する。 ・文字の習得に困難さがあり、他の能力と比べて顕著である。 *状況説明等で注意を向けさせ自己調整力を向上させる。 *言葉や行動への対応の仕方 *基礎学力の向上
5 身体の動き	・体の一部が動いてしまうため姿勢が崩れやすい。箸の持ち方や鉛筆の握り方を誤った形で獲得している。 *体幹を意識できる運動を行う。微細運動の向上
6 コミュニケーション	・意思の疎通がうまくいかない泣いたり怒ったりして気持ちを立て直すことが難しい。 ・言葉で意思表示する困難さがある。 *SSTの活用など

学習課題・目標, 指導内容の記入 (例)

	学習課題・目標	指導内容・方法・手だて	評価
自立活動	1 学期 場面や相手の気持ち, 状況の認知力を高める。	・SSTの絵カード等を活用し場面や状況の認知活用力の向上を図る。	
	2 学期 場面や相手の気持ち, 状況に応じたコミュニケーションの仕方を知る。	・ロールプレイ等も活用しながら場面や状況に応じたコミュニケーションの仕方を学習する。 ・実際の言葉を繰り返し使う機会をつくる。	
	3 学期 場面や相手の気持ちを考えたコミュニケーションの仕方を知る。	・絵カードやロールプレイも活用した場面や状況に応じた行動・コミュニケーションの仕方の定着を図る。	
日常生活	*生活リズムの改善に関する内容等を設定する。		
各教科等を合わせた指導, 各教科, 教科別の指導等も実態に基づくように, 目標に組み込めるとよい。			
体育			

自立活動には「時間における指導」と「教育活動全般における指導」がある。これらを自立活動の欄に分けて記入する場合がある。

また自立活動の指導だけで, 課題・目標を達成できるものではなく, 6区分に整理した内容を「各教科等を合わせた指導, 各教科, 教科別の指導」や「清掃指導や給食指導など」を関連させて指導することが望ましい。

(例)「5 身体の動き」が指導できる関連教科等
*体幹を整える → 体育, 自立活動
清掃活動等

*微細運動の向上→自立活動, 図画工作, 音楽, 家庭科, 給食, 清掃活動 等

- ・ 本来, 教育支援プランBの「指導に結びつく実態」に「*課題」は記入しない。
- ・ 児童の強み(得意・好きなこと・興味・関心等)は指導の手掛かりや方法につながる人が多い。記入し整理しておくとうい。

(3) 学習形態の工夫と指導場面の構造化

ア 学習形態

自立活動の内容は、各教科等のようにそのすべてを取り扱うものではなく、一人一人の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うものである。よって、「自立活動」の時間を設けて行う場合と、各教科等の授業の中で相互に関連付けて行われる場合がある。また、学校生活全般にわたって自立活動の視点をもって指導することは重要である。

指導に当たっては、本人の特性を踏まえて取り組みやすい環境設定・調整が重要である。指導の目標を達成する上で、効果的である学習形態を考えていく必要がある。

(ア) 個別指導

「一対一」や「一（教師）対複数（児童生徒）」における指導の場合においても、個々の課題に応じた教材の準備及び提示の仕方に留意する。

(イ) 小集団指導

個々のねらいを明確にした指導に留意する。

イ 学習環境等

(ア) スケジュールの提示

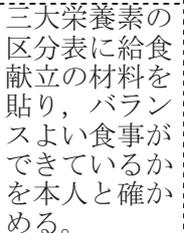
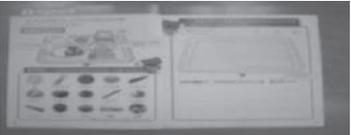
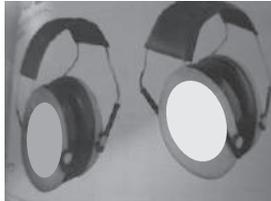
一日の予定や1単位時間のスケジュール、活動時間を提示することにより、活動の見通しがもてるようにする。

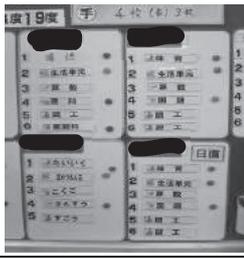
(イ) 授業の組み立て

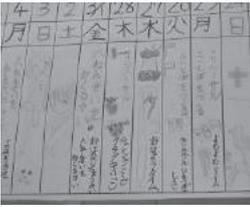
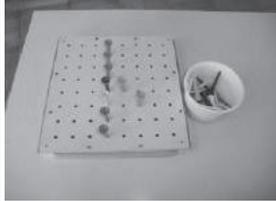
一日の流れや児童生徒の実態に応じて静的な活動（机上等で行う活動）と動的な活動、個別指導、小集団指導等を組み合わせて行うようにする。

- ・ 見通しをもてるようにする。（始めと終わりが分かりやすいような工夫）
- ・ 活動の流れにメリハリを付ける。
（15分×3課題・興味・関心→やや難しい→楽しい課題）
- ・ 個別指導の課題を設定する。

(4) 教材・教具（例）

区分	項目	指導内容と教材例		
1 健康の保持	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	偏食や決まった服しか着ないなど、特定のものや行動に対するこだわりへの指導例		
		食事指導（食事組み合わせシート） 	三大栄養素の区分表に給食献立の材料を貼り、バランスよい食事ができているかを本人と確かめる。 	季節に合った服装  夏と冬に着る服装の違いを学習する。
1 健康の保持	(5)健康の状態の維持・改善に関する事	運動量の不足や食生活の偏りなどの要因による肥満や体力低下		
		マラソンカード 	走った距離分のマスを塗っていき、月や学期毎に進捗を確認し、意欲を高める。 	食生活見直しカード 三大栄養素の区分表に食事の材料シールを貼り、バランスが取れているかを確かめる。
2 心理的な安定	(1)情緒の安定に関する事	安心できる場を設定して、情緒の安定を図る指導		
		衝立 	タイマー 	イヤーマフ 
		机上のみの衝立も活用	キッチンタイマーも活用	

3 人間関係の形成	(2)状況の理解と変化への対応に関すること	<p>急なスケジュールの変更などに伴い混乱したり、不安感を抱いたりすることに対する指導</p> <p style="text-align: center;">スケジュール表</p>  <p>マイスケジュールボードで、一日の行動を自分で管理する。</p>	<p style="text-align: center;">時間提示</p>  <p>始まりと終わりの時間を提示して集中できるようにする。</p>
	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること	<p>相手とのやりとりを苦手だと感じていることに対して、人と関わることに安心感を得られるようにする指導</p> <p style="text-align: center;">SSTカード</p>  <p>生活する中で起こりうる場面を想起させる。</p>	<p style="text-align: center;">ゲーム・ハンドベル</p>  <p>ゲームやハンドベル合奏を活用</p>
	(2)他者の意図や感情の理解に関すること	<p>適切な規模の集団を設定し協同活動を取り入れる中で、他者の意図や相手の感情を類推する指導</p> <p style="text-align: center;">風船・オセロゲーム</p> <p>風船キャッチでは、相手がとりやすいように投げる。オセロゲームでは、二人組で協力してゲームをすすめる。ゲームは、個人プレーもあるが、グループ対決にすることもできる。</p>	<p style="text-align: center;">カードゲーム</p> <p>いくつかのものを提示し、みんなが選びそうなものを決める。友達の好きなものや興味のあるものを考えるチャンスとする。</p>  <p>この中から二つ選ぶ。みんなは何を選んだか確かめる。</p>
	(3)自己の理解と行動の調整に関すること	<p>実際の場面を設定し、人との適切な対応の仕方等を身に付けていくことに対する指導</p> <p style="text-align: center;">SSTカード</p> 	<p style="text-align: center;">コミック会話</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 線画のみを用いる。 線画の人物・言ったことの吹き出し・思ったことの吹き出し ② 視覚的に残すため、紙と鉛筆がよい。 ③ 色を使う。 ④ 会話をする相手の隣に座る。
(4)集団への参加の基礎に関すること	<p>実際の生活場面を設定した指導</p> <p style="text-align: center;">事前学習</p> <p>(例) アート展見学に行くとき 教室① 集合場所 教室② 改札口 教室③ 電車のホームと車内 教室④ アート展会場 実際にグループのリーダーを中心に動きを確認する。</p>	<p style="text-align: center;">手順の提示と練習</p>  <p>切符の買い方は、実際の券箱で作り、お金と切符を用意して練習をしておく。</p>	

<p>4 環境の把握</p>	<p>(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</p>	<p>特定の刺激によって引き起こされる行動に対し、自らでより適切な行動の調整するための指導</p>		
		<p>スケジュール表</p>  <p>一日のスケジュールを目に見える形で掲示する。</p>	<p>この音なあに？</p>  <p>日常生活音を聞いて、安心できる音だということを知る。</p>	
<p>5 身体の動き</p>	<p>(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること</p>	<p>姿勢保持の困難さなどに対する指導</p>		
		<p>バランスボール</p>  <p>運動の道具や、いすの代用として活用する。</p>	<p>トランポリン</p> 	
		<p>手足の協調運動や目と手の協応動作、巧緻性、正確さなど、作業に必要な動作に対する指導</p>		
		<p>ペグさし</p> 	<p>ビーズ通し</p> 	<p>アイロンビーズ</p> 
<p>6 コミュニケーション</p>	<p>(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>場の状況や相手の気持ちを理解しようとする気持ちを育む指導</p>		
		<p>SSTカード・プリント</p>  <p>プリントに書くことで、フィードバックできる。</p>	<p>パネルシアター</p> <p>三つの魅力</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 話の途中で歌ったり、踊ったりすることで、積極性や話す力が身に付く。 ② 次はどうか、やってみたいと集中して場面を見て次の展開を想像するようになる。 ③ 自分も作ってみたい、やってみたいと表現しようとする意欲が出てくる。 	

※【SSTカードの掲載例】

ことばと発達の学習室M 編著「ソーシャルスキルトレーニング絵カード 連続絵カード「A」「B」「C」エスコアール刊,2001

(5) 指導の例示

課題

「友達とのトラブルが多い」 関連項目 3-(2) 6-(1)

内容

考えられる場面のロールプレイを通して、適切な対応を学ぶ。

- 「読みたい本を友達が読んでいて、貸してほしいときは?」「好きなことをしているときに別のことを頼まれたら?」「今度の日曜日に一緒に遊びたいときは?」「断りたいときは?」など、身近で実生活に即した場面を設定し、適切な対応を考えたり、ロールプレイをしたりして、パターンを学習する。
- 生活の中で実践できた報告をする場面を設定する。(例) 帰りの会

ポイント

- 人とのかかわりを深めるための基礎：人の声に注意を向ける。
- ・対人関係を構築する：大人との一対一の関係づくりから少しずつ小集団の児童生徒との関係に広げる。
- ・モデルを示す：言葉による説明だけでなく、モデルを示す。
- ・報告の仕方のパターン化：「ストーリーボード」を活用して、発表の仕方のパターンを決める。
- ・ヒントを用意：報告の仕方の手順表（ヒント）を見えるところに提示し、ヒントを活用しやすくする。

課題

「座っている姿勢が悪い、姿勢が崩れやすい」 関連項目 5-(1)

内容

体幹トレーニングを意図的に体育や休み時間等に導入する。

- 「体育で体幹トレーニング」
四つ這いの姿勢から右手と左足をあげて静止、その逆をリズムに合わせて行う。
バランスボールを使って、音楽に合わせて動く。
トランポリンで跳びはねたり、遠くの文字や絵を読んだりする。
- 「休み時間に姿勢よく」
壁立ち（壁に背中・かかと・おしりをつけて30秒位を目安に立つ。）をする。
背中に手を入れて壁と背中との空間をチェックする。
- 「かっこよくいすに座ろう」
正しいいすの座り方を掲示して、常に意識できるようにする。

ポイント

- おしりを奥までしっかりと：前に滑ってしまうときには、滑り止めシートを敷いてみる。
(防災頭巾との兼ね合い)
- 足の裏を床につける：いすと机の高さを調整する。足元に台を置く。
- 背筋を伸ばす：タイミングをとって、姿勢を整える機会を意図的につくる。
- 静と動の時間をつくる：意図的に動く時間をつくる。

5 本指導案

〇〇組 自立活動 学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇曜日)
 第〇時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指導者 〇〇〇〇 (T1) 〇〇〇〇 (T2)

1 主題名 「楽しく活動したり, 毛糸アートをつくったりしよう」

2 主題設定の理由

本学級は, 自閉症スペクトラム障害の診断を受けている3年生, 4年生, 6年生の合計3名である。どの児童においてもコミュニケーションに課題があるため, 友達との適切な関わりに係る活動を日常的に設定している。

本時では, 絵カードやゲーム, 毛糸アートなど, 児童の興味・関心を考慮した題材を用いたり, 個別活動から集団活動への流れなど, 友達と関わる場面を段階的に増やしたりする工夫を行った。

3 児童の実態

題材に関わる実態	
A	(動物カード) 動物について興味・関心をもっている。動物の名前は知っているが, 言語の表出が難しい。 (かるたゲーム) 読み札を見て, 取り札を探すのが好きである。気持ちが乗ると友達の取り札を確認するために, 出歩いていることが多い。 (毛糸アート) 教師と一緒に結び目を作って切ったり, 貼ったりすることができる。ポンドが手につくことを嫌がる。
B	(動物カード) すべての動物の名前を覚え, 動物園などで見たことのある動物については, 話題に出すことができる。 (かるたゲーム) 自分で取り札を探して取ることができるが, 取りたい気持ちも強く, 慌てる傾向がある。取れないと泣いて悔しがることもある。 (毛糸アート) 手先は器用で一連の作業をこなすことはできるが, 集中力に持続性はなく, 作業が止まってしまう。
C	(動物カード) すべての動物の名前を覚えており, 知っていることを友達に説明することができる。 (かるたゲーム) 素早く取り札を探すことができるが, お手つきした時の悔しさは大きい。取り札を探すことのできた友達を見ると, 譲ることもできる。 (毛糸アート) 手先は器用, 一連の作業をこなすことができる。作業が丁寧で, 細かい点まで意識している。

4 目標

1	絵カードやかるたを通して, 簡単な知識を身に付けることができる。
2	ゲームを通して, お互いにコミュニケーションを図りながら, 良好な人間関係を築くことができる。
3	毛糸アートの仕方を身に付け, 作品を完成させることができる。

5 指導計画 (10時間扱い)

	指導内容	授業目標	授業時数
1	①野菜果物カード ②絵合わせカード ③毛糸アート	①身近な野菜や果物の名前を覚え, 関連した簡単な知識を身に付けることができる。 ②ものの名前と絵を合わせることができ, 簡単なゲームができる。 ③毛糸アートの作り方や毛糸の結び方, 切り方を知り, 毛糸の玉を作ることができる。	2
2	①動物カード ②かるたゲーム ③毛糸アート	①身近な動物の名前を覚え, 関連した簡単な知識を身に付けることができる。 ②読み手の言葉を聞き取り, かるたゲームを楽しむことができる。 ③結び目の結び方や切り方を覚え, 毛糸の玉を貼り合わせながら, 毛糸アート作りをすることができる。	本時 1/4
3	①生活道具カード ②すごろくゲーム ③毛糸アート	①身近な生活道具の名前を覚え, 関連した簡単な知識や使い方を知ることができる。 ②動作の伴うお題に合わせて活動し, 友達とすごろくゲームを楽しむことができる。 ③作り方の手順を覚え, 毛糸アート作りをすることができる。	4

6 本時の構成

(1) 本時の目標

A	○絵カードやかるたゲームの中で, 単語や一文程度の言葉で表現することができる。 ○教師が作った結び目を自分で切って毛糸の玉を作り, 下絵のぬいぐるみに貼り付けることができる。 ○ゲームや作業を通して, 自分から教師や友達と関わろうとすることができる。
---	---

B	○絵カードやかかるたゲームでは新しい知識を広げ、活動や作業の見通しをもって取り組むことができる。 ○かるたゲームを通して、状況に応じた自己表現ができる。 ○ゲームや作業を通して、教師や友達と関わり合いながら、意欲をもって活動することができる。
C	○身近な動物の新しい知識を広げ、毛糸アートでは一粒ずつ貼り付けるなど、丁寧に作業ができる。 ○毛糸アートの進み具合を見ながら取り組む作業を判断し、活動に見通しをもつことができる。 ○ゲームや作業を通して、進んで教師や友達と関わり、自主的に活動することができる。

2) 展開

配時	学習活動	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □授業者の主な指示 指導上の留意点 (※指導の手立て*評価の観点)				備考
導入 1分	1 始まりのあいさつをする。	□あいさつをお願いします。目と目を合わせ、姿勢をピンとしてあいさつをしましょう。 ○日直Cのあいさつで授業を始める。				テーブ ライン
		全体	A	B	C	
5分	2 本時の学習活動を知る。	□今日の学習活動を説明します。 ※活動の流れをホワイトボードに提示し、活動の見通しをもたせる。				ホワイ トボ ード 指差し マーク 動物 カード
	3 動物カードをする。	※動物カードを提示する。 ※児童に合わせて提示するスピードを変えたり、穴あきカードを示したりする。 ※意欲を引き出すため、ヒントとして、裏面に書かれているひらがなやカタカナを示す。	◎2・3文字程度で答えることができる。気持ちが乗ると楽しくなり、先にカードを見たりしながら、自分で答えを確認しようとする。 ※動物の名前を単語で表現できた時にはより称賛する。	◎大きな声で素早く答えることができる。楽しくなると、リズムをつけて答えることもあるが、落ち着きがなくなる傾向もある。 ※スピードを変えるなどしながら、最後まで取り組めるようにする。	◎大きな声で素早く答えることができる。楽しくなると、声に高低差をつけ、発音を楽しみながら答える傾向がある。 ※多くの動物を答えることができるため、穴あき隠しカードを活用し、学習意欲の持続を図る。	
展開 15分	4 かるたゲームをする。	*動物カードに興味・関心をもち、進んで取り組むことができたか。 *身近な動物の名前を覚え、関連した簡単な知識を身に付けることができたか。 □かるたゲーム (となりのトトロ) をしましょう。 □マットの上にカードを並べましょう。 □準備ができれば、始めます。 □手は頭!それでは、始めます。 ○全員で協力しながら、カードを並べ、最後まで楽しく取り組む。				ホワイ トボ ード 指差し マーク かるた マット
		※マットの上に、すべてのカードを並べ終わったら、教師が読み上げる。 ※かるたゲームのルールとして、両手は頭の上に乗せ、読み札を聞かせるようにする。	◎カードを取りたいという意欲が見られ、教師の持っている読み札を事前に確認する傾向がある。 ※意欲を認め、称賛しながらも「先にカードを見る」ことへのこだわりを少しずつ軽減させる。	◎勝敗にこだわり、自分が思うようにカードが取れないと、悔しさを言葉や行動で表現する。 ※最後まで取り組めるように、見守りながらも適切な表現方法を伝える。	◎自分が思い通りにカードが取れないと「ミッション失敗」と言い、悔しさで気持ちが不安定になる。 ※勝敗がつくゲームから喜びや悔しさの表現方法を提示し、適切に表現できるようにする。	
20分	5 毛糸アートをする。	*かるたゲームに興味・関心をもち、進んで取り組むことができたか。 *適切な表現方法を用い、お互いにコミュニケーションを図りながら、良好な人間関係を築くことができたか。 □毛糸アートの準備をしましょう。 □毛糸アートをしましょう。 ○準備ができれば、本時の取り組む作業を確認し、作業を始める。				ホワイ トボ ード

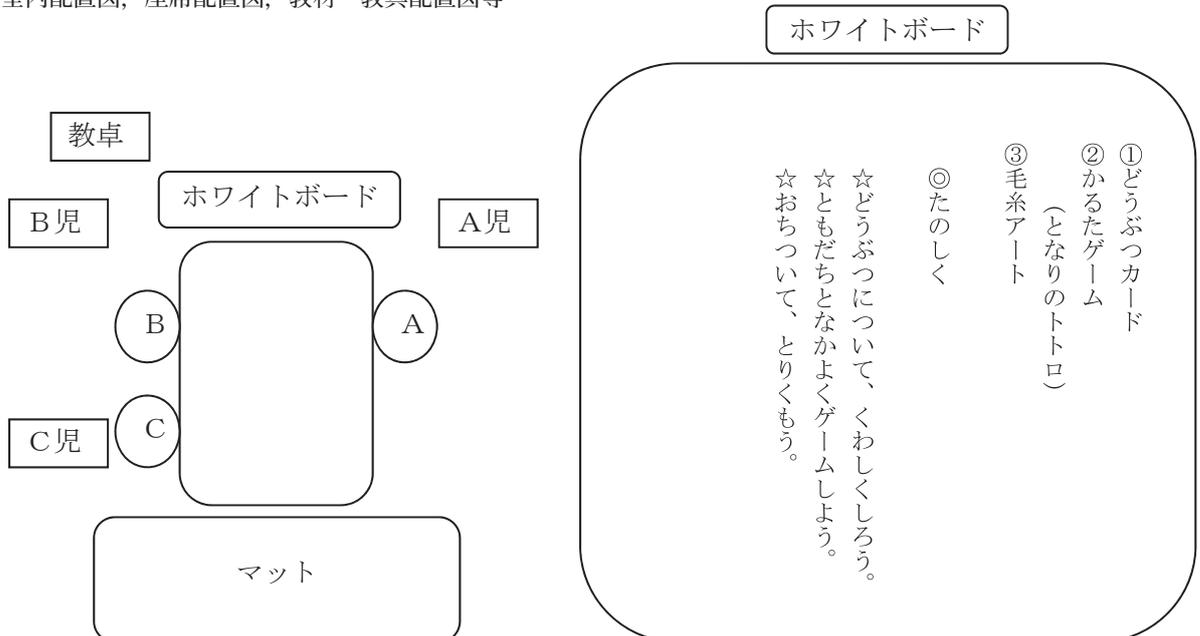
まとめ 2分		※「何色の毛糸の玉を作る」「何色の毛糸を切る」「どこに何色の毛糸を貼るのか」の作業内容を具体的に伝え、児童の様子を見ながら、適度なタイミングで言葉かけをする。	◎結んで切った毛糸を使う。完成させたい気持ちがあるよう、教師がボンドをつけてから渡す。 ※丁寧に完成させたい気持ちは強いいため、支援をしながら、取り組める時間を増やす。	◎自分で毛糸を結び、一連の作業ができる。一つの場所に集中できず、自分で思いのままボンドをつける。 ※事前に「今日は、毛糸を結ぶのか、切るのか、貼るのか」など、どの作業をしていくのか確認する。	◎自分で毛糸を結び、一連の作業をこなすことができる。自分のペースで丁寧に進めることができる。 ※作業中の姿勢に配慮しながら、最後まで丁寧に取り組めるよう言葉かけをする。	指差しマーク 毛糸アート材料 はさみ ボンド
	6 片付けをする。	*落ち着いた態度で作業に集中して取り組むことができたか。 *手指の巧緻性で、技能的な伸びはあったか。				ふりかえりカード
	7 活動したことを振り返る。	□毛糸アートの片付けとごみ拾いをしましょう。 □片付けやごみ拾いが終わったら、テーブルに集まりましょう。 □毛糸アートで使ったものを片付け、ごみ拾いをする。 ※毛糸アートで使ったものを片付けるように適度な言葉かけをする。				
	8 終わりのあいさつをする。	□頑張ったことや楽しかったことを発表しましょう。 □取り組んだ活動を振り返り、自分が頑張ったことや楽しかったことを発表する。 *自分が頑張ったことや楽しかったことを発表することができたか。 □今日の取り組みはどうでしたか。(よくできた・できた・次は本気出す) □自己評価し、当てはまる項目で挙手をする。 ※思うように取り組めなかった児童も(次は本気出す)の項目を選ぶなど、次は頑張ろうという前向きな意欲をもつことができるように言葉かけをする。				
	□あいさつをお願いします。目と目を合わせ、姿勢をピンとしてあいさつをしましょう。 ○目直Cのあいさつで授業を終わる。 ※あいさつのテーブルラインに合わせて、姿勢よくあいさつできるように、目と目で視線を合わせ、適度な言葉かけをする。					

7 本時の評価

氏名(記号)	評価
A	動物カードやかるたゲームに興味をもち、自分から教師や友達と関わりをもつことができたか。自分で毛糸の結び目をはさみで切り、ぬいぐるみにボンドで貼り付けることができたか。
B	動物カードやかるたゲームでは遊びのルールを理解しながら、楽しく活動することができたか。結ぶ・切る・貼るという作業手順を確認し、見通しをもちながら手際よく取り組むことができたか。
C	動物カードやかるたゲームでは、喜びや次は頑張るといった意欲を適切に表現し、活動することができたか。 一連の作業に見通しをもち、毛糸の玉を一粒ずつ貼り付けるなど、丁寧に取り組むことができたか。

8 備考

・教室内配置図、座席配置図、教材・教具配置図等



日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)
 第〇校時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指 導 者 教 諭 〇〇 〇〇 (T1)
 補助員 〇〇 〇〇 (T2)

1 題材名 「リズムで遊ぼう」

2 題材設定の理由

(1) 学級及び児童の実態

本学級は、1年男子1名女子1名・5年男子1名・6年男子1名の4名という構成の自閉症・情緒障害特別支援学級である。障害の状態が様々で発達の段階にも幅があるため、一人一人の児童の実態を踏まえて、個々の特性に応じた指導を行い音楽の楽しさを十分味わえるようにするとともに、お互いに見合ったり協力しあったりして、仲間との関わりとともに伸び伸びと音楽活動に取り組む喜びを感じ取ることができるようにする必要がある。

(2) 題材について

本学級の児童は、音楽活動に前向きに取り組んでいる。今回は、音楽の楽しみを味わいながら拍感・リズム感を身に付けさせるとともに、合同学習会で演奏する曲を演奏することに慣れ親しむために前半で「リズム遊び」後半で「威風堂々」に取り組むことにした。

・「リズム遊び」

自閉症・情緒障害のある児童においては、人との関わりを深める活動が必要とされている。そのため「リズム遊び」では音楽にあわせて体を動かすとともに、なるべく他者との関わりがもてる活動となるように工夫をした。音楽にあわせて伸び伸びと身体を動かすことはどの発達段階の児童であっても楽しく活動ができ、楽しい雰囲気の中で人との関わり方を学ばせることができる。

・「威風堂々」

イギリスの作曲家、E. エルガーが作曲した管弦楽のための行進曲集「威風堂々」の第1番の中間部の旋律を指す。器楽としては5年生の教科書で教材として取り扱われている。同じ楽器同士あるいは打楽器と鍵盤ハーモニカでお互いに聞きあって一緒に合わせるように演奏させるために、ややゆっくりと演奏したとしても聞きばえのする、美しい旋律である。

(3) 指導・支援について

「威風堂々」では、音楽に対して苦手意識のある6年生の男子児童には、実態に応じて演奏する楽器を工夫して器楽に取り組む姿勢を高める。演奏する技能が高い5年生の男子児童は、他者と併せることができるように個別に支援して演奏に取り組ませたい。1年生の児童2名は、音楽に興味関心が高く、鍵盤ハーモニカで旋律を担当することができる。視覚的に分かりやすいように、楽譜と鍵盤を色分けして支援する。授業の終わりには全員で合奏することで、みんなで演奏する楽しさを味わわせたい。

3 題材の目標

- (1) 鍵盤ハーモニカや打楽器で「威風堂々」を合奏することができる。
- (2) 拍感やリズム感を身に付け、曲にあわせて身体を動かすことができる。
- (3) たくさんの仲間と一緒に活動する楽しさを味わおうとする。

4 指導計画 7時間扱い(本時6/7)

生活単元学習「第1回合同学習会に参加しよう」を通して、市内の小学校特別支援学級の児童と友達になった。2月には一緒に器楽合奏を行うことを知る。

過程	学習活動	ねらい	時
I	○「リズム遊び」をする。 ・〇〇学級の歌 ・健康観察リズム ・肩たたき ○楽器を分担し練習する。	○「リズム遊び」の楽しさを知る。 ○リズムにあわせて話したり身体を動かしたりできる。 ○自分の担当楽器を知り、演奏の仕方を知る。	1
II	○「リズム遊び」をする。 ・肩たたき ・リズムうち ○「威風堂々」を階名で歌う。	○リズムにあわせて身体を動かすことができる。 ○リズムパターンを覚える。 ○「威風堂々」の旋律を知る。	2
III	○「リズム遊び」をする。 ・肩たたき(みんなでver.) ・ハイタッチ ○「威風堂々」を楽器で演奏する。	○リズムにあわせて身体を動かすことができる。 ○遊びを通して他者と関わる。 ○「威風堂々」を自分が担当する楽器で演奏できるようにする。	3 4 5

IV (本時)	○「リズム遊び」をする。 ・十五夜もちつき ・たべすぎゴリラ ○「威風堂々」をクラスの前で演奏する。 ○感想を発表する。	○リズムにあわせて身体を動かすことができる。 ○遊びを通して他者と関わる。 ○聞いている人の前で演奏できる。 ○他の児童の演奏を聴き、よいところを見付ける。	6
V	○3クラス合同でリズム遊びをする。 ○「威風堂々」を3クラス合同で演奏する。	○大人数の集団の中に入ってリズム遊びをしたり、器楽合奏をしたりすることができる。	7

自立活動
○リズムや音に合わせて身体を動かすリズム運動の学習。
○友達と協力して活動する学習。

生活単元学習「第4回合同学習会に参加しよう」で市内の小学生とともに、劇遊びを楽しんだり、一緒に合奏したりする。

5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 友達の前で演奏をすることができる。
- ② 他の児童の演奏を聴いて感想を言うことができる。

(2) 児童の実態

※児童の実態等は別紙にし、授業後に回収とすることもある。

	学年	名前	本題材に関する実態
1	6年	A	・責任ある役割を与えたり活動の難易度を調整したりすると、自分から進んで演奏に取り組むことができる。 ・友達のよいところを見付け、相手に伝えることができる。
2	5年	B	・話を聞いて活動内容を理解したり行動に移したりすることが難しいので、個別で指示を出すことで活動に取り組むことができる。 ・どこまでやれば活動が終了なのか見通しをもたせると、集中して演奏に取り組もうとする。
3	1年	C	・簡単なリズムや音階であれば、鍵盤ハーモニカで演奏することができる。 ・失敗した時や難しい活動に取り組むときは気持ちが崩れてしまうことがあるので、練習時間を確保したり活動の難易度を調整したりすると安心して演奏に取り組める。
4	1年	D	・曲にあわせて打楽器を鳴らしたり、簡単な曲であれば自分で楽譜を読んで鍵盤ハーモニカを演奏したりすることができる。 ・活動に見通しがもてないときや初めて取り組む活動には取り組むことが難しいので、視覚的に活動内容を示したり十分練習時間を確保したりすると自信をもって演奏ができる。

(3) 個別の指導内容及び目標

	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1	6年	A	・身近な打楽器を演奏すること。 ・身近な人の演奏に触れて、好きな音色を見付けること。	・曲にあわせて大太鼓を叩くことができる。 ・友達の演奏が伴奏に合っていたかどうかを言うことができる。
2	5年	B	・身近な打楽器を演奏すること。 ・友達と一緒に演奏すること。	・曲にあわせて小太鼓を叩くことができる。 ・発表ステージで友達と一緒に演奏することができる。
3	1年	C	・身近な旋律楽器を演奏すること。 ・身近な人の演奏に触れて、好きな音色を見付けること。	・「威風堂々」の旋律を鍵盤ハーモニカで正しく演奏することができる。 ・友達の演奏を聴き、感想を皆の前で発表できる。
4	1年	D	・身近な旋律楽器を演奏すること。 ・友達と一緒に演奏すること。	・発表ステージに立って「威風堂々」の旋律を鍵盤ハーモニカで演奏することができる。

(4) 展開

時間	学習活動	◎予想される児童の反応 *評価の観点 □指導者の指示・発語等 ※支援の手立て				資料等
		A	B	C	D	
導入 5分	1 始まりのあいさつをする。 2 今日の授業の内容を知る。	<input type="checkbox"/> 「授業を始めます。大きな声であいさつをしましょう。」 <input type="checkbox"/> 「今日の音楽でやることを黒板に書きます。」 ◎黒板に注目できない児童がいる。 ※様子を見て、T1や黒板へ注意が向いていないようであれば言葉かけをする。(T2)				・予定カード
展開 15分	3 リズム遊びをする。 ①健康観察リズム ②肩たたき (みんなで Ver.) ③ハイタッチ ④リズムうち ⑤十五夜もちつき ⑥たべすぎゴリラ	<input type="checkbox"/> 「みんなでリズム遊びをしましょう。」 ※活動する場所をケンステップで具体的に示す。 ※活動するペアは教師が指定する。 ◎気持ちが高ぶると、時々適切でない動きをする。 ※T1が、正しい動きとなるように言葉かけをしたり、前に出て手本を示す役割を与えたりする。 ◎少し遅れて動いたり、違う方向へ歩き出したります。 ※T2が、始まるタイミングで言葉かけをしたり、進むべき方向を指さしたりする。 ◎進んで取り組み、正確にリズム遊びができる。 ※良くできたところを積極的に称賛し、意欲付けする。 ◎取り組み始めるのが遅れがちになる。 ※表情や視線を観察し、意識がT1の指示に向いていない様子の時は肩をたたいたり言葉かけをしたりする。				・キーボード ・ケンステップ
10分	4 『威風堂々』の楽器練習をする。	<input type="checkbox"/> 「『威風堂々』の練習をしましょう。」 ※練習終了までの時間をタイムタイマーで示す。 ◎曲に合わせて自分のペースで大太鼓を叩く。 ※伴奏を聴きながら大太鼓を叩くタイミングで、教師が児童の肩に触れることをあらかじめ伝えておき、伴奏と太鼓を叩くタイミングがつながるようにする。 ◎曲に合わせて小太鼓を叩こうとするが、徐々に遅れてきてしまう。 ※小節の頭の音を特に意識して強く叩く練習をする。 ◎すぐに楽器を準備して練習に取り組むが、できないところがあると気持ちが崩れる。 ※気持ちが乱れた時は安心できるスペースへ行き休憩をとる。 ◎ゆっくりではあるが、真面目に練習に取り組む。 ※継続的に集中して練習に取り組めるように、練習する場所はパーティションで囲ったり、必要な場以外は言葉かけを控えたりする。				・楽器 ・楽譜 ・譜面台 ・タイムタイマー ・パーティション
10分	5 演奏を発表し、感想を伝え合う。 ①AとB演奏 ②CとD感想発表 ③CとD演奏 ④AとB感想発表	<input type="checkbox"/> 「『威風堂々』の発表を聴いて感想を言いましょう。」 ◎実際の演奏を踏まえた感想を話すことが難しい。 ◎友達や伴奏と合わせて演奏を始めず、自分のペースで叩き始める。 ◎演奏のよいところを見付けられるが、どう話せば良いか迷ってしまう。 ◎皆の前で演奏することに不安を示す。				・パーティション ・話型カード

		<p>※鑑賞のポイントを絞り、友達の演奏が伴奏と合っていたかについて注目するように鑑賞前に伝える。</p> <p>*実際の演奏を踏まえた感想が言えたか。</p>	<p>※友達と一緒に「1, 2, 3, ハイ!」と言って演奏が始めるよう、T2が言葉かけする。</p> <p>*演奏を始めるタイミングを、友達と合わせることが出来たか。</p>	<p>※話型カードに沿って話せるように、言葉かけをする。</p> <p>*友達の演奏を聴いて、良いと思ったことを発表できたか。</p>	<p>※パーテーションで仕切られた場所で演奏してもよいことを、演奏の約束として事前に示しておく。</p> <p>*発表ステージに立って、演奏をすることができたか。</p>	
		<p>※感想が発表できない児童には、話型を書いたカードを見せてヒントを与える。</p> <p>*皆の前で演奏し、感想が言えたか。(観察)</p>				
まとめ 5分	<p>6 今日の振り返りと次時の予告を聞く。</p> <p>7 終わりの挨拶をする。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「上手に演奏ができるようになりました。次回は3クラス合同で『威風堂々』を演奏します。」</p> <p>※頑張りを認め、次時に意欲をつなげる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「授業を終わりにします。大きな声であいさつをしましょう。」</p>				・キーボード

6 評価

(1) 共通目標に係る評価

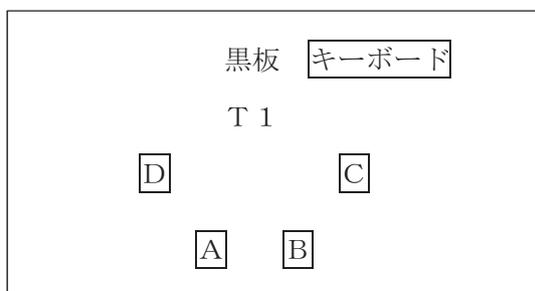
- ① 発表ステージに立ち、皆が聴いている前で自分が担当する楽器を演奏できたか。
- ② 友達の演奏について感想を話すことができたか。

(2) 個人目標に係る評価

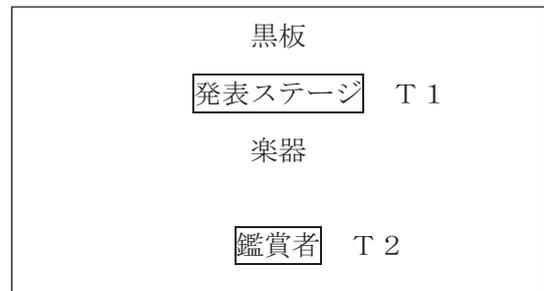
A	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏と大きくずれずに大太鼓を叩くことができたか。 ・友達の演奏が伴奏と合っていたかを言うことができたか。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・曲のテンポに遅れず小太鼓を叩くことができたか。 ・発表ステージに立って演奏することができたか。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・「威風堂々」の旋律を正しく演奏することができたか。 ・皆の前で感想を発表することができたか。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ステージに立って演奏することができたか。

7 教室環境図

(1) リズム遊び・合奏練習場面



(2) 演奏発表・鑑賞場面



〇〇組 教科別の指導「外国語活動」学習指導案（略案）

日 時 〇〇年〇〇月〇〇日（〇）
 第〇校時 〇〇：〇〇 ～ 〇〇：〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指導者 教諭 〇〇 〇〇 （T1）
 支援員 〇〇 〇〇 （T2）

1 単元名 「注文 ～ I would like 〇〇. ～ 」

2 単元設定の理由

本学級は、自閉スペクトラム症の診断がある3年生と4年生の計4名である。

本校は、外国語に力を入れており、ALTが休み時間や給食等の時間においても児童と会話をしたり一緒に遊んだりしながら、日常的に英語に慣れ親しむ環境がある。

慣れ親しんだ英語を使って、児童がグローバルな視点に立って、人とコミュニケーションを取ることの楽しさや自分の考えを伝えようとする気持ちを育てたい。

本時では、図工「毛糸でアイスクリーム」で児童が作った作品を取り扱う。児童が作った作品の中からフレーバーを選び、英語表記と結び付けて示した。他教科との関連を図る工夫を行い、英語をより親しみやすく意欲的に活動できるような工夫を行った。

3 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 注文やアイスクリームのフレーバーの表現に慣れ親しむ。
- ② 注文やフレーバーの表現を聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちを伝えることができる。
- ③ 注文の表現に慣れ親しみ、進んで活動に参加しようとする。

(2) 児童の実態

名前・学年	本単元に関する実態
A（3年）	外国語活動が好きで、とても意欲的に取り組んでいる。新しい単語や表現もすぐに覚え、相手の話を聞き取ったり自分で話したりすることができる。会話の中で、既習の単語や表現をその場にに応じて使おうとしている姿も見られる。
B（3年）	英単語は繰り返し練習することで、聞き取ることができる。話すことは教師と一緒に言ったり、教師のあとにリピートしたりすることで、相手と会話することができる。
C（4年）	外国語の単語は、自分で聞き取ったり話したりすることができる。“I like 〇〇.”のような文章表現は、教師がその場で教えたり発音したりすると、自分で言うことができる。
D（4年）	新しい単語や表現も覚え、相手の話を聞き取ったり自分で話したりすることができる。既習の単語や表現も、一度確認するとすぐに思い出し、会話の中で使おうとしている姿も見られる。

(3) 個別の指導内容及び目標

A（3年）	◎” I would like 〇〇.”の表現やフレーバーの単語を使って会話ができる。 ◎相手の話を聞き取り、自分の考えや思いを伝えることができる。 ◎自ら進んで友達とたくさん会話をするすることができる。
B（3年）	◎教師や支援員のあとにリピートしながら、会話をするすることができる。 ◎自分のほしいアイスクリームのフレーバーを選択し、相手に伝えることができる。 ◎教師や支援員と一緒に、友達と会話をするすることができる。
C（4年）	◎教師と一緒に” I would like 〇〇.”の表現やフレーバーの単語を使って会話ができる。 ◎自分で好きなフレーバーを選択し、相手に伝えることができる。 ◎外国語で表現や言い方が分からないときも、自ら教師に尋ねながら、活動し参加することができる。
D（4年）	◎” I would like 〇〇.”のフレーズやフレーバーの単語を使って会話ができる。 ◎相手の話を聞き取り、自分の考えや思いを伝えることができる。 ◎自ら進んで友達とたくさん会話をするすることができる。

(4) 展開

時間	活動 ・ 指示, 発語 ※支援の手だて ◎評価の観点		・ 指導上の留意点	資料	
	児童	HRT			ALT
導入 2分	1 あいさつをする。 ・Hello 〇〇. 2 ・I’ m fine thank you, and you?	・Let’ s start our English lesson now. ・Are you ready? ・Let’ s say “Hello.”	・Hello everyone. ・How are you today? ・I’ m fine too, thank you.	・全体にもあいさつをして、個別にもあいさつをする。	

3分	2 歌を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> • Let's sing "Red is an apple." • Are you ready? 	<ul style="list-style-type: none"> • Very good! • Good job! 	<ul style="list-style-type: none"> • 友達の動きや表情が見えるように円になり、楽しい雰囲気をつくる。 	CD		
1分	3 めあての確認をする。	ほしい味のアイスクリームを注文しよう。					
5分	4 【Let's practice】 注文やアイスクリームに関する単語や会話を練習する。	<ul style="list-style-type: none"> • Repeat after ○○. • Let's practice. 	<ul style="list-style-type: none"> • Repeat after me. • Clear voice, nice. 	<ul style="list-style-type: none"> • 良い発音をしている児童に注目し、称賛する。 	単語・会話文表示		
strawberry / peach / watermelon / melon / chocolate / chocolate cookie / vanilla / soda / fruits mix / I would like ice cream. / One scoop? / No. Two please. / What flavor? / Chocolate and Melon please. / OK. Here you are. / Thank you. / You're welcome.							
展開 10分	5 【Activity ①】 Missing card ゲームを行う。	<ul style="list-style-type: none"> • Let's play Missing card game. 	<ul style="list-style-type: none"> • Please watch the demonstration. 		ミニカード・シヨップキャップ		
<p>① フレイバーのミニカードを並べる。</p> <p>② ペアでじゃんけんをし、勝った人が店員役、負けた人がお客さん役をする。</p> <p>③ お客さんは、店員に好きなフレイバーを三つから五つ伝える。</p> <p>④ 店員はお客さんが選んだフレイバーの中から、一つカードを選び、隠す。</p> <p>⑤ お客さんが隠されたカードを当てる。 ※ペアを代えて、何回か繰り返す。</p>							
A		B		C		D	
※相手の返答をしっかりと聞いてから活動するように支援する。 ◎“I would like○○.”の表現を使ったり、好きなフレイバーを自分で選択したりして、相手に自分の気持ちをしっかりと伝えることができたか。		※支援員とともに活動し、活動に着目・集中できるように言葉かけし、促すようにする。 ◎支援員のあとにリピートして、相手に伝えることができたか。		※時間が多少かかっても、可能な限り待ち、自分で選択したり活動したりさせるようにする。 ◎教師と一緒に相談しながら好きなフレイバーを選択し、相手に伝えることができたか。		※じゃんけんの勝ち負けにこだわったときは、言葉かけをし、落ち着かせるようにする。 ◎“I would like○○.”の表現を使ったり、好きなフレイバーを自分で選択したりして、相手に自分の気持ちをしっかりと伝えることができたか。	
8分	6 【Activity②】 ice cream get ゲームを行う。	<ul style="list-style-type: none"> • Let's play ice cream get game. 	<ul style="list-style-type: none"> • Please watch the demonstration. 				
<p>① A ice cream shop か B ice cream shop どちらかを選び、並ぶ。</p> <p>② 店員と会話をし、ほしいアイスクリームを注文する。</p> <p>③ 注文したアイスクリームをワークシートに貼り付ける。</p> <p>④ 店員とお客さんの役割を交代しながら①～③を繰り返す。</p>							
A		B		C		D	
◎店員 (T1) が ” One scoop?” を ” Two scoops?” と数を変えたり、フレイバーを間違ったりしたときも ” Yes. No.” または ” ○○, please.” と いった表現を使い、自分の意思を伝えることができる。		※T2が個別に言葉かけをしながら、児童が好きなフレイバーを選択できるようにする。 ◎T2と一緒に、自分の食べたいフレイバーを注文することができる。		※HRTは、児童が困っているときに声かけられやすいように、児童の近くにいる。 ◎自分でフレイバーを選ぶことができる。外国語での言い方が分からないときに、自らHRTやALTに尋ねることができる。		◎店員 (T1) が ” One scoop?” を ” Two scoops?” と数を変えたり、フレイバーを間違ったりしたときも ” Yes. No.” または ” ○○, please.” と いった表現を使い、自分の意思を伝えることができる。	
ワークシート・のり・アイスクリームステッカー・							

まとめ 5分	7 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> How many did you get ice cream? Please show us your ice cream. 	<ul style="list-style-type: none"> Great! Excellent! 	<ul style="list-style-type: none"> できあがったアイスクリームの数を数えたり、前でできあがったアイスクリームを発表したりしながら、楽しく振り返りを行う。 	ワークシート
1分	8 終わりのあいさつをする。 <ul style="list-style-type: none"> Thank you very much. See you. 	<ul style="list-style-type: none"> Let's say "Thank you very much." 	<ul style="list-style-type: none"> You're welcome. See you. 	<ul style="list-style-type: none"> ALTと握手をしたりハイタッチをしたりして、楽しい雰囲気の中で終わることができるようにする。 	

4 本時の評価

(1) 共通目標に係る評価

- ① 注文やアイスクリームのフレーバーの言い方に慣れ親しむことができたか。
- ② 注文やフレーバーの表現を聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちを伝えることができたか。
- ③ 注文の言い方に慣れ親しみ、進んで活動に参加しようとすることができたか。

(2) 個別評価

	評価
A	<ul style="list-style-type: none"> ◎ “I would like ○○.” の表現を使ったり、好きなフレーバーを自分で選択したりして、相手に自分の気持ちをしっかり伝えることができたか。 ◎店員 (T1) が “One scoop?” を “Two scoops?” と数を変えたり、フレーバーを間違ったりしたときも “Yes. No.” または “○○, please.” といった表現を使い自分の意思を伝えることができたか。
B	<ul style="list-style-type: none"> ◎支援員のあとにリピートして、相手に伝えることができたか。 ◎T2と一緒に、自分の食べたいフレーバーを注文することができたか。
C	<ul style="list-style-type: none"> ◎教師と一緒に相談しながら好きなフレーバーを選択し、相手に伝えることができたか。 ◎自分でフレーバーを選ぶことができる。外国語での言い方が分からないときに、自らHRTやALTに尋ねることができたか。
D	<ul style="list-style-type: none"> ◎ “I would like ○○.” の表現を使ったり、好きなフレーバーを自分で選択したりして、相手に自分の気持ちをしっかり伝えることができたか。 ◎店員 (T1) が “One scoop?” を “Two scoops?” と数を変えたり、フレーバーを間違ったりしたときも “Yes. No.” または “○○, please.” といった表現を使い自分の意思を伝えることができたか。

○○組 自立活動 学習指導案 (略案)

日 時 平成○○年○○月○○日 (○曜日)

第○時 ○○:○○~○○:○○

場 所 ○○○○

指導者 教諭 ○○ ○○

1 主題名 「元気な身体をつくろう」 ※身体の動き

2 主題設定の理由

本学級は、男子3名である。生徒の中には、自分が一番になりたいという思いが強い生徒や順番を待つことが苦手な生徒、筋力が弱く姿勢を保持することが苦手な生徒がいる。

本時では、授業の始まりにリラックスできる活動を取り入れ、生徒が取り組みやすいような工夫を行った。筋力が付くよう十分な運動量や正しい姿勢をとることができる動きを活動の中に取り入れ、活動の中で随時、順番の順守や集団参加の手順の必要性が分かるように働き掛けていく。

3 生徒の実態

	本時に関わる実態
A	順番を守ることや指示された活動に取り組むことが難しい。運動することは得意である。
B	自分が不利になると途中で投げ出すことがある。リラックスできる運動は好きである。苦手な運動は避けたがる傾向である。
C	一人遊びを好み、相手と視線が合わせることに難しい。運動は苦手であるが懸命に取り組もうとする。

4 指導計画（全14時間扱い）

	指導計画	指導内容	授業目標	授業時数
1	身体をほぐそう・良い姿勢を取ろう	ストレッチ マッサージ バランスボール	<ul style="list-style-type: none"> 過緊張を解き，気持ちをリラックスさせる手段を知ることができる。（心理的な安定） 体幹を鍛え，良い姿勢とることができる。（身体の動き） 	4時間
2	楽しく身体を動かそう	トランポリン 平均台 マット バランスボール エス棒	<ul style="list-style-type: none"> 順番を守り，仲間と活動することができる。（人間関係の形成） 正しい運動の仕方を理解し活動できる。（環境の把握） 挑戦する技を自分で選ぶことができる。（人間関係の形成） 汗をかく程度に身体を動かすことができる。（健康の保持・身体の動き） 	本時 4 / 5
3	思い切り身体を動かそう	鉄棒（補助板） タイヤ跳び ジャングルジム・ 綱登りを使う 鬼ごっこ	<ul style="list-style-type: none"> ルールに沿って仲間と活動することができる。（コミュニケーション） 外遊具の使い方を知り，安全に活動することができる。（環境の把握） 全身を使って運動することができる。（健康の保持・身体の動き） 	5時間

5 本時の構成

(1) 本時の目標

A	順番を守り安全に活動することができる。
B	指示された運動手順に沿って最後まで活動することができる。
C	自分のペースで活動をやり通すことができる。活動の振り返りから自分で課題を見付けることができる。

(2) 展開

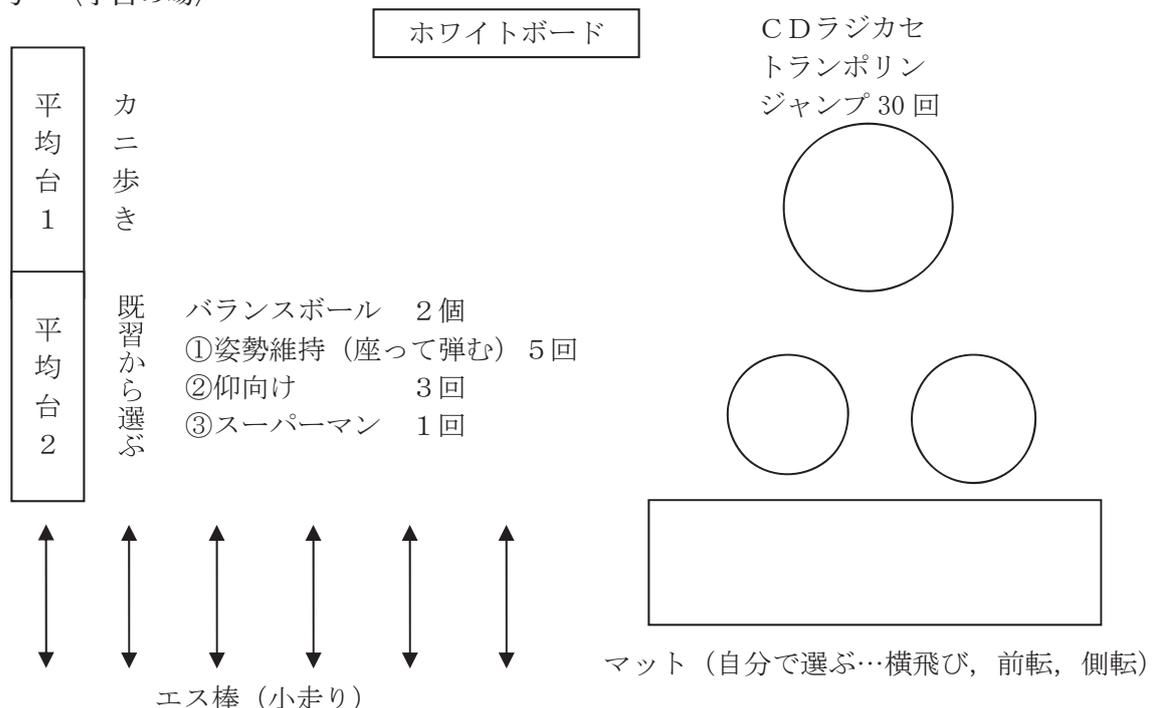
時	学習活動	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示・発語等 ※支援の手立て *評価			準備									
導入 5分	1 始めのあいさつをする。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○日直のあいさつで授業を始める。 □よい姿勢でしっかり目を見て挨拶しましょう。 *目を見て挨拶ができたか。</td> <td>*大きな声であいさつができたか。</td> <td>*よい姿勢で挨拶ができたか。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">□ 身体を使って楽しく遊ぼう</td> </tr> </tbody> </table>			A	B	C	○日直のあいさつで授業を始める。 □よい姿勢でしっかり目を見て挨拶しましょう。 *目を見て挨拶ができたか。	*大きな声であいさつができたか。	*よい姿勢で挨拶ができたか。	□ 身体を使って楽しく遊ぼう			平均台 マット エス棒 バランスボール トランポリン
A	B	C												
○日直のあいさつで授業を始める。 □よい姿勢でしっかり目を見て挨拶しましょう。 *目を見て挨拶ができたか。	*大きな声であいさつができたか。	*よい姿勢で挨拶ができたか。												
□ 身体を使って楽しく遊ぼう														
展開 30分	2 本時の活動内容を知る。	○本時の活動内容を，設定した場所を見ながら把握する。 □リラックスして身体の力を一度抜きましょう。ストレッチが準備運動です。呼吸は鼻から吸って口でゆっくりはきましょう。												
	3 準備運動を行う。	◎どんどん進んでしまおう。 ※同じ活動をするよう言葉かけする。	◎肩に力が入りすぎてしまう。 ※呼吸のリズムを整え，吐くことを意識させる。	◎伸ばす部位が違う場合がある。 ※正確に行うよう言葉かけをする。										

まとめ 10分	4	サーキットを行う。	<input type="checkbox"/> 冒険コースにチャレンジしよう。 ○行い方の確認をし、順番を守って活動できるようにする。 <input type="checkbox"/> 平均台2は自分で技を決めます。マットは三つの技から選びます。 <input type="checkbox"/> 一周終わったらホワイトボードに終了マークを貼ります。 ◎自分で決めて活動できる。 ◎トランポリンで大きく跳びすぎてしまうことがある。 ※真ん中で安全に跳ぶよう言葉かけをする。	◎迷って、途中で止めてしまうことがある。 ◎力が入りすぎ動きがこちなくなる時がある。 ※運動の仕方が理解できているか確認し、必要な言葉かけをする。	◎自分で選べるが、動作が正しく行えないときがある。 ※正確に行えているか確認する。できていたら称賛し、できていないときは、教師が具体的に動作を示す。	ホワイトボード マーク
	5	本時のまとめを行う。	<input type="checkbox"/> 冒険の感想をインタビューします。			
	6	終わりのあいさつをする。	*どの活動が楽しかったか、自分の言葉で発表できたか。 *できたことに自信をもち発表できたか。 *自分を振り返る発表ができたか。 ※それぞれの頑張ったところをほめ、次の活動の意欲をもたせる。達成感を得られるような言葉かけをする。 <input type="checkbox"/> 元気よくあいさつをしましょう。 <input type="checkbox"/> 協力して片付けを行う。			

6 本時の評価

氏名 (記号)	評価
A	<input type="checkbox"/> トランポリンの真ん中で跳ぶことができたか。 <input type="checkbox"/> 仲間の動きに合わせて、安全に活動することができたか。 <input type="checkbox"/> 自分の活動を振り返ることができたか。
B	<input type="checkbox"/> 肩の力を抜き、力まず活動することができたか。 <input type="checkbox"/> 運動の仕方を理解し、楽しく活動することができたか。 <input type="checkbox"/> 意欲的に身体を動かし、最後まで活動することができたか。
C	<input type="checkbox"/> 正しい運動経過で活動することができたか。 <input type="checkbox"/> 挑戦したい技を決め、活動することができたか。 <input type="checkbox"/> 自分の活動を振り返り、発表することができたか。

7 備考 〈学習の場〉



〇〇学級 教科別の指導「国語」学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)

第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

場 所 〇〇〇〇

授業者 教 諭 〇〇 〇〇 (T1)

教 諭 〇〇 〇〇 (T2)

1 題材名 「詩を遊ぼう」

2 題材設定の理由

(1) 学級及び生徒の実態

本学級は、1年男子3名、2年男子1名、計4名が在籍する。コミュニケーションに課題がある生徒が多く、国語においては、漢字の読み書きが得意な生徒やひらがなの読み書きを学習の基本としている生徒、正しい発音が難しい生徒、教師からの問いかけに対して一方的な回答になる生徒など、学習における様々な実態がある。

(2) 題材について

詩は、語数が少なく、生徒にとって取り掛かりやすい。言葉が洗練されていて、音読した時に、味わいがあり、楽しいものが多い。そのため生徒は、楽しみながら意欲的に音読に取り組むことができる。繰り返し音読するうちに、暗唱できるようになり、それに伴って内容の理解も深まっていく場合も多い。

(3) 指導・支援について

音読の時には、音読や声を出すことへの抵抗感を減らすために楽しい雰囲気を心掛けていきたい。他の生徒の音読を聴くことで、正しい音読の聴き取りの他に、他者に気持ちを向けるなど、コミュニケーション能力の向上につなげたい。ゲーム的な要素を取り入れるなど、異なる角度から詩にふれられるようにして、より詩の学習を深められるように工夫した。表現力や豊かなコミュニケーションにつながることを期待している。

3 本時の学習計画

(1) 共通の目標

- ① 詩に関心を持ち、意欲的に音読をすることができる。
- ② 相手を意識して、声を相手に届けることができる。

(2) 生徒の実態及び本時の目標

No.	学年	名前	本題材に関する実態
1	1年	A	・指で追いながら、一音一音発語する。
2	1年	B	・読んでいるところを目で追うことができ、自分の読むところが分かる。
3	1年	C	・正確さには欠けるが、音読することができる。
4	2年	D	・あわてなければ、しっかりと音読することができる。

(3) 個別の指導内容及び目標

No.	学年	名前	指導内容	目標
1	1年	A	・教師の言葉かけを受けながら進んで活動する。	・声を出すことを楽しむことができる。 ・自分から進んで活動することができる。
2	1年	B	・友達や教師にやりたいことを大きな声で伝える。	・大きな声で音読をすることができる。 ・自信をもって活動できる。
3	1年	C	・負けても勝てるよう活動を続ける。	・丁寧に音読をすることができる。 ・授業を通して懸命に取り組もうとする。
4	2年	D	・友達と一緒に活動する。	・相手に伝わるよう音読をすることができる。 ・友達と協調して活動することができる。

(4) 展開

時間	学習内容	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示・発語等 ※支援の手立て *評価の観点	資料等
導入 5分	1 はじめの挨拶 2 本時の活動を知る。	<input type="checkbox"/> 授業を始めます。大きい声であいさつをしましょう。 <input type="checkbox"/> 課題カードを見て、本時の学習内容を確認する。 <input type="checkbox"/> この時間にやることを説明します。 ※学習の流れを視覚的に提示し、見通しと意欲をもたせる。	・課題を書いたカード

展開 10分		A	B	C	D	
3 音読の練習をする。		<input type="checkbox"/> 音読の発表に向けて、練習しましょう。 <input type="checkbox"/> 教師のあとに続いて読む。ワンフレーズずつ順番に読む。				・時計 ・プリント『朝のリレー』 ・発表台本
		※声が出せるように励みます。	※大きな声で読めるように静かな環境をつくる。	※一語一語丁寧に読めるようにする。	※あわてないで声をしっかり出させる。	
4 音読の発表をする。		<input type="checkbox"/> 発表をしましょう。 <input type="checkbox"/> 自分の選んだ作品を一人ずつ前に出て発表する。				
		*発音することができたか。	*大きな声で読めたか。	*落ち着いて発表できたか。	*自信をもって発表できたか。	
15分 5 『すきなもの』(工藤直子)で遊ぶ。		<input type="checkbox"/> 『すきなもの』を読みましょう。○教師のあとに続いて読む。一人ずつ読む。 <input type="checkbox"/> 机をかたづけて『すきなもの』で遊みましょう。				・プリント『すきなもの』
		<input type="checkbox"/> 「仲間集め」ゲームをしましょう。 <input type="checkbox"/> 自分の好きなものを呼びかけ、同じ仲間が集まって座る。 ※テーマを言って、自分の好きなものが決められたか確認する。				
		<input type="checkbox"/> 円の隊形になり、音回しをしましょう。 <input type="checkbox"/> 手を叩いて受け取り、隣の人に手を叩いて渡す。 ※受取るときにも、叩くのを忘れないようにする。				
		<input type="checkbox"/> 『すきなもの』を回しましょう。 <input type="checkbox"/> 自分の好きなものを言って、隣の人に問いかける。 ※テーマを言って、好きなものが決められたか確認してから行う。 *前の人のことばをしっかりと受けとめたか。*次の人に、しっかりとことばを渡せたか。				
15分 6 『わるくち』(谷川俊太郎)で遊ぶ。		<input type="checkbox"/> 『わるくち』を読みましょう。○教師のあとに続いて読む。二人組で読む。				・プリント『わるくち』
		<input type="checkbox"/> 「手裏剣」ゲームをやりましょう。 <input type="checkbox"/> 二人で向かい合って、無対象の手裏剣を声とともに投げ合う。				
		◎ルールが理解できない。 ※T2と一緒に行う。	◎声が小さい。 ※受ける時も、声を出させる。	◎すぐに負けてしまう。 ※応援する。	◎やり方を工夫する。 ※相手をよく見させる。	
		<input type="checkbox"/> 「わるくち」の対決をしましょう。 <input type="checkbox"/> 二人で向かい合って、「わるくち」を言い合う。				
	*やり取りを楽しめたか。	*相手に声を届けられたか。	*やり取りの中で、声が出せたか。	*自信をもってやり取りができたか。		
まとめ 5分	7 振り返りをする。	<input type="checkbox"/> 机を元に戻して、この授業の感想を発表しましょう。○感想を一人ずつ発表する。 *頑張ったところを認め、自信や意欲につながる評価をする。				
	8 終わりの挨拶	<input type="checkbox"/> これで終わりにします。元気よくあいさつをしましょう。 <input type="checkbox"/> 日直の号令で、元気にあいさつをする。				

6 評価

(1) 共通目標に係る評価

- ① 詩に関心をもち、意欲的に音読をすることができたか。
- ② 相手を意識して、声を相手に届けることができたか。
- ③ 楽しく遊ぶことができたか。

(2) 個人目標に係る評価

※ 最後の感想発表で、自分の頑張ったところを発表する。

- A ていねいに音読できたか。相手に声をしっかり届けることができたか。
- B 大きな声で音読できたか。楽しみながら声を届けることができたか。
- C 落ち着いて音読できたか。相手を感じて声を届けることができたか。
- D 自信をもって音読できたか。相手を感じて声を届けることができたか。

6 交流及び共同学習

(1) 交流及び共同学習の目的

交流及び共同学習は、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒とが、学校生活の中で共に活動し、同じ社会の仲間として共生社会を形成する一員であるという意識を育てる上で、不可欠な学習である。

(2) 指導計画作成上の注意点

- ・ 教育課程上の位置付け、評価計画、交流及び共同学習の形態や内容、回数、場所、協力体制については管理職、特別支援学級担任、交流及び共同学習で児童生徒と接する通常学級担任、専科など関係教師と十分に連携、検討する。また、必要に応じて校内委員会を開催し、学校全体で情報共有を行う。
- ・ 教育支援プランA・教育支援プランBに基づいて交流及び共同学習の実施計画と評価について随時本人や保護者と共有する。本人や保護者の意思や願いに留意するとともに、継続性のある指導計画作成する。

本人・保護者の願い	希望が叶わなかった時の気持ちの切り替えが上手に短時間でできるようになりたい。友達とのコミュニケーション、会話のキャッチボールが続くようになりたい。
合理的配慮の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚過敏があるため、交流学习、学校行事の際にイヤーマフを着用する。 ・ 漢字の読みが困難であるため、ルビをふる。

教育支援プランA 記入例

1 学期

教科等	学習課題・目標	指導内容・方法・手だて	評価
算 数	通常の学級の教育課程に準じる。	・長さ、水のかさの単元について具体物を用いながら深める。	2桁のたし算に関しては理解できていた。水のかさの単元については目盛りの拡大や実際に具体物を扱うことで概ね理解できた。

教育支援プランB 記入例

(3) 交流及び共同学習の手順例

ア 児童生徒の実態把握

- ・ 特別支援学級担任は特別支援教育コーディネーターとともに児童生徒一人一人の発達や能力、特性についての実態把握を十分に行う。
- ・ 教育支援プランA・教育支援プランBを作成し、本人、保護者の意思や思いについても併せて把握する。該当学年の年間指導計画とも照らし合わせて児童生徒の実態を適切に把握する。

イ 事前準備、指導

- ・ 年度当初に管理職、学年主任等と打ち合わせを行い、児童生徒一人一人の特性に配慮し、交流及び共同学習を行う学級を決定する。机や椅子などを教室に用意し、児童生徒が活動場所及び共に活動する集団に所属意識をもつことができるようにする。
- ・ 障害のある児童生徒には、活動の内容や場所、全体の見通しなどについて発達段階に応じて図や文字にして事前に知らせる。困ったときの支援や協力の求め方・断り方、自分の意思の表現の仕方について指導をする。
- ・ 障害のない児童生徒には、障害についての正しい知識、具体例を挙げて障害のある児童生徒への適切な関わり方についての理解を促す。
- ・ 指導支援に関わる全て教職員に、障害のある児童生徒への指導支援のポイントについて共通理解を図るための資料を作成、共有する機会を設ける。

交流学級自己紹介プリント例

ウ 実施時の配慮事項

- ・ 児童生徒の安全確保を最優先とする。
- ・ 本人及び交流学級の児童生徒に事前の指導が大切である。
- ・ 児童生徒が主体的に取り組めるよう、実態に応じて目標、内容を設定する。自己肯定感が高まるよう、スモールステップでの指導に留意する。
- ・ 特別支援学級に在籍する児童生徒、交流学級に在籍する児童生徒の双方が年間を通じて継続できるよう留意し、活動内容についてしっかりと検討し、必要な調整を行う必要がある。

年 組 先生

1年間 交流学級よろしくお願ひします!

〇〇学級 組

☆個別の指導計画を元に打ち合わせをします。
 ☆クラス名簿の一番下に名前をお願いします。
 ☆学年通信を毎月1部、いただきたいと思ひます。
 ☆学年・学級行事、教科学習で交流させていただきます。
 ☆学級開きのときに、児童にもお声かけください。
 ☆特別支援学級にも足を運んでいただけたらうれしいです!
 お手数をおかけすることありますが、よろしくお願ひします!

交流学級担任への支援や配慮資料例

エ 事後指導、評価

- ・ 児童生徒の実態に応じて作文や絵、確かめテストの実施など、児童生徒自身が振り返ることのできる事後指導を行う。
- ・ 交流学級担任と事前に指導範囲や評価基準を確認しておき、活動後には必ず振り返りを行う。通知表や評価カード等書式を工夫して作成し、児童生徒にも評価をフィードバックする。
- ・ 学年通信、学級通信などを活用し、相互に交流及び共同学習に対する関心・理解を深める。
- ・ 連絡帳、教育支援プランA、教育支援プランBを作成し、活用することで児童生徒本人、保護者とも振り返りを行う。

社会		よくできる	できる	もう少し
埼玉県交通や産業の様子に関心をもち、鑑んで調べようとしている。	関心・意欲・態度			
埼玉県交通や産業とそこに暮られる人々の生活の様子について考え、判断し、表現することができる。	思考・判断・表現			
観察や地図・具体的資料を活用することができる。	観察・資料活用の技能			
埼玉県交通や産業の様子とその特徴などを理解している。	知識・理解			

交流学級担任より

評価カード例

(4) 障害の特性の応じた実践・配慮例

ア 固執が強く、多動傾向のある児童（小学校）

- ・ 物事への固執が強く、活動の切り替えが難しい。活動に見通しがもてないと不安になり、落ち着かないことがある。
- ・ 交流場面では、学級の決まりを交流学級担任と確認し、計画する。
- ・ 運動会の練習等で勝敗にこだわり、気持ちが落ち着かなくなることがある。その際には、写真や絵などを提示し、事前に本人に望ましい行動を促すような働き掛けをする。



運動会の絵カード例

イ 読む、書くことに困難さのある児童（小学校）

- ・ 本人の得意な活動や障害により苦手な活動を十分に指導する。
- ・ 苦手な読む活動時にはルビありのテスト用紙の使用や読み上げ支援、書く活動時にはワークシートやマスのおおきさの工夫、書く量の緩和などの支援を交流学級担任と連携しながら行う。
- ・ 保護者、本人共に学習内容を振り返ることができるよう、交流学級担任から通知表形式で評価を伝える。
- ・ 集団での学習中に自ら必要な支援や配慮を求められることができるように、困ったときには「手伝ってください」と伝えることを特別支援学級で指導する。



HELPカード例

ウ 自閉傾向があり、コミュニケーションに困難さのある生徒（中学校）

- ・ 通常の学級の授業や行事等に参加した際は、周囲の生徒とコミュニケーションを取ることが難しく、孤立してしまう。
- ・ 得意な実技教科を中心に交流及び共同学習を計画する。
- ・ 周囲の生徒に特性の正しい理解を促し、「自分の居場所が得られた」と本人が感じられるよう、特別支援学級担任、交流学級担任と自己紹介カードを作成し、「得意なこと、苦手なこと」を伝える。
- ・ 交流及び共同学習の様子を評価し、学級全体で共有するなど生徒の自信を取り戻す。より一層、充実した交流が行えるよう多面的な支援を学校全体で計画する。
- ・ 担任が本人との望ましい関わりを積極的に示し、交流学級の生徒が手本となるよう発信することが大切である。

(5) 日常的な交流

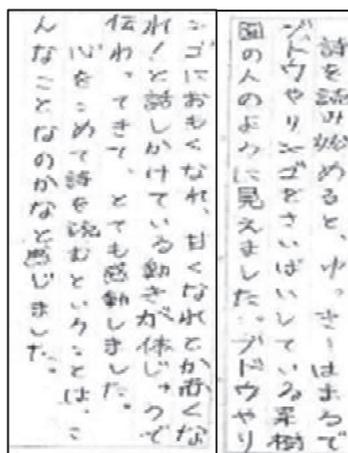
日常的で自然な交流を積み重ねていくことで、休み時間や学校行事などで互いに声を掛け合ったり、遊んだりする姿が見られることが望ましい。そうした自然な交流を生むために、特別支援学級に在籍する児童生徒について、理解を広める取組を特別支援教育コーディネーターらと連携して行う必要がある。

また、「交流学習」というと、特別支援学級の児童生徒は支援が必要だというイメージをもつ傾向もある。通常の学級の児童生徒が、特別支援学級の児童生徒から学ぶ活動も重要である。互いのよさを学び合い、認め合う姿勢を育てる交流及び共同学習を考える必要がある。

意図的な場面設定をした交流を基本に継続的に取り組んでいく中で、互いの学級の児童生徒が成長し、休み時間や学校行事などで声を掛け合ったり、大人を介さず遊んだりするなど、自然な交流が行われることが望ましい。



特別支援学級在籍児童が主体となって実施した国語科授業（詩の学習）



国語科授業（詩の学習）交流学習後における通常の学級在籍児童の感想

7 保護者との連携

(1) 保護者への理解・啓発

ア 保護者の気持ちや願いを聞き、担任がしっかりと受け止める

- (ア) 保護者の心境は多くの困難の中で様々な経緯をたどって現在に至っている。
- (イ) 自分の児童生徒の障害や発達の状態をどう受け止めているかを把握する。
- (ウ) 児童生徒の状態や特性、保護者の願いをふまえ、教育支援プランA・Bを作成する。
 - ・ 作成の際には、合理的配慮について話し合い、保護者との合意形成を図る。

イ 保護者に担任の指導についての考えを伝え、お互いの信頼関係を築く

(ア) 授業公開

- ・ 年間にわたり、様々な授業を公開するよう、計画的に実施する。
- ・ 児童生徒の学習課題や学習内容は分かりやすくする。
- ・ 児童生徒の学習の姿や変容が分かる授業にしていく。
- ・ 時には保護者も一緒に参加できる工夫を行う。

(イ) 懇談会

- ・ 学級経営方針、諸行事や交流学習の計画、日頃の学校生活の様子を伝える。
- ・ 担任からの一方的な話にならないよう心掛ける。
- ・ 児童生徒の作品や写真を教室に掲示しておく。

- (ウ) 連絡帳
 - ・ 学校の様子や家庭生活の様子，小さな変容やよさ等を連絡し合うことを目的にする。
 - ・ 学校から…指導内容の概要，児童生徒の様子，健康面，連絡，依頼等を伝える。
 - ・ 家庭から…健康状態，下校後の様子，持ち物，質問事項，連絡等を伝える。
- (エ) 学級・学年・学校だより
 - ・ 定期的に発行したり，状況に応じて発行したりする。
 - ・ 行事予定や学習内容，学校見学・講演会等の情報，児童生徒の様子等を具体的に記載する。
 - ・ 専門用語は減らし，読みやすいものにする。個人情報（氏名や写真）の扱いにも配慮する。
- (オ) 学校，学級行事
 - ・ 運動会，発表会等の行事を通して，普段見られない児童生徒の姿を発見することができるようにする。
- (カ) 通知票
 - ・ 学習内容や活動の様子，課題を具体的に記載し，エピソードの羅列にならないように作成する。
 - ・ 教育支援プランBと関連付け，児童生徒の変容や次学期の目標の提案を記載する。
- ウ 児童生徒の将来像を見据え，一緒に育てる姿勢で取り組む
 - (ア) 家庭訪問・個人面談
 - ・ 身に付けさせたい力や，自立に向けて必要な力とは等，児童生徒の特性や状態をふまえて話し合う。
 - ・ 同じ歩調で取り組めるよう，児童生徒の障害の状態やこれまでの育ちに応じ，必要な支援を考えたり，具体的な役割分担をしたりする。
 - (イ) 研修会
 - ・ 卒業後の進路や自立に向けて等の講演会や話し合いの場を設ける。
 - ・ 保護者が抱えている悩みや不安等を話し合ったり，互いに学び合い，励まし合ったりできる関係を築いていく。
- (2) 保護者との連携・協力
 - ア 保護者との信頼関係を築くために
 - (ア) 保護者との信頼関係を築き，保護者からの情報を収集する
 - ・ 保護者の負担は非常に大きいことを理解し，気持ちを受け止める。
 - ・ 児童生徒の様子は，事実を肯定的な表現で伝え，互いにより対応を探る。
 - ・ どのような目的で情報が必要かを明確にし，情報の取り扱いには細心の注意を払う。
 - (イ) 家庭での教育力を見極め，高めていくよう支援する
 - ・ 家庭での対応について具体的な目標を絞り，保護者と一緒に評価する。
 - ・ 発達障害等の知識や関心が高い保護者も多いため，より一層の研修や研鑽が必要である。
 - ・ 保護者自身が困難を抱えている場合は，保護者の精神的安定が重要である。学校側の意思が伝わりにくいため，易しい文章でのやりとりが必要である。
 - ・ 養育環境に問題がある場合は，生活面の整備が必要である。十分な食事，睡眠，精神的安定の場の確保が必要である。
 - (ウ) 保護者に対して専門機関への受診を焦らない
 - ・ スモールステップを踏みながら，学校でできる支援，家庭でできる支援を行う。
 - ・ 教師自身が専門機関の相談や助言を受けながら，保護者と連携していく。
 - イ 専門機関を紹介する際の配慮事項
 - ・ 学校において十分対応した上で，専門家への支援を依頼する提案を行う。
 - ・ 信頼できる相談機関や医療機関を紹介する。その際，当事者が学校から見放されたという思いをもたないよう配慮する。
 - ・ 学校から「診断名」のようなことは口にしない。
 - ・ 学校から見える「具体的な行動や気になる状態」を保護者に正確に伝える。
 - ・ 児童生徒や保護者が必要性を感じないときは，時間をかけて対応する。
 - ・ 専門機関を紹介した後も，保護者，専門機関と継続して連携していく。

8 教室環境

場の構造化・刺激への配慮

(人的刺激)・意図的な座席・学び合える座席・学習スタイル別の机配置

- ・ 座席の配慮を行い、場合によっては児童生徒の実態を把握しながら臨機応変に対応する。
- ・ 集団学習、個別学習、グループ活動の場を活用し、児童生徒が集中して意欲的に学習できるようにする。

空間を目的別に分け、合理的な教室のレイアウトをする。

個に合わせた教材の工夫



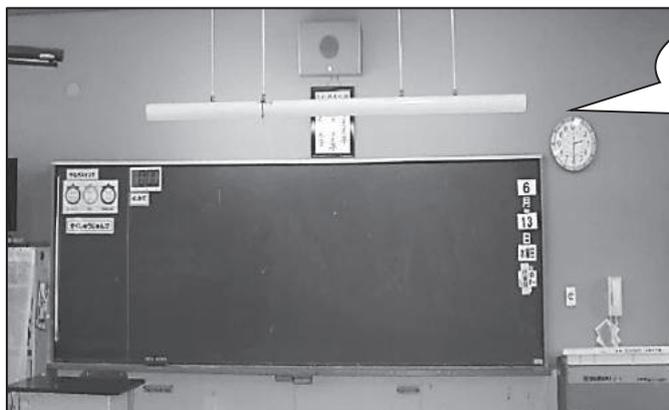
- ・ 様々な教材や補助具を用意し、個に応じた指導・支援が行えるようにする。

- ・ 可動式ホワイトボードを活用し、一日の流れに見通しをもたせる。

一日の流れ



(視覚刺激)・前面掲示物最小・目隠し布



- ・ 簡素な黒板周り、棚に目隠しカーテンをする。
- ・ 太陽の光や窓の外が気になる場合にはカーテンを閉める。

タイムタイマーやタイマーの活用



- ・ 場と目的に合わせて活用する。

物品の整理整頓



- ・ ものの整理整頓がしやすいように明確に位置や場所を表示する。

- ・ 一人一人のカゴやボックスを用意し、配置場所を明確にしておく。

連絡コーナー



宿題や提出物ボックス

立ち位置を示す



(聴覚刺激) 椅子の脚にテニスボール



第3章 肢体不自由特別支援学級

第1節 教育課程の編成

1 肢体不自由教育の基本的事項

肢体不自由とは、身体の動きに関する器官が、病気やケガ等で損なわれ、日常生活動作が困難な状態である。

肢体不自由特別支援学級においては、小学校・中学校学習指導要領に準じた教育課程を編成するが、障害の特性から「基礎的環境整備」が重要となる。施設・設備の配慮に加え、教育内容や指導方法を考慮し、より多くの学習機会や体験を確保し、児童生徒の資質・能力を育むことが望まれる。

また、学力の向上を図るとともに心理面や健康面の課題、社会参加に向けた課題の克服も大切な指導内容とされることから、自立活動の充実が必要である。

2 肢体不自由のある児童生徒の特性と指導の基本

肢体不自由のある児童生徒は、上肢・下肢または体幹の運動動作の障害により日常生活動作や、行動上に困難がある。そのため補装具等を使用している場合が多い。また知的、視覚、聴覚や言語等の障害の重複を伴う場合や進行性の場合もある。学習に関しては運動動作に制限があるため間接的な学習経験になりがちである。これらを補うために実態把握を的確に行い、ICTの活用など、指導内容、指導方法に配慮し、体験的な活動を通して、生活経験の拡大を意図的・系統的に図ることが必要である。

3 教育課程編成の基本的な考え方

肢体不自由特別支援学級の教育課程は通常の小学校・中学校の教育課程に準ずる。児童生徒自身が障害を受容し、改善のための障害を補う適切な工夫や、他者に援助を求めるためのコミュニケーションを図ることができる等補助的な手段を使いこなすことができるようにするために自立活動を位置付ける。知的障害がない児童生徒の場合は、小学校・中学校の当該学年に準ずる教育課程を基本として、「自立活動」を加えることになる。授業の総時間数は決まっているため、「自立活動」の時間を設定した分だけ、必然的に他の教科等の時間数を減らすことに留意する。

なお、肢体不自由に知的障害を併せ有する児童生徒の在籍する学級において、各教科を知的障害特別支援学校の各教科に替えて教育課程を編成する場合は、「IV 第1章 知的障害特別支援学級」を参考とする。

4 教育課程編成に係る配慮事項

- ・ 交流及び共同学習の実施に当たっては、交流学級と連携し、学級のみならず学年、学校全体で支援体制の共通理解を図る。
- ・ 児童生徒一人一人の障害の状況や身辺自立の実態に基づき個別の教育支援計画（以下、教育支援プランA）及び個別の指導計画（以下、教育支援プランB）を作成する。
- ・ 肢体不自由のある児童生徒は障害が重複していたり、補装具を使用していたりすることが多く、定期的に医療機関にかかわる児童生徒も多い。特に理学療法（PT）・作業療法（OT）・言語療法（ST）に関しては、情報収集をし、教育支援プランBに活かしていく。
- ・ 肢体不自由特別支援学級の指導においては、身体機能等、表面上の課題に注目しすぎて、他の側面の可能性を見失ってしまうことがないよう細心の注意を払うことが大切である。

5 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動の取扱い

各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動については、小学校及び中学校の教育課程に準じた取扱いとなる。

自立活動は、個々の児童生徒が自立を目指し障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取り組みを促す教育活動であり、個々の児童生徒の状態や発達段階に即して指導を行う。

第2節 指導計画の作成

1 児童生徒の実態把握

肢体不自由のある児童生徒は、上肢、下肢または体幹の動作の障害のため、起立、歩行、階段昇降、いすへ座る、衣服の脱着、排泄など日常生活や学習上の動作の全部または一部に困難がある。また、その実態は一人一人異なることから、個々の実態を的確に把握し、それに応じてきめ細かな指導を行う必要がある。

【実態把握の内容例】

- ・ 病気等の状態
- ・ 生育歴や進路について
- ・ 使用している装具や車いすについて
- ・ 睡眠、覚醒、食事、排泄等生活のリズムや健康の状態
- ・ 姿勢（学習や遊び、食事などで安定する姿勢）
- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 学習上の配慮事項や学力
- ・ コミュニケーションの状態（言語理解、コミュニケーション手段等）
- ・ 身体機能（手の操作性、手指の巧緻性等）、視知覚機能の発達
- ・ 対人関係や社会性の発達
- ・ 家庭や地域の環境
- ・ 情緒の安定や社会性の発達

2 個別の教育支援計画（教育支援プランA）及び個別の指導計画（教育支援プランB）の作成

教育支援プランA及び教育支援プランBは、教育課程や年間指導計画との関連を図りながら、児童生徒の実態に基づき作成されるものである。また、必要に応じて医師、理学療法士、作業療法士などの指導・助言を求める必要もある。

作成に関しては、「Ⅱ 特別支援教育教育課程編成要領改訂の趣旨と方針 第2章 第2節 教育支援プランAと教育支援プランB」を参照。

3 指導目標の設定

指導目標の設定に当たっては、適切な実態把握をすることが大切である。その際、保護者や関連機関、地域からの情報も大切になる。

- ・ 個々のニーズに応じた指導目標
- ・ 目標の具体性と細分化
- ・ 目標達成期間の明確化
- ・ 達成感や充実感につながる評価指標が設定される目標

4 指導内容の選択と設定、組織化

特別支援学校学習指導要領で示されている自立活動の内容は、一人一人の児童生徒の障害の状態や発達の程度等に応じて選定されるものである。このように自立活動の内容は、一人一人の児童生徒に、その全てを指導すべきものとして示されているものではないことに十分留意する必要がある。

また、学習指導要領が示す自立活動の内容は、一人一人の児童生徒に設定される具体的な指導内容の要素となるものである。したがって、具体的な指導内容を設定する際には、一人一人の児童生徒の障害の状態や発達の程度等の的確な把握に基づき、自立を目指して設定される指導の目標を達成するために、学習指導要領に示されている内容の中から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けることが重要である。

なお、指導内容の選択については、次のことを原則として押さえておく必要がある。

- ① 法令や学習指導要領の示すところに従うこと。
- ② 障害の状態及び発達段階や特性を考慮すること。
- ③ 地域や学校の実態を考慮すること。

指導内容の組織化を図る上での留意事項については、どの指導内容をどの形態で指導することが最も有効であるかを十分に考えた上で、児童生徒の実態に応じて、適切に設定すること。

5 指導の形態等の決定

指導の形態として、教科別の指導、各教科等を合わせた指導がある。各教科を知的障害特別支援学校の各教科に替えて教育課程を編成する際には、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導することができる。その際には、児童生徒の障害の状態や発達の程度等を考慮した上で指導の形態を決定する。

6 年間指導計画の作成

年間指導計画は、一年間を見通して、目標、内容、指導の順序、方法、使用教材・教具、時間配当等を考慮して定める。この年間指導計画に基づいて、学期、月、週、一日のより細かい計画を作成し、単元、題材、主題ごとに指導内容を定め、実際の指導を行う。交流授業については、交流学級とも連携し、計画を立てる。また、年間指導計画を作成する際は、児童生徒の「教育支援プランB」の内容や教育的ニーズを考慮し、目標や手だてについて共通理解を図りながら作成し、時には指導の途中で適宜修正や変更しながら活用していく。

7 授業時数と1単位時間の取扱い

授業時数は、小学校又は中学校の各学年における年間総授業時数に準じる。この場合、各教科等の目標及び内容を考慮し、それぞれの年間指導時数を児童生徒の実態に応じて適切に定めていく。

1単位時間の弾力的運用については、児童生徒の実態や保護者の考え等を考慮しながら指導計画にあらかじめ位置付け、計画的に行わなければならない。

8 日課表の作成

日課表の作成に当たっては、設置校の日課表を基に、児童生徒の発達段階や障害の状態・特性等を鑑みて作成することが重要である。また、作成された日課表を、児童生徒はもとより、関わる教師にも分かりやすく提示し、周知する必要がある。

作成の際には、以下の点に配慮する。

- ・ 児童生徒が見通しをもちやすいこと。
- ・ 個に応じた障害の状況に配慮して編成すること。
- ・ 交流及び共同学習においては、指導内容、方法について通常の学級と連携する。
- ・ 自立活動については、児童生徒の実態に応じて、適切に日課の中に位置付ける。

9 交流及び共同学習

児童生徒の実態に応じ、交流学級を設けて通常の学級での学習を行う。実施に当たっては、該当学級や教科の担任と連携し、参加形態や学習環境、移動の手段、評価の方法等について十分に確認をとり、計画する。

また、必要に応じて、特別支援学校支援籍も活用し、児童生徒の障害の状況に応じた指導を行うことができるように配慮する。

10 学習形態の組織化

児童生徒の実態に応じ、肢体不自由特別支援学級、他の障害種の特別支援学級との合同での学習、通常の学級での交流及び共同学習など、各教科等での学習効果を検討し、学習形態を適切に設定する。

11 学習指導案の形式と記入上の留意事項

学習指導案の形式については、巻末資料を参照する。記入に当たっては、肢体不自由から起こり得る困難な状況を事前に予測した上で、一人一人の児童生徒の学習上、生活上の困難に配慮しねらいが達成できるように計画を行う。肢体不自由特別支援学級に在籍する児童生徒の特徴としては、教科学習が可能であり、文字を書くことや移動すること等の運動・動作が可能であっても、その速度や正確さ、または、持続性の点で、同年齢の児童生徒と比べて実用性が低く、学習活動や移動等に多少の困難が見られる場合や、自分の気持ちや考えを表出することも困難なことが考えられる。そのため、学習環境を整える事や、学習する量の調整等を、児童生徒の実態に合わせて計画する必要がある。特に、教科担任制で、交流及び共同学習として交流学級で教科の学習を受ける場合、事前に教科担当と綿密に打合せをしておく必要がある。配慮事項や合理的配慮の内容等を円滑に伝えるためには、個人情報に配慮しながら、教育支援プランA・Bを活用するとスムーズな連携がしやすい。

教科学習においては、【①見る・②聞く・③書く・④話す】活動において、四つの能力の実態把握を適切に行う。困難が生じる項目を、座席の位置等の環境によって補うことができるか、教材教具の工夫で補うことができるのか、活動量の調整で補うことができるか等を検討する。なお、ICT機器等の自助具を活用する場合、本人だけでなく、周りの児童生徒・保護者・教師につい

でも理解を得ておくことが望ましい。

技能教科においては、作業や運動等を伴う活動が多いため、活動内容の精選や、教材・教具を事前に検討しておく。教材・教具を工夫して参加することや、部分参加等、児童生徒の実態に応じたオーダーメイドの対応が必要となる。肢体不自由のある児童生徒の場合、特に姿勢については配慮が必要である。車いすで活動を行っている場合や、姿勢の保持や調整が難しい児童生徒の場合は、よい姿勢を保つことや、同じ場所に長時間重心がかかったままにならないよう、言葉かけをすることや時間を決めて姿勢変換する等、配慮する。

12 指導記録と学習評価

適切な計画を行うために、発達段階を把握し、【できること・できつつあること・これからできそうなこと・できなくなってくること・できないこと】等を明らかにする。特に、進行性の病気の場合は、現在のステージと今後の見通しを含めて考えることが必要である。また、障害特性上起こりうる困難も細分化して把握すると指導に役立つ。【本人の視点からの困難・周囲の視点からの困難】【改善する必要がある困難】【機器等を活用として補う必要がある困難】を見極めて計画を立てる。【障害特性上、本人に求めることが理不尽な困難】もあるので、合理的配慮の視点も取り入れ、学習活動の内容や量等が適切なものになるよう配慮する。

指導目標の設定に当たっては、①児童生徒の将来を見通して今何が必要か。②今、指導することが適切か。③指導をしている間に目標が達成できる可能性があるか。という三つの視点が大切である。

指導内容・方法等の選定に当たっては、①無理のない条件設定を行う。②抵抗感が少なく、二次的障害への配慮を行い、達成感や自己肯定感を味わうことのできる内容にする。

留意事項としては、肢体不自由のある児童生徒にとっては困難や苦痛を伴うことや、活動そのものに対する経験がない場合もあるので、常に児童生徒の立場で考え、想像した上で計画を立てる。

記録については、本人の変容等を複数の目で客観的・総合的に評価することが必要である。また、指導者だけでなく、本人の視点も大事になる。面談や日常会話等を記録することや、記述することで記録を残し、評価に活かし、本人にフィードバックする。適宜見直しを行い、計画を修正することもあり得る。計画から評価にあたり、保護者にも意義について説明し、理解・協力を得ることが必要である。

評価については、指導者あるいは担任等が行うのか、複数で評価するのかについて、予め決めておく。

第3節 教育課程編成及び指導計画作成のための資料

※知的障害のない児童・生徒の例を記す。知的障害を併せ有する場合は、知的障害特別支援学級の編成要領も参照することとする。

1 小学校における教育課程編成と全体計画例

(1) 年間指導計画例

平成○○年度 肢体不自由特別支援学級 年間指導計画(例)												
学期 月	第1学期				第2学期				第3学期			
	4月	5月	6月	7月	8、9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
指導形態	始業式・入学式 避難訓練 1年生を迎える会	履任式 体力テスト 家庭訪問	プール開き 授業参観	林間学校 小中交流会	始業式 避難訓練 運動会	校内音楽会 学校公開	個別相談 寝取り給食 校外学習	持久走大会 終業式	始業式 避難訓練 書初め展	授業参観 作品展	6年生を送る会 卒業式	
各教科の指導	国語	学年の計画に準ずる(鑑賞に遅れが生じ、期限内に所定の箇所すべてを採書することができない場合、タブレット端末で撮影)										
	社会	学年の計画に準ずる(図表などは、プリントを使用)										
	算数	学年の計画に準ずる(單元ごとに復習プリントに取り組み)										
	理科	学年の計画に準ずる(実験は、支援員とともに行う)										
	音楽	学年の計画に準ずる(音楽演奏では、府産や強気に配慮した楽器を選択したり、リコーダー演奏などでは、支援員とともに進めたりする)										
	図画工作	学年の計画に準ずる(描画では、書見台を使用する。彫刻刀等の刃物を使用する場合は、支援員とともに進めたりする)										
	家庭	学年の計画に準ずる(車いすでも作業しやすいテーブルや台を使用する。調理、ミシンの作業等では支援員とともに進めたりする)										
体育	・車輪パレーボール ・リズム運動 ・水泳 ・運動会練習(交流学級で実施、支援員とともに進めたりする) ・マット運動 ・ボール運動(ゲーム)											
外国語	学年の計画に準ずる(やり取りをする場面での児童の位置を換算し、移動が困難にならないようにする)											
特別の教科 道徳	学年の指導計画に準ずる(道徳の内容は、道徳科の時間他、各教科及び自立活動、特別活動の時間を中心に学校教育活動全体の中で取り扱う)											
総合的な学習の時間	学年の計画に準ずる(行事前など)・林間学校に向けて・運動会に向けて・校外学習に向けて・性に関する関心と行動について・もうすぐ最高学年											
自立活動	<健康の保持><心理的な安定>身体の状態に応じて運動の自己管理ができるようにし、少しでも困難を改善・自己管理できるようにしようとする意欲の向上を図る。 <人間関係の形成><身体の動き><コミュニケーション>自分でできること、補助的な手段を活用すればできること、他の人に依頼して援助を受けることなどについて、体験を通して理解する。 <環境の把握>現在できている動作がより確実になるようにする。											
*学校教育全体を通じて指導する												
*時間における指導は課題に応じて実施する	○おられるところ(部位)を知ろう、理めよう、使おう ・リラクセス体操・座位の保持・膝立ち・横上歩行 ・バランスボール				○楽な姿勢を見付けよう、よりよく身体を使おう ・リラクセス体操・補助具の使い方・クッションの使い方・バランスボール・曲げて、伸ばして				○大きな動き、細かい動き ・リラクセス体操・大玉ころがし ・指でなぞって			
特別活動	・学級活動(保活、清掃) ・交流及び共同学習 ・委員会活動 ・行事(林間学校、運動会、校内音楽会、校外学習、作品展、6年生を送る会)											
*教科等の指導内容は通常の教育課程に準じて行う。知的障害を併せ有する場合は、知的障害特別支援学級の教育課程も参照する。各教科等を合わせた指導を行う場合もある。												

(2) 指導における配慮事項

肢体不自由のある児童生徒がよりよく学習を行っていくための支援は欠かせない。人的支援を活用することや、物的支援を活用することなど、環境を整えることが必要である。指導に当たっては、以下の点について配慮できるとよい。また、教育支援プランAの合理的配慮に反映できるとよい。

① 場の工夫

姿勢変換を自分で行えない場合もあるため、教室環境を整えることが必要である。教室内にマットを敷くなどして、リラックスできる場所を確保したり、板書や掲示を見やすい位置にしたり、教師の目線などの立ち位置に注意したりすることも大切になる。

② 姿勢の工夫

姿勢保持については、いすの工夫や、活動の途中に休憩を設けたり、体を緩めたりする時間を取る、装具を外す時間を設けることなども必要になる。

③ 道具の工夫

麻痺や筋力低下等の理由から、筆記に支援が必要になる場合等も含め、ICT機器などの補助具を活用して困難さを軽減することが望ましい。

2 中学校における教育課程編成と全体計画例

肢体不自由においては、障害特性上、保健体育の時間を自立活動に充てることを考えやすいが、生徒の実態とニーズに合わせて編成を行う。

例：保健体育 週3時間中、2時間は自立活動、1時間は交流学級の授業に参加等。運用前に、本人、保護者、教科担当等と調整を行い、学校全体で共通理解を得る。評価の仕方や教材等の購入についても事前に調整する。特に肢体不自由のある生徒においては、自助具等を使用することが多い為、使用する自助具についても、教師及び同じ授業を受ける生徒にも理解を得ておくことが望ましい。

〇〇年度 〇組 年間指導計画 肢体不自由特別支援学級											
学期 月	第1学期					第2学期				第3学期	
	4月	5月	6月	7月	8月-9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新調の予定	始業式 入学式 学期開き 発育測定 校外学習	担任式 算数授業 中間テスト 修学旅行	上級学習 体育祭 期末テスト	読書会	始業式	校外学習 生徒会 中間テスト 合唱コンクール	アフレコ 全校3年級 生徒会 大会 卒業テスト	クリスマス 会 終業式	始業式 入学選考 まねくらリレー	作品展 期末テスト 自然の教室	3月会 卒業式 修了式
国語	交流学級で実施(文字入力にタブレット端末を使用)										
社会	交流学級で実施(拡大したプリントを使用)										
数学	以下の2グループに分け、個別支援学級内で定期的な学習を行う										
	A	・マス計算(通年) ・四則計算(通年) ・整数の表し方 ・少数の計算 ・分数の計算					・整数の表し方 ・少数の計算 ・分数の計算 ・単位の換算				・1, 2学期のまとめ ・文章題 ・入試問題
B	数の位の理解 3桁までの足し算引き算 時刻、長さ、図形など日常生活との関連が強い内容					数の位の理解 一万までの数 足し算引き算 文章題 掛け算九九の習得 掛け算を使った文章題					
理科	交流学級で実施(実験の時にはS.Aが支援を行う)										
音楽	交流学級で実施(楽器では、太鼓は軽いバグを使用し、ハンドベルは押して音が鳴る楽器を使用する)										
美術	交流学級で実施(絵は書見台を使用し、筆の変わりに持ちやすいローラーを使用する)										
保健体育	交流学級で実施(体育祭前の練習のみ) ・拡大運動 ・手指の巧緻性を高める運動 ・ボッチャ等の障害者スポーツに取り組み										
音楽・家庭	交流学級で実施(座位姿勢で参加できるように、専用の皿と椅子を使用する)										
外国語	・あいさつと classroom English ・身の回りの英語 ・曜日、天気、数字、季節、食べ物、スポーツ等 ・アルファベット ・ペーパードラムの読み書き ・日劇の動作を表す動詞										
特別の条件 生徒総合的な学習の時間	道徳の内容は、道徳の時間、自立活動、特別活動の時間を中心に学校教育活動全体の中で取り扱う。 交流学級と実施(行事前のみ) ・校外学習について ・連絡学習 ・宿泊学習に向けて ・進路について										
自立活動	時間における指導は課題別の学習を行う 学校教育全体の中で各課題について適宜指導を行う										
特別活動	・学級活動(新調、除害、進路、学級会活動) ・交流及び同窓会 ・生徒会活動 ・行事・校外学習、算数授業(2年生)、体育祭、自治学習、アフレコ学習(3年生)合同スポーツ大会、作品展、卒業式										

*教科等の指導内容は通常の教育課程に準じて行う。特別障害を併せ有する場合は、知的障害特別支援学級の教育課程も参照する。各教科等を合わせた指導を行う場合もある。

3 日課表の例

日課表 (小学校高学年例)					
校時	月	火	水	木	金
	朝の会				
1	体育 自立	体育	自立 活動	国語	総合 自立
2	国語	国語	国語	体育	算数
3	算数	音楽	算数	算数	図工
4	音楽	家庭	理科	理科	図工
	昼食・休み時間				
5	社会	理科	体育 自立	社会	家庭
6		道徳	クラブ	外国語 活動	
	帰りの会				

日課表 (中学校例)					
校時	月	火	水	木	金
	朝の会				
1	技術 家庭	社会	体育 自立	国語	社会
2	理科	音楽	数学	理科	理科
3	保健 体育	数学	国語	社会	外国語
4	国語	外国語	理科	自立 学活	美術
	昼食・休み時間				
5	自立 活動	自立 活動	外国語	数学	総合 自立
6		道徳	社会	外国語	総合的 な学習 の時間
	帰りの会				

3 自立活動の指導計画

自立活動指導の実践事例 ○○小学校（肢体不自由特別支援学級）

1 自立活動の授業づくり(流れ図) A

児童生徒名	学年	作成者
○○ ○○	6年	○○ ○○

計画 (PLAN)

実態把握① 情報収集	実態把握②-1 情報の整理
1 健康の保持 (日常生活面, 健康面など) (追加)	基本的な生活習慣は身に付いている。衣服や装具の脱着, 排泄は一人でできる。食事も一人ででき, 給食は普通食を食べている。発作, 服薬なし。
2 心理的な安定 (情緒面, 状況の理解など) (追加)	明るく優しい性格で, 休み時間や給食の時間では, 友達と楽しく過ごしている。初めての人や初めての学習に抵抗があり, 顔を隠したり, 表情が曇ったりする。
3 人間関係の形成 (人とのかかわり, 集団への参加など) (追加)	クラスの友達とは楽しく遊んだり, 話したりすることができる。自ら進んで話し掛けることは少ない。
4 環境の把握 (感覚の活用, 認知面, 学習面など) (追加)	楽しみにしている学習には, 見通しをもって活動しようとする姿勢が見られる。状況の把握が難しい場面もあるが, 約束やルールを守ろうとする。
5 身体の動き (運動・動作, 作業面など) (追加)	左手でスプーンや箸を使うことができる。普段は車いすを使っている。補装具を着け, 短い距離であれば自立歩行ができる。指先を使った細かい作業が苦手だが, ゆっくりと時間をかければ細かい作業にも取り組める。
6 コミュニケーション (意思の伝達, 言語の形成など) (追加)	慣れている教師には, 自分の意思を伝えることができる。感想や自分の考えを発表することが苦手である。
7 その他 (性格, 行動特徴, 興味・関心など) (追加)	音楽を聴くことが好きで, 休み時間になると自分で操作し, 音楽を聴いている。

実態把握②-2 児童生徒の学習上又は生活上の課題や, これまでの学習状況の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・座位姿勢においてリラックスして座っていることが少なく, 足や腰, 肩に力が入ってしまう。 ・様々な情報を一度に処理することが難しい。 ・集中力が持続しにくい。音楽を効果的に活用することで集中力を持続できる。
--

実態把握②-3 児童生徒の3年後の将来像 <ul style="list-style-type: none"> ・歩行や階段昇降を安定させ, 学校内を自在に移動できるようになってほしい。(環, 身) ・基礎学力の定着を図り, 自らの考えを進んで発表できるようになってほしい。(心, 環, 身)
--

指導すべき課題の整理③ 課題の抽出 <ul style="list-style-type: none"> ・自分から動こうとする気持ちはあるが, 自分の体の姿勢への意識が弱い。(心, 身) ・机上进行を整理したり, 活動内容を提示したりすることで, 見通しをもちやすくなる。(心, 環) ・集中が持続しないこともあるが, 言葉かけや音楽をかけることで集中することができる。(心, 環)

指導すべき課題の整理④ 中心的な課題	
中心的な課題	背景
① 学校生活での移動範囲が狭い。	姿勢が安定しないため, 活動範囲が広がらない。
② 集中が持続しない。	見通しをもったり, 物事を整理したりすることが苦手である。

指導目標の設定⑤
① 周りの状況を確認しながら、自立歩行をする。
② いろいろな経験を通して、興味・関心を広げる。

項目の選定・指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	情緒の安定に関する事。	他者とのかかわりの基礎に関する事。	保有する感覚の活用に関する事。	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事。	状況の理解と変化への対応に関する事。	他者の意図や感情の理解に関する事。	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	言語の受容と表出に関する事。
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事。	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	自己の理解と行動の調整に関する事。	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	日常生活に必要な基本動作に関する事。	言語の形成と活用に関する事。
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。		集団への参加の基礎に関する事。	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	身体の移動能力に関する事。	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5)	健康状態の維持・改善に関する事。			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	状況に応じたコミュニケーションに関する事。
Key words	身辺整理	不安, 成功体験	他者への依存, 関わる喜び	移動能力	安定歩行	意思の表出

指導内容	係や当番活動の機会を増やし、歩行する場面を増やす。	安定した座位姿勢ができるよう、足や腰、肩の緊張を緩めて姿勢を保持できるようにする。
指導場面	・朝の会、帰りの会 ・給食 ・自立活動	・自立活動 ・移動時 ・給食 ・授業やその他の活動

項目と項目を関連付ける際のポイント

① 他者への興味・関心の高さを、学習活動の場への移動の力を高めることと関連させる。
② 意思の表出と成功体験による心理の安定を関連させる。

第6学年 自立活動 学習指導案

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇曜日)
 第〇時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指導者 教諭 〇〇〇〇

- 1 主題名 「安定した歩行をしよう」
- 2 主題設定の理由

(1) 個別の児童の実態

本児は、脳性麻痺により両下肢及び右手に麻痺がある。自立歩行できるが、身体全体に緊張が入りやすく不安定である。座位姿勢においても、足や腰、肩などに力が入ってしまう。ストレスがかかる場面

4 教科の指導計画

(1) 小学校5年生 社会科

〇〇組 社会科 学習指導案

1 単元名 「水産業のさかんな枕崎市」

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇曜日)
 第〇時 〇〇:〇〇 ~ 〇〇:〇〇
 場 所 教室
 指導者 教諭 〇〇〇〇

2 単元設定の理由

本学級は肢体不自由特別支援学級で、5年生の男子児童が3名在籍している。学習面では、3名ともに学年相応の力を有しており、学力差は感じないものの、身体面ではそれぞれ実態に違いがある。特に、筋ジストロフィーと診断されている児童2名については、筋力の低下が見られ、板書内容等のノートへの記録に時間を要することや、その他、作業や移動において困難な状況が多々見られる。また、もう1名の児童は、脊髄小脳変性症と診断されており、現在のところ学習上では特に問題は見られないものの、体調不良等が多かったり集中力が持続しなかったりすることが時折見られる。

本単元の学習は、「我が国の産業の様子」や「産業と国民生活との関連」について理解できるようにするとともに、我が国の産業の発展についても関心をもたせていくものである。また、「我が国の産業の様子」については、食料生産の様子を「庄内平野の米づくり」を例にして学習し、さらに本時で学習する「枕崎市の水産業」へとつなげていく。

本時で学習する「水産業」に関しては、埼玉県其自然条件から考えても児童にはあまりなじみのない産業である。また、児童の日常生活の実態からも、スーパーマーケットや生魚店へ足を運ぶことは少なく、知識面に加えて関心の低さもうかがえる。しかし、資料の提示の仕方を写真や映像などを使って視覚的に工夫したり、地図や統計資料を使って客観的な視点で考えさせたりすることで、体験や経験不足を補いながら、知識・技能の向上を図り、思考力や判断力を育成できるものとする。

3 指導計画 7時間

	水産業のさかんな枕崎市 (7時間扱い)	授業時数
1	日本人の食生活と水産物の関係について調べ、漁の仕方を考える。	2
2	港にたくさんの魚が水揚げされるわけを調べる。	1
3	水産業に携わる人々の工夫や努力を調べる。	1 (本時)
4	水産資源の確保と安定した資源の確保に取り組む工夫を調べる。	2
5	港でとれた魚が消費者のもとに運ばれるまでを調べて考える。	1

4 本時の構成

(1) 本時の目標

学習面における個々の児童の目標は共通目標と同じである。

「漁業別の生産量の変化」のグラフの読み取りをもとにして、枕崎漁協の人々が生産量を増やすためにどんな工夫をしているのか考えることができる。

(2) 展開

配時	学習活動	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示, 発問 ※支援の手だて *評価の観点				備考
		全体	A	B	C	
導入	○児童の実態	移動手段と必要とされる物	電動車いす カットテーブル	手動式車いす カットテーブル	独歩 一般用机	
1分	1 あいさつと健康状態を確認する。	□疲れや体調に変化はないですか。	※背中 of 緊張を触れて確認する。	※腹部に張りがないか声をかける。	※体調が悪くないか声をかける。	
2分	2 学習問題について確認する。	□学習問題を確認します。	○板書を写さず、黒板に貼られた学習問題をよく見て確認する。			
2分	3 前時の学習を想起する。	水産業で働く枕崎市の人々は、わたしたちにおいしい魚をとどけるために、どんな工夫をしているのでしょうか。		○漁業の分類について、前時の学習で使った資料から確認する。		
		※前時に参加できなかった児童がいなかったかを確認する。				

展開 2分	4 本時の学習課題を知る。		○学習課題と学習問題との関わりについて考える。			大型スクリーン プロジェクター	
18分	5 日本の漁業の生産量の変化について知る。	枕崎漁協の人々は、生産量をのばすためにどんな工夫をしているのか考えよう。 □漁業別の生産量の変化を表した折れ線グラフを見て分かることをまとめましょう。	※正面にスクリーンを置き、プロジェクターで拡大してグラフを提示する。 *個々の児童が見えやすい位置に車いすで移動できるように、プロジェクターの前面を広く開けておく。以下のことに着目してグラフを読ませる。 ◎漁業別の生産量が変化している。 ◎遠洋漁業が減少している。 ◎沖合漁業が減少している。 ◎沿岸漁業が減少している。 ◎養殖業が伸びている。				
3分	6 リラクゼーションタイム	※心身に負担がかからないように姿勢変換や休息の場を設ける。	○うつ伏せ状態にさせ、背中に触れ、緊張を緩める。	○背もたれを倒して楽な姿勢で休ませる。	○体調に変化がないかを確認する。		
10分	7 本時の課題について考える。	□グラフから読み取ったことをもとにして今日の課題について考えよう。 ※教科書から自分の考えを確かめさせる。	※沖合漁業の変化の理由を他のグラフの変化と関連付けて考えさせる。 ○グラフからわかったことをもとに、漁協の人が工夫していることについて考える。 ◎「他の漁業と違って、養殖業だけが生産量を伸ばしているよ。」 *「漁業別の生産量の変化」のグラフを元にして枕崎漁協の人々が生産量を増やすためにしている工夫について考えることができる。				
まとめ 5分	8 課題についてまとめる。		※わかったことを発表させ、それぞれの考えの共通点をもとにまとめていく。				
		養殖業・さいばい漁業・魚のすみか・山に植林・稚魚の放流などの工夫をしている。					
1分 1分	9 次時の予告 10 あいさつ	※体調面を確認して終了する。	※次時の学習へ見通しをもたせる。				

5 本時の評価

(1) 共通評価 「漁業別の生産量の変化」のグラフの読み取りをもとにして、枕崎漁協の人々が生産量を増やすためにどんな工夫をしているのか考えることができたか。

(2) 小学校6年生 家庭科

〇〇学級 家庭科学習指導案

※児童の実態や他教科等との関連もあり、
下学年対応の場合もある。

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇曜日)
第〇時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
場 所 家庭科室
指導者 〇〇 〇〇 (T1) 〇〇 〇〇 (T2)

1 題材名 「朝食を考えよう」

2 題材設定の理由

(1) 児童生徒の実態

本学級は、第6学年の男子児童1名、女子児童2名の計3名の児童が在籍している肢体不自由特別支援学級である。いずれの児童も移動には車いすを使用している。食事や車いすへの乗降、排泄時など一部支援が必要などころはあるものの、日常の学校生活の中では、特に問題なく過ごしている。どの児童も日常的な会話ができ、友達同士仲良く会話を楽しむ姿をよく目にすることができる。また、支援を必要とする場面では、担任教師に対して、適切な言葉を用いて支援を依頼すること

ができるなど、コミュニケーション面では特に問題なく過ごしている。しかし、車いすの乗降や排泄時など、日常生活の中で決まっている活動については、自ら声をかけて支援を求めることはできても、突然の事態に対処することができず、周りからの言葉かけを待っていることが多く見られるのが現状である。また、普段あまり関わることのない教師や友達に対しては慣れないせいもあり、萎縮して声をかけることをためらっている様子が見られる。このことは、日常生活全般において、行動範囲や活動を制限し、生活経験を少なくしてしまう要因の一つと考える。

(2) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領家庭科の目標（１）及び内容B衣食住の生活・食生活（２）「調理の基礎」に示されている事項に準じて行う。ここでは、「調理の基礎」ア「身に付ける知識及び技能」について(ア)調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解すること。(イ)調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解し、適切に使用できること。(ウ)材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解し、適切にできること。(エ)材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできること。(オ)伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできること。の五つの事柄で示している。また、イ「おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること。」とある。

本特別支援学級では、上記のことを踏まえた上で、児童が日常生活の中で生じる困難な状況乗り越えるために必要な知識、技能を身に付けていくこともねらいとしている。そこでまず、調理実習という一つの学習活動を通して、障害から生じてくる困難な状況を自ら想定すること。そして、それを克服するための対策として、「自分でできることは何か」「どうすればできるのか」「応援をたのまなければできないことは何か」等を考えさせていくことが重要である。さらに、そのことを通して、日常生活の中にある様々な問題を自らの力で克服していくことへとつながる題材である。

(3) 指導観

学習形態は基本的には一斉指導の形で行うが、個々の児童の障害等による身体的な動きの制限や体調面を考慮しながら、児童と相談の上、随時必要に応じてそれぞれに適切な支援を心掛けていく。また、自立活動の観点も踏まえた指導計画を立てる。具体的には、「朝食の献立作り」では、栄養のバランスについて、分類表を見ながら一斉指導の中で全員に考えさせ、基礎的な知識の獲得を行わせる。「おかず作り」では、実際に自分で作ることを想定して、準備から調理、片付けまでの計画を個々の児童に立てさせる。その際には、自分自身でできること、周囲の人に手伝ってもらうこと、道具や材料を変えればできることなど、自分の身体の動きと場所や道具等から個別に計画を考えさせていくようにする。

本時の学習指導では、「野菜の油炒め」の調理実習を行う。実習に向けて計画した表に基づいて、野菜を切ったり、炒めたり、また、盛り付けたりする過程を通して、自分の計画がどの程度行うことができたかを検証させ、さらに工夫改善を図ることで、上記にある小学校学習指導要領「家庭科の目標」を達成させていきたい。また、計画通りにいかなかったところはどこなのか等を考えさせることが、自分自身の障害に向き合うことにつながり、さらに、これまで「できない」と思っていたことから「どうすればできるのか」や「工夫すればできる」という自分自身への期待や自信につなげていきたい。

3 児童の実態

氏名	生活全般の実態	題材に関する実態
A児男子	<ul style="list-style-type: none"> 筋ジストロフィー症（デュシェンヌ型） 電動車いすを使用している。 手首や指の可動域が狭いことや握力が弱いため、物を持つことや動かすことに支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 偏食、アレルギーはない。 調理の経験はほとんどないが、家庭ではテーブル上の食器等の準備や片付けを行っている。
B児女子	<ul style="list-style-type: none"> 脳性麻痺による両下肢及び左手麻痺 車いすを使用している。 斜視があり、左上方に焦点がある。 意思が強く何事も最後まで自分でやり抜こうと努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 甲殻類のアレルギーがある。 小麦粉を練ったり、飾り付けをしたりするなど、お菓子作りの手伝いは行ったことがある。
C児女子	<ul style="list-style-type: none"> 両下肢麻痺 車いすを使用している。 上肢に障害はなく、両手を器用に使うことができる。興味・関心が高く行動的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜に好き嫌いがある。 家庭では、夕食作りの手伝いを毎日行っているが、茹でたり、炒めたりしたことはない。

4 題材構成

(1) 共通目標

- ・ 朝食に合うおかずを考え、準備や調理方法、片付けまでの計画を立てることができる。
- ・ 炒める調理が分かり、簡単なおかずを作ることができる。

題材に関する目標については、個々の児童の障害から生じる困難さを児童が自力で克服する。または、違う方法を考えることができるような手だてを考える。

(2) 個人目標

氏名	題材に関する目標	教育支援プランBの目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上肢の動きを考えて「できること」と「できないこと」を整理しながら計画を立てることができる。 ・ 自分が使える道具を選ぶことができる。 	※教育支援プランBの「教科・領域等」の学習課題・目標の中から、家庭科に係わる内容を記載する。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 右手の使い方を工夫することや、左手の援助になるものを考えた計画を立てることができる。 ・ 自分が使える道具を選んだり、使い方を工夫したりすることができる。 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でできることと周囲の人に支援してもらうことを考えて計画を立てることができる。 ・ 工夫して道具を使うことができる。 	

指導計画の作成については、時間数に問題が生じる場合や児童の実態、他教科との関連を図ることを含め、適切な時間を配当する。

5 指導計画（全8時間扱い 本時6・7/8）

	指導目標	授業時数
1	・ 朝食の大切さに気付き、栄養バランスよい朝食を作ろうとしている。	1時間
2	・ 材料の表示の見方、選び方、保存の仕方が分かる。	2時間
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 炒める調理の仕方やよさが分かる。 ・ フライパンを安全に正しく使って炒める調理ができる。 	1時間
4	・ 材料や手順を考え、工夫して朝食のおかずを作る計画を立てている。	1時間
5	・ 実習計画に沿って、工夫して調理している。	2時間(本時)
6	・ 実習経験を生かして、家庭でもおかずを作ろうとする意欲をもつ。	1時間

6 本時の構成

(1) 本時の目標

共通目標	○実習計画に沿って、安全に気を付けながら工夫して調理できる。
A	○道具の持ち方や使い方を考えながら、自分に合った一番使いやすい方法を見付けることができる。
B	○左手の代わりになる道具を見付けたり、道具の特性から使い方を工夫したりして調理することができる。
C	○自分の力でできること、できないことを考えながら調理を行い、適宜周りの人に応援を頼むことができる。

(2) 展開

配時	学習活動・内容	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示、発問等 ※支援の手だて *評価の観点				資料等
		全体	A	B	C	
5分	1 個々のめあてについて確認する。	□計画表から本時の個人目標を確認してみよう。	◎安全な切り方やいため方を試すこと。	◎一番やりやすい方法を確かめてみよう。	◎一人でどこまでできるか挑戦しよう。	実習計画表
		計画表に沿って、安全に気を付けながら工夫して野菜炒めを作ろう。				
10分	2 準備をする。 ・ 安全性	※安全面や使いやすさを個々の児童に考えさせながら、材料や道具の置く場所等を決めさせる。				材料 用具 等

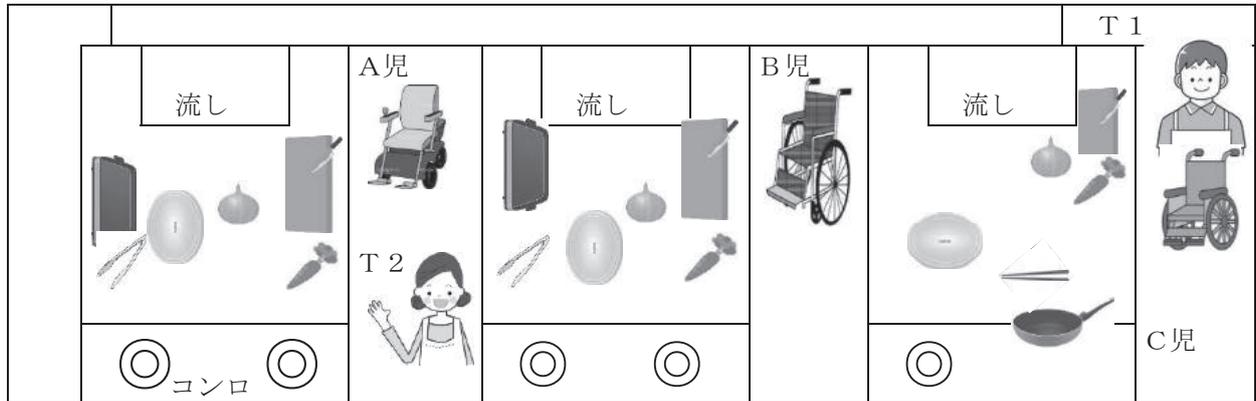
展開 15分	3 野菜を切る。 ・自分に合った安全な切り方	<p>※T1は全体把握と、C児の動きに注意をばらう。</p> <p>※T2は主にAと、Bの支援に当たる。</p> <p>※時間の都合上野菜は人参と玉ねぎの2種類で行う。</p>	<p>□手首の使い方と野菜を置く角度に注意しましょう。</p> <p>○それぞれの野菜の特徴から自分に合った切り方を考えながら切る。</p> <p>◎野菜の立て方を工夫しながら取り組む。</p>	<p>□野菜を固定する道具を置く位置に気を付けましょう。</p> <p>○準備した道具の置く位置を考えて切り方を工夫する。</p> <p>◎野菜がしっかりと固定して取り組む。</p>	<p>□安全に切れるように身体の位置を考えましょう。</p> <p>○切り方を確認し、基本的に忠実に切ることができるか確かめる。</p> <p>◎自己解決を図り、達成感を味わっている。</p>	野菜 人参 玉ねぎ
	* 計画表を見ながら、安全に野菜を切っている。					
5分	4 心と身のリラクゼーションを行う。 <small>同じ姿勢を長く続けると二次的な障害を起す原因になるため、実態に応じて適宜時間とって行う。</small>	<p>※緊張の緩和や二次的な障害の防止のため姿勢変換や軽い運動を行うように促す。</p>	<p>【緊張緩和】</p> <p>○車いすを倒し、ゆったりとした姿勢をとる。</p>	<p>【側弯予防】</p> <p>○背筋を伸ばした姿勢で左右にひねる。</p>	<p>【褥瘡予防】</p> <p>○プッシュアップ運動を数回行う。</p>	
15分	5 野菜を炒める。 ・自分に合った安全な炒め方	<p>□計画表を見て道具を準備しましょう。</p> <p>*児童と相談しながら、使い方や手順、道具の変更など支援する。</p>	<p>◎フライパンを扱うことが難しい。</p> <p>○フライパンの代わりにホットプレートを使って行う。</p>	<p>◎片手でのフライパン操作に苦戦する。</p> <p>○ホットプレートを使って行う。</p>	<p>○フライパンを使って行う。</p> <p>※状況によっては、ホットプレートを使用させる。</p>	フライパン ホットプレート 食用油
	* 計画表を見ながら、安全に野菜を炒めている。					
10分	6 盛り付ける。 ・おいしく見える盛り付け方 ・自分に合った盛り付け道具	<p>*道具や材料が熱くなっているので、十分に気を付けさせる。</p>	<p>○トングを使って、きれいに盛り付ける。</p>	<p>○皿を置く位置や身体の向きに気を付けて盛り付ける。</p>	<p>○使いやすい道具を選んで、きれいに盛り付ける。</p>	フライ返し トング 箸
10分	7 試食 ・味 ・かたさ ・火の通り具合	<p>□試食会を行うので、野菜炒めを並べてください。</p> <p>※互いに感想を伝え合わせる。</p>	<p>*盛り付け方の例を見せて、食べやすさや見た目にも気を配るように促す。</p> <p>*友達のよいところに目を向けさせる。</p> <p>◎彩のよさに気が付く。</p> <p>◎食材の硬さから火の通り具合を確かめている。</p> <p>◎味の濃淡について気にしている。</p>			
5分	8 心身のリラクゼーション	<p>※緊張の緩和や二次障害の防止のため、姿勢変換や軽い運動を行うように促す。</p>	<p>【緊張緩和】</p> <p>○車いすを倒し、ゆったりとした姿勢をとる。</p>	<p>【側弯予防】</p> <p>○背筋を伸ばした姿勢で左右にひねる。</p>	<p>【褥瘡予防】</p> <p>○プッシュアップ運動を数回行う。</p>	
まとめ 5分	9 振り返りをする。 ・よくできたところ ・改善点	<p>*自分の障害と向き合い、今後の生活に生かせるような観点で活動の振り返りを行わせる。</p>	<p>◎自分に合った道具の使い方を見付けることができたから家でもやってみよう。</p>	<p>◎道具の使い方を工夫すれば、私にも調理することができたことが分かった。</p>	<p>◎できないことを周りの人に頼むことでほとんど自分の力でできたので嬉しい。</p>	実習計画表 筆記用具 反省カード
10分	10 後片付けをする。	<p>※安全面に配慮しながら、できる限り児童に行わせる。一人でやるのが難しい場合は、友達と協力することでできないか、また、どうしてもできないときは周りの人に応援を頼むなど、自分の考えで判断できるように見守りながら支援していく。</p>				

7 本時の評価

(1) 本時の評価

共通評価	○実習計画に沿って、安全に気を付けながら工夫して調理できたか。
A	○自分の身体の動きに合った道具を見つけて、野菜を切ったり、炒めたりすることができたか。
B	○自分の身体の特徴と道具の特性を考えて、使い方を工夫しながら野菜を切ったり、炒めたりすることができたか。
C	○自分の力でできること、できないことを考えながら調理を行い、適時周りの人に応援を頼むことができたか。

8 教材配置図



5 支援籍学習，交流及び共同学習

(1) 特別支援学校での支援籍学習

障害に基づく困難を改善するため、肢体不自由特別支援学校において、身体へのアプローチの方法など、専門的な学習（自立活動等）を行うことができる。実施に当たっては、本人や保護者の意向を十分に確認する必要がある。保護者や受け入れる特別支援学校と目的、内容、実施日等についての打合せを行い、保護者と連携し、肢体不自由特別支援学校に向いて学習する。また、支援籍学習のみではなく、在籍校での学習や生活等について、特別支援学校のコーディネーターを在籍校に招き、相談することもできる。

(2) 通常の学級との交流及び共同学習

教科学習や行事等の参加を目的として行う。交流学級を設け、実態に応じて学習を行っていくことが望ましい。実施に当たっては、通常の学級の学年・学級担当職員と児童生徒の実態把握を共有し、計画的に実施をしていくことが必要となる。さらに、教育的な効果が得られるか、特別支援学級と交流学級の移動を一人で行えるかどうか、トラブル等の心配はないか等について事前に検討することも必要になる。交流を主な目的として実施する場合についても同様な配慮を行う。また、交流の例として、教師、児童生徒を対象とした給食交流、朝の会への参加などが挙げられる。実施する際には、通常の学級の児童生徒へ向けて、車いす操作等の手伝い方などについての配慮事項や通常の学級で学ぶ目的を伝えることも必要である。

6 保護者・他機関との連携

年間指導計画及び教育支援プランA・Bの作成に当たっては、保護者との連携が欠かせない。保護者との合意の上で作成し、その後も適宜修正を加えていく過程においても保護者への確認が必要である。

また、児童生徒が関わっている医療機関やPT、OTとも連携を図り、必要によっては実際の訓練を見学し、自立活動について指導助言を得ながら進めることも必要である。

【保護者との連携（例）】

4月	保護者会①	学級概要説明等
5月	個別面談①	教育支援プランA・B作成 PT・OTの見学（1回目）
7月	個別面談②	1学期を振り返って目標や指導内容の修正等
12月	保護者会②	2学期の反省等
2月	個別面談③	教育支援プランA・Bの振り返り、次年度に向けて PT・OTの見学（2回目）
3月	保護者会③	一年間の振り返り、次年度に向けて

第4章 病弱・身体虚弱特別支援学級

第1節 教育課程の編成

1 病弱・身体虚弱教育の基本的事項

病弱教育は病気自体を治すものではないが、病気治療中の児童生徒の情緒の安定や健康回復への意欲を向上させることにより、治療効果が高まったり、健康状態の回復・改善等を促したりすることに有効に働くものである。

(1) 学級設置の目的

病弱・身体虚弱特別支援学級（以下「病弱学級」）について、学校教育法第81条第3項には「疾病により療養中の児童及び生徒に対して、特別支援学級を設け、又は教師を派遣して、教育を行うことができる。」と示されている。病弱学級は、病気等の状態に配慮しながら学習空白を補完するとともに、病気等による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための知識・技能、態度及び習慣や意欲を養うために指導、支援することを目的としている。

(2) 学級の形態

病弱学級には、小・中学校内に設置（以下、「学校内設置の病弱学級」という。）されるものと、病院内に設置されるもの（以下、「院内学級」という。）がある。

学校内設置の病弱学級は、主に入院はしないが病気による日常的な活動制限のある児童生徒が在籍し、一人一人の病気の状態に合わせた指導、支援を行う。

院内学級は、入院による加療を必要とする児童生徒が在籍し、病院内に設置の教室、又は、ベッドサイドで指導、支援を行う。児童生徒の入院に伴い、本人及び保護者の希望、医師の許可等により入級となるが、退院に伴って前籍校に復帰するため、年度途中の入退級が発生する。

2 病弱・身体虚弱のある児童生徒の特性と指導の基本

病気等による療養のため入院を余儀なくされ、日常的な活動制限のある児童生徒は、学習に遅れが生じたり、回復後に学業不振になったりすることも多い。病弱教育では、このような学習の遅れなどを補完する上で重要な意義があるが、その他にも、次のような意義があると考えられる。

(1) 積極性・自主性・社会性の涵養

療養生活等により、積極性、自主性、社会性が乏しくなりやすい等の傾向を防いで、健全な成長を促すために重要な意義がある。

(2) 心理的安定への寄与

病気への不安や孤独感から、心理的に不安定になりやすく、健康回復への意欲を失いやすい児童生徒にとって、心理的な安定と、健康回復への意欲につながると考えられる。

(3) 病気に対する自己管理能力

病気と適切に向き合ったり、病気を改善・克服したりするための知識・技能、態度及び習慣を養い、自己管理能力を育てていくことに有用である。

3 教育課程編成の基本的な考え方

(1) 教育課程の位置付け

病弱学級の教育課程は、通常の小学校・中学校の教育課程に準じて編成することが基本となるが、自立活動については、学級の実態や児童生徒の病気の状態等を考慮の上、「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」に示された内容から必要な項目を参考にする。児童生徒の教育的ニーズに応じた指導を行うため、障害（病気）による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために、必要な知識、技能、態度及び習慣を養う特別の教育課程を編成することとなる。

(2) 指導計画

病弱学級の児童生徒は、病気の状態や体調による活動制限を伴うため、授業時数の制約を受け、学習空白や進度の遅れを生じることが多い。

そのため、指導計画の作成に当たっては、授業時数の制約をはじめ、各児童生徒の実態を十分考慮し、各教科等の特性を踏まえて指導内容を精選したり、相互の関連性をもたせ合科的に扱ったりしながら、基礎的・基本的な事項に重点をおいて指導する必要がある。

(3) 授業形態

病弱学級では、在籍する児童生徒の学年や学習習熟度、病状による活動制限が様々であるた

め、実態に応じた個別の対応も多くなる。また、学習内容に応じて、異年齢集団による学習、活動制限の状態に応じたグループ学習、交流及び共同学習等の授業形態を工夫して取り入れる。

長期療養中の児童生徒は、生活経験に偏りや不足が生じやすい傾向があるので、興味・関心を生かし、ICT機器の活用等を含め、可能な限り体験的な学習を工夫する必要がある。教師がベッドサイドでの指導を行うこともあるが、医療関係者の指示を仰ぎ、児童生徒の負担過重とならないよう配慮する。

(4) 授業時数

各教科等の総授業時数は、小学校又は中学校の各学年における総授業時数に準ずる。しかし、病気の状態や体調によって、予定どおり実施できない場合も多いため、柔軟な対応も必要となる。

自立活動の時間に充てる授業時数は、児童生徒の病気等の状態に応じて適切に定める。児童生徒の病気の状態や体調に応じながらも、適切な授業時数を確保する。

(5) 保護者・前籍校・医療関係者等との連携

病弱学級では、児童生徒が病気療養中であること、また、一人一人に応じた指導を適切に行う必要があることから、保護者・前籍校・医療関係者・交流先の学級等との連携が重要である。

医療関係者との連携では、病気の状態を的確に把握し、適切に対応できるように、日々の連絡調整、定期的なケース会議（ケースカンファレンス）、同行受診や医療相談等が必要である。

院内学級では、児童生徒の病状の回復により前籍校へ復帰することになる。復学に向けて、前籍校、保護者及び医療関係者との連携による復学支援が大切である。

4 教育課程編成に係る配慮事項

医師、看護師等の医療関係者との連携に基づき、病気の状態を鑑み負担過重とならないよう配慮しながら教育課程を編成する。

5 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動の取扱い

指導計画に基づいて内容を扱うが、児童生徒の病気の状態に応じて合科的に内容を扱う等、柔軟な対応も必要となることに留意する。

第2節 指導計画の作成

1 児童生徒の実態把握

病弱学級の児童生徒は、一人一人の状態が多様である。療養生活を余儀なくされていることによって集団・社会性の伸長に影響が出ている場合もある。児童生徒の実態把握に際しては、病気の状態と活動制限、学習の習熟度、生活経験の不足や偏り、治療や学習に向かう意欲等について、児童生徒本人だけでなく、保護者、医療関係者、前籍校担任や交流学級担任等と連携しながら、実態を多角的、かつ、的確に把握する必要がある。

2 個別の教育支援計画（教育支援プランA）及び個別の指導計画（教育支援プランB）の作成

把握した実態に基づきながら、保護者・本人の願いや、合理的配慮等の内容を含めて、教育支援プランA及び教育支援プランBを作成する。病弱学級の場合は、自立活動はもとより、各教科等においても、教育支援プランBでの具体的な指導内容の設定が求められる。指導計画は保護者にも提示し、合意形成を図りながら作成することとする。また、院内学級の在籍期間が短期となりそうな児童生徒の場合でも、教育支援プランBは適切に作成する。

3 指導目標の設定

指導目標の設定の際は、学習指導要領に示された内容と、該当児童生徒の学習習熟度とを考慮合わせて、達成可能な長期的・短期的目標を設定する（年間、学期、1単元、1単位時間）。

その際、児童生徒の心情や保護者の願いを生かしながら、意欲的な学習が展開されるよう配慮する。

4 指導内容の選択と設定、組織化

指導内容の選択に際しては、学習指導要領に示された内容に基づきながらも、児童生徒の学習

習熟度、心身の状態等に合わせて柔軟に扱うようにする。各教科等のうち、心と体の健康、病気の予防、健康の維持、適切な食生活等に関わる内容は、自立活動における「病気の状態の理解や生活管理に関すること」、「健康状態の維持・改善に関すること」及び「情緒の安定に関すること」などの事項との関連を図る等により、学習効果を一層高めるようにする。

5 指導の形態等の決定

児童生徒それぞれの習熟度に応じながら、教科別の指導や交流及び共同学習における指導については計画的に指導を行うようにする。また、病弱学級の児童生徒は、その療養の都合から、生活経験や社会経験が不足したり偏ったりしやすいため、該当の児童生徒に不足しがちな教科等については、意図的・計画的に指導を行うとともに、教科等を合わせた指導も行いながら、学習が断片的なものに偏向しないよう配慮する必要がある。

6 交流及び共同学習

学習の遅れを予防・改善するだけでなく、生活経験を広げ社会性を養ったり、治療に前向きに取り組む態度を養ったりするためにも、交流及び共同学習の意義は大きい。

学校内設置の病弱学級の場合は、学習が効果的に行われるように交流学級の担当者と連携するが、受け入れ側の学級の児童生徒にとっても有意義な学習となるよう、該当児童生徒の病気について適切に理解されるように指導するとともに、自然なかかわりができるように配慮する。

院内学級の場合は、退級後は前籍校に復学することになるため、前籍校における授業や行事への参加、手紙やテレビ電話による交流等を実施できるように工夫する。

7 学習形態の組織化

生活経験が不足したり偏ったりする傾向をなるべく防ぐため、病弱学級において個別的に学んだ内容は、交流及び共同学習を含めた体験的な学習と相互に関連させることによって、学習成果を総合的に充実させることが期待できる。学習形態を計画的に使い分け、内容を相互に関連させ、効果的に指導を行うことが望ましい。

8 授業時数と1単位時間の取扱い

授業時数は、該当学年における標準時数を基本とし、小学校の1単位時間は45分、中学校の1単位時間は50分を標準とする。しかし、児童生徒の病気の状態や体調と、各教科等の目標及び内容を考慮し、適切な計画のもとに弾力的に運用する。

9 日課表の作成

学校内設置の病弱学級の場合は、設置校の日課に基づいて日課表を作成する。交流学习を行うことも想定し、学習活動が効果的に展開されるよう検討するとともに、児童生徒の病気の状態に鑑みて、負担過重にならないように配慮する。院内学級の場合は、病院の日課との関連を十分考慮する。

10 年間指導計画の作成

学習が負担過重になり病気の状態が悪化することのないように十分に配慮する必要がある。学習指導要領に示された内容に基づきながらも、児童生徒の興味・関心や学習習熟度を考慮し、創意工夫ある指導計画を作成することが望ましい。

作成に当たっての留意点（各学年・教科を参考にする）

【院内学級の場合】

- ① 病棟行事との関係性を考慮
- ② 前籍校の学習内容、入院期間を考慮
- ③ 体調や授業時数の削減による学習内容の精選

【学校内設置の場合】

- ① 交流学級との連携
- ② 欠席や通院等のための学習空白を考慮する
- ③ 体調を考慮した学習内容の精選

11 学習指導案の形式と記入上の留意事項

病弱学級の児童生徒は、病気の状態や活動制限、学習習熟度、心の状態等、一人一人の状況が異なっているため、教育支援プランBに基づき個別的な配慮が十分に盛り込まれた指導案を作成

する。特に、病気の状態等に配慮した自立活動の内容を含めた指導案を作成する。また、児童生徒の状態によっては計画どおりに実施できない場合もあるため、柔軟な対応が必要となることも想定しておく。

12 指導記録と学習評価

学習指導における評価は、学習習熟度等の外見上の成果だけでなく、児童生徒の日頃からの学習意欲や努力を含めた評価を行い、病気治療への意欲にもつながるように、日頃から指導記録を残し活用することが大切である。また、院内学級において学期末に近い時期に入退級が発生した場合、通知表の作成・発行については前籍校との連携が必要となる場合がある。児童生徒と保護者を不安にさせないように、どちらの学校が通知表の内容を作成し、どちらの学校が渡すのか等について、管理職を含めて前籍校と具体的に連携し、柔軟に対応できるよう配慮する。

13 教育課程編成に係る評価と改善

指導計画に基づいて授業を実施し、児童生徒の学習活動全般を対象に、教育課程に基づいた教育活動が適切に実施できたか、事実をもとに評価し、課題点を明らかにした上で、教育課程の工夫・改善を図る。

第3節 教育課程編成及び指導計画作成のための資料

1 小学校における教育課程編成 【日課表例（院内学級）】

時間	月	火	水	木	金
	学習の準備・朝自習・朝読書・朝の会				
1	国語	国語	国語	国語	国語
2	社・生	算数	図工	算数	算数
3	算数	道徳	図/音	理・生	音楽
	昼食・検温・休憩				
4	自立活動	理・生	特活	自立活動	社会
5		総/外	総合	家庭科	外国語
	帰りの会				

院内学級の場合、病院の実情に合わせた日課表を組む。

年間指導計画は、前籍校に準じて指導することにより、学習空白の軽減や学習内容の継続が図れるので考慮する。複式授業による個別指導の実施やベッドサイドでの授業、病棟と連携した行事や季節感への配慮、学習環境に配慮した計画を作成する。

※学校内設置の病弱学級の場合はその学校の日課表に準ずるが、適切に自立活動の時間を設定する。

2 中学校における教育課程編成 【日課表例（院内学級）】

時間	月	火	水	木	金
	学習の準備・朝自習・朝読書・朝の会				
1	国語	外国語	国語	国語	国語
2	数学	理科	外国語	数学	数学
3	技家	音/体	自立活動	美術	社会
	昼食・服薬・検温等				
4	理科	社会	社会	総合	道徳
5	特活	数学	理科	外国語	外国語

小学校同様、院内学級は病院の実情に合わせた日課表を組む。

年間指導計画は、前籍校に準じて指導し、学習空白の軽減や学習内容の継続を図る。前籍校のテストの実施等、必要に応じて1単位時間を変更する等柔軟に対応する。

3 年間指導計画例（院内学級・小学4年生）

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
行事	始業式 入学式			終業式 病棟 夏祭り	始業式	文化祭		終業式	始業式	節分	修了式		
特別活動	4年生 になって	クラス の歌を 作ろう	健康な 歯	もうす ぐ夏休 み	友達を 大切に	相手の 立場で 考える	できる ことを やろう	感謝の 心を表 そう	寒さに 負けな い	学年の 思い出	希望を もって 進もう		
自立活動	<p>○自立活動のねらい 児童生徒一人一人の状態に応じ、不安を軽減して心理的な安定を図るとともに、健康回復に向けて前向きな気持ちをもつ。</p> <p>○内容 ・自分の病気との付き合い方 ・エンカウンター、SST ・カードゲーム、すごろく ・創作活動（月ごとの病棟掲示、アイロンビーズ、組みひも、プラ板工作等）</p>												
外国語活動	あいさ つしよ う ゲーム	英語で 自己紹 介 歌	いろい ろな国 の言葉	アルフ ァベッ ト			ゲーム 日常の 会話	日常の 会話	私の大 好きな こと				
教科	国語	春の歌 登場人 物…	興味を もった …	整理し て書こ う	一つの 花	誰も関 わり合 える…	ごんぎ つね	慣用句	プラタ ナスの 木	のはら うた、冬 の風景	熟語の 意味	10年後 の私へ	
	算数	折れ線 グラフ と表 角の大 きさ	割り算 の筆算 角の大 きさ	垂直・ 平行・ と四角 形	考える 力を伸 ばそう	大きい 数の仕 組み 割り算 の筆算	かたち であそ ぼう 概数の 表し方	計算の きまり 面積の はかり 方…	少数の しくみ 変わり 方調べ	小数の かけ算 とわり 算	どんな 計算… 分数 直方体 と立…	4年の ふくし ゅう	
	社会	くらし を守る	くらし を守る	住みよ い暮ら し	住みよ い暮ら し	きょう 土の…	きょう 土の…	私たち の県	私たち の県	私たち の県	私たち の県	私たち の県	私たち の県
	理科	春の生 き物	気温と 天気	空気と 水	暑い季 節	月や星 の動き	自然の 中の水	水の三 つの姿	もの の温度…	科学者 の伝記	寒さの 中でも	人体の つくり	
	音楽	明るい 歌声…	リズム を感じ とろう	歌いつ ごう日 本の歌	みんな で楽し く	せんり つの特 徴を…	いろい ろな音 の響き	いろい ろな音 の響き	日本の 音楽に 親し…	みんな で楽し く	曲の気 分を感じ 取…	曲の気 分を感じ 取…	
	図工	絵具で 遊んで …	見つけ たよ	リズム にのっ て	カード で味わ う…	パック パック	トント ンつな いで	願いの 種から	みんな でどん どん…	つくっ て、つか って、…	ほると 出てく る…	ゆめい ろらん ぶ	
	体育	からだ を動か そう①	せいけ つにし よう	からだ を動か そう②	体力づ くり② ダンス	体力づ くり② ゲーム	育ちゆ く体と 私	感染症 の予防	感染症 の予防	体力づ くり①	体力づ くり②	育ちゆ く体と 私	
特別な 教科 道徳	百点を 十回取 れば	ヘレン ケラー 物語	心と心 のあく 手	泣いた 赤おに	あたた かい言 葉	不思議 なふろ しき	花をさ かせた 水がめ	えっ、 どうし て	神戸の ふっこ うは…	かべに 付けた 手の…	谷川岳 に生き たド…		
総合的 な学習 の時間	地球の ために エコラ イフ								二分の 一成人 式				

4 自立活動の指導計画

自立活動の実践事例（頭部血管の病気で手術を3回し、頭痛や右手の麻痺のある児童を想定）
 （※ ○○小学校 学校内設置の病弱学級とする）

1. 自立活動の授業づくり（流れ図）A

児童生徒名	学年	作成者
○ ○ ○ ○	4年	○ ○ ○ ○

計画（PLAN）

実態把握① 情報収集	実態把握②-1 情報の整理
1 健康の保持 （日常生活面，健康面など） （追加）	・身辺自立はできている。 ・午前中に体調が悪いことが多い。
2 心理的な安定 （情緒面，状況の理解など） （追加）	・体調が悪いと黙ってしまう。 ・みんなと一緒にできないことがあることで引け目を感じる が、決められたことはやろうとする。
3 人間関係の形成 （人とのかかわり，集団への参加など） （追加）	・自己紹介の時や見学の時など目立つことが苦手で，人との 関わりに積極的ではない。
4 環境の把握 （感覚の活用，認知面，学習面など） （追加）	・学年相当の学習ができ，自分の感想などを言うことができ る。
5 身体の動き （運動・動作，作業面など） （追加）	・長時間運動することができない。 ・右手の指に力が入りにくく，物が持ちづらい。右利き。
6 コミュニケーション （意思の伝達，言語の形成など） （追加）	・自分の体調について話すことが少ないが，「痛みを示すカード」 で体調を伝えることができる。 ・自分から友達に話し掛けることが少ないが，担任には話し 掛けることができる。
7 その他 （性格，行動特徴，興味関心など） （追加）	・小集団では，力を発揮し，会話も多くなる。 ・家族の話題が多い。 ・読書が好きである。

実態把握②-2 児童生徒の学習上又は生活上の課題や，これまでの学習状況の把握
・自分の体調の把握に自信がなく，活動量を決定できず保護者や担任に委ねてしまうことがある。 ・右手の障害や運動制限のため，活動が消極的になることがある。 ・学年相当の学習ができるが，右手の障害のため，書字は苦手である。

実態把握②-3 児童生徒の3年後の将来像
・自分の体調を把握し，自分で取り組む活動について担任と相談し自己決定できる。（健）（コ） ・両手の巧緻性が向上し，書字や食事等がスムーズに行える。（健）（身）

指導すべき課題の整理③ 課題の抽出
・体調について自分で適切に表現することは苦手だが，痛みを表す絵なら表現できる。（健）（コ） ・右手の障害のため，物をしっかり持つことはできない。（健）（身） ・小集団では活動的な面があるが，自己肯定感が低く，人と積極的に関わることを避ける。（人）（コ）

指導すべき課題の整理④ 中心的な課題	
中心的な課題	背景
① 体調について自分で判断ができない。	病気による不安から、周囲の者の意見を聞いてしまう。
② 自己肯定感が低い。	障害があることを引け目に感じて、積極的に活動できない。

指導目標の設定⑤
○自己理解を深めることにより、指先の巧緻性の向上やコミュニケーション能力及び自分なりの学習方法を身に付け、主体的に学校生活を送れるようにする。

項目の選定・指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	情緒の安定に関する事。	他者とのかかわりの基礎に関する事。	保有する感覚の活用に関する事。	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事。	状況の理解と変化への対応に関する事。	他者の意図や感情の理解に関する事。	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	言語の受容と表出に関する事。
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事。	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	自己の理解と行動の調整に関する事。	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	日常生活に必要な基本動作に関する事。	言語の形成と活用に関する事。
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。		集団への参加の基礎に関する事。	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	身体の移動能力に関する事。	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5)	健康状態の維持・改善に関する事。			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	状況に応じたコミュニケーションに関する事。
Key words	体調レベル	不安 成功体験	他者との関わり		右手指先の操作	意思の表出

指導内容	体調の自己管理	相談, 自己選択, 自己決定	右手の操作性の向上
指導場面	朝の会, 養護教諭との連携授業中, 休み時間	各教科, 自立活動, 特別活動 休み時間	自立活動, 各教科, 給食

項目と項目を関連付ける際のポイント

① 体調の管理と、意思の表出を関連させる。
② 両手の操作性の向上と、成功体験による心理の安定を関連させる。

2. 略案

〇〇〇学級 自立活動 学習指導案

日 時 平成〇〇年〇月〇日 (〇)
 第〇校時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
 場 所 〇〇〇学級 教室
 指 導 者 〇〇 〇〇

- 1 単元名 チャレンジタイム
- 2 単元の設定の理由

本学級の児童は、4年生の男子1名が在籍している病弱特別支援学級である。児童は、病気による頭痛などの体調不良や運動制限があり、活動する時間や量に困難さがある。また、遅刻や早退、欠席が多い。登校すると、養護教諭の健康観察を行っている。また、右手に麻痺があり、鉛筆や筆、箸などが持ちづらい。

本単元は、本学級の児童の生活経験や学習経験の実態から自立活動の年間指導計画に取り入れた学習で、自立活動の内容区分の中の「人間関係の形成：(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること」「身体の動き：姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること」「コミュニケーション：(2) 言語の受容と表出についての三つを取り扱うことにした。

指導に当たっては、児童が主体的に活動できるように自分で取り組む課題を選択できるようにした。また、体調を考慮し、活動の中に休憩する時間を設けた。

- 3 指導計画 全8時間 (4/8本時) <省略>
- 4 本時の構成

(1) 本時の目標

- ・教師と一緒に楽しく関わり合いながら活動することができる。 【人間関係の形成】
- ・進んで、指先の巧緻性を高める活動ができる。 【身体の動き】
- ・教師と話すことを意識し、会話をすることができる。 【コミュニケーション】

(2) 展開

時間	学 習 活 動	〇児童の活動□指導者の主な指示・発問等 ◎予想される児童の反応※支援の手だて*評価の観点	備考
5分 導 入	1. 今日の学習の流れとめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">チャレンジタイムをしよう。</div> 2. 取り組む活動と順番を決める。	□「〇〇〇タイム 2」をしましょう。 ※活動計画表を掲示して、活動内容を確認できるようにする。 □やる順番を自分で決めましょう。 ※活動名が書いてあるカードを児童自身が行いたい順番に掲示する。 *活動の順番を決めることができたか。	活動計画表 活動カード
25分 展 開	3. チャレンジタイムをする。 ・ラジオ体操 ・豆運び・ペグ刺し ・積み木つみ ・アイロンビーズ ・トーキングコーナー ・休けいタイム 4. エンジョイタイムをする。 カードゲーム等	□「チャレンジタイム」を始めましょう。 初めの活動の準備をしましょう。 ◎ゆっくり準備する。 ※児童の活動を見守り、自分で行えた時は称賛する。 ※トーキングコーナーは教師と決められた話題について話す。 ◎自分の考えがなかなか言えない。 ※児童が話し始めるのを待つように心掛ける。 ※途中で休憩を入れ、体調に配慮する。 *進んで楽しく活動していたか。 ※くじを引いて、今日楽しむゲームを決める。 *進んで楽しく活動していたか。	タブレット端末 くじ
5分 終 末	5. 活動を振り返り、次時の予告をする。	※記録カードに今日の感想を記入する。 ※教師から、児童のよくできたところを伝える。	感想カード

5 本時の評価

- (1) 人といっしょに楽しく関わり合いながら活動することができたか。 【人間関係の形成】
- (2) 進んで、指先の巧緻性を高める活動ができたか。 【身体の動き】
- (3) 相手と話すことを意識し、会話をすることができたか。 【コミュニケーション】

6 備考

- ・教室内配置、座席表、教材・教具配置図等

5 教科の指導計画

学習指導案（例1）※院内学級：複式でICTを使った授業（体験学習の不足を補う工夫）

〇〇学級 2年生「生活科」・3年生「社会科」学習指導案

日 時 平成〇〇年〇月〇日（〇）

第〇校時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇

場 所 〇〇〇学級 教室

指 導 者 〇〇 〇〇

- 1 単元名 2年「町たんけんをしよう」
3年「学校のまわり」
共通単元名：「自分の住んでいるまちをしょうかいしよう」

2 単元設定の理由

(1) 学級及び児童の実態

本学級は、〇〇病院小児科病棟内に設置された〇〇市立〇〇小学校の身体・虚弱特別支援学級である。在籍児童は3年生男子1名・2年生女子1名の計2名である。病気をきっかけに入院しており、入院期間は1年以上の長期、3か月程度、短期で入退院を繰り返す等々である。入院期間が長期の児童は、治療により外出を制限されており、体力も低下し、感染にも注意する必要がある。また、手術後に車いすを使用している児童もいる。入院期間中は外出が限られること、病院内に持ち込めるものに制限があるため、体験的な学習が不足している。

(2) 単元観

○ 2年生「まちたんけんをしよう」

本単元の教材は、児童が身近な生活圏である地域に出て、様々な場所や人が自分の生活とかかわっていることが分かり地域に親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようになることを目指している。児童は、具体的な活動を通して、地域の人々や場所に対する親しみの気持ちをもてると思われる。また、地域の様々な場所で身近な人々や様々なものに関わる中で社会性を身に付け、場面に応じて適切に行動できるようになると考える。

○ 3年生「学校のまわり」

学校の周りの特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所の働きや交通の様子、古くから残る建造物などを通して、地域の地理的環境を理解することを目指している。実際に観察や調査して分かったことを言葉にしたり地図にまとめたりすることで、分布の様子と地形的な条件や社会的な条件との関連が理解できるようになると考える。

(3) 指導観

2年生の生活科「まちたんけんをしよう」と3年生の「学校のまわり」の学習を通して、児童が身近な地域に親しみの気持ちをもつとともに、そこに関わる人々や地理的環境を理解することで、自宅から離れた場所で入院生活をおくる児童もそれぞれの地域への関心意欲を高めたいと考える。具体的な活動が制限された環境の中で、インターネットの地図画像閲覧サービスを利用し、実際に自分がその地域を歩いているような体験ができるように工夫する。また、主体的な学びの一つとして、調べ学習やゲストティーチャーの協力も得られるとよい。

「まちたんけん」では、自分の行ったことのあるお店や公園の紹介をして学んだことを発信する力を養う。また、保護者に協力を得て、スマートフォン使用による動画インタビュー等を行う中で、相手や場に応じた適切な行動を身に付けるようにしたい。「学校のまわり」では、自分の住んでいる地域の公共施設の役割を調べたり、調べたことをまとめて、自分の住んでいる地域の紹介をしたりできる場を設けるようにする。入院期間を考慮し、必要に応じて前籍校での取り組みに合わせた配慮も必要である。少人数のため話し合い活動に限度があるが、前籍校との連携の中でビデオ通話等での話し合い活動への参加も考えられる。病棟内からICTを利用し、体験的な活動を補うこと、地域に出でいくこと、といった視点をもって指導にあたる。

今回2・3年生が複式で学習するにあたって、共通の単元名として「自分の住んでいるまちを紹介しよう」とし、それぞれの学年のねらいに沿った学習の成果として、病棟のスタッフや、病棟で同室の友人、保護者等に自分の地元のことを発表する機会とした。

3 児童の実態

氏名	生活全般の実態	単元に関する実態
A	低年齢時からの長期入院により、社会性が低下している。同年代の子供との関わりよりも、大人との関わりが多い。様々な面で実体験が少ない。生活全般は、着替えや食事等同年代よりも自立している面があるが、保護者の面会時は心理的な面から甘えたい気持ちを行動に表すことがある。	外に出て活動したい気持ち強い。自分の家の周りで遊んだ経験が少ないが、公共施設等については、知識として持っている。また、タブレット端末等の操作には長けている。
B	病気により、入院・手術を行い、車いすを使用している。活発な性格で活動制限にストレスを抱えている。初めての入院で不安感も高い。	自宅付近の公共施設を利用した経験がある。自宅と学校の間の地域についてはおおよそ把握しているが、広く学区内までを理解することは難しい。基本的なタブレット端末操作は可能である。

4 単元構成 ※前籍校の指導計画も参考にする

(1) 個人目標

	単元に関する目標	教育支援プランBの目標との関連
A 小2	自分の住んでいる身近な地域のことを知りたいという意欲をもち、自分たちの生活との関わりに気付く。	自分の自宅の周りに関心をもつことによって、退院への希望をもち、治療に前向きに取り組めるようにする。
B 小3	自分の住んでいる身近な地域の土地の使われ方や建造物、交通の様子に関心をもち、場所によって違いがあることに気付く。また、身近な地域のことを調べて、資料を読み取り、違いや気付いたことを適切に表現する。	自分の学校を始めとする身近な地域に関心をもつことによって退院への希望をもち、リハビリに前向きに取り組む、退院後の生活で気を付けることを理解する。

5 指導計画（全6時間扱い）

『単元名』 ○ねらい

時数	2年生	3年生
1	『自分の住んでいるまちを歩いてみよう』 ○自分の住んでいる市町村を知り、調べようとする。 ○タブレット端末等の操作に慣れ、地図情報検索機能を扱える。	
2 (本時)	『自分の学校のまわりに何があるかな』 ○自分の身近な地域の様子についていろいろな方法で調べられる。 ○自分が詳しく知りたいもの（お店・公園・公共施設等）について関心をもち、調べようとする。	
3	『ぼくの・わたしのお気に入りの場所』 ○詳しく調べたいものについて、質問を考えたり、みんなに知らせたいことについてまとめたりする。	『土地のようすと身近な公共施設』 ○地域の土地の様子のほか、身近な公共施設の役割を知り、働いている人に質問して、自分との関わりに気付く。
4～5	『ぼくの・わたしのすんでいるまちをしょうかいしよう』 ○身近な地域の様子が分かり、自分たちの生活との関係が分かる。 ○自分の知らせたいことを、周りの人に分かりやすくまとめる。 ○調べる時に協力していただいた人に感謝の気持ちをもつ。 ○調べたことを適切に表現する。	
6	『ぼくのわたしのすんでいるまち 発表会』 ○自分の調べたことを周りの人に分かりやすく発表する。 ○関心をもって友達の発表を聞き、興味をもったことを質問する。	

6 本時の構成（2／6本時）

(1) 本時の目標

個人目標A	○自分の行ったことのある場所を思い出して、お気に入りの場所を決め、それを伝えられる。 ○知らない場所も調べてみたいという意欲をもつ。
個人目標B	○自分の住んでいる地域の土地のおおまかな使われ方が分かる。 ○自分の身近な公共施設の利用を思い出して詳しく調べ、伝えようという意欲をもつ。

(2) 展開

配時	学習活動	児童の活動と指導上の留意点 (指導の手だて・*評価の観点・□指導者の主な指示, 発問等・◎予想される児童の反応)			備考
		全体	A	B	
5分	1 今日の学習の流れとめあての確認をする。	<p>前回の学習で行ったバーチャル散歩を思い出せるように、写真を提示する。</p>	<p>◎「この前タブレット端末で見た」</p> <p>□前回の学習を思い出しましょう。</p>	<p>◎「自分は〇〇市に住んでいる」</p>	学習予定表 写真
10分	2 自分の学校の周りで調べたいものを見付ける。	自分の学校の周りがあるものを調べよう			<p>パソコン・タブレット端末・ワークシート</p> <p>・地図情報検索機能 ・地図アプリ ・検索サイト</p> <p>3年生には市の地図を用意</p>
		<p>□自分の住んでいる地域で、病院のみんなに知らせたい場所を見付けましょう。</p> <p>タブレット端末の配布, パンフレット, 質問用紙を用意する。パソコンは必要に応じて使用する。</p> <p>使用機器の使い方 の留意点・インターネット等の 使い方のきまりを 掲示する。</p>	<p>タブレット端末を操作して、自宅や学校の周りから紹介したい場所を探す。</p> <p>◎友達と遊んだ公園。</p> <p>◎お母さんと買い物に行ったお店。</p> <p>*自分で紹介したい場所を探せたか。</p> <p>自分の行ったことのある場所から気に入っている場所を選ぶ。</p>	<p>タブレット端末を操作して、自分の住む市町村を上空から見たり、周囲公共施設を探したりする。</p> <p>◎児童館で友達と遊んだ。</p> <p>◎うちの近くは家が多いけれど、学校の裏には畑が広がっている。</p> <p>*自分で紹介したい場所を探せたか。</p> <p>上空から見た市町村から土地の利用の様子を見る。</p> <p>*自分の住む市町村の土地の使われ方に気付く。</p>	

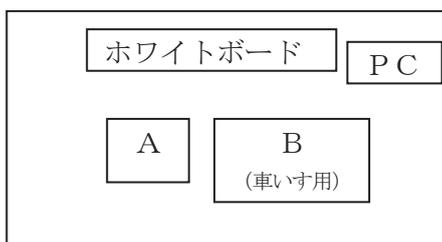
20分	3 紹介したい場所について調べる。	店舗や公共施設の人に質問する場合は、保護者等の協力を得られるようにする。 事前にアポイントをとる。 インタビュー形式の動画にするか質問形式の手紙にするか児童が選択できるようにする。	自分の紹介したい場所について知っていること、調べたいことを整理してワークシートに記入する。 *自分から知りたいことや、質問したいことを考えられたか。	自分の紹介したい場所をあげ、更に詳しく知りたいことをパソコンや市報、パンフレット等で調べる。そこで働いている人へ聞きたいことを考える。 *自分から調べたいことを見つけて、適切な方法で調べることができたか。	市報・パンフレット・パソコン 質問用紙
10分	4 活動を振り返り、次時の予定を伝える。	一人一人の学習の良かった点を伝える。	今日の学習の記録を記入し、自己評価する。	今日の学習の記録を記入し、自己評価する。	学習予定表

7 本時の評価

(1) 個別評価

氏名 (記号)	評価
A (小2)	○自分の住んでいる地域で気に入っている場所を決めたり、さらに知りたいことを見付けたりすることができたか。 ○もっと知りたいことを考えることができたか。
B (小3)	○自分の住んでいる地域の土地の大まかな使われ方が分かり、その違いを理解できたか。 ○自分の住んでいる地域の身近な公共施設等を適切な方法で調べ、さらに知りたことを考えることができたか。

8 教室内配置図



ワークシート等 (省略)

学習指導案 略案（例2） ※院内学級：学級全体で病棟職員と連携した特別活動

〇〇学級 特別活動 学習指導案

日 時 平成〇〇年〇月〇日（〇）

第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

場 所 病棟内プレイルーム

指 導 者 〇〇 〇〇

1 単元名 特別活動 「『ありがとうの会』をしよう」

2 単元の設定の理由

本学級は〇〇病院小児科の中に設置されている病弱・身体虚弱特別支援学級である。2年生女子1名と5年生男子1名、6年生女子1名が在籍している。児童は、短期の入退院を繰り返している児童のほかに、10か月程度の長期入院をしている児童がいる。各児童は入院・加療中のため、保護者のほか、医師・看護師をはじめ、保育士や栄養士、理学療法士、薬剤師等多くの病棟スタッフにお世話になっている。入院当初は、感謝の気持ちをもって生活していたが、慣れるに従ってそれが当然のことになってしまい、感謝の気持ちが薄らいできている。そこで、日頃から世話になっている両親や兄弟、病棟のスタッフに感謝の気持ちを伝える会を病院と連携して実施することを計画した。病棟の職員等を招待するこの会を通して、自分と関わっている人の多さに気づき、その人たちへの感謝の気持ちを表現する機会とする。本単元の指導に際しては、治療日程が流動的な児童や、治療の影響で体調が不安定な児童がいるため、準備は学級全員で取り組むようにし、当日誰かが欠席しても会自体は実施できるように準備を進める。

3 指導計画 全3時間（3／3本時） <省略>

4 本時の構成

(1) 本時の目標

- ・友達と話し合ったり、協力したりして活動を計画し、運営することができる。
- ・日頃、自分がお世話になっている人に感謝の気持ちを伝えることができる。

(2) 展 開

時間	学 習 活 動	○児童の活動□指導者の主な指示・発問等 ◎予想される児童の反応 ※支援の手だて *評価の観点	備考
10分 導 入	1. 会の流れとめあてを確認する。	□始めの会の準備をしましょう。 ○司会が始めの挨拶をする。	活動 計画表
	「ありがとうの会」をしよう		
		○参加者の紹介をする。 ○今日の会の流れを発表する。 *自分が担当する係を行うことができたか。	活動 カード
30分 展 開	2. ありがとうの会 ・お手紙 「わたしたちより 〇〇さんへ」 ・プレゼント ・歌 「手紙」 ・感想発表	□「ありがとうの会」を始めましょう。 ◎司会が交代し、上級生がフォローする。 ※児童の活動を見守り、自分たちで行えた時は称賛する。 ◎照れくさくなってなかなか読めない。 ※児童が話し始めるのを待つように心掛ける。 ○自分たちを中心に心をこめて歌う。 ○参加した保護者やスタッフ三人程度に感想をきく。 *進んで楽しく活動していたか。 *三人で協力して会が運営できたか。	進行表 手紙 折り紙 花束 アイロン ビーズ CD
5分 終 末	3. 活動を振り返り、次時の見通しをもつ。	※記録カードに今日の感想を記入する。 ※教師がよくできたところを伝える。	感想 カード

5 本時の評価

- (1) 友達と話し合い、協力して活動を計画し、運営することができたか。
 (2) 日頃、自分がお世話になっている人に感謝の気持ちを伝えられたか。

6 備考 ・教室内配置、座席表、教材・教具配置図等（省略）

6 前籍校との連携のための計画

入院中の児童生徒が退院後、前籍校にスムーズに復学でき、また前籍校も安心して受け入れることができるように、復学支援を計画的に進める必要がある。復学支援は入院した時から始まっている。地元の学校との関係を維持することが、治療に前向きに取り組め、復学への大きな支えになる。入院期間を通して、計画的に学習を進め、準備登校や復学支援会議（カンファレンス）を行う。

- ・準備登校…退院後の学校生活を見通してどのような配慮が必要かを見極め、本人・保護者・前籍校相互の不安の軽減を図る。場合により病弱学級の担任がついていき、放課後、復学後の支援について話し合いをもつ場合がある。
- ・復学支援会議…院内学級・保護者・前籍校・病院が参加し、主治医や担当看護師から学校生活の配慮事項の伝達を行ったり、合理的配慮の共通理解を図ったりする。必要に応じて、教育委員会や福祉等の関係者が同席することもある。

「復学支援会議で話題にしたいこと」

- ・時間割・行事予定表・クラスだより等を事前にもらっておく
- ・今後の外来予定
- ・服薬や処置の必要性和それをを行う場所の確認
- ・通学方法（交通手段や自転車通学、保護者の送迎）
- ・学習について（体育や清掃の参加、給食がいつから始めるか）
- ・部活動の参加について（必要に応じて転部も検討する）
- ・学校の設備や改修等（教室環境）（*改修が必要な場合は教育委員会が参加することもある）
- ・人の支援（支援員の必要性、保護者の待機場所等）
- ・友人関係
- *合理的配慮の共通理解

- ・教育支援プランA・Bの引き継ぎ…学習内容のほか、必要な支援を引き継ぐツールとする。病名に関しては、保護者・本人と話し合い、どのように記載するか確認する。

7 交流及び共同学習

小・中学校内設置の場合は、交流学級で学習や行事に参加すること、病院内設置の場合は、前籍校の行事に参加すること、入院の長期化により前籍校の所属意識を維持するために学習に参加することが考えられる。

いずれの場合も、体調に合わせて参加すること、安全に留意することが大切である。送迎方法の確認、急変時の対応、主治医の許可、校内の感染状況等を確認して実施する。また、インターネットを通じて前籍校と定期的に連絡を取り合ったり、授業に参加したりというスマートフォンやタブレット端末等を利用した動画配信での参加も考えられる。

例：①中学校3年生が前籍校の「三送会」に、小学校6年生が「卒業生を送る会」に参加する。

②幼児期から入院している児童が、小学校の生活を体験するために定期的に学習に参加する。

③ターミナル期(注①)にある生徒が治療に前向きに取り組むために、前籍校の学校生活に参加する。

【学校行事への参加方法の例（小・中学校内設置の特別支援学級から交流学級へ）】

- どのようにすれば参加可能か、学校のできることを、児童生徒や家庭でできることを相談し考えていくようにする。また、容体急変時の医療機関の確認や服薬の管理方法についても確認しておく。

宿泊を伴う行事への参加

①全日参加	②日帰り参加	③一部参加
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と参加の仕方、当日の連絡方法について相談・確認をする。 ・主治医と連絡をとり、参加方法を相談する。(同行受診時に相談するとよい。) ・児童と参加の仕方について相談・確認する。 ・施設に休憩場所等について確認する。 ・教師の打合せ時に参加の仕方を報告する。 ・保護者の送迎も考える。 <p>【実施例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動ごとに教師が判断したり、本人と相談したりして、できるところまで参加し保健室で休憩をとった。 ・入浴は、予定時間より前に入って、ゆったりと過ごした。 ・就寝は教師(同性)と一緒にひと部屋借りた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と参加の仕方、当日の連絡方法について相談・確認をする。 ・主治医と連絡をとり、参加方法について相談する。(同行受診時に相談するとよい。) ・児童と参加の仕方について相談・確認する。 ・施設に休憩できる場所等について確認する。 ・教師の打合せの時に参加の仕方を報告する。 ・保護者が送迎をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と参加の仕方、当日の連絡方法について相談・確認をする。 ・主治医と連絡をとり、参加方法について相談する。(同行受診時に相談するとよい。) ・児童と参加の仕方について相談・確認する。 ・施設に休憩できる場所等について確認する。 ・教師の打合せの時に参加の仕方を報告する。 ・保護者が送迎をする。

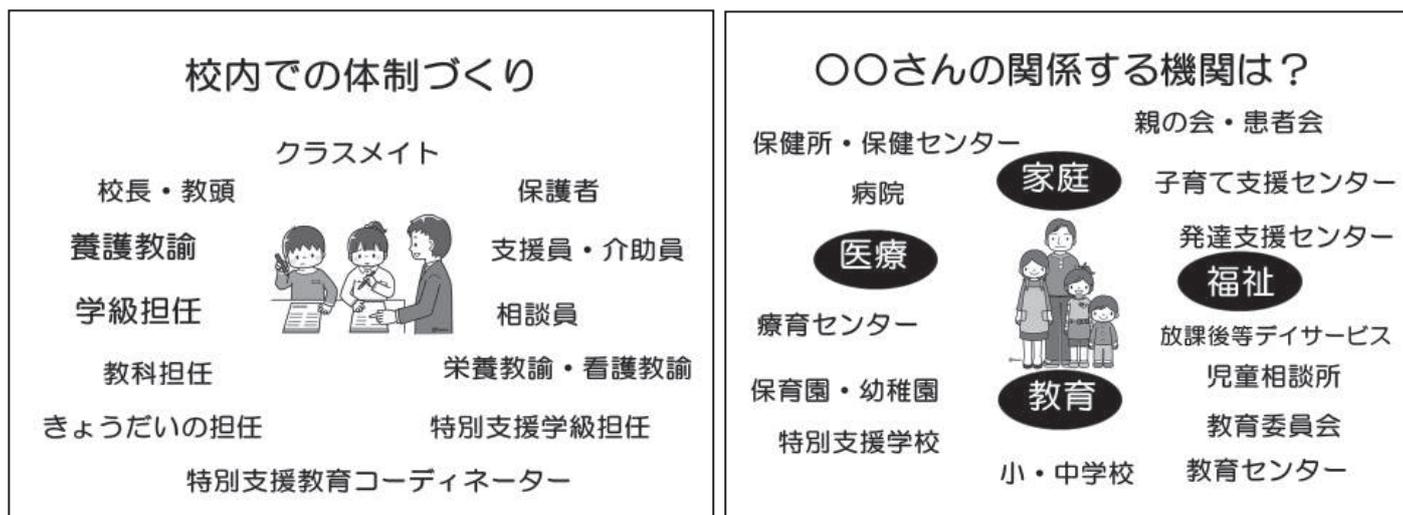
8 関係諸機関との連携

病弱学級では、特に医療との連携(院内学級はもとより、学校内設置の学級では、同行受診 注②・医療相談)及び福祉との連携が欠かせない。福祉との連携では、保健所において小児慢性特定疾病や難病に関する情報、後遺症等があった時の障害者手帳等の手続きや様々な支援制度の利用など、必要に応じて情報共有する場合がある。

それぞれの学級の実情に合わせた手続きを取って適切に実施することが必要である。

- 【手順の例】**
- ①管理職に同行受診の実施についての許可をもらう。
 - ②保護者に同行受診の同意をもらう。
 - ③保護者から主治医に連絡をしてもらい、聞く内容を伝える。
 - ④当日は医療機関で待ち合わせる。
 - ⑤同行受診終了後、管理職に内容を報告する。

また、校内及び校外の関係諸機関(福祉を含む)との連携は、特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援体制を組んだり、ケース会議を開いたりして共通理解を図ることが必要である。関係機関に関しては教育支援プランAにも記載する。



※注①ターミナル期：終末期ともいう。病気が治る可能性がなく、数週間～半年程度で死を迎えるだろうと予想される時期。患児に対する看護はターミナルケア、終末期医療と呼ばれる。

※注②同行受診：定期通院に同行すること。児童生徒の場合は保護者の同意が必要。

第5章 弱視特別支援学級

第1節 教育課程の編成

1 弱視教育の基本的事項

弱視特別支援学級の対象となる児童生徒については、「拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度のもの」と考えられる。弱視特別支援学級での指導は、児童生徒が人間形成を図る上で障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために、必要な知識、技能、態度を養うことから、その習慣形成に至るまでを目指している。

2 弱視の児童生徒の特性と指導の基本

弱視の児童生徒は、行動が制限されやすく体験が少なくなりがちである。一方、耳からは多く情報が入ってくるので、体験の裏付けのない知識が多くなりやすい。そこで、以下のような指導をしていくことが基本である。

- 児童生徒が聴覚及び保有する視覚などを十分に活用して、具体的な事物・事象や動作と言葉とを結び付けて、的確な概念の形成を図り、言葉を正しく理解し活用できるようにする。
- 視覚障害の状態に応じ、指導内容を精選し基礎的・基本的な事項から習得できるようにする。
- 視覚補助具やコンピュータ等の情報機器、拡大教材等各種教材の効果的な活用を通して、主体的な学習ができるようにするなど、児童生徒の指導方法を工夫する。
- 児童生徒が場の状況や活動の過程等を的確に把握できるよう配慮することで、空間や時間の概念を養い、見通しをもって意欲的な学習活動を展開できるようにする。

3 教育課程編成の基本的な考え方

(1) 教育課程の位置付け

弱視特別支援学級の教育課程は、通常の小学校・中学校の教育課程に準じて編成することが基本となるが、自立活動については、特別支援学校学習指導要領に示された内容から必要な項目を選定し指導を行い、特別の教育課程を編成する。また、知的障害を併せ有する児童生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、特別の教科 道徳（以下、「道徳科」とする。）、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。その際には、「第1章 知的障害特別支援学級」を参照する。

(2) 指導計画

弱視特別支援学級の指導計画については、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動に加えて自立活動について指導計画を作成する。今回の改訂によって作成することが義務付けられた「個別の教育支援計画（以下、教育支援プランAとする。）」及び「個別の指導計画（以下、教育支援プランBとする。）」を効果的に活用する。

(3) 授業形態

授業形態は、個別での学習あるいは小集団での学習となり、弱視特別支援学級で指導を受けることが基本である。また、集団での学習もバランスよく取り入れていく必要もあり、通常の学級の授業に参加する場合には、交流学級の担任と十分な連携を図る必要がある。

(4) 授業時数

各教科等及び自立活動の総授業時数は、小学校又は中学校の各学年における総授業時数に準ずる。この場合、各教科等の目標及び内容を考慮し、それぞれの年間の授業時数を適切に定める。特に、自立活動の指導に充てる授業時数は、児童生徒の障害の状態に応じ適切に定めて確保する。

(5) 関係機関との連携

児童生徒の障害の状態により、必要に応じて、専門の医師及びその他の専門家の指導・助言や特別支援学校の助言を求めるなどして、適切な指導を行うように努める。

4 教育課程編成に係る配慮事項

(1) 指導計画の作成

各教科等の各学年の指導内容については、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え、主体的・対話的で深い学びの実現に

向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにする。

(2) 教育支援プランB

児童生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、教育支援プランBにより、指導内容や指導方法、指導体制の工夫改善に努める。

5 各教科, 特別の教科 道徳, 外国語活動, 総合的な学習の時間, 特別活動及び自立活動の取扱い

小学校・中学校の教育課程に準じた取扱いとなる。

自立活動は個々の児童生徒が自立を目指し障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の児童生徒の状態や発達段階に即して指導を行う。

第2節 指導計画の作成

1 児童生徒の実態把握

実態把握の内容やその範囲は指導の目標に応じて明確に整理されなければならない。実態把握をする際に収集する情報の内容としては、病気等の有無や状態、生育暦、基本的な生活習慣、人やものとのかかわり、心理的な安定の状態、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、身体機能、視機能、聴機能、知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障害の理解に関する事、学習上の配慮事項や学力、特別な施設・設備や補助用具の必要性、進路、家庭や地域の環境等様々なことが考えられる。その際、児童生徒が困難なことのみにではなく、長所や得意としていっていることも把握していく。弱視の児童生徒の見え方は様々であり、視力のほかに、視野の広さ、色覚障害の有無、眼振やまぶしさの有無など、見え方の個人差を理解することが大切である。また、医学的な立場からの情報を収集することも重要である。

2 指導目標の設定

各教科の目標、各学年の目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取り扱いについては、小学校及び中学校学習指導要領に示されたものとする。自立活動については、特別支援学校学習指導要領に示されたものとする。

3 留意する事項

(1) 指導内容の精選

弱視の児童生徒は、動いているものや遠くにあるものを理解することなど、視覚や触覚によって直接経験することが困難なものがある。このような内容については、児童生徒の視覚障害の状態等を的確に把握し、一人一人の児童生徒に即した指導内容を精選するとともに、基礎的・基本的事項の理解や導入段階の指導に重点を置いて、内容の本質や法則性を具体的に把握できるようにすることが大切である。

(2) 見通しをもった学習活動の展開

弱視の児童生徒は、環境を把握したり、状況を判断したりすることに困難があるため、空間や時間の概念の形成が十分でない場合がある。しかし、児童生徒が見通しをもち、意欲的な学習を展開するためには、空間や時間の概念を活用し、授業が行われる教室や体育館、校庭等の場の状況や、取り組んでいる学習活動の過程等を的確に把握できるよう十分配慮することが大切である。

4 日課表の作成

日課表の作成においては、各教科等の目標及び内容と、自立活動の時間における指導の必要な内容を考慮し、それぞれの年間の授業時数を適切に定め、週日課に割り振る。また、交流及び共同学習を実施する際には、交流学級の担任と連携して作成をすることも大切である。

5 年間指導計画の作成

各教科等の年間指導計画は、各学年の指導計画に準じる。自立活動については、教育支援プランBを作成するが、長期的な視点から、自立活動の年間計画を作成する。

6 教育支援プランBの作成

教育支援プランBの作成に当たっては、それぞれの教科等について作成する。また、自立活動については、特別支援学校学習指導要領の自立活動の内容を参考に作成する。

7 指導記録と学習評価

児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにする。

各教科等の指導に当たっては、教育支援プランBに基づいて行われた学習状況や結果を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努め、より効果的な指導ができるようにする。

8 教育課程編成に係る評価と改善

各学校においては、校長のリーダーシップの下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うように努めるものとする。

第3節 教育課程編成及び指導計画作成のための資料

1 小学校における教育課程編成と全体計画（例）

(1) 学校の実態

1学年3学級ずつの通常の学級18学級と、知的障害1、自閉症・情緒障害2、弱視1の特別支援学級4学級の計22学級を設置している。弱視特別支援学級は、対象児童の入学に伴って設置され、今年度5年目になる。

(2) 児童の実態

5年生女子1名。視力は矯正で両目とも0.2程度。晴れた日は室内でもまぶしいと訴える。学校では、基本的に自分のことは自分で行うことを意識して生活をしている。26ポイントの拡大教科書を使用。通常の学級で交流及び共同学習をする際には、黒板を見るために拡大読書器や単眼鏡を使用している。学年相応の学習をしてきている。教科によっては理解に時間がかかり習得しきれていないものもある。コミュニケーションについては、安心できる大人や特定の2、3人の児童には自ら話し掛けることができる。しかし、交流学級での休み時間や給食時には黙っていることが多い。見えづらさによって相手の表情が読み取りにくいこともあり、コミュニケーション能力の未熟さがうかがえる。

(3) 教育目標

ア 学校教育目標 自ら学ぶ子 心豊かな子 心身ともにたくましい子
イ 学級教育目標 よく考え 助け合い あきらめずやりぬく子

(4) 教育課程の編成

ア 組織及び手順

学校の教育課程編成委員会において、学校全体の教育課程が編成されるのと並行して弱視特別支援学級の特別の教育課程を編成する。

イ 編成の基本方針

本学級では小学校の通常の教育課程を基本としているが、視覚障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための自立活動を週2時間加えた特別の教育課程を編成している。自立活動は時間における指導だけでなく、全ての教育活動の中で行うようにする。

ウ 指導の重点

児童自らが自分の見え方を理解し、必要に応じて進んで視覚補助具を活用できるようにす

る。また、見えづらさに加え、本人の特性により理解に時間のかかる学習内容については、具体物を用いたり、体験的な活動を取り入れたりすることで、自ら気づき、より理解が深まるよう工夫をしていく。

(5) 日課表

ア 基本方針

弱視特別支援学級での個別の学習と交流学級での集団の学習のそれぞれのよさを生かしながら、児童の実態、教科や内容によって児童の学びに適した授業形態を柔軟に選ぶようにする。また、交流学級での学習を進めるに当たり、交流学級の担任とも連携していく。

イ 日課表

	月	火	水	木	金
	読書	運動	朝会	学習	運動
	朝の会				
1	国語（個別）	自立活動（個別）	社会（個別・交流）	国語（個別）	算数（個別）
2	音楽／家庭（交流）	理科（個別・交流）	国語（個別）	算数（個別）	自立活動（個別）
	20分休み				
3	算数（個別）	算数（個別）	算数（個別）	理科（個別・交流）	国語（個別）
4	体育（交流）	外国語（交流）	音楽（交流）	理科（個別・交流）	体育（交流）
	給食・歯みがき・清掃				
5	学活（交流）	社会（個別・交流）	体育／図工（交流）	道徳（交流）	総合（交流）
6		国語（個別）	図工（交流）	社会（個別・交流）	総合（交流）

※（交流）：交流学級での、交流及び共同学習

(6) 年間指導計画

平成〇〇年度 弱視特別支援学級 年間指導計画（例）

〇〇市立〇〇小学校

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	始業式入学式 一斉下校 身体測定 避難訓練 離任式 1年生を迎える会	視力聴力検査 体力テスト 内科検診 家庭訪問 運動会	プール開き 歯科検診 校内硬筆展 社会科見学	総業式 夏休み	始業式 引き渡し訓練 身体測定 校内作品展	校内音楽祭 学校公開日	持久走大会 個人面談 避難訓練	総業式 冬休み	始業式 身体測定 校内書初め展	授業参観	6年生を送る会 卒業式 学年末休業日
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の技能の向上を図る。(動植物の飼育栽培や調理等体験的な学習を行う。) 目と手の供応動作の向上を図る。(手指の巧緻性、運動技能等の向上) 視覚補助具の活用能力を高める。(拡大読書器、近用レンズ、遠用レンズ、パソコン等の活用) 健康・安全に気をつけて生活する。(安全な歩行を練習する。自分の見え方を知る。) コミュニケーション能力の向上を図る。(交流学級の友達や周りの人達との交流を大切に。) 										
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の見え方の理解 視力検査 読み書き速度調査 歩行の実態調査 校内の教室配置の理解と移動 整理整頓 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚補助具の活用 遠用：板書読み、 板書視写等 近用：音読、 地図・資料 絵の具、彫刻刀、 調理器具等の扱い 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚補助具の活用 遠用：板書読み、板書視写等 近用：音読、地図・資料 のこぎり、実験器具、ミシン等の扱い 自分のことを理解し、相手に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚補助具の活用 遠用レンズ、近用レンズを場面に応じて意図的に使う。 糸のこぎり等の扱い 電磁石作り 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間でできるようになったこと、課題になったことについて振り返る 						
重点指導	<ul style="list-style-type: none"> 〈国語〉・新出漢字を正確に書く。 ・速く正確に視写する。 ・速く正確に音読する。 ・話し合いに参加する。 〈社会〉・資料（グラフ、年表、地図等）を読み取る能力を高める。 ・進んで単眼鏡を活用するなど、社会科見学に意欲的に取り組む。 〈算数〉・定規、分度器、コンパスの使い方に慣れ、誤差を少なく書く。 〈理科〉・観察、実験、飼育栽培等の体験活動をしっかり行う。 ・観察の方法や実験用具の使い方に慣れる。 〈音楽〉・鍵盤ハーモニカやリコーダーを正しい指使いで演奏する。 〈図工〉・金づち、のこぎり、糸のこぎり等の用具の安全な使い方を身に付ける。 〈家庭〉・針や糸、ミシンなどの安全な操作方法を身に付ける。 ・衛生と安全に気を付け、簡単な調理ができるようにする。 〈体育〉・身体の動かし方を丁寧に確認する。 ・球技等のゲームは、安全に取り組めるように工夫されたルールの中で、楽しく活動する。 〈外国語〉・大文字、小文字が正確に書けるようにする。 ・簡単な単語や基本的な表現を覚えて、話せるようにする。 〈道徳〉・自分自身を理解し、考えを相手に伝えるときも、相手の意見や立場も広い心で尊重できるようにする。 〈総合的な学習の時間〉・資料等を自分で見やすく工夫して調べる。 ・グループ学習では、友達と協力して活動する。 〈特別活動〉・話し合いに積極的に参加できるようにする。 										

2 中学校における教育課程編成と全体計画（例）

(1) 学校の実態

1学年4学級ずつの通常の学級12学級と、知的障害特別支援学級、弱視特別支援学級2学級の計14学級を設置している。今年度から弱視特別支援学級が新設された。特別支援教育コーディネーターと各学年の代表、特別支援学級担任、管理職、養護教諭によって、特別支援教育委員会を設け、毎月、支援会議をもつほか、特別な支援が必要な時や、他機関との連携した支援に当たる時に機能している。

(2) 生徒の実態

弱視特別支援学級に在籍しているのは、1年生男子1名である。視覚障害の状況については、視力右0（義眼）、左0.1である。小学生の時から拡大教科書を使用して学年相応の学習をし、平均的な学力である。読み書きには時間を要し、国語の長文の読み取り問題や漢字の書き取りが苦手である。同学年の友達との関係は良好であるが、自分の見えにくさについて説明したり、支援を求めたりすることはほとんど見られない。

(3) 教育目標

ア 学校教育目標：略

イ 弱視特別支援学級の目標：○自分を理解する ○健やかな体を作る ○自ら工夫して学ぶ

(4) 教育課程の編成

ア 組織及び手順

学校の教育課程編成委員会において、学校全体の教育課程が編成されるのと並行して弱視特別支援学級の教育課程を編成する。

イ 編成の基本方針

中学校の教育課程を基本としている。特別支援学級での個別の学習と交流学級での集団における学習のバランスをとり、編成する。教科によっては、内容により個別の方が良い場合と集団が適している場合があるため、交流学級と同じ時間に設定し、同教科の教師が担当したり、補助的に指導に入れる体制をとったりするなどして効果的な指導を目指す。

ウ 指導の重点

弱視の生徒は、情報が不足し、一つ一つの学習に時間がかかるため、指導内容を精選し、基礎・基本となる学習に重点をおく。見えにくいものを工夫して見たり、代替するもので補ったりする力を付け、よりよい生活を送れるようにすることを目指す。また、他者と同じようにできないものがあり、自分から必要な情報を得たり、援助を求めたりすることが必要である。学校生活において、それらのことを身に付けられるように指導していく。年齢を考慮し、精神的なケアをできる場を設けるとともに、支援者がいなくても自分で工夫したり支援を求めたりする機会を設けていく。

(5) 年間授業時数

通常の学級の授業時数に準ずる。自立活動の時間として1時間設定する。

区 分		第1学年	弱視特別支援学級		
		年間時数	年間時数	週時数	形態
各教科の授業時数	国語	140	105	4	交流・個別
	社会	105	105	3	交流・個別
	数学	140	140	4	個別
	理科	105	105	3	個別
	音楽	45	45	1.3	交流
	美術	45	45	1.3	交流
	保健体育	105	105	3	交流
	技術・家庭	70	70	2	個別
	外国語	140	140	4	交流・個別
特別な教科 道徳の授業時数	35	35	1	交流	
総合的な学習の時間の授業時数	50	50	1.4	交流	
特別活動の授業時数	35	35	1	交流	
自立活動の時間の授業時数	0	35	1	個別	
総授業時数		1015	1015	30	

*「弱視学級での授業」は、「個別の授業」（数学、理科、技術・家庭、自立活動）と、「交流学級に参加しながら状況により個別の学習になる授業」（国語、社会、外国語）を合わせて週21時間設定している。その他に「交流学級での授業」を週9時間設定している。

*自立活動の時間は、週1時間の設定である。他の教科においても、自立活動の視点をもって指導に当たっている。

3 自立活動の指導計画

(1) 教育支援プランA等作成例

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな	○○○ ○○○	性別	生年月日	取扱注意
本人氏名	○○ ○○	女	平成○○年○月○○日	
特別な教育的ニーズ	対象生徒は、①視覚に障害があるため学習や作業に時間がかかる、②これまでの経験から、自信のもてないことが多い、③人と話す時や新たなことに取り組む時に過度に緊張する。従って、①視覚補助具の使用方法を学び自ら工夫して情報を取り込めるようにすること、②自分で確実にできたという経験をすること、③安定した人間関係を築き、話したり新たなことに挑戦したりする機会をもつなどの支援が必要である。			
(追加)				
本人・保護者の願い	○しっかりと学力を付け、高等学校、大学に進学したい。○友達と仲良く楽しい学校生活を送りたい。○家庭学習の習慣を身に付けさせてほしい。			
合理的配慮の実施内容	○見やすく分かりやすい教材を提供するとともに、時には小さな教材も使用し、補助具を活用する機会をつくる。○発言しやすい環境で発言できる機会を設ける。			
(追加)				
教育機関の支援	目標・機関名	支援内容		評価
	所属校	①集団生活の中で望ましい人間関係の構築。 ②基礎的・基本的な知識・技能の習得。	①日常生活や話し合いの多い教科の授業で集団の中にいる機会を継続的にもつ。②読み書きや技能的な活動は個別で実施する。読み書きの練習や理解しにくい個所の補習などを行う。	①弱視特別支援学級の紹介を、交流学級で教師と一緒にを行うことにより、他の生徒への理解を促すことができた。 ②補助具を使用した際の、読みの速度が上がった。
	(追加)			
	就学支援委員会の助言内容	□□市教育委員会	拡大教科書や視覚補助具、書見台、ICT機器の活用	助言があれば使用できるようになった。
	(追加)			
支援籍、交流及び共同学習	所属校1年1組 ※所属校の目標と同様	集団の中で様々な人に触れ合う機会をもつ。	※所属校の評価と同様	
特別支援学校 塙保己一学園	①同じ障害の友達との交流②視覚障害に応じた自立活動の学習	サマースクールでの学習と交流。巡回相談での参観と支援会議（学校コンサルテーション）	①他校の弱視の生徒と一緒に活動する経験ができた。 ②補助具の使用について抵抗がなくなってきた。	
(追加)				
関係機関の支援	機関名	支援内容		
	医療・保健	国立成育医療センター 国立障害者リハビリテーションセンター ○○義眼	年に1回及び眼に変化のあった時に通院。眼科およびロービジョンクリニックに5歳から年に2・3回通院し、眼の状態及び見え方について検査し、補助具を合わせている。 義眼の研磨調整を年に1回行っている。	
	福祉・労働 家庭・地域	市児童福祉課	弱視眼鏡、白杖等、補装具の給付	
本人のプロフィール	障害の状況	未熟児網膜症。右は眼球未発達のため視力0、義眼装用。左は、視力0.1。視野が狭く暗くなると見えにくくなる。線が細いと赤と黒の見分けができない。 身体障害者手帳1種4級		
	これまでの支援内容	生育歴	超未熟児で出生、未熟児網膜症、光凝固治療を受けた。以降定期的に通院。 市の発達支援センターにて早期療育 ○○保育園（3歳より通園） □□市立○○小学校卒業（H29.3）	
	相談歴 諸検査	県立特別支援学校塙保己一学園 1歳から相談 市教育委員会にて発達検査（6歳）		
	その他	小学校では塙保己一学園の巡回教育相談を受けていた。中学校入学に当たっては、塙保己一学園の教師と障害者支援センターのケースワーカー、社会福祉協議会の方も加わっての支援会議を行った。		

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人氏名	〇〇〇 〇〇〇	学校名	□□市立〇〇中学校	取扱注意
学部・学年・組	中学1年7組	記入者名	〇〇 〇〇	
指導方針	自分の見え方を正しく理解し、よりよい環境を整えて学習に望めるように、自立活動で補助具の指導をするとともに、様々な場面で働き掛けていく。本人の好むタブレット端末の活用なども取り入れる。苦手意識のあった細かい作業や体育的な活動では、自分自身でできる経験をさせ、自信を付けられるようにしていく。友達との関係をつくることができるように、また、自ら必要な支援は求められるよう、交流学級に入った時には大人が支援に入り過ぎず、見守るようにする。適宜、援助依頼の方法については指導していく。			
(追加)				
指導に結びつく実態				
1 健康の保持 (日常生活面, 健康面など)	体調や眼の疲労により見えにくくなることもある。義眼の管理や点眼は自分でしている。うつむく姿勢を長時間続けないように注意する。			
(追加)				
2 心理的な安定 (情緒面, 状況の理解など)	何かに挑戦するときには緊張しすぎてしまうことがある。見えにくい自分と他の生徒の違いを認識しつつあるが、人と同じでありたいという思いがあり、別のことをすることに抵抗を示す。			
(追加)				
3 人間関係の形成 (人とのかかわり, 集団への参加など)	数人の仲のよい生徒とはよく話をしている様子だが、大勢の中ではあまり話さない。			
(追加)				
4 環境の把握 (感覚の活用, 認知面, 学習面など)	単眼鏡, ルーペ, 拡大読書器, タブレット端末のカメラ機能などを使用すれば, 細かい文字や図などを見て理解できる。一度聞いたことはよく覚えている。暗くなると見えにくくなる。赤と黒の見分けがしにくい。視野欠損があるが通常の生活や移動には問題がない。			
(追加)				
5 身体の動き (運動・動作, 作業面など)	細かい作業がやや苦手であるが, 時間をかければ道具の使用方法なども理解し使用できるようになる。球技では, ボールのスピードについていくのが難しい。			
(追加)				
6 コミュニケーション (意思の伝達, 言語の形成など)	自分からは, 人にもものを尋ねたり, 援助を依頼したりすることに躊躇する。表現する語彙が乏しい。			
(追加)				
7 その他 (性格, 行動特徴, 興味関心など)	パソコン, ゲーム, タブレット端末などへの関心が高く, 一度行ったことはすぐに覚える。読書は好まず, テレビやラジオから情報を得ている。			
(追加)				
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法・手だて	評価	
自立活動	自分の見え方を客観的に捉え意欲をもつ。移動や日常生活についての課題を確認する。	視力や最大視認力, 読み速度の確認, 自己評価, ルーペの選択・練習, タブレット端末を使用した教科書等の利用方法, 課題への取組。	自分の見え方について考察し, 身の回りの課題について, まとめることができた。	
	補助具を使用した読みを向上させる。自ら課題に取り組む。	ルーペ, タブレット端末の使用の練習と読み速度の計測, 表れた課題への改善, 解決の方法を共に探る。	10.5ポイントの文字の文章をルーペ使用で, 200文字/分で読めるようになった。授業中に, 自主的にルーペを使用して資料を読む場面があった。	
	場面に応じて自ら工夫して見ることができる。	日常生活や各教科等で補助具を選択して使用する。自己評価。		

	各教科等の目標は1年のものに準じ、追加する個別の課題を以下に示す。	以下、各教科等の指導内容は、1年の内容に準ずる。方法・手だてを示す。	
国語	長文でも抵抗なく読めるようになる。	デジタル教科書を使用。テストでは解答用紙の配慮をするとともに構成を知らせる。	デジタル教科書を用いることで、長文を読むことができた。
	発言、発表に抵抗なくできるようになる。	小グループでの発言の機会を多く設定する。	積極的に発言することができた。交流学級の中で自分の意見を発表することができた。
	交流学級でより大きな声で発表できる。	理解していることについて発表させ成功経験を積む。	
社会	地図や年表、関連する資料に興味・関心をもつ。	地図やグラフ、年表等の基本的な見方を学ぶ。テストの構成を知らせておく。	世界地図に特に関心をもって学習することができた。
	社会的事象について様々な見方を知る。	ニュースや資料から読み取れることを考察する。人の意見を聞く。	ニュースについて話し合い、興味をもったテーマについて自分の考えを発表できた。
	社会的事象について自分の考えを表す。	ニュースや資料から読み取れることについて発表する。	
数学	正の数、負の数の意味を理解し四則計算ができる。	見やすい数直線を用いる。テストは書き込めるものを使用する。	理解できた。正確に計算することができる。
	式や表、グラフから比例・反比例を理解し、思考力、判断力、表現力を付ける。	分かりやすい表やグラフを用い、性質を捉え考える経験をする。データを見やすく整理し、考察する。	理解できた。タブレット端末を使いデータを整理することができた。
	平面図形・空間図形の基本的な性質を理解する。考察して目的の図形を作る。	扱いやすい定規等を使い、自分で図形を描く。線や面からなる教具を用いて立体を作る。	概ね理解することができた。道具の使い方に慣れてきている。
理科	観察や実験の方法を理解し生物の観察や実験に関心をもって取り組む。	ルーペ、タブレット端末などを使用した観察方法を知る。実験は準備から自分で行い理解を図る。	関心をもって取り組むことができた。全ての手順を一人で行うことで、実験方法や器具の名前について理解を深めていた。
	安全な実験器具の扱い方を理解し、予測して自ら実験に取り組み考察する。	身の回りのものを扱った実験を自分で準備して行う。考察したことを発表する機会を設定する。	
	大地で起こる現象、地層、岩石などの観察に意欲的に取り組める。	岩石の成分など、拡大読書器を用いてよく観察する。インターネットで地震の情報を集め考察する。	観察をした実物資料について、情報を集め新聞を作成した。
音楽	集団の中で楽しく声を出し歌詞の内容や曲想を感じながら歌う。	歌詞や旋律は聞いて覚えるようにし、楽譜は見やすくしたもので確認する。	歌詞と旋律を覚えて、大きな声で歌うことができた。
	アルトリコーダーでの演奏ができる。	楽譜の読み方やリコーダーの指使いについては個別に指導する。	課題曲の運指を覚え、曲想を意識しながら円滑に演奏ができるようになった。
	曲想を感じアルトリコーダーを演奏できる。	曲想を表す記号の読み方やその方法について指導する。	

(2) 自立活動の授業づくり例

1 自立活動の授業づくり（流れ図） A

児童生徒名 〇〇 〇〇	学年・学級 中学1年・〇〇学級	作成者 〇〇 △△
----------------	--------------------	--------------

計画（PLAN）

実態把握① 情報収集	実態把握②-1 情報の整理
1 健康の保持 (日常生活面, 健康面など)	体調や眼の疲労により見えにくくなることがある。眼圧の管理が必要であり, うつむいた姿勢が続かないよう気を付ける。義眼の管理や点眼は自分でしている。
2 心理的な安定 (情緒面, 状況の理解など)	何かに挑むときに過度に緊張することがある。見えにくい自分と他の生徒の違いを認識しつつあるが, 人と同じでありたいという思いがあり, 別のことをすることに抵抗を示す。
3 人間関係の形成 (人とのかかわり, 集団への参加など)	数人の仲のよい生徒とはよく話をしている様子だが, 大勢の中ではあまり話していない。
4 環境の把握 (感覚の活用, 認知面, 学習面など)	単眼鏡, ルーペ, 拡大読書器, タブレット端末のカメラ機能などを使用すれば, 文字や図などを見て理解できる。暗くなると見えにくくなる。赤と黒の見分けがしにくい。視野欠損があるが生活や移動には問題がない。
5 身体の動き (運動・動作, 作業面など)	細かい作業がやや苦手であるが, 時間をかければ道具の使用方法なども理解し使用できるようになる。球技では, ボールのスピードについていくのが難しい。
6 コミュニケーション (意思の伝達, 言語の形成など)	自分からは, 人にもものを尋ねたり援助を依頼したりすることに躊躇する。表現する語彙が乏しい。
7 その他 (性格, 行動特徴, 興味関心など)	パソコン, ゲーム, タブレット端末などへの関心が高く, 一度行ったことはすぐに覚える。読書は好まず, テレビやラジオから情報を得ている。

実態把握②-2 児童生徒の学習上又は生活上の課題や, これまでの学習状況の把握
<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板を見る時など必要な時には単眼鏡を使用するが, 教室で書見台やルーペを使用することは少ない。 ・ 長文を読むことに時間がかかり過ぎる。また, 疲れを訴え, 長く読むことが難しい。 ・ 読まなければならない文章が多い国語や社会のテストでは, 最後まで終わらないことがある。内容の理解はでき, 口頭での質問には答えられる。

実態把握②-3 児童生徒の3年後の将来像
視覚補助具を場面に応じて使い分けられるようにするとともに, 自分自身でできること, 難しいことを理解し, 必要に応じて工夫したり, 人に援助を求めたりして, 環境を整えていけるようにする。

指導すべき課題の整理③ 課題の抽出
細かいものを見るときにルーペを使用し, より楽に長い時間の読み書きができるようにする。

指導すべき課題の整理④ 中心的な課題	
中心的な課題	背景
① 読み速度	ルーペを上手に使えない。近付ければどうにか見えるので時間がかかる上, 疲れる。
② 援助依頼の困難	これまでは, 自分から頼まなくても支援員に支援されていた。皆と同じがよいという考えがあった。

指導目標の設定⑤

- ① ルーペを素早く使用する力を身に付ける。
- ② 自分の見えにくさについて客観的に捉え、人に伝えることができる。

項目の選定・指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	情緒の安定に関する事。	他者とのかかわりの基礎に関する事。	保有する感覚の活用に関する事。	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事。	状況の理解と変化への対応に関する事。	他者の意図や感情の理解に関する事。	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事。	言語の受容と表出に関する事。
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事。	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	自己の理解と行動の調整に関する事。	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	日常生活に必要な基本動作に関する事。	言語の形成と活用に関する事。
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。		集団への参加の基礎に関する事。	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	身体の移動能力に関する事。	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5)	健康状態の維持・改善に関する事。			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	状況に応じたコミュニケーションに関する事。
Key words	視機能と疲労	改善の意欲	自己の理解	補助具		自発的関わり 援助依頼

指導内容	ルーペの使用についてトレーニングのプログラムを行い、タイムを取る。読み速度の調査を行う。	細かい文字を、ルーペを使用して見るとよく見えたという経験をする。素早く読めたという成功体験をする。
指導場面	自立活動の時間	国語や社会の資料集などの使用の時

項目と項目を関連付ける際のポイント

- ① ゲーム性のあることを好む。
- ② 方法が分かれば、自分から取り組めることが多い。

2 本指導案

(1) 自立活動学習指導案例

1年 弱視特別支援学級 自立活動 学習指導案

日 時 平成○年○月○日 (○) 第○校時
場 所 ○○学級
指導者 教諭 ○○ ○○

1 主題名 「近用弱視レンズ（ルーペ）を使いこなそう」

2 主題設定の理由

本生徒は、先天性の視覚障害をもち、視力は右0、左0.1である。遠くのものを見る時に単眼鏡を使用することには慣れたが、近くの細かいものを見る時には、眼を5cm位に近づけて見ている。一時的に読むことはできても、文章などの量のあるものを読むと疲れを訴え、長く続けることが難しい。また、漢字や社会科の資料の細かいところを見る時などに苦勞している様子が見られる。このような生徒に、近用弱視レンズ（ルーペ）を使用し見やすくして見る力を付け、自ら学習環境を整え工夫する力を身に付けたい。そのためには、客観的に自分の見えにくさを捉えて、ルーペなどの使用効果に気付くことが必要である。

そこで、まずは、自分の読みの問題について気付くよう、読み速度調査を行うと共に、目指す読みの速度について知らせたい。そして、目の状態に合わせて効率的に読むためのルーペを選ぶ。ルーペも使い慣れれば便利な道具となること、将来的にも、社会に出たときに必要であること、使いこなすためには練習が必要であることを知らせ、ルーペを使用する意欲をもたせるようにしたい。学習において、楽に学ぶために、道具が必要であることを理解させ、日頃から使用できるように働き掛けたい。

また、個々に使用するもの等、生徒それぞれの様々なことが違ってよいこと、見えなかったり分からなかったりしたときには、人に伝えることが大事であることを交流学級で関わる教師とともに常に示していきたい。

3 生徒の実態

本生徒は、単眼鏡は場面に応じて使用している。しかし、ルーペは幼少期からドーム型のものを持っているが、これまでに、本格的な練習をしたことがなく、試しに使った程度である。そのため、ルーペを使用して見たいものを素早く見ることができず、ルーペを使おうとしなかった。ルーペを使用していないときの拡大文字26ポイントの読みの速度は、230文字／分程度、10.5ポイントの文字の文章のルーペ使用時は、130文字／分程度である。教科の学習をするには、300文字／分以上の読み速度を得たい。現在の使用目的に合わせて、使いやすいルーペを選ぶ必要がある。また、適切に距離や位置を合わせられるようにするためには、そのための練習が必要である。更には、図形などの全体像を想像しながら探索して見る力を養いたい。

4 目標

手持ち式の近用弱視レンズの使い方を知り、場面に応じて使用できるようにする。

5 指導計画（12時間扱い）

	授業目標	授業時数
1	自分の見え方について知ろう（近見視力、最大視認力、読み速度の調査と自己評価）	1
2	近用弱視レンズの使用方法を知ろう（ルーペの選択、基礎練習：文字、単語）	2
3	近用弱視レンズに慣れよう①（基礎練習：単語・文章＋応用練習：視写・読書）	4
4	近用弱視レンズに慣れよう②（応用練習：視写・様々な対象物、広視野探索訓練）	4 (本時8/12)
5	近用弱視レンズ使用の成果を確かめよう（ルーペ使用時の読み速度等、自己評価）	1

6 本時の構成

(1) 本時の目標

- ・ ルーペを使用してよりスムーズに見ようという意欲をもって臨むことができる。
- ・ 100文字程度の文章を、1文字0.3秒以内の速度で読むことができる。
- ・ 広視野探索訓練の目的と方法を理解して取り組むことができる。

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点（○指導の手だてや支援・☆評価の観点）	準備
3分	挨拶, 健康観察	・ 本日の眼の調子について確認する。 ・ この時間の予定を話す。	
15分	A 基礎練習 ① 100文字程度 の文 ② 転写 2分間	① ルーペを使用して文章をなるべく速く読むように伝えて読ませ、かかった時間を計測する。前回のタイムを伝え、それを超えるように励ます。種類の違う文章を使い、2回行う。その間で1分程度休憩をとる。 ☆意欲的に取り組めたか。 ☆30秒で読めたか。 ② ①で使用した文章を用い、「用意、始め」で転写させ、2分で行うように指示する。書けた文字を数え、記録する。	ストップ ウォッチ A ①②文章 カード B ① 10枚, ② 20枚 いずれも 5ポイント, 5文字 から10文 字の単語
20分	B 広視野探索 訓練 ① 直線たどり 交差なし ② 交差あり	○今回からは、広いところをたどって見たり、探したりする練習に取り組むことを伝える。左に書かれた文字から線をたどって右に書かれている文字を、なるべく速く読むように伝え計測する。 (目標は3秒) ☆方法を理解して取り組めたか。 ○教材は、生徒が楽しめるような言葉を選んで作成する。	
10分	応用練習様々 な細かいもの を見る	○指示したページの指示したものを見て質問に答えるように伝える。正誤について記録し、正答率を出す。 ○学習や生活の中で実用的に使用できる実感がもてるよう、地図の中に示された記号から読み取る質問や、食物の包装から成分表や消費期限、内容量などの質問をする。 ☆意欲的に取り組めたか。	社会科資料 集, 食物の包装
2分	まとめ, 挨拶	○この時間の活動について自己評価させ、評価を伝える。	

7 本時の評価 省略

(2) 自立活動学習指導案例

5年 弱視特別支援学級 自立活動 学習指導案

日 時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

場 所 〇〇学級

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 主題名 「わたしってこんな人だよ」

自立活動の領域—「人間関係の形成」「コミュニケーション」

2 主題について

本主題は自立活動の内容の「人間関係の形成」「(3)自己の理解と行動の調整に関すること」と「コミュニケーション」「(2)言語の受容と表出に関すること」に該当する。この題材では自己に関する理解を深めていくことを大きなねらいとしている。まずは、自分の見え方やその見え方によって困ることや得意なことと苦手なこと、好きなことと嫌いなことなどを考え整理し、ポスターにまとめていく。自己に関する理解を深めていく中で、苦手なこと等を考える場面では、その困難さを補うにはどうしたらよいかも一緒に考え、前向きな捉え方もできるようにする。

最終的には、ポスターをもとに交流学級で発表する場を設ける。自分のことを相手に分かりやすく説明するにはどのように工夫したらよいのかを自分で考えるようにし、コミュニケーションの中の言語の表出がよりよくなるようにしたい。

3 目標

- ・ 自分のことを見つめ直し、自己への理解を深めようとするができる。
- ・ 自分のことを、相手に分かりやすく説明するにはどうしたらよいのかを考えることができる。

4 指導計画 (6時間扱い)

- ・ 自分データを作ろう。 (1時間)
- ・ 自分の得意なこと、苦手なこと、長所、短所は、なんだろう。 (1時間)
- ・ 自分についてポスターにまとめよう。 (2時間 本時3/6)
- ・ 発表の仕方を考えよう。 (1時間)
- ・ 発表しよう/発表を振り返ろう。 (1時間)

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・ 自分に関しての学習を振り返り、自分に関する理解を深めることができる。
- ・ 自分に関してポスターにまとめる内容を考えることができる。

(2) 本時の展開

配時	学習内容	指導上の留意点(○指導の手だてや支援・☆評価の観点)	準備
導入 2分	1 あいさつをする。 2 今日の学習内容を知る。	・姿勢を正しくして、あいさつをする。 ○黒板に1時間の流れを見やすく書いた紙を貼って説明する。	・1時間の流れを書いた紙
展開 40分	3 自分について、今まで学習したことをまとめる。 ※短冊の例 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">好きな色は黄色だよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視力は0.2だから、みんなより見えにくいよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">単眼鏡で読むのは速いよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">何でも一生懸命がんばるよ</div> 4 ポスターに書くことを考え、書いていく。	・今までの学習で出てきた自分の特徴などを発表する。 ○自分の特徴を一つずつ書いた短冊を黒板に貼る。 ○短冊を貼るときは、身体的特徴、性格などカテゴリで分けるようにする。 ☆自分について考えることができる。 ☆得意なことやよいところがたくさんあることに気付くことができる。 ・黒板にまとめたものを見て、ポスターにまとめる内容を考える。 ・書く内容が決まったら、吹き出しに書き込む。 ○長所や得意なことを選んで行くよう促す。 ○短所や困っていることを選んだら、改善するにはどうしたらよいのかも書くことを伝える。 ☆ポスターに書く内容を考え、選ぶことができる。	・今までに書いた短冊 ・吹き出し ・色画用紙
まとめ 3分	5 振り返りをし、次回の学習の確認をする。 6 あいさつをする。	・本時の学習内容を振り返り、次回の学習を確認する。 ・姿勢を正しくして、あいさつをする。	

6 本時の評価 省略

(3) 教科の指導 学習指導案 略案例

弱視特別支援学級 算数科 学習指導案

日時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

場所 弱視特別支援学級

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元名 「整理の仕方～ケガ調べをして、分かったことを友達に伝えよう～」

2 単元設定の理由

(1) 学級及び児童の実態

本学級は、4年生男子1名が在籍する弱視特別支援学級である。弱視特別支援学級の教育課程は通常の教育課程に準じて編成され、自立活動を加えた特別の教育課程が編成される。本学級でも児童の実態に合わせて自立活動を行いながら、通常の教育課程に準じた学習を行っている。弱視特別支援学級で国語、算数、自立活動を15時間、交流及び共同学習で、その他の教科等を13時間学習しており、どの教科も学年相応の理解ができています。本児童は視覚障害による情報の不足を補うために、入学当初より単眼鏡、ルーペ、拡大読書器などの視覚補助具の操作力を高める練習を行っており、必要に応じてそれらを選択し積極的に活用できるようになってきています。

(2) 単元観

本単元で行う資料の整理は、小学校学習指導要領には以下のように位置付けられている。

第4学年 D データの活用

(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) データを二つの観点から分類整理する方法を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察すること。

(3) 指導観

本単元は、資料の中から条件に合った項目を選択し、それを表にまとめる活動がある。視覚に障害のある児童にとって、落ちや重なりがないようにまとめることが課題となるため、特に集中力や注意力が必要となる。そこで、校内でのケガ調べという、身近な資料を扱うことで、興味をもって学習に臨むことができるのではないかと考えた。自校のケガ調べは、本児童にとって身近な問題であり、とても興味のある資料であると考えられる。

また、合理的配慮の一つとして、本学級ではタブレット端末の活用の取組を始めた。これにより、画像の拡大と縮小が瞬時に行えるので、自分の視覚の状態やニーズに合わせて画像の部分と全体を行き来することができ、黒板の視写などに役立っている。本単元でも、資料の整理の際に、タブレット端末を用い、資料を拡大したり、付箋やマーカー機能のあるアプリを活用したりすることで、落ちや重なりがないように正確な資料の分類整理をすることを期待している。新しいコミュニケーションの手段として、タブレット端末の操作力を向上させ、学習意欲を高めながら児童の学習に役立てていきたい。

3 単元の目標 (略)

4 単元における評価規準 (略)

5 単元の指導計画 (略)

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ タブレット端末を活用して、落ちや重なりがないように資料を整理することができる。
- ・ ケガの種類と場所について、二次元表を作成することができる。
- ・ 作成した表から資料の特徴や傾向を捉えることができる。
- ・ ケガ調べという身近な問題に興味をもち、取り組むことができる。

(2) 展開

時間	学習内容	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示, 発問等 ※支援の手立て *評価の観点	資料等
3分	1. 始まりのあいさつをする。	○授業の始まりを意識し, あいさつをする。 ※学習道具の確認をする。	
30分	2. 本時の学習課題を知る。 3. 資料から気付いたことを発表する。 4. 記録を分かりやすく整理したり, 表にしたりする方法を考える。 5. 使用する道具を準備する。 6. ケガの種類と場所について, それぞれ表に分類整理する。 7. ケガの種類と場所について, 一つの表に表す方法を考える。 8. 二次元表にまとめる。 9. 表を見て気付いたことを発表する。	<p><input type="checkbox"/>学校のケガ調べをして分かったことを友達に伝えよう。</p> <p>○ケガ調べの記録を分類整理する観点を考える。 ◎ケガの種類や場所が書いてあることに気付く。 □分かりやすく, ケガ調べをするためにはどうしたらよいでしょう。 ◎種類や場所で分けて表す。 ◎表にまとめる。 *身近な問題に興味をもって取り組むことができる。 ※プリントでは, 読みにくさがあることを確認する。</p> <p><input type="checkbox"/>タブレット端末を使って学校のケガ調べを表にまとめよう。</p> <p>※拡大縮小や選択解除の仕方などの基本操作を確認する。 ※種類や場所ごとにマーカーで色を付ける操作を確認する。 ※活動中の児童のつぶやき・発見を短冊に書き, 小黒板に見えやすく示す。 *落ちや重なりがないように資料を整理することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>どのようなケガが, どのような場所で多いかを見やすく表にするには, どのように整理をすればよいか考えよう。</p> <p>◎二つの表を見ることの効率の悪さを感じる。 ◎二つの表を一つにまとめる方法を考える。 ○タブレット端末を使って, 落ちや重なりがないように, 表にまとめる。 ※縦の合計と横の合計で, 落ちや重なりを確認できることを確認する。 □表を見て気が付いたことを発表しましょう。 ◎打撲が一番多いことに気付く。 ◎体育館より校庭でのケガが多いことに気付く。 ※児童から出てくる言葉を記録し, 次回の学習に活かす。 *作成した表から資料の特徴や傾向を捉えている。</p>	<p>・活動表</p> <p>・プリント</p> <p>・タブレット端末</p> <p>・一次元表 拡大図</p> <p>・小黒板</p> <p>・二次元表 拡大図</p>
10分	10. 本時のまとめをする。	<p><input type="checkbox"/>二次元表にすると, ケガの種類と場所の二つが, 一つの表を見ただけで分かる。</p> <p>◎二次元表にまとめることのよさに気付く。 ※次時の予告をして, 学習の見通しを立てる。</p>	
2分	11. 終わりのあいさつをする。	○授業の終わりを意識し, あいさつをする。 ※タブレット端末を回収する。	

7 本時の評価

- ・ タブレット端末を活用して, 落ちや重なりがないように資料を整理できたか。
- ・ ケガの種類と場所について, 二次元表を作成することができたか。
- ・ 作成した表から資料の特徴や傾向を捉え発表することができたか。
- ・ ケガ調べに興味をもって取り組むことができたか。

5 交流及び共同学習

(1) 交流及び共同学習のねらいと意義

弱視特別支援学級は在籍児童生徒が一人である場合が多く、学級内で十分な集団活動を展開することができなかつたり、同年齢の児童生徒同士で様々な立場からの考えを交換する場面を設定したりすることが難しい状況にある。そこで、交流及び共同学習に取り組み、多くの児童生徒と活動を共にし、集団生活を意図的に経験させることで、多様な考えに触れたり、社会性を育んだりすることが期待できる。したがって、交流の面、共同学習の面の両面から、弱視の児童生徒にとって交流及び共同学習により集団的な教育活動を進めることは有効かつ大切なことである。

実施に当たっては、弱視特別支援学級担任と交流学級担任は、日常的に情報を交換し、児童生徒の障害の状態についての理解や交流及び共同学習の在り方などについて共通理解を図る必要がある。交流及び共同学習を慣例的に行うのではなく、学習内容・活動内容と児童生徒の実態を考慮し、高い効果が期待できる教科・単元を精選して設定することが大切である。必要に応じて医師及びその他の専門家に指導・助言を求めたり、特別支援学校のセンター的機能を活用したりするなどして、計画的、組織的に充実した指導を継続して行うように努める。

また、小学校及び中学校の通常の学級に在籍する弱視の児童生徒が、近隣の小学校、中学校にある弱視特別支援学級で、交流及び共同学習を行う可能性もありえる。

(2) 交流及び共同学習の実施上の配慮事項

実施に当たっては、次のような配慮が必要である。

- ・ 会話の最初に名乗る。挨拶や意思表示なども会釈や身振りではなく、できるだけ声を出して行う。
- ・ 教材等を提示する際、言葉での説明を添えるとともに、手で触って観察できるようにする。
- ・ 説明をするときには「向こう」や「あそこ」などの抽象的な指示や代名詞は避け、「あなたの右側」や「先生の机の上」などと具体的に説明をする。
- ・ 慣れない場所や、初めての体験では、最初に周囲の状況や活動内容を説明する。
- ・ 児童生徒の見え方を理解・確認する。実態に合わせ、文字カード等を提示する際には、コントラストをはっきりさせ、文字を大きく書くとともに、照明等に配慮して見やすくするなど環境を調整する。
- ・ スムーズに活動できるように廊下の通行の仕方や机の配置など学級のきまりを設定する。
- ・ 交流及び共同学習に持参する教材・教具について、本人が説明できるようにしておくなど、事前指導で、積極的な行動、支援や協力の求め方・断り方、自分の気持ちの表現の仕方等についての理解を図る。

6 保護者との連携

保護者の心情に寄り添いながら、①保護者の願い（できるようになってほしいこと、安全面の配慮等学校への要望）、②見え方や使用している視覚補助具、身体障害者手帳の有無、③性格や友人関係、身辺自立、家庭での生活の様子等の情報を得ることが大切である。

教育支援プランAや教育支援プランBを作成するに当たっては、これらの情報を踏まえて、指導・支援目標、内容等を設定する。その際、保護者も重要な支援者の一員として積極的に参加できるよう配慮する。進級、進学、転学などにより支援環境が変わっても、児童生徒にとって必要な指導・支援が継続できるようにすることが大切である。

また、埼玉県では県立特別支援学校塙保己一学園が視覚障害教育のセンター的機能を担っており、保護者や教師への相談、本人への直接的指導、各弱視特別支援学級への巡回相談、弱視特別支援学級担任向けの研修・情報交換会等を行っている。指導方法や進路について情報を集めたり、検討したりする際には、センター的機能を積極的に活用し、弱視の児童生徒と保護者を支える連携体制を確立することも大切である。